



福音の原則

彼らは贖い主とその教義の詳しい点について
理解するようになり、どうすれば贖い主のみもと
に帰って救いを得られるかを知っています。

1 ニーファイ 15 : 14



福音の原則

発行：

末日聖徒イエス・キリスト教会

ユタ州ソルトレーク・シティー

本書に関するご意見,ご提案をお寄せください。あて先は以下のとおりです。Curriculum Development, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, Utah 84150-0024 USA. 電子メール: cur-development@ldschurch.org お名前,ご住所,所属ステーク名,ワード名を明記してください。また本書の題名も忘れずにお書きください。そして本書の良い点,改善できると思われる点についてご意見やご提案をお書きください。

©1978, 2009 Intellectual Reserve, Inc.

版權所有

印刷：日本

英語版承認：2007年5月

翻訳承認：2007年5月

目次

はじめに	1
第1章 天におられるわたしたちの御父	5
第2章 わたしたちの天の家族	9
第3章 選ばれた指導者, 救い主であるイエス・キリスト	13
第4章 選ぶ自由	17
第5章 創造	23
第6章 アダムとエバの ^{だらく} 墮落	27
第7章 聖霊	31
第8章 天の御父に祈る	35
第9章 神の預言者	39
第10章 聖文	45
第11章 キリストの生涯	51
第12章 ^{しよくざい} 贖罪	59
第13章 神権	67
第14章 神権組織	73
第15章 主の聖約の民	81
第16章 初期のイエス・キリストの教会	87
第17章 現在のイエス・キリストの教会	95
第18章 イエス・キリストを信じる信仰	101
第19章 悔い改め	107
第20章 バプテスマ	115
第21章 ^{たまもの} 聖霊の賜物	121
第22章 ^{みたま} 御霊の賜物 ^{たまもの}	125
第23章 ^{せいさん} 聖餐	133
第24章 ^{あんそくにち} 安息日	139
第25章 断食	145
第26章 犠牲	149
第27章 労働と個人の責任	155

第 28 章	奉仕.....	161
第 29 章	主の健康の律法.....	167
第 30 章	慈愛.....	173
第 31 章	正直.....	179
第 32 章	<small>じゅうぶん</small> 十分の一とささげ物.....	185
第 33 章	伝道活動.....	189
第 34 章	才能を伸ばす.....	197
第 35 章	従順.....	201
第 36 章	家族は永遠に.....	207
第 37 章	家族の責任.....	213
第 38 章	永遠の結婚.....	219
第 39 章	純潔の律法.....	225
第 40 章	神殿活動と家族歴史.....	233
第 41 章	死後の霊界.....	241
第 42 章	イスラエルの家の集合.....	245
第 43 章	再臨のしるし.....	251
第 44 章	イエス・キリストの再臨.....	257
第 45 章	福千年.....	263
第 46 章	最後の裁き.....	269
第 47 章	昇栄.....	275
視覚資料リスト.....		281
索引.....		283

はじめに

学習ガイド・教師用手引き

『福音の原則』は個人学習ガイドまた教師用手引きとして著されたものです。主の御霊みたまを求めながら本書を研究するなら、父なる神とイエス・キリスト、主の贖いあがな、福音の回復に関する理解を深め、証あかしを強めることができます。人生の疑問に対する答えを得、地上に生を受けた目的や自分が貴い存在であることをはっきりと理解し、また、個人や家族が経験する困難に信仰をもって対処することができます。

教会や家庭で教える際の指示

教師という責任はすばらしいものであり、その務めの中で、人を強め、彼らが「神の善い言葉で養われ」るようになる機会に幾度もあずかることになります（モロナイ 6:4）。次の原則に従うとき、教師として効果的に教えることができます。

- 生徒を愛する。
- 御霊によって教える。
- 教義を教える。
- 熱心に学ぼう勧める。

生徒を愛する

愛を示すとき、生徒は主の御霊を感じやすくなります。また、学習にいっそう熱心に取り組むようになり、あなたやほかの生徒にいっそう心を開くようになります。生徒と親しくなるように努め、心から気にかけていることを知らせてください。特別な助けを必要としている生徒の問題に配慮すべきです。クラスを安心して参加できる場とし、福音の原則やそれらを応用する方法について生徒が気軽に質問できるような雰囲気を作ってください。

主の御霊は愛と一致があるところに注がれます。主は次のように言われました。「わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互たがいに愛し合いなさい。わた

しがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ 13:34)

このテーマについて詳しくは『教師、その大いなる召し』31 - 39 ページを参照してください。

御霊によって教える

教師にとって最も大切なのは、キリストの教えを、聖文や現代の預言者を通して啓示されたまま、御霊によって示されたままに説くことです。それを確実に行うには、主の御霊を得なければなりません。主は次のように言われました。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」(教義と聖約 42:14。教義と聖約 50:13 - 22 も参照) 聖霊こそ真の教師です。したがって、主の御霊がとどまれるような環境作りをすることが大切です。

このテーマについて詳しくは『教師、その大いなる召し』41 - 48 ページを参照してください。

教義を教える

一つの章を教えるに当たっては、入念に研究し、教義を確実に理解しておきます。また、各章末に列挙された参照聖句を研究します。その章の教えによって教師が自ら影響を受けているなら、真心と力をもって教えることができます。教会の教義を決して憶測で教えるはなりません。聖文および末日の預言者と使徒の言葉、聖なる御霊によって裏付けされた事柄だけを教えてください(教義と聖約 42:12 - 14; 52:9 参照)。

本書を使って定員会やクラスを教えるよう召されたら、どんなに興味深いものであっても他の資料で代替してはなりません。聖文と本書の言葉に添って教えます。必要に応じてレッスンを補足するために、個人的な経験や教会機関誌の記事を用いてください。

このテーマについて詳しくは『教師、その大いなる召し』50 - 58 ページを参照してください。

熱心に学ぶよう勧める

福音の原則を日常生活にどう応用できるかよく分かるように教えてください。福音の原則が、神、自分自身、家族、隣人に対する思いにどのような影響を与えるか話し合うように促します。福音の原則に従った生活をするよう勧めてください。

できるだけ多くの人にレッスンへの積極的な参加を促してください。朗読、質問に答える、体験を話してもらおうといった形で行うとよいでしょう。しかし、生徒を当惑させないと確信できるときだけに限定します。レッスンの準備をしているときに生徒に特別な割り当てをするとよいでしょう。レッスンに参加する生徒たちの気持ちや必要としている事柄に配慮してください。レッスンの前に個人的に話し合い、レッスンへの参加についてどのように感じているかを尋ねる必要があるかもしれません。

このテーマについて詳しくは『教師、その大いなる召し』61 - 74 ページを参照してください。

教師へのそのほかの提案

本書では、各章に一つか二つの教師への提案が載っています。ここには生徒を愛し、御霊によって教え、教義を説き、生徒に熱心に学ぶよう勧める際に役立つアイデアが紹介されています。

第1章

天におられる わたしたちの御父

神の存在

- 神の存在を証しているものに、どのようなものがあるでしょうか。

モルモン書に登場する預言者アルマは次のように記しています。「まことに、万物は神がましますことを示している。まことに、大地も、大地の面にある万物も、大地の運動も、また各々整然と運行しているすべての惑星も、それらのすべてが至高全権の創造主がましますことを証している。」(アルマ 30:44) 夜空を見上げれば、アルマが語った言葉の意味を理解することができます。宇宙には無数の星が完全な秩序の下に存在しています。偶然にそこにあるのではありません。わたしたちは天にも地上にも、神の業を見ることができます。美しい植物があり、様々な動物がいます。山があり、川があり、雨や雪を運んで来る雲があります。すべては神の存在を立証するものです。

預言者たちは神が宇宙の全能の統治者であられることを教えてきました。神は天に住んでおられます(教義と聖約 20:17 参照)。神は御子イエス・キリストにより、天地とそこにあるすべてのものを創造されました(3 ニーフアイ 9:15; モーセ 2:1 参照)。神は月と星と太陽を造られました。この世界を組織して、形と動きと命を与えられました。大空と水を生物で満たし、山や野原にあらゆる種類の動物を置かれました。昼と夜を、夏と冬を、そして種まきと収穫の時期を定められました。神は御自身にかたどって人を造り、ほかのすべての被造物を治めさせられました(創世 1:26 - 27 参照)。

神はわたしたちが信じ礼拝する唯一の至高者、絶対者です。「宇宙の偉大な親」であられ、「全人類を父親としての思いやりと心遣いをもって見ておられます。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』39)

教師へ——項の最初にある質問は、話し合いを始めたり、生徒や家族に本文を詳しく調べさせたりするために利用してください。項の最後にある質問は、読んできたことの意味を深く考え、話し合い、生活で応用するよう、生徒や家族を助けるために利用してください。

神の属性

- 神はどのような特質を備えた御方でしょうか。

わたしたちは神の形に造られていることから（モーセ 2:26;6:9 参照）、わたしたちの肉体は神の体と似ていることが分かります。神の永遠の霊は、触れることのできる骨肉の体の中に宿っています（教義と聖約 130:22 参照）。しかしながら神の体は完全で栄光に満ちており、その栄光は言葉では言い表せません。

神は完全です。愛、憐れみ、慈愛、真実、力、信仰、知識、そして裁きなどの特質を備えた義の神です。すべての力を有し、すべてのことを御存じであり、慈しみに満ちた御方です。

すべての善いことは神から来ます。神はすべてのことをその子供たちのためになされます。すなわち、子供たちが神のようになる助けをしてくださるのです。神は次のように言われました。「見よ、人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと、これがわたしの業であり、わたしの栄光である。」（モーセ 1:39）

- 神がどのような御方かを知ることは、なぜ大切なのでしょう。

神を知る

- どうすれば神を知ることができるでしょうか。

神を知ることは非常に重要であるため、救い主は次のように言われました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがつかわれたイエス・キリストとを知ることであります。」（ヨハネ 17:3）

また、いちばん大切な第一の戒めはこれであると教えておられます。「心をつくし、……主なるあなたの神を愛せよ。」（マタイ 22:37）

わたしたちは神を知れば知るほど神を愛するようになり、神の戒めを守るようになります（1ヨハネ 2:3-5 参照）。そして、神の戒めを守るときに、神のようになることができるのです。

以下の事柄を行うときに、神を知ることができます。

1. 神が実在し、わたしたちを愛しておられることを信じる（モーサヤ 4:9 参照）。
2. 聖文を研究する（2テモテ 3:14-17 参照）。
3. 神に祈る（ヤコブの手紙 1:5 参照）。
4. 最善を尽くして神のすべての戒めに従う（ヨハネ 14:21-23 参照）。

これらのことを行うならば、神を知るようになり、ついには永遠の命を得るに至るでしょう。

- 神に近づくためにあなたができることを深く考えてください。

参照聖句

- 使徒 7:55 - 56 (御父の右におられる御子)
- 教義と聖約 88:41 - 44 (神の属性)
- 詩篇 24:1 (全地は主のものである)
- モーセ 1:30 - 39 (創造)
- アルマ 7:20 (神は誤ったことをなさない)
- ジョセフ・スミス一歴史 1:17 (御父と御子は別個の御方である)
- アルマ 5:40 (善いものは神から出る)
- ヨハネ 14:6 - 9 (御子と御父は互いに似ておられる)
- モルモン 9:15 - 20 (奇跡の神)
- アモス 3:7 (啓示の神)
- ヨハネ 3:16 (愛の神)



第 2 章

わたしたちの天の家族

わたしたちは天の御父の子供である

- 聖文と末日の預言者は神とわたしたちの関係についてどのように教えているでしょうか。

神は統治者であり創造主であるばかりでなく、わたしたちの天の御父でもあられます。すべての男女は文字どおり神の息子、娘です。「人〔は〕霊として天の両親から生まれ、御父の永遠の住まいで成熟するまで育てられた後に、……肉体を得て地上にやって来た」のです（『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』335）。

この世に生を受けたすべての人は霊の兄弟姉妹です。わたしたちは神の霊の子供なので、御父の神聖な特質をはぐんでいく潜在的な力を受け継いでいます。イエス・キリストの贖罪しよくざいを通して、天の御父のようになり満ちみちる喜びを受けることができます。

- 自分が神の子供であるという知識は、あなたの思いや言葉、行いにどのように影響していますか。

わたしたちは天で生活していた間に人格と才能を培った

- あなたが授かっている才能や賜物たまものについて考えてみてください。

聖文の教えるところによると、預言者たちは、天において霊の状態のときに、すでにこの世の指導者となる準備を整えていました（アルマ 13:1 - 3 参照）。肉体を持ってこの世に生まれる前に、神は彼らを地上の指導者として予任よにんされた（選ばれた）のです。こうした指導者にイエスやアダム、アブラハムがいます（アブラハム 3:22 - 23 参照）。ジョセフ・スミスはこう教えています。「世に住む人々を教え導く召しを受ける人は皆、……その目的のために〔あらかじめ〕聖任

教師へ——各章の内容をすべて教える必要はありません。教える準備をしながらよく祈り、章のどの部分を探り上げ、どの質問をすべきかを知ることができるよう、御霊みたまの導きを求めてください。

第2章

を受けました。』（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』511）しかし、この世で奉仕の機会を受け入れるか否かは、個人の自由です。

天において、わたしたちはすべての点で同じというわけではありませんでした。例えば、わたしたちは天の両親の息子、娘、すなわち男性と女性でした（「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49参照）。それぞれ異なる能力と才能を備え、地上でそれぞれに違うことを行う召しを受けたのです。祝福師の祝福を受けると、もっとよく自分の「永遠の可能性」を知ることができます（トーマス・S・モンソン「祝福師の祝福は光の羅針盤」『リアホナ』『聖徒の道』1987年1月号、69参照）。

ある幕が前世の記憶を覆っているものの、天の御父は、わたしたちが生まれる前にどのような人物で何をしたか御存じです。御父は、各自に適した出生の時と場所を定めてくださいました。こうしてわたしたちはそれぞれ独自に必要な教訓を学び、才能と人格を生かして最も善いことができるようになったのです。

- ほかの人の才能によってどのような祝福を受けてきましたか。あなたの才能と賜物によって人にどのような祝福をもたらすことができるでしょうか。

天の御父はわたしたちが神のようになるための計画を用意された

- 地上での生活を通して、どのようにして天の御父のようになる備えができるでしょうか。

天の御父は、わたしたちが御父のみもとを一時離れないかぎり、ある程度のところまでしか進歩できないことをよく御存じでした。御父は、御自身が神として備えておられる特質をわたしたちにも備えさせたいと望まれました。そのためには、わたしたちは前世の家庭を離れて試しを受け、経験を積む必要がありました。また、霊は肉体をまとい、やがて死をもって肉体を離れ、復活によって再び肉体と結合する必要がありました。こうして天の御父のような不死不滅の体を持つようになるのです。試しを乗り越えるならば、天の御父が受けておられる満ちみちる喜びを得るのです（教義と聖約 93:30 - 34 参照）。

天の御父は大会議を召集し、わたしたちを成長させる御父の計画を発表されました（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』209,511参照）。わたしたちは計画に従えば御父のようになれることを知りました。すなわち、復活し、天に

教師へ——深く考える時間を取ることによって、生徒や家族は質問について十分に考えたうえで答えることができます。例えば、質問した後で次のように言うといいでしょう。「少し時間を取って考えてください。それから答えをお聞きます。」その後、深く考える時間を与えてください。

においても地においてもすべての力を有し、まさしく御父のように天の父母となつて霊の子供をもうけることができるようになるのです（教義と聖約 132:19 - 20 参照）。

わたしたちは、地球が創造されて、そこで自身のふさわしさを証明することになると知らされました（アブラハム 3:24 - 26 参照）。幕によって記憶が覆われ、天の家庭のことをすべて忘れてしまうことになります。天の御父とともに住んでいたときの記憶に左右されることなく、選択の自由を使って善悪を選べるようにするために必要なことでした。それでこそ天の御父に関する記憶や知識によらず、御父への信仰により御父に従うことができるのです。天の御父は、わたしたちが地上で再び真理を耳にするときに、それが理解できるように助けてくださいます（ヨハネ 18:37 参照）。

大会議において、わたしたちは進歩することの目的が満ちみちる喜びを得るためであるということも知りました。しかし同時に、ある者は欺かれてほかの道を選び、満ちみちる喜びへ通じる道を見失ってしまうことが分かりました。すべての人がこの世において病気、失望、苦しみ、悲しみ、死という試練を受けることも知りました。しかし、試練は経験を得させ、益となることを理解しました（教義と聖約 122:7 参照）。受け止め方次第で、試練は人をくじくものではなくむしろ精錬するものとなります。試練によって、堪え忍ぶことと忍耐と慈愛を学ぶのです（『歴代大管長の教え — スペンサー・W・キンボール』15 - 16 参照）。

この会議において、わたしたちはまた、幼い子供を除くすべての人はその弱さのために罪を犯すことを知りました（教義と聖約 29:46 - 47 参照）。そして罪を克服し、復活により死を克服できるように、救い主が備えられることを学びました。救い主を信じる信仰を持ち、御言葉に従い、模範に倣うならば、高く上げられて天の御父のようになれるということも教えられました。満ちみちる喜びを得るのです。

- 天の御父の特質を幾つか挙げてください。救いの計画はこれらの特質を培ううえでどのように役立つでしょうか。

参照聖句

- ヘブル 12:9（神はわたしたちの霊の父であられる）
- ヨブ 38:4 - 7（人には前世がある）
- アブラハム 3:22 - 28（前世に関する示現）
- エレミヤ 1:5（前世に関する示現）
- 教義と聖約 29:31 - 38（前世に関する示現）

第2章

- モーセ 3:4 - 7 (霊的な創造と物質的な創造)
- 1 コリント 15:44 (霊的な創造と物質的な創造)
- 教義と聖約 76:23 - 24 (生まれた息子と娘)
- 教義と聖約 132:11 - 26 (進歩の計画)

第 3 章

選ばれた指導者、 救い主である イエス・キリスト

救い主と指導者が必要であった

- なぜわたしたちは天の御父のみもとを離れる必要があったのでしょうか。なぜ救い主が必要なののでしょうか。

前世で人類を救う計画が発表されたとき、わたしたちは大いに喜び叫びました（ヨブ 38：7 参照）。

わたしたちは少しの間天の家庭を離れなければならないことを理解していました。つまり、天の御父の前に住まなくなるのです。また、御父と別れて暮らしている間に、すべての人が罪を犯し、道を見失ってしまう人もいるだろうということも知らされました。天の御父はわたしたち一人一人を深く理解し愛してくださり、助けが必要であることを知っておられたので、助ける方法を備えてくださいました。

わたしたちの罪の代価を支払い、天の御父のみもとに帰る方法を教えてください。救い主が必要でした。御父は、「わたしはだれを遣わそうか」と言われました（アブラハム 3：27）。エホバと呼ばれていたイエス・キリストは、「わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください」と言われました（アブラハム 3：27。モーセ 4：1 - 4 も参照）。

イエスはこの地球に来て命を犠牲にし、わたしたちの罪を身に負うことを願い出られました。天の御父と同様に、イエスも、わたしたちが天の御父のすべての戒めに従うことを選ぶように望まれました。昇栄するにふさわしい者であることを証明するためには、わたしたちは自由に選択できなければなりません。このことをイエスは知っておられました。イエスは言われました。「父よ、あなたの^{みこころ}が行われ、栄光はとこしえにあなたのものでありますように。」（モーセ 4：2）



ルシフェルと呼ばれていたサタンも来て言いました。「御覧ください。わたしがここにいます。わたしをお遣わしてください。わたしはあなたの子となりましょう。そして、わたしは全人類を贖^{あがな}って、一人も失われないようにしましょう。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉^{ほま}れを与えてください。」(モーセ4:1) サタンは自分の考えにわたしたちを強制的に従わせようとしてきました。サタンの計画では、わたしたちに選択は許されません。サタンは、御父がすでに与えてくださった選ぶ自由を取り去ろうとしました。全人類を救うことによって誉れを独占しようとしたのです。サタンの提案に従っていたら、地上に来るわたしたちの目的はくじかれていたでしょう(『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』207 参照)。

イエス・キリストは選ばれた指導者、救い主とられた

- 本項を読みながら、救い主に対して感じている自分の気持ちについて考えてください。

二人の息子の言葉を聞いた後、天の御父は「わたしは最初の者を遣わそう」と言われました(アブラハム3:27)。

こうしてイエス・キリストが選ばれ、救い主となるように予任されたのです。このことは多くの聖句に記されています(例として、1ペテロ1:19-20; モーセ4:1-2 参照)。お生まれになるはるか前にモルモン書の預言者ヤレドの兄弟に御姿を現して語られた、次のような主の言葉があります。「見よ、わたしは、自分の民を贖うために世の初めから備えられた者である。わたしはイエス・キリストである。……わたしによって全人類は命を得る。すなわち、わたしの名を信じる者は永遠に命を得る。」(エテル3:14)

また、イエスはこの世におられたとき、次のようにお教えになりました。「わたしが天から下ってきたのは、自分のこころのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。……わたしの父のみこころは、子を見て信じる者が、ことごとく永遠の命を得ることなのである。そして、わたしはその人々を終りの日によみがえらせるであろう。」(ヨハネ6:38, 40)

天上の戦い

天の御父がイエス・キリストを救い主としてお選びになったため、サタンは怒って謀反^{むほん}を起こしました。天で戦いがあり、サタンとサタンに従う者たちが、イエス・キリストとイエスに従う者たちと戦いました。救い主に従う者たちは、「小羊の血と彼らのあかしの言葉とによって、[サタン]にうち勝[った]」のです(黙示12:11)。

第3章

この大反乱において、サタンと彼に従ったすべての霊は神の前から追い払われ、天から投げ落とされました。天に住んでいた霊の3分の1は、サタンに従ったために罰を受けました（教義と聖約 26：36 参照）。彼らはこうして肉体を受ける権利を拒まれてしまったのです。

わたしたちはこの世において肉体を持っています。このことから、天上でイエス・キリストと天の御父に従ったことが分かります。サタンと彼に従う者たちもこの地上にいますが、彼らは霊のままです。わたしたちがどのような者であるかを忘れていません。また、日々わたしたちの周囲にいて誘惑し、天の御父に喜ばれないことをさせようとしています。前世において、わたしたちはイエス・キリストに従い、神の計画を受け入れることを選びましたが、この地上でもイエス・キリストに従い続けなければなりません。主に従うことによるのみ、天の家に帰ることができるのです。

- 今日、天^{こんにち}での戦いはどのような形で続いているのでしょうか。

わたしたちには従うべき救い主の教えがある

- 救い主の教えからどのような影響を受けてきたか考えてください。

イエス・キリストは、時の初めから人類に福音を明らかにし、再び天の御父のみもとに帰るためにしなければならないことを教えてこられました。定められた時にイエス御自身が地上においてになり、言葉と行いによって救いと昇栄の計画を説かれました。そして地上に御自分の教会と神権を確立されました。イエスは全人類の罪を身に受けられました。

主の教えに従うことによって、人は日の栄えの王国において一つの場所を受け継ぐことができます。主はわたしたちが再び天の家に帰れるようにその使命を果たされました。これから先、自分の役割を果たし昇栄を受けるにふさわしい者となるのは、わたしたち一人一人の責任です。

参照聖句

- モーセ 4：1 - 4；アブラハム 3：22 - 28（救い主は前世で選ばれた）
- 教義と聖約 76：25 - 29（天での戦い）
- 黙示 12：7 - 9, 11（救い主に従う者たちは、天での戦いで、小羊の血と彼らの証の言葉とによってサタンに打ち勝った）
- イザヤ 14：12 - 15（ルシフェルが追放された理由）

教師へ——「参照聖句」は、生徒や家族に個人で研究させてもよいし、二人一組で、または全員で研究してもよいでしょう。

第 4 章

選ぶ自由

永遠の原則である「選択の自由」

- 選択の自由はなぜ大切なかとだれかに尋ねられたら、どのように答えますか。

「あなたは自分で選ぶことができる。それはあなたに任されているからである。」(モーセ 3 : 17)

神は預言者を通して、わたしたちに善悪を選ぶ自由があることを教えてくださいました。イエス・キリストに従って自由と永遠の命を選ぶこともできれば、サタンに従って束縛と死を選ぶこともできるのです(2 ニーファイ 2 : 27 参照)。善と悪の間で選択をする権利と自らのために行動する権利は、「選択の自由」と呼ばれています。

前世において、わたしたちには道徳的な選択の自由がありました。この世に來た目的の一つは、何を選ぶかを明らかにすることです(2 ニーファイ 2 : 15 - 16 参照)。しかし正しいことを選ぶよう強いられるならば、自らのために何を選ぶかを明らかにすることはできないでしょう。また、自分で選択したことは、いっそう快く行うものです。

前世における天上の会議で採り上げられた主要な議題の一つが選択の自由でした。これはキリストに従う者とサタンに従う者との戦いのおもな原因の一つとなりました。サタンはこう言いました。「御覧ください。わたしがここにあります。わたしをお遣わ^{あがな}してください。わたしはあなたの子となりましょう。そして、わたしは全人類を贖って、一人も失われないようにしましょう。必ずわたしはそうします。ですから、わたしにあなたの誉れを与えてください。」(モーセ 4 : 1) そう言うことでサタンは、「[神]に背いて、……人の選択の自由を損なおうとした」のです(モーセ 4 : 3)。サタンは申し出が拒否されると反乱を起こし、その結果、彼に従う者たちとともに天から追放されました(教義と聖約 29 : 36 - 37 参照)。



選択の自由は救いの計画の大切な要素を成す

選択の自由が与えられていることで、この世の生涯は試しの期間となります。神は、霊の子供たちに肉体を与えようと計画されたとき、次のように言われました。「わたしたちはこれによって彼らを試し、何であろうと、主なる彼らの神が命じられるすべてのことを彼らがなすかどうかを見よう。」(アブラハム 3:25) もし選択の自由の賜物たまものがなかったならば、命じられたすべてのことをなすかどうか天の御父に示すことはできなかったでしょう。選ぶことができるので、わたしたちは自分の行いに責任を持たなければなりません(ヒラマン 14:30 - 31 参照)。

神の計画に従って生活することを選ぶときに、選択する力は強められます。正しい選択はさらに正しい選択をする力を与えるのです。

御父の戒め一つ一つに従うにつれて、知恵が増し、人格がしっかりと築かれ、信仰が深まってきます。そして正しい選択をすることが容易になってきます。

わたしたちは天の御父のみもとにいたときに、霊の子供として選択をし始めました。そこで行った選択によって、地球に来るにふさわしい者と認められたのです。天の御父は、わたしたちが信仰、力、知識、知恵、そのほかあらゆる善いものを身に付けるようにと望んでおられます。御父の戒めを守り、正しい選択をするときに、知識を得、理解力を増すことができます。御父のようになるのです(教義と聖約 93:28 参照)。

- 正しい選択をすると、さらに正しい選択ができるようになるのはなぜでしょうか。

選択の自由を使うのに必要な選ぶ機会

- 反対のものはなぜ必要なのでしょうか。

善と悪という相反するものがなければ、義を選択することはできません。モルモン書の中の偉大な預言者リーハイは、神の永遠の目的が達成されるために何が必要であるかを息子ヤコブに語りました。「すべての事物には反対のものがなければならぬからである。……もし事物に反対のものがなければ、義は生じ得ないし、じやあく 邪悪も、きよ 聖さもみじ 惨めな状態も、善も悪も生じ得ない。」(2 ニーフアイ 2:11)

神はサタンが善に刃向かうことを許しておられます。神はサタンについて次のように言われました。

「わたしは……彼を投げ落とさせた。

第4章

そして、彼はサタン、すなわち、あらゆる偽りの父である悪魔となって、人々を欺き、惑わし、またまことに、わたしの声を聴こうとしないすべての者を自分の意のままにとりこにする者となった。」(モーセ4:3-4)

サタンは全力を傾けて神の業を打ち砕こうとしています。「全人類〔を〕惨めな状態にしよう」としており、「すべての人が自分のように惨めになることを求めて」います(2ニーフアイ2:18, 27)。サタンはわたしたちを愛しておらず、人のために善を行おうなどとは思っていません(モロナイ7:17参照)。ただわたしたちを不幸に陥れ、奴隷にすることだけを願っています。多くのごまかしを用いて捕らえようとしているのです。

サタンの誘惑に屈すると、選べることが限られてきます。次の例がそのことをよく表しています。海岸に次のような立て札があったとします。「危険——渦発生のためこの付近での遊泳を禁止する。」これは束縛だと考える人がいるかもしれません。しかしそうでしょうか。選択の余地はまだたくさん残っています。ほかで泳ぐこともできるし、砂浜を散歩したり貝殻を集めたりすることもできます。夕日を眺めることも、そのまま家に帰ることも自由です。あるいは警告を無視して危険な場所で泳ぐことも自由です。しかしいったん渦に巻き込まれてしまったらどうでしょう。もう選択の余地はほとんどありません。逃れようともがくか、助けを呼ぶことはできても、おぼれてしまうかもしれません。

どのように行動するか選ぶのは自由ですが、行動が招く結果を選ぶ自由はありません。善きにつけ悪しきにつけ、どんな選択にも自然の成り行きとして結果が伴います(ガラテヤ6:7; 黙示22:12参照)。

天の御父はサタンの束縛から逃れる方法を示してくださいました。サタンの誘惑に負けないよう、常に目を覚ましていて祈り、神の助けを願うことです(3ニーフアイ18:15参照)。天の御父はわたしたちを耐えられないような誘惑に遭わせられません(1コリント10:13; アルマ13:28参照)。

神の戒めはわたしたちを危険から遠ざけて、永遠の命へ導くものです。賢明な選択をするときに、わたしたちは昇栄を得、永遠に進歩し、完全な幸福を得ることができるのです(2ニーフアイ2:27-28参照)。

- 選択を制限することになる行動の例として、どのようなものがあるでしょうか。さらなる自由をもたらしてくれる行動の例として、どのようなものがあるでしょうか。

教師へ——簡単な絵を使うことによって、学んでいる人たちの注意を引くことができます。本章で紹介している立て札のたとえについて話し合う場合であれば、そのような立て札を黒板か大きな紙に描くとよいでしょう。

参照聖句

- モーセ 7:32 (選ぶ自由)
- アブラハム 3:24 - 25 (地上での生活 — 試し)
- アルマ 41:3; モロナイ 7:5 - 6 (行いにより裁かれる)
- 2 ニーファイ 2:11 - 16 (反対のものが必要)
- モロナイ 7:12 - 17 (善悪の選択)
- 2 ペテロ 2:19; ヨハネ 8:34 (罪は束縛をもたらす)
- 2 ニーファイ 2:28 - 29; アルマ 40:12 - 13 (行いに応じて報いを受ける)



第 5 章

創造

わたしたちのための神の計画

- なぜわたしたちは地上にやって来る必要があったのでしょうか。

霊の子供として天の父母のみもとにいたとき、天の御父は、わたしたちがもっと御父のようになるための計画について話されました。計画を聞いたわたしたちは非常に喜び(ヨブ 38:7 参照)、新しい経験を心から望みました。これを実現するには、御父のみもとを離れ、肉体を得る必要がありました。御父のようになる備えをするために生活する、ほかの場所が必要でした。その新しい住まいは地球と呼ばれました。

- 救いの計画について知ったとき、わたしたちが非常に喜んだのはなぜだと思いますか。

イエスが地球を創造された

イエス・キリストはこの世界とここに属するすべてのものを創造されました。またほかの多くの世界も創造されました。天の御父の指示の下に、神権の力によってこれを行われたのです。父なる神は言うておられます。「無数の世界を、わたしは創造した。……子によって、わたしはこれらを創造した。子とは、わたしの独り子のことである。」(モーセ 1:33) この真理に関する証がほかにもあります。ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンは示現の中でイエス・キリストにまみえ、こう証しています。「彼によって、彼を通じて、彼から、もろもろの世界が現在創造され、また過去に創造された。そして、それらに住む者は神のもとに生まれた息子や娘となる……。」(教義と聖約 76:24)

教師へ——生徒や家族の中には、声に出して読むことに抵抗感のある人がいるかもしれません。声に出して読むよう頼む前に「読んでくれる人はいませんか」と尋ね、引き受けてくれた人に頼むとよいでしょう。

創造を実行する

- 創造の目的は何でしょうか。

地球と地球にあるすべてのものは、物質的に創造されるに先立って霊的に創造されました（モーセ3：5参照）。地球を物質的に創造する計画を立てるに当たって、キリストはともにいる霊たちに言われました。「あそこに空間があるので、わたしたちは降って行こう。そして、これらの材料を取って、これらの者〔天の御父の霊の子供たち〕が住む地を造ろう。」（アブラハム3：24）

御父の指示の下に、キリストは地球を形作り、組織されました。光と闇とを分け、昼と夜を造り、太陽と月と星を形作られました。水を乾いた地から分け、海や川や湖を造られました。キリストは地球を美しく豊かに造り、草、木、花、あらゆる種類の植物をも造られました。植物は種を持ち、種からは新しい植物が育つのです。次に、あらゆる種類の魚、家畜、昆虫、鳥を創造されました。動物にはそれぞれの種類に従って殖える能力がありました。

こうして地球は最も偉大な創造物である人類を迎える準備が整いました。この地球に住めるように、霊に血肉の体が与えられるのです。「神であるわたしは、初めからわたしとともにいたわたしの独り子に言った。『わたしたちの形に、わたしたちにかたどって人を造ろう。』そして、そのようになった。」（モーセ2：26）こうして最初の男アダムと最初の女エバが形造られ、天の父母に似た体が与えられました。「すなわち、神のかたちに創造し、男と女に創造された」のです（創世1：27）。主は創造の業を終えられたとき、その結果が良いのを知って満足されました。そしてしばらくの間休まれました。

神の創造物は神の愛を表す

- 神の創造物には、神がわたしたちを愛しておられることがどのように表れているでしょうか。

今わたしたちは美しい世界に住んでいます。ぬくもりや光を与える太陽。植物を育て、地上に清さとすがすがしさをもたらす雨。気持ちを和ませる鳥のさえずりや友の笑い声。肉体があるおかげで、わたしたちは働き、遊び、休息を取ることができます。このすべての創造物を思うとき、イエス・キリストと天の御父がいかに知恵と力と愛に満ちた御方であられるかが分かるようになります。この御二方はわたしたちに必要なものをすべて整え、大いなる愛を示してくださっています。

植物や動物もまた、人に喜びをもたらすために造られました。主は次のように言っておられます。「まことに、季節に応じて地から生じるすべてのものは、人の益と利用のため、目を楽しませ、心を喜ばせるために造られている。

まことに、食物のため、また衣服のため、味のため、また香りのため、体を強くするため、また霊を活気づけるために造られている。」(教義と聖約 59 : 18 - 19) 神によって創造されたものは数多くあります。しかし、神はそのすべてを御存じで、愛しておられます。神は言われました。「わたしにはすべてのものが数えられている。それらはわたしのものであり、わたしはそれらを知っているからである。」(モーセ 1 : 35)

- 神が創造されたものの中で、あなたは何に感謝していますか。

参照聖句

- 創世 1 章 ; 2 : 1 - 7 ; アブラハム 3 : 22 - 23 ; 4 - 5 章 ; モーセ 1 : 27 - 42 ; 2 - 3 章 (創造の記述)
- ヘブル 1 : 1 - 3 ; コロサイ 1 : 12 - 17 ; 教義と聖約 38 : 1 - 3 (創造主イエス)
- 教義と聖約 59 : 18 - 20 ; モーセ 2 : 26 - 31 ; 教義と聖約 104 : 13 - 17 ; マタイ 6 : 25 - 26 (神の愛を示す創造物)



第 6 章

アダムとエバの^{だらく}墮落

地球の最初の人、アダムとエバ

- アダムとエバのどのようなところから、二人が雄々しい霊であったことが分かりますか。

神は、神の子供たちの住まいとしてこの地球を備えられました。地球に住む最初の人として選ばれたのが、アダムとエバです（モーセ 1:34; 4:26 参照）。御父の計画における二人の役割は、この世に死すべき状態をもたらすことでした。二人は最初の両親となるように定められていました（教義と聖約 107:54 - 56 参照）。

アダムとエバは、御父のひとときわ高潔な子供たちの中にいました。霊の世界において、アダムは天使長ミカエルと呼ばれていました（教義と聖約 27:11; ユダ 1:9 参照）。アダムはサタンとの戦いにおいて義人を指揮するよう、天の御父によって選ばれました（黙示 12:7 - 9 参照）。アダムとエバは人類の最初の両親となるように^{よにん}予任され、主はアダムに次のような大いなる祝福を約束されました。「わたしはあなたを立てて首長とした。多くの民族があなたから出るであろう。そして、あなたはとこしえに彼らを治める君である。」（教義と聖約 107:55）

エバは「すべての命ある者の母」でした（モーセ 4:26）。「人が独りでいるのは良くない」ので（モーセ 3:18。1 コリント 11:11 も参照）、神はアダムとエバを結婚によって一つとされました。エバはアダムの責任をともに担うことになり、同時にアダムの永遠の祝福をも分かち合うことになったのです。

- アダムとエバの模範からどのようなことが学べるでしょうか。

教師へ——項の最初にある質問は、話し合いを始めたり、生徒や家族に本文を詳しく調べさせたりするために利用してください。項の最後にある質問は、読んできたことの意味を深く考え、話し合い、生活で応用するよう、生徒や家族を助けるために利用してください。

エデンの園

- エデンの園で暮らしていたとき、アダムとエバはどのような状態だったでしょうか。

アダムとエバがエデンの園に置かれたとき、まだ死すべき体ではなく、この状態では「アダムとエバは子供を持」ちませんでした（2 ニーフアイ 2：23）。そこに死は存在しませんでした。彼らの霊は土のちりから造られた肉体に宿っていたため、二人は肉体的な生命を有していました（モーセ 6：59；アブラハム 5：7 参照）。また、神の前にいたために、霊的な生命を有していました。善か悪かを選んだことはまだありませんでした。

神はアダムとエバに子供をもうけるように命じられました。「生めよ、増えよ、地に満ちよ、地を従わせよ。……地に動くすべての生き物を治めよ。」（モーセ 2：28）神は彼らに、善悪を知る木を除けば、園にあるあらゆる木から自由に取って食べてよい、と言われました。善悪を知る木については、「あなたはそれを食べる日に、必ず死ぬ」と言われました（モーセ 3：17）。

神の御心^{みこころ}を理解せず、神の計画を打ち砕こうと躍起^{やっき}になっていたサタンは、エデンの園でエバに近寄り、善悪を知る木の実を食べるように誘惑しました。エバもアダムも決して死ぬことはなく、むしろ「神のように善悪を知る者となる」と言って安心させたのです（モーセ 4：11）。エバは誘惑に負けて木の実を食べました。このことを知ったアダムもまた、木の実を取って食べることを選んだのです。木の実を食べたことによってアダムとエバに変化が生じました。これは「墮落」と呼ばれています。

神から遠ざかったアダムとエバ

- 背きの結果、アダムとエバに肉体的および霊的にどのような変化が生じたでしょうか。

アダムとエバが善悪を知る木の実を食べたために、主は二人をエデンの園から世に追い出されました。禁断の実を食べた結果として、アダムとエバの肉体の状態が変わり、二人は神が約束されたように死すべき者となりました。二人もその子孫も病気や苦痛、肉体の死を経験するようになったのです。

アダムとエバは戒めに背いたために、霊の死も被りました。二人とその子孫が、神とともに歩んだり、顔を合わせて神と語ったりできなくなったということです。こうしてアダムとエバとその子孫は肉体的にも霊的にも神から遠ざかってしまったのです。

背きの結果もたらされた大きな祝福

- 墮落を通して、わたしたちはどのように天の御父のようになる機会を得ているのでしょうか。

アダムとエバは善悪を知る木の実を食べて重大な罪を犯した、と一部の人は信じています。しかし、末日の聖文を読めば、彼らの墮落が生命の計画において欠くことのできない段階であり、同時に人類にとって大きな祝福であったことが理解できます。墮落によって、わたしたちに肉体が与えられ、善悪を選ぶ権利と永遠の命を得る機会が授けられています。もしもアダムとエバがエデンの園にとどまっていたとしたら、この特権はどれもわたしたちのものになっていなかったでしょう。

エバは墮落の後で次のように言っています。「わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。」(モーセ5:11)

預言者リーハイは次のように説明しています。

「ところで見よ、アダムがもし背かなかったならば、彼は墮落をせずにそのままエデンの園にいたであろう。そして創造されたすべてのものは、創造された後の状態そのまままで存続したに違いない。……

そして、アダムとエバは子供を持たなかったであろう。また、不幸を知らないで喜びもなく、罪を知らないで善も行わず、罪のない状態にとどまっていたであろう。

しかし見よ、すべての物事は、万事を御存じである御方の知恵によって行われてきた。

アダムが墮落したのは人が存在するためであり、人が存在するのは喜びを得るためである。」(2 ニーフアイ 2:22 - 25)

- 墮落と、墮落がわたしたちに及ぼす影響について知ることが大切なのはなぜだと思いますか。

参照聖句

- 1 ニーフアイ 5:11 ; 2 ニーフアイ 2:20 (最初の両親アダムとエバ、家族)
- 2 ニーフアイ 2:14 - 21 (物事の反対と墮落、試しの生涯)
- 2 ニーフアイ 2:22 - 26 (救いの計画の一部である墮落)

第7章

聖霊

聖霊がアダムとエバのもとを訪れられた

- アダムとエバが聖霊の導きを必要としたのはなぜでしょうか。

エデンの園を追われた後、アダムとエバは生きるために地を耕し、ほかにも骨を折って働くようになりました。二人はたくさんの子供をもうけ、また、その息子、娘たちも結婚して子供をもうけました（モーセ5：1－3参照）。こうして、前世での約束どおりに、天の御父の霊の子供たちは御父のみもとを離れてこの地球に来るようになったのです（アブラハム3：24－25参照）。地球に来るときに、天の家庭での記憶は取り去られました。けれども、御父は子供たちを神の影響力から遠ざけられたわけではありません。神はすべての霊の子供たちを慰め、助け、導くために聖霊を送ってくださいました。

アダムとエバが祈りの中で天の御父を呼び求めると、御父は二人に語りかけ、戒めを与えられました。二人は戒めに従いました。主の天使がアダムとエバを訪れて、救いの計画を教えました。主は御父と御子を^{あかし}証し、福音を教えるために、アダムとエバに聖霊を遣わされました（モーセ5：4－9参照）。

アダムは聖霊の力を通して「地のすべての氏族について預言し始めて言った。『神の御名がたたえられるように。わたしの背きのゆえに、わたしの目は開かれた。わたしはこの世で喜びを受け、再び肉体にあって神にまみえるであろう。』」（モーセ5：10）エバもまた、聖霊によって証を得ると、次のように言いました。「わたしたちの背きがなかったならば、わたしたちは決して子孫を持つことはなく、また善悪も、^{あがな}贖いの喜びも、神がすべての従順な者に与えてくださる永遠の命も、決して知ることはなかったでしょう。」（モーセ5：11）

- わたしたちが聖霊の導きを必要としていることは、アダムとエバがそれを必要としていたのとどのように似ているでしょうか。

教師へ——生徒は教師から名前と呼ばれば、大切に思われ気にかけていることが分かります。生徒の名前を覚え、レッスンでは名前と呼ぶようにしましょう。生徒が互いの名前を覚えるように助けましょう。

聖霊とはどのような御方か

- 聖霊はどのような点で御父や御子と異なっておられるでしょうか。その違いがわたしたちにとって重要なのはなぜでしょうか。

聖霊は神会の中の御一方おひとかたです(1ヨハネ5:7;教義と聖約20:28参照)。聖霊は「霊の御方」です(教義と聖約130:22)。聖霊は一時に二つ以上の場所にいることはできませんが、同時にあらゆる場所に影響を及ぼすことがおできになります。

天の御父、イエス・キリスト、聖霊が神会を構成しておられます。この御三方は同じ目的を持ち、救いの計画においてそれぞれ重要な役割を果たしておられます。天の御父はわたしたちの御父であるとともに統治者であられ、イエス・キリストは救い主であられ、聖霊はすべての真理を明らかにし証される御方です。

聖霊は天の御父の使者であられ、人に与えられる特別な賜物たまものでもあります(本書第21章参照)。

聖霊の使命

- 聖霊が明らかにしてくださる真理に、どのようなものがあるでしょうか。

聖霊の使命は、御父と御子を証し、またすべてのことの真理を証することです。

聖霊はイエスがわたしたちの救い主、贖い主であられることを証し(3ニーファイ28:11;教義と聖約20:27参照)、天の御父が霊の父であられることを啓示してくださるでしょう。また、わたしたちも天の御父のように高くされることを理解できるようにしてくださるでしょう(ローマ8:16-17参照)。主の預言者たちは、「聖霊の力によって、あなたがたはすべてのことの真理を知るのであろう」と約束しています(モロナイ10:5)。

聖霊を受けずにイエスがキリストであられることを知るのとは不可能です。使徒パウロは次のように言っています。「聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない。」(1コリント12:3) 救い主御自身はこう言われました。「永遠の命とは、唯一の、まことの神でいますあなたと、また、あなたがたがわされたイエス・キリストとを知ることであります。」(ヨハネ17:3) わたしたちがイエス・キリストの福音を理解し、それに従って生活するようになるのは、聖霊の力によるのです。

確信を与える聖霊の力は非常に強いので、聖霊が啓示してくださることが真実であるかどうかは、まったく疑う余地はありません。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べています。

「聖霊から現れを受けると、心にぬぐい去ることのできない印象が残ります。簡単に消すことができません。それは霊に語りかける御霊^{みたま}であり、人に確信を得させる力を伴っています。天使の現れ、あるいは神の御子御自身の現れは目と心に強い印象を与えますが、やがて消えていきます。しかし、聖霊による印象は心の中に深く行き渡り、容易に消し去ることはできません。」(Answers to Gospel Questions, ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編, 全5巻〔1957-1966年〕, 第2巻, 151)

さらにスミス大管長は、「聖霊によって真理はまさに体の繊維と筋にまで織り込まれ、忘れ去ることができないものとなる」と述べています (Doctrines of Salvation, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻〔1954-1956年〕, 第1巻, 48)。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として、わたしたちは天の御父とイエス・キリストの特別な使者であり証人であるこの御方を受け入れるにふさわしくあるよう、自らを整えなければなりません。

- あなたが証をはぐくむのを聖霊が助けてくださった時のことについて考えてください。適切であれば、そうした経験を生徒や家族に紹介してください。

参照聖句

- モーセ5章 (アダムの家族の話)
- 教義と聖約 130:22 (聖霊はどのような御方か)
- ヨハネ 14:26; 15:26; 16:13; ルカ 12:12; 2 ニーファイ 31:18; 32:5, 8; 33:1; アルマ 14:11; 3 ニーファイ 27:20; 4 ニーファイ 1:48; モロナイ 10:6-7; 教義と聖約 8:2-3; 11:12-13; 20:26 (聖霊の役割)



第 8 章

天の御父に祈る

祈りとは何か

イエスは次のように教えられました。「あなたがたは、わたしの名によって常に父に祈らなければならない。」(3 ニーフай 18 : 19)

祈りは地上にいるわたしたちに与えられた最大の祝福の一つです。祈りを通して日々天の御父と交わり、導きを求めることができます。

祈りは誠実に、真心から天の御父と会話することです。わたしたちは神に祈るべきであり、ほかの何ものにも祈ってはなりません。いかなるものであっても、人あるいは神が造ったほかの生物や事物には祈りません(出エジプト 20 : 3 - 5 参照)。

なぜ祈るのか

祈りはこの世の初めから福音に欠かせないものでした。アダムとエバを訪れた主の天使は、悔い改めて御子の名によって神に呼び求めるようにと命じました(モーセ 5 : 8 参照)。この戒めが取り消されたことは一度もありません。祈りは神にいつそう近づくうえで助けとなります。あらゆる思いと言葉と行いが、祈りの影響を受けるのです。

わたしたちは、サタンと彼に従う者たちの誘惑と戦う力を得られるように祈り求めなければなりません(3 ニーフай 18 : 15 ; 教義と聖約 10 : 5 参照)。神に罪を告白し、赦しを請うために祈らなければなりません(アルマ 38 : 14 参照)。

教師へ——本章は5つの項で構成されており、各項の見出しがどれも祈りについての質問になっています。この質問を利用しながらレッスンを進めることができます。クラスの状況が小グループの話し合いに適していれば次のように行うとよいでしょう。生徒を2-4人のグループに分け、各グループに本章の項の一つを割り当てます。各グループは割り当てられた項を読み、内容について話し合い、関連した経験を分かち合います。その後、生徒が最も関心のある質問に焦点を絞りながら、クラス全員で5つの項について話し合います。

第 8 章

日々の生活に主の導きと助けがあるように祈り求めなければなりません。家族や友達、隣人のために、作物や家畜、日々の仕事やそのほかの活動のために祈る必要があります。敵の力から守られるように祈らなければなりません（アルマ 34：17 - 27 参照）。

天の御父に愛を表し、神を身近に感じるために祈らなければなりません。また、恵みや慰め、日々与えられるすべてのものに感謝するために御父に祈ります（1 テサロニケ 5：18 参照）。福音に従って生活する強さを得るために、天の御父に祈り求める必要があります。

わたしたちが祈るのは、永遠の命に通じる細くて狭い道を最後まで歩き続けるためです。すべての義の源である神に祈り、思いと言葉と行いにおいて義を保たなければなりません。

- これまで祈りによって、どのように天の御父に近づくことができましたか。

いつ祈るか

天の御父と交わる必要を感じたときにはいつでも、心の中で、あるいは声に出して祈ることができます。心を注ぎ出すために、独りになることが必要なときもあります（マタイ 6：6 参照）。さらに、日常生活においても祈ることができます。教会の集会で、家庭で、また道を歩いているとき、働いているとき、食事の支度をしているときに祈ることができます。どこにいても、何をしても祈ることができます。昼でも夜でも、いつでも祈ることができます。独りであるときも、人と一緒にいるときも、祈りは可能です。いつでも天の御父に心を向けることができます（アルマ 34：27 参照）。わたしたちは「常に祈〔る〕」ことができるのです（教義と聖約 10：5）。

時々、怒ったり、落胆したり、心を乱したりして、祈りたくないと思うことがあるかもしれません。そういうときにこそ、心を奮い立たせて祈る必要があります（2 ニーファイ 32：8 - 9 参照）。

少なくとも朝と夜、独りで祈らなければなりません。聖文には、朝も昼も夜も祈るようにと記されています（アルマ 34：21 参照）。

わたしたちは家族の祈りをささげることによって家族が祝福を受けるようにしなさい、と命じられています（3 ニーファイ 18：21 参照）。教会の指導者は毎日朝と夜に家族の祈りをささげるように勧告しています。

また、食事の都度、食物を感謝し祝福を求めて祈りをささげます。

教会のすべての集会は祈りによって始め、祈りによって終わります。わたしたちは主に祝福を感謝し、助けを願い求め、主の喜ばれる方法で礼拝します。

どのように祈るか

どのような場所においても、立ってもひざまずいても、声に出しても心の中でも、また独りでも人前でも、常に信仰をもって「誠心誠意」祈らなければなりません（モロナイ 10：4）。

天の御父に祈るとき、心に感じていることをありのままに話す必要があります。御父に信頼を置き、赦しを求め、願い事をし、感謝し、御父への愛を表します。無意味な言葉の繰り返しは避けるべきです（マタイ 6：7－8 参照）。自分の願うことが必ずしも自分にとって最善ではないことを覚え、常に御父の御心みこころが成るように祈るべきです（3 ニーフアイ 18：20 参照）。最後にイエス・キリストの名により祈りを終えます（3 ニーフアイ 18：19 参照）。

祈りはどのようにこたえられるか

- 祈りの答えが必ずしも分かりやすい形で与えられるとは限らないのはなぜだと思いますか。祈りの答えが自分の望むときに、あるいは望む方法で与えられるとは限らないのはなぜだと思いますか。

心からの祈りは必ずこたえられます。時には望まない答えであることがあるでしょう。願い求めた事柄がわたしたちにとって最善ではないからです。願ったとおりにこたえられる場合もあります。そのとき、わたしたちはなすべきことについて温かく快い気持ちになります（教義と聖約 9：8－9 参照）。もう少し待つようにという答えもあります。祈りは、主がわたしたちにとって最も良いと思われる時期に、ふさわしい方法で必ずこたえられるのです。

時折、主はほかの人を通して祈りにこたえてくださることがあります。仲の良い友達、伴侶、親や家族、教会の指導者、宣教師——このような人が靈感されて、わたしたちの祈りの答えとなる行動を取ることがあります。例えば、ある若い母親の赤ん坊が家でけがをしたときの話です。赤ん坊を医者に連れて行くにも手立てがありません。そのうえ、引っ越して来たばかりで、近所に知っている人はいませんでした。母親は助けを求めて祈りました。すると間もなく、近所の人人がドアをノックして次のように言いました。「こちらに伺ってみなければという気がしたのですが。何か助けが必要ではありませんか。」こうしてこの人の助けによって、若い母親は赤ん坊を医者に連れて行くことができましたのです。

神はしばしばわたしたちに力を与えて、自分で自分の祈りにこたえられるようにしてくださいます。わたしたちは助けを求めると同時に、願ったことを実現するために精いっぱい努力をしなければならないのです。

第 8 章

イエス・キリストの福音に従って生活し、絶えず祈るならば、喜びと幸福を手にするでしょう。「あなたは謙遜^{けんそん}でありなさい。そうすれば、主なるあなたの神は手を引いてあなたを導き、あなたの祈りに答えを与えるであろう。」(教義と聖約 112:10)

- これまで天の御父はどのような形であなたの祈りにこたえてくれましたか。

参照聖句とその他の資料

- ヤコブの手紙 1:5 (祈る事柄)
- 1 テサロニケ 5:17; 詩篇 55:17; 2 ニーファイ 32:9 (祈る時)
- アルマ 34:26 (祈る場所)
- 3 ニーファイ 19:6, 24 (祈る方法)
- 教義と聖約 88:63 - 65 (祈りはどのようにこたえられるか)
- モロナイ 10:3 - 5; アルマ 37:37 (祈りに対する約束)
- ヤコブの手紙 5:16 (義人の祈りの力)
- 『聖句ガイド』「祈り」の項, 40 - 41

第9章

神の預言者

預言者は地上における神の代表者である

- 預言者はどのような力や賜物たまものを持っているでしょうか。

「まことに主なる神はそのしもべである預言者にその隠れた事を示さないでは、何事をもなされぬ。」(アモス 3:7)

多くの人が、神の御心みこころを知らずに、暗闇くらやみの中をさまよっています。天は閉ざされ、人は独力で世の危機に直面しなければならないと信じています。末日聖徒は何と祝福されていることでしょうか。末日聖徒は、神が預言者を通して教会に語られることを知っています。全世界の聖徒が感謝で胸を満たして、「感謝を神に捧げん、予言者の導き」と、賛美歌を歌うのです(『賛美歌』11番)。

預言者とは、地上で神の代表者となるように神から召された人です。預言者が神に代わって話すとき、それは神が語っておられるのと同じです(教義と聖約 1:38 参照)。また預言者はキリストの神性あかしを証し福音を教える、キリストの特別な証人です。真理を教え、神の言葉を解き明かし、不義な者に悔い改めを叫び、わたしたちのために主から啓示と導きを受けます。未来を見通し将来の出来事を予告して、世の人に警告を与えるのです。

預言者として召される人の経歴はいろいろです。若い人もいれば、年老いた人もいます。高い教育を受けた人もいれば、受けなかった人もいます。農夫、弁護士、教師と様々です。古代の預言者は祭服をまとい、杖つえを持ち歩きましたが、現代の預言者は背広を着てかばんを持ち歩きます。では、まことの預言者かどうかはどうして分かるのでしょうか。まことの預言者は必ず神によって選ばれ、正しい神権の権能を通して召されています(信仰箇条 1:5 参照)。

末日聖徒は大管長会と十二使徒を預言者として支持します。しかし、「教会の預言者」という場合は、大管長、すなわち大神権の長を指します。



ジョセフ・スミス



ブリガム・ヤング



ジョン・テーラー



ウィルフォード・ウッドラフ



ロレンゾ・スノー



ジョセフ・F・スミス



ヒーバー・J・グラント



ジョージ・アルバート・スミス



デビッド・O・マッケイ



ジョセフ・フィール
ディング・スミス



ハロルド・B・リー



スペンサー・W・
キンボール



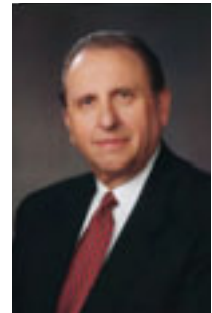
エズラ・タフト・ベンソン



ハワード・W・ハンター



ゴードン・B・ヒンクレイ



トーマス・S・モンソン

長い歳月にわたって、神は人類を導くために預言者を召してこられた

- これまで預言者はどのようにして神の子供たちを導いてきましたか。

アダムの時代から今日^{こんにち}に至るまで預言者がいました。この偉大な預言者たちの経験は、人を奮い立たせ啓発します。旧約聖書の預言者モーセは、おびただしい数の民を奴隷の境遇から救い出し、エジプトから約束の地へと導きました。モーセは旧約聖書の最初の5書を書き、十戒を記録した人です。モルモン書の預言者ニーファイは、キリスト降誕の約600年前に、エルサレムからアメリカ大陸へ旅をしました。モルモン書の多くの重要な記録は、この卓越した指導者であり開拓者であるニーファイによって書かれたのです。バプテスマのヨハネは、主イエス・キリストが来られるのに先立ち、世の人々を備えるために選ばれました。末日の預言者ジョセフ・スミスを通して、主は教会を回復されました。ジョセフ・スミスはまた、若くしてモルモン書を翻訳しました。

- 預言者の生涯や教えから、これまでにどのようなことを学んできましたか。

今日、地上には生ける預言者がいる

- 今日、どうして生ける預言者が必要なのでしょうか。

現在、地上には生ける預言者がいます。この預言者は末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長^{かぎ}です。教会全体のために啓示を受ける権利を有しています。また、「王国の鍵」すなわち神権の儀式の執行を含め、教会全体と地上における神の王国を導く権限を有しています(マタイ16:19参照)。この預言者であり大管長である人以外に、だれも教会員全体に関する神の御心を知らされる者はいません。主はこのように言われました。「この力とこの神権の鍵を授けられる者は、地上において同時期にただ一人しかいない。」(教義と聖約132:7)大管長は、大管長会の顧問と十二使徒定員会会員の助けを受けます。彼らもまた預言者、聖見者、啓示者です。

わたしたちは預言者が告げることを実行しなければなりません。ウィルフォード・ウッドラフ大管長は、預言者は決して教会を誤った道に導くことは許されないと述べました。

「主はわたしであろうと、ほかのだれであろうと、この教会の大管長として立つ者が皆さんを誤った道へ導くのをお許しになることは決してありません。そうすることは、計画の中にはありません。それは神の御心の中にありません。もしわたしがそうしようとしたならば、主はわたしをこの職から退けられることでしょう。」(『歴代大管長の教え——ウィルフォード・ウッドラフ』199)

- 生ける預言者はどのように教会に影響を及ぼしてきましたか。

わたしたちは主の預言者を支持すべきである

- 預言者に従い、預言者を支持するために、どのようなことができるでしょうか。

過去の預言者を信じることは、多くの人にとって容易です。しかし、生ける預言者を信じ、従うことの方がもっと大切です。わたしたちは挙手をして、教会の大管長を預言者、聖見者、啓示者として支持します。

ではどのように預言者を支持することができるでしょうか。まず、預言者のために祈ることです。預言者の負う荷は重く、聖徒の祈りによって強められる必要があります。

第2に預言者の言葉を研究しなければなりません。預言者の大会説教に耳を傾けることができます。また、『エンサイン』(Ensign)や『リアホナ』を購読して、預言者の大会説教やその他のメッセージを読むことができます。

第3に預言者の靈感された教えにあらゆる点で従う必要があります。預言者の靈感された勧告の一部だけに従い、気に入らない教えや守りにくい教えを放棄するようなことがあってはなりません。主は、預言者の靈感された教えに従うように命じておられます。

「彼〔預言者〕がわたしの前を完全に聖く歩み、わたしの言葉と戒めを受けるとき、……彼があなたがたに与えるそれらのすべてを心に留めなければならない。

あなたがたは忍耐と信仰を尽くして、あたかもわたし自身の口から出ているかのように、彼の言葉を受け入れなければならない。」(教義と聖約 21:4 - 5)

主は教会の大管長がわたしたちを誤った道へ導くことを絶対にお許しになりません。

- 最近、大管長はどのようなことを教え、強調しているでしょうか。

預言者に従うことにより得られる大いなる祝福

主は預言者に従う者に次のような約束をしておられます。「地獄の門もあなたがたに打ち勝つことはない……。そして、主なる神はあなたがたの前から闇の力を追い払い、また、あなたがたのためと、神の名の栄光のために天を震わせるであろう。」(教義と聖約 21:6) 預言者の指示を実行するとき、天から祝福が注がれます。

まことの教会が存続するには、「使徒たちや預言者たちという土台」、そして「隅のかしら石」であるイエス・キリスト御自身の上に教会が建てられなければなりません（エペソ2：20）。わたしたちは恵まれて、この不安定な世の中であって、主の御心を明らかにする預言者を与えられています。

- 預言者の勧告に従うことによって、これまでどのような経験をしましたか。

参照聖句

- 民数12：6（神は預言者を通して語られる）
- サムエル上9：9（先見者〔聖見者〕と呼ばれた預言者）
- アモス3：7（神は預言者にその隠れたことを示される）
- モーサヤ8：16-18（聖見者は過去のことも将来のことも知ることができる）
- ルカ1：70（神は預言者を通して語られる）
- 教義と聖約45：10, 15（神は昔も今も人々に語りかけられる）
- 1ニーファイ22：2（御霊^{みたま}によって、様々な事柄が預言者に知らされる）
- 教義と聖約68：3-5（主の僕が聖霊^{しもべ}に感じて語ることは、主の心と思ひ、声となる）
- 教義と聖約107：65-67, 91-92（大管長の義務）
- 教義と聖約43：1-7（預言者のみが教会に関する啓示を受ける権能を持つ）

教師へ——経験^{あかし}を話し証を述べることによって、御霊を招くことができます。このレッスンの最後に、大管長の勧告に従ったときの経験を伝えるとよいでしょう。生ける預言者について証を述べてください。



第 10 章

聖文

こんにち
今日、わたしたちは聖文を手にする事ができる

- 今日これほど容易に聖文を手にする事ができるおかげで、わたしたちはどのような祝福を享受しているでしょうか。

主の僕が^{しもべ}聖霊に感じて語る事、あるいは書く事は聖文となります（教義と聖約 68：4 参照）。創世の初めから、主は預言者に、主の啓示と、主が主の子供たちにどのようにかかわってきたかを記録するように命じてられました。主は次のように言われました。「わたしは、東の地、西の地、北の地、南の地、また海の島々にいるすべての者に、わたしの語る言葉を書き記すように命じるからである。わたしは書き記される数々の書によって、世のあらゆる人を、書き記されていることに従い、彼らの行いに応じて裁く。」（2 ニーファイ 29：11）

末日聖徒イエス・キリスト教会は4つの書物、すなわち聖書、モルモン書、教義と聖約、高価な真珠を聖典として受け入れています。これらは教会の標準聖典と呼ばれています。さらに、生ける預言者が靈感を受けた言葉も聖文として受け入れています。

聖書

聖書は神から人への啓示を含む神聖な文書を集めたものです。アダムの時代からイエス・キリストの使徒が生きていた時代に至るまで、何世紀にもわたって、世界史の様々な時代に生きた多くの預言者により記されました。

聖書は旧約聖書と新約聖書という二つの部分に分けられます。旧約聖書には救い主であり^{あがな}贖い主である御方の降誕を告げるたくさんの預言が記され

教師へ——4つの標準聖典について話し合いを促すために、生徒や家族にそれぞれ1から4までの数字を一つずつ割り当てます。1番の人に、本章の中で聖書について教えている箇所を読むように言います。2番の人にはモルモン書、3番の人には教義と聖約、4番の人には高価な真珠についての箇所を読むように言います。その後、学んだことを分かち合ってもらいます。

ています。新約聖書には、その救い主であり贖い主であるイエス・キリストの生涯と、その時代に主の教会が設立されたことについて述べられています。「わたしたちは、正確に翻訳されているかぎり、『聖書』は神の言葉であると信じる。」(信仰箇条 1:8)

預言者ジョセフ・スミスを通して、主は聖書の幾つかの箇所についてわたしたちの理解を広げてくださっています。主は預言者ジョセフに、書かれた後に失われたり、書き換えられたりした聖書の原文について、真理を回復するように靈感をお与えになりました。こうして靈感により訂正されたものは、聖書のジョセフ・スミス訳と呼ばれています。欽定訳聖書の末日聖徒版(英語)には、ジョセフ・スミス訳の抜粋が 797 - 813 ページおよび多くの脚注に載っています。

モルモン書

モルモン書は、およそ紀元前 2000 年から紀元 400 年にかけてアメリカ大陸に住んでいたある民族の神聖な記録です。イエス・キリストの完全な福音が載っています(教義と聖約 20:9; 42:12; 135:3 参照)。イエス・キリストが復活後間もなく、アメリカ大陸の民のもとを訪れられたことが記されています。

ジョセフ・スミスは神の賜物^{たまもの}と力により、モルモン書を英語に翻訳し、次のように語りました。「[モルモン書]はこの世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる。」(モルモン書, 序文)

エズラ・タフト・ベンソン大管長の解説で、モルモン書がどのような理由でわたしたちの宗教のかなめ石なのか、理解できるでしょう。ベンソン大管長は次のように語っています。

「モルモン書は 3 つの点でわたしたちの宗教のかなめ石です。それはキリストに対する証^{あかし}のかなめ石であり、わたしたちの教義のかなめ石であり、証のかなめ石です。

モルモン書はイエス・キリストに対するわたしたちの証のかなめ石であり、キリスト御自身はわたしたちが行うすべてのことの隅石となる御方です。モルモン書は力強く、しかも明快にイエスが実在の御方であることを証しています。……

[モルモン書]は救いの教義に関するわたしたちの理解を広げてくれます。モルモン書はこの時代のために書かれたもので、……主の再臨に備える方法が書かれています。……

モルモン書は真理を教え、イエス・キリストについて証をしています。……しかし、それ以上のものがあるのです。モルモン書には力があって、真剣に読み始めるやいなやその力は読む者の人生に流れ込み、誘惑に打ち勝つ力となります。欺きを避ける力となり、狭くて細い道にとどまる力となります。聖文は『命の言葉』と呼ばれていますが、モルモン書ほどその言葉にふさわしいものはありません。……『末日聖徒はすべて、生涯この書物を学び続けるべきなのです。』(「モルモン経——私たちの宗教のかなめ石」『聖徒の道』1987年1月号, 5-7 参照。同説教中でマリオン・G・ロムニー「モルモン経」『聖徒の道』1980年9月号, 102を引用)

教義と聖約

教義と聖約は、現代の啓示を集めた書物です。教義と聖約第1章で、この書物が世に出たのは、地上に住む人々を主の再臨に備えさせるためである、と主は啓示されています。

「それゆえ、主の声は、聞こうとするすべての人が聞けるように地の果てにまで及ぶ。

あなたがたは備えなさい。来るべきことのために備えなさい。主は近いからである。」(教義と聖約1:11-12)

この書物には、終わりの時に回復されたイエス・キリスト教会に関する啓示が収められています。数章にわたり教会の組織が説明され、神権の職とその職務が定義されています。ほかにも、第76章や88章のように何百年もこの世から失われていた栄えある真理の記された章や、第29章や93章のように聖書の教えを説いた章、さらに第133章のように将来の出来事を預言した章などもあります。神はこの書物に収められた啓示を研究するように命じておられます。「これらの戒めを調べなさい。これらは真実であり、確かであって、これらの中にある預言と約束はすべて成就するからである。」(教義と聖約1:37)

高価な真珠

高価な真珠はモーセ書、アブラハム書ならびに、ジョセフ・スミスが靈感を受けて記した幾つかの書から成っています。モーセ書には、預言者ジョセフ・スミスに啓示された、モーセの示現と記録が含まれています。聖書から失われた教義と教えを明らかにし、地球の創造に関してさらに詳しい知識を与えてくれます。

アブラハム書はエジプトの地下墓地で発見されたパピルスの巻き物から預言者ジョセフ・スミスが翻訳したものです。創造、福音、神の性質および神権に関する重要な事柄が記されています。

ジョセフ・スミスの書いたものは、ジョセフ・スミスの靈感訳聖書の一部、『教会歴史』(*History of the Church*)からの抜粋、信仰箇条が収められています。

- 靈感を与えてくれた聖典の中の物語にどのようなものがありますか。助けとなってきた聖典の中の教えに、どのようなものがありますか。

生ける預言者の言葉

この4つの聖典に加えて、生ける預言者の靈感された言葉も聖文と見なされます。預言者の言葉は、大会や『リアホナ』、『エンサイン』(*Ensign*)、地元の新権指導者への指示を通して届きます。「わたしたちは、神がこれまでに啓示されたすべてのこと、神が今啓示されるすべてのことを信じる。またわたしたちは、神がこの後も、神の王国に関する多くの偉大で重要なことを啓示されると信じる。」(信仰箇条1:9)

- 生ける預言者の言葉はどのようにして得ることができるのでしょうか。

聖文の研究

- 聖文を研究するとき、どのような祝福が得られるのでしょうか。

わたしたちはそれぞれ毎日聖文を学び、真理を子供に教えなければなりません。また、標準聖典とともに読み、そこに記されている真理のゆえに子供が聖文を愛し、用いるようにすべきです。

この世の悪を避けたいと思うならば、聖文から学ぶ真理と義によって心を養わなければなりません。一緒に聖文を読んで深く思い巡らすとき、わたしたちは神に近づき、また互いに近づくようになります。

聖文を読んで深く思い巡らし、理解できるように神に祈り求めるとき、聖霊はそれが真実であることを証してくださるでしょう。わたしたち一人一人は自分で真実であることを知り、惑わされることがないでしょう(ジョセフ・スミス-マタイ1:37参照)。ニーファイが述べた次の言葉に共感できるのです。「わたしは主に関することに喜びを感じる。わたしの心は、これまでに見聞きしたことを絶えず深く考えている。」(2ニーファイ4:16)

- 毎日聖文を読む決意を貫くにはどうすればよいのでしょうか。毎日聖文を研究する時間と場所を決めておくことについて考えてみてください。

参照聖句

- 1 ニーファイ 14 : 20 - 26 (記録を書くように命じられた預言者)
- 1 ニーファイ 19 : 1 - 3, 6 - 7 ; アルマ 37 : 1 - 8 (聖文には大いに価値がある)
- 2 ニーファイ 33 : 10 (聖文はキリストを証する)
- アルマ 29 : 8 (主は聖文を通してすべての国民に語られる)
- アルマ 31 : 5 ; ヒラマン 3 : 29 - 30 (神の言葉には力がある)
- ヒラマン 15 : 7 - 8 (聖文は確固とした信仰に導いてくれる)
- 2 テモテ 3 : 16 - 17 ; 1 ニーファイ 19 : 21 - 24 (聖文が与えられる理由と方法)
- 2 ペテロ 1 : 20 ; アルマ 13 : 20 ; 教義と聖約 10 : 62 (聖文は教義の真の要点を明るみに出す)
- 教義と聖約 128 : 18 ; 信仰箇条 1 : 9 ; 1 ニーファイ 14 : 25 - 26 (将来世に出る聖文)
- 2 ニーファイ 29 : 3 - 10 (ユダヤ人と異邦人に与えられた聖文)



第 11 章

キリストの生涯

キリストの生涯は、降誕のはるか昔から預言されていた

この世に生まれるすべての人は、イエス・キリストが救い主になるという天上で交わされた主の約束の成就に依存しています。キリストがおられなければ、救いの計画は果たされません。イエスの使命が不可欠であったために、アダムからキリストの時代に至るすべての預言者が主の降誕を証しました（使徒 10：43 参照）。キリストから後の預言者も皆、キリストがこの世に^{あかし}来られたことを証してきました。すべての人は救い主の生涯について学び、一生の間忠実に主に従っていく必要があります。

アダムは、救い主の名はイエス・キリストであることを知りました（モーセ 6：51 - 52 参照）。エノクは、イエスが十字架上で死に、よみがえられるのを見ました（モーセ 7：55 - 56 参照）。ノアとモーセもイエス・キリストについて証しています（モーセ 1：11；8：23 - 24 参照）。救い主が地上に降誕される約 800 年前に、イザヤは主の生涯を予見しました。全人類の罪の代価を支払うために苦しまれる救い主の嘆きと悲しみを見て、イザヤは次のように声を上げています。

「彼は^{あなど}侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。……

まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。……

……彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。……

彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、……口を開かなかった。」（イザヤ 53：3 - 5, 7）

教師へ——本章には多くの内容が含まれており、恐らくすべてをレッスンで採り上げることはできないでしょう。レッスンに備えて本章を研究するとき、御^{みたま}霊の導きを求め、教える相手にとって最も役立つと思われる箇所を判断してください。

ニーファイも救い主が将来降誕し、使命を果たされるのを示現で見ました。ニーファイが美しいおとめを見たとき、天使は次のように説明しました。「見よ、あなたが見ているおとめは、肉に関して神の御子の母である。」(1 ニーファイ 11:18) 次にニーファイは、おとめが腕おきなごに幼子を抱いているのを見ました。すると天使は告げて言いました。「神の小羊、まことに永遠の父なる神の御子を見なさい。」(1 ニーファイ 11:21)

イエスが降誕される約 124 年前に、ニーファイ人の預言者であるベニヤミン王も、救い主の生涯を予見しています。

「見よ、現在世を統治しておられ、永遠から永遠にわたってまします全能の主が、力をもって天から人の子らの中に降くだって来て、土の幕屋に宿り、人々の中に出て行って大きな奇跡を行われる時が来る。しかもそれは遠い先のことではない。この御方はそのときに、病人を癒いやし、死者を生き返らせ、足の不自由な者を歩けるようにし、目の見えない者を見えるようにし、耳の聞こえない者を聞こえるようにし、すべての病気を癒される。

またこの御方は、悪霊、すなわち人の子らの心の中にとどまる悪い霊どもを追い出される。

見よ、この御方は数々の試練に耐え、肉体の苦痛や飢え、渇き、疲労に耐えられるが、それは、人にとっては死ぬ以外に耐えようのないものである。見よ、御自分の民の悪事と忌まわしい行いのためにこの御方が受けられる苦しみは非常に激しく、あらゆる毛穴から血が流れ出るほどだからである。

そしてこの御方は、イエス・キリスト、神の御子、天地の父、時の初めからの万物の創造主と呼ばれ、母はマリヤと呼ばれる。」(モーサヤ 3:5 - 8)

- イエス・キリストについて古代からどのような預言があったのでしょうか。

主は御父の独り子であられた

- イエス・キリストは御父から何を受け継がれたのでしょうか。母マリヤから何を受け継がれたのでしょうか。

救い主の降誕と生涯の物語は、新約聖書のマタイ、マルコ、ルカ、ヨハネによる各福音書に記されています。その記録から、イエスはマリヤという名のおとめから誕生されたことが分かります。マリヤはヨセフと婚約していたときに主の使いの訪れを受け、神の御子の母親になるであろうと告げられました。マリヤは、どうしてそんなことが起こるのでしょうかと尋ねました(ルカ 1:34 参照)。すると天使は答えました。「聖霊うまがあなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の

子と、となえられるでしょう。」(ルカ 1:35) こうして、父なる神が文字どおりイエス・キリストの父になられたのです。

イエスは死すべき人間の母と、不死不滅の御父との間に誕生された、この地上でただ一人の御方です。イエスが「独り子」と呼ばれるのはこのためです。主は御父から神聖な力を受け継がれました。母からは死すべき状態を受け継がれ、飢えも渇きも、疲労も苦痛も、そして死も免れないこととなりました。イエス御自身が良しとされなにかぎり、だれも救い主の命を取ることはできません。イエスは御自分の命を捨てる力と、死後再び肉体を得る力を備えておられたのです(ヨハネ 10:17-18 参照)。

イエスは完全な生涯を送られた

- 救い主の生涯はわたしたちにとってどのような意味があるのでしょうか。

幼いころから、イエスは天の御父に命じられたすべてのことに従われました。マリヤとヨセフの導きを受けて、ほかの子供たちとまったく同じように成長されました。イエスは真理を愛し、真理に従われました。ルカは次のように述べています。「幼な子は、ますます成長して強くなり、知恵に満ち、そして神の恵みがある上にあつた。」(ルカ 2:40。教義と聖約 93:12-14 も参照)

イエスは 12 歳のときすでに、御自分が御父の御心^{みこころ}を行うためにこの世に送られてきたことを理解するまでに成長しておられました。イエスが両親とともにエルサレムへ行かれたときのことです。家に帰る途中、両親はイエスが一行の中にいないことに気づきました。二人はイエスを捜すためにエルサレムへ引き返しました。「そして三日の後に、イエスが神殿で教師たちの真ん中に座っておられるのを見つけた。教師たちはイエスの話を聞いたり、またイエスに質問したりしていた。」(ジョセフ・スミス訳ルカ 2:46)「聞く人々はみな、イエスの賢さやその答^{こたえ}に驚嘆していた。」(ルカ 2:47)

ヨセフとマリヤはイエスを見つけて安心しましたが、「これを見て驚き、そして母が彼に言った、『どうしてこんな事をしてくれたのです。ごらんなさい、おとう様もわたしも心配して、あなたを捜していたのです。』」イエスはこう答えられました。「わたしが自分の〔天の〕父の家にいるはずのことを、ご存じなかったのですか。」(ルカ 2:48-49)

イエスは御自分の使命^{まっし}を全うするために、天の御父の御心を行わなければなりません。「わたしは自分からは何もせず、」とイエスは言われました。「ただ父が教えて下さったまを話し……いつも神のみこころにかなうことをしている……。」(ヨハネ 8:28-29)

イエスは 30 歳になると、ヨルダン川でバプテスマを受けるために、バプテスマのヨハネのもとにおいでになりました。ヨハネはイエスにバプテスマを施すのをためらいました。イエスが自分より偉大な御方であることを知っていたからです。するとイエスは、「すべての正しいことを成就する」ためにバプテスマを施すよう、ヨハネに言われました。ヨハネはイエスの全身を水に沈めてバプテスマを施しました。イエスがバプテスマを受けられると、天から御父の声が聞こえてきました。「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。」聖霊が鳩はとのしるしをもって天から降くだって来られました。(マタイ 3: 13 - 17 参照)

イエスはバプテスマをお受けになると間もなく、神とともにあるために、40 日 40 夜断食されました。その後、サタンがイエスを試みようとしてやって来ました。イエスはサタンの誘惑に断固として抵抗し、サタンに退くよう命じられました。(マタイ 4: 1 - 11 参照。ジョセフ・スミス訳マタイ 4:1, 5 - 6, 8 - 9, 11 も参照) イエス・キリストは罪のない状態にとどまり、地上を歩んだ唯一の完全な者となりました(ヘブル 4: 15; 1 ペテロ 2: 21 - 22 参照)。

- イエスの生涯のどの話が、あなたにとって特に意義深いでしょうか。

イエスはどのようにして互いに愛し仕え合うべきかを教えられた

- わたしたちがどのように愛し合い、仕え合うべきかを、救い主はどのような方法で教えてくださったでしょうか。

断食を終え、サタンに立ち向かった後に、イエスは公に教を説き始められました。イエスがこの世に来られた目的は、人類のために命を捨てることのほかに、どのように生きればよいかを教えるためでもありました。イエスは大切な戒めが二つあることを教えられました。すなわち、第 1 に、心と思いと力を尽くして神を愛することであり、第 2 に、自分自身を愛するようにほかの人を愛することです(マタイ 22: 36 - 39 参照)。イエスの生涯は、この二つの戒めにどのように従うかを示す模範です。神を愛するならば、わたしたちはイエスと同じように神を信じて従うでしょう。人を愛するならば、物心両面で必要を満たせるように援助するでしょう。

イエスは生涯を人々に仕えることにささげられました。病人を癒し、盲人の目を開き、耳や足の不自由な人を治されました。あるとき、イエスが病人を癒しておられたところ夕方になり、人々は空腹になりました。イエスは群衆をそのまま残らせ、5 つのパンと 2 匹の魚を祝福し、奇跡的に 5,000 人を満腹にされたのです(マタイ 14: 14 - 21 参照)。飢えた人、凍えた人、裸でいる人、孤独な人を見たら、いつでもできる限りのことをして助けるべきである、とイエスは教えられました。わたしたちは人を助けるとき、主に仕えていることにな

るのです(マタイ 25:35 - 46 参照)。

イエスは心を尽くして人々を愛されました。心から同情して涙を流されることもしばしばでした。幼子や老いた人、御自身を信じる謙遜で純朴な人を愛されました。罪人を愛し、悔い改めてバプテスマを受けるように深い思いやりをもって教え、次のように言われました。「わたしは道であり、真理であり、命である。」(ヨハネ 14:6)

イエスは、御自分に対して罪を犯し、悔い改めなかった人をも愛されました。十字架にかけられ、生涯の最期を迎えられたときには、御自分を十字架につけた兵士たちのために神に祈り、こう嘆願されました。「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ 23:34) イエスは次のように教えられました。「わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。」(ヨハネ 15:12)

- 主を愛していることを主に示す方法として、どのようなことができるでしょうか。

イエスは唯一まことの教会を組織された

- なぜ救い主は御自分の教会を組織し、使徒を聖任されたのでしょうか。

イエスは世界中の人が福音を学ぶことを望み、御自身を証する 12 人の使徒をお選びになりました。使徒は主の教会における最初の指導者です。イエスの名により働く権能を受け、イエスがなされたのを見たその同じ業を行う権能を受けました。使徒から権能を受けた人々もイエスの名により教え、バプテスマを施し、その他の儀式を執行することができました。イエスの死後も、使徒は主の業を引き続き行いましたが、やがて世の人はひどく邪悪になり、使徒たちを殺してしまいました。

イエスはわたしたちの罪を贖い、死から救ってくださった

- 本項を研究するに当たって、時間を取って、贖罪における様々な出来事について深く考えてください。

教師へ——深く考えることによって御霊を招くことができます。生徒や家族に、救い主に対する自分の気持ちについて考えながら、本章の最後の 2 項を静かに読んでもらうとよいでしょう。その後、思いをクラスの人たちに話してもよいという人に発表してもらってください。

地上での務めが終わりに差しかかったとき、イエスは人類のあらゆる罪のために究極の犠牲をささげる準備をされました。御自分が神の御子であることを証したために、死刑の宣告を受けておられたのです。

十字架につけられる前の夜、イエスはゲツセマネと呼ばれた園へ行かれました。間もなく、イエスは深い悲しみに襲われ、祈りながら涙を流されました。末日の使徒オーソン・F・ホイットニーは、このときの救い主の苦しみを示現で見ることを許されました。救い主が泣かれるのを見たホイットニー長老は、次のように語っています。「わたしはその光景に感動し、純粋な同情の気持ちから自分も泣いた。心はすっかり救い主に注がれ、わたしは真心から救い主に愛を抱き、ほかには何も要らない、ただ救い主のそばにいたいと切望した。」(“The Divinity of Jesus Christ,” *Improvement Era*, 1926 年 1 月号, 224 - 225. *Improvement Era, Ensign*, 2003 年 12 月号, 10 も参照) イエスは、「少し進んで行き、うつぶしになり、祈って言われた、『わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。』」(マタイ 26 : 39)

現代の啓示の中で、主はその苦しみがいかに大きなものであったかを述べておられます。その苦しみは、主が「苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。」(教義と聖約 19 : 18) 主はわたしたちの苦痛と病、弱さ、罪を身に受け、「肉において」苦しみました(アルマ 7 : 10 - 13 参照)。死すべき人間には、この重荷がいかに大きなものであったかとうてい理解することはできません。だれ一人としてこのような肉体と霊の激しい苦しみに耐えることはできなかったでしょう。「[イエス・キリストは] 万物の下に身を落とし、それによって……万物の中にあり、万物を貫いてあり、真理の光となった。」(教義と聖約 88 : 6)

しかし、イエスの苦しみはそれだけでは終わりませんでした。翌日イエスは、打たれ、あざけられ、つばを吐きかけられました。自身の十字架を背負って運ばされ、十字架にかけられ釘を打ち込まれました。イエスは人が考え出した最も残酷な方法の一つで、激しい苦しみに遭われたのです。十字架上で苦しまれた後、激しい苦痛の中でイエスは叫ばれました。「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」(マルコ 15 : 34) イエスが最も堪え難い苦痛の中におられたとき、御父はイエスのみもとから身を引かれました。イエスは全人類の罪に対する罰に苦しむのを終えることができ、それにより罪と死の力に打ち勝ち、完全な勝利を得られたのです(ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』641 - 642 参照)。

救い主は御自分の犠牲が御父に受け入れられたことを知ると、「すべてが

終わった」(ヨハネ 19:30), 「父よ, わたしの霊をみ手にゆだねます」(ルカ 23:46) と声高く叫んで言われました。イエスは首を垂れ, 自ら息を引き取られました。救い主が亡くなれると, 激しい地震が起こって地が揺れ動きました。

何人かの友人が救い主の遺体を墓まで運び, 亡骸^{なきがら}はそこに 3 日目まで横たえられていました。その間イエスの霊は出て行って, 福音を聞く必要のあるほかの霊たちへの伝道活動を組織されました (1 ペテロ 3:18 - 20; 教義と聖約 138 章参照)。3 日目の日曜日に, イエスの霊は体に戻り, 再び肉体をまともされました。主は死を克服した最初の人となられ, 「死人のうちからイエスがよみがえる」という預言は成就したのです (ヨハネ 20:9)。

救い主は復活後間もなくニーファイ人に御姿^{みすがた}を現し, アメリカ大陸で教会を設立されました。主は人々を教え, 祝福されました。この感動的な出来事は, 第三ニーファイの第 11 章から 28 章に記されています。

主の犠牲は, 御父とわたしたちに対する主の愛を表していた

イエスは次のように教えられました。「人がその友のために自分の命を捨てること, これよりも大きな愛はない。あなたがたにわたしが命じることを行うならば, あなたがたはわたしの友である。」(ヨハネ 15:13 - 14) イエスは自ら進んで, しかも謙遜^{けんそん}に, ゲツセマネでの悲しみと十字架上の苦しみを堪え忍べられました。わたしたちが救いの計画のすべての祝福を受けられるようにするためです。この祝福を受けるためには, 主のみもとに来て, 自分の罪を悔い改め, 心を尽くして主を愛さなければなりません。主はこう言われました。

「わたしがあなたがたに告げた福音とは, 次のとおりである。すなわち, 父がわたしを遣わされたので, わたしは父の御心を行うために世に来た。

父は, わたしが十字架に上げられるようにと, わたしを遣わされた。十字架に上げられた後で, わたしはすべての人をわたしのもとに引き寄せた。……彼らが各々の行いに応じて裁かれるようにするのである。

……わたしがするのを見たその行いを, あなたがたもしなさい。

……したがって, あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに, あなたがたに言う。わたしのようであらなければならない。」(3 ニーファイ 27:13 - 15, 21, 27. 強調付加)

- 救い主があなたのために犠牲を払われたことを考えるとき, どのような気持ちになりますか。

参照聖句とその他の資料

- 2 ニーファイ 25 : 12 (肉における御父の独り子)
- モーセ 6 : 57 (独り子と呼ばれるイエス・キリスト)
- マタイ, マルコ, ルカ, ヨハネ (イエス・キリストの生涯と教え)
- マタイ 10 : 1 - 8 ; ルカ 9 : 1 - 2 (聖任され, 力と権能を持つ使徒)
- マタイ 26 - 28 章 ; マルコ 14 - 16 章 ; ルカ 22 - 24 章 ; ヨハネ 18 - 20 章 (ゲツセマネの園におけるイエス ; 裏切り, 十字架の刑, 復活)
- 「生けるキリスト —— 使徒たちの証」『リアホナ』2000 年 4 月号, 2 - 3

第 12 章

しよく ざい 贖 罪

贖罪はわたしたちの救いに不可欠である

- 贖罪がわたしたちの救いに不可欠なのはなぜでしょうか。

イエス・キリストは「世のために十字架につけられ、世の罪を負い、世を聖め、それをすべての不義から清めるため世に来た。……すべての者が、彼によって救われるためである。」(教義と聖約 76 : 41 - 42) わたしたちの罪を償い、死を克服するためにイエスが払われた大いなる犠牲は、「贖罪」と呼ばれています。贖罪は人類の歴史が始まって以来、最も重要な出来事です。「贖罪が行われることは必要である。というのは、永遠の神の偉大な計画によって贖罪が行われなければならない、そうでなければ、全人類が滅びるのは避けられないからである。まことに、すべての人は……墮落し、迷った状態にあるので、贖罪によらなければ必ず滅びる。」(アルマ 34 : 9)

アダムの墮落はこの世に 2 種類の死をもたらしました。肉体の死と霊の死です。肉体の死とは肉体と霊が分離することであり、霊の死とは神の前から絶たれることです。この 2 種類の死がイエスの贖罪によって克服されていなかったならば、二つの結果が生じていたでしょう。すなわち、わたしたちの体と霊が永遠に分離したままであること、そして、二度と天の御父とともに住めなくなることです (2 ニーファイ 9 : 7 - 9 参照)。

しかし、賢明な天の御父はわたしたちを肉体の死と霊の死から救うために、憐れみ深いすばらしい計画を備えてくださいました。救い主をこの世に送り、代価を支払ってわたしたちを罪と死から解き放つ (贖う) ように計画されたのです。罪や肉体の弱さがあるために、わたしたちは自ら代価を支払って自由になることはできません (アルマ 34 : 10 - 12 参照)。救い主となる御方は罪がなく、死に打ち勝つ力を備えていなければなりません。

教師へ——簡単な表や絵を用いることによって、生徒や家族が原則と教義を理解するのを助けることができます。次のように行うとよいでしょう。2 列の表を作ってそれぞれ「墮落の結果」「贖罪の祝福」と書き、本章の内容を基に記入してください。



イエス・キリストは人類の罪を贖える唯一の御方であった

- イエス・キリストがわたしたちの罪を贖える唯一の御方であったのはなぜでしょうか。

幾つかの理由によって、イエス・キリストは救い主となり得る唯一の御方でした。一つの理由は、天の御父がイエスを救い主となるように選ばれたことです。イエスは神の独り子であり、したがって死を克服する力を備えておられました。イエスは次のように説明しておられます。「命を捨てるのは、それを再び得るためである。だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが、自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。」(ヨハネ 10 : 17 - 18)

イエスが救い主となる資格を備えておられるもう一つの理由は、この地上で生活した人の中で、罪を犯さなかった唯一の御方だからです。これにより、イエスは他の人々の罪を償うのにふさわしい犠牲となられたのです。

キリストはわたしたちの罪を贖うために苦しみ、亡くなられた

- 本項を読むに当たって、自分がゲツセマネの園や十字架を目の前にして、イエス・キリストの苦しみを目撃していると想像してください。

救い主は、ゲツセマネの園で苦しみ、十字架上で命をささげることによってわたしたちの罪を贖われました。救い主が人類のあらゆる罪のためにどれほど苦しまれたかを完全に理解することはできません。ゲツセマネの園において、わたしたちの罪があまりにも重かったために、イエスはあらゆる毛穴から血を流すほどの激しい苦痛を味わわれました(教義と聖約 19 : 18 - 19 参照)。その後、十字架にかけられてからも、イエスはこの世で最も残酷と言える方法で死の苦しみを受けられたのです。

わたしたちのためにこれほどの霊と肉体の激しい苦痛に耐えられたイエスは、どれほどわたしたちを愛しておられることでしょうか。また、ほかの子供たちに代わって苦しみと死を引き受けるよう御自分の独り子を遣わされた天の御父の愛も、何と深いことでしょうか。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。」(ヨハネ 3 : 16)

贖罪と復活は全人類に復活をもたらす

十字架におかかりになってから3日目に、キリストは再び御自分の体をまとい、復活した最初の人になられました。友人たちがイエスを捜しに行くと、天

使たちが墓の番をしており、次のように言いました。「もうここにはおられない。かねて言われたとおりに、よみがえられたのである。」(マタイ 28:6) イエスの霊は再び肉体に戻り、二度と分離しない状態となっていました。

キリストはこのようにして肉体の死を克服されました。キリストの贖罪により、この世に生を受けるすべての人は復活します(1コリント 15:21-22 参照)。イエスが復活されたのとちょうど同じように、わたしたちの霊は肉体と結合し、「すべての人がもう死ぬことはありません。……決して分離しない」のです(アルマ 11:45)。この状態を「不死不滅」と呼びます。この復活は、「老いた人にも若い人にも、束縛された人にも自由な人にも、男にも女にも、悪人にも義人にも、」(アルマ 11:44) かつてこの世に来たすべての人に及びます。

- 復活について知識があることで、これまでにどのような助けを得てきましたか。

キリストを信じる人は贖罪により罪から救われる

- 本項にあるたとえが贖罪を理解するうえでどのように役立つか考えてください。たとえに登場する人々は、わたしたちの人生においてはだれに当たるでしょうか。

救い主の贖罪により、わたしたちは霊の死を克服することができるようになりました。あらゆる人が復活します。しかし、贖罪を受け入れる人だけが霊の死から救われるのです(信仰箇条 1:3 参照)。

わたしたちはキリストを信じる信仰を持つことによって、キリストの贖いを受け入れます。この信仰によって、罪を悔い改め、バプテスマを受け、聖霊の賜物たまものを授かり、主の戒めに従います。イエス・キリストの忠実な弟子となります。赦され、罪から清められ、天の御父のみもとに帰り永遠に御父と一緒に生活する備えをします。

救い主は次のように語っておられます。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が……〔わたしが苦しんだように〕苦しみを受けることのないようにした。」(教義と聖約 19:16-17) キリス

教師へ——物を使ってレッスンすることによって、生徒や家族が原則と教義を理解するのを助けることができます。死と復活を説明するために、次のようなものを使ったレッスンをするとよいでしょう。手袋に手を入れ、手袋の中の手は肉体の中の霊にたとえることができると説明します。手袋を取り、これは肉体の死に似ていると説明します。すなわち、霊(手)と肉体(手袋)が離れた状態です。次に再び手袋に手を入れ、これは復活、すなわち霊と肉体が再び結合した状態に似ていると説明します。

トはわたしたちの罪を贖うという役割を果たされました。贖罪の効力が生活の隅々にまで及ぶようにするために、わたしたちはキリストに従い、罪を悔い改める努力をしなければなりません。

十二使徒評議会のボイド・K・パッカー会長は次のような説明をして、もしわたしたちが自分の責任を果たすならば、キリストの贖罪によってどのように罪から救われるかを教えています。

「皆さんに一つの物語、つまりたとえを話しましょう。

あるものが欲しくてたまらない人がいました。人生でそれに勝る大切なものはなかったのでしょうか。彼は望みをかなえるため多額の借金をしました。

そのような多額の借金はほしくないように、特に貸し主には注意するように警告されていました。しかし、自分の思いどおりにして、欲しいものをすぐ手に入れることの方がもっと重要だったのでしょうか。借金はいずれ返済できると思い込んでいました。

それで彼は契約書に署名しました。借金はそのうちに返せると思っていたので、さして気にもかけませんでした。支払期限は遠い先のことのように思われたからです。今欲しいものを手に入れた、そのことが大切に思われたのです。

貸し主のことがいつも心の片隅にあり、時々借金の一部を返済しました。けれども、決済日のことはまったく考えにありませんでした。

しかしそうしている間にその日が来て、支払期限が切れしました。返済はまだ全部は終わっていません。貸し主が来て、全額支払うように要求しました。

そのとき初めて気づいたのは、貸し主には自分の持ち物を残らず取り上げる権限があるだけでなく、自分を投獄する権限もあるということでした。

『お返しすることはできません。わたしには返済する力がないのです』と彼は告白しました。

『それでは』と、貸し主は言いました。『契約を履行してあなたの財産をもらいます。あなたは獄に入るのです。あなたはこの契約に同意し、自分で決めたのです。契約書に署名したのですから、今こそ履行しなければなりません。』

『支払期限を延ばすか、負債を免除していただくわけにはまいりませんか』と、借り主は請い求めました。『何とかして、財産をそのまま持てるように、そして獄に入らなくてもよいようにお取り計らいください。きっとあなたも、世の中には憐れみが必要だと認めておられるでしょう。どうか憐れみをおかけください。』

貸し主はこう答えました。『憐れみというものは常に、あまりにも一方的で、満足するのはあなただけです。もしあなたに憐れみを施せば、わたしは返済されないことになります。わたしが要求しているのは正義です。あなたは正義を信じますか。』

『契約書に署名したときは信じていました。あのとき契約書はわたしの味方でした。守ってくれると思ったからです。あのとき憐れみを必要としなかったし、永久に必要なとも思っていました。わたしは考えたのです。正義はわたしたち双方を等しく満足させてくれるのだと。』

『正義が要求するのは、借金を返済するか罰を受けるかです』と貸し主は答えました。『これが律法というものです。あなたは律法に同意したのですから、従わなければなりません。憐れみが正義の働きを奪うことはできないのです。』

こうして一方は正義を要求し、一方は憐れみを請いました。どちらも相手が折れなければ主張を通すことはできません。

『もし負債を免除してくださらないならば、憐れみはありません』と借り主は嘆願しました。

貸し主は答えました。『もしそうしたならば、正義はなくなるでしょう。』

二つの律法とも満足できないように思われました。どちらも一見相反するような永遠の原則です。正義を貫き、憐れみも施す道はないのでしょうか。

否、道はあります。正義の律法を完全に満たし、また憐れみをも完全に及ぼすことができません。しかし、この方法には第三者が必要です。そして、今度はそのようになったのです。

借り主には一人の友人がいて、助けにやって来ました。友人は借り主をよく知っており、先の見えない人間であることが分かっていました。こんな苦境に陥ってしまうとは愚かなことだと思いました。しかしそうは思っても、やはり借り主を愛していたので、助けてやりたいと思いました。友人は二人の間に入ると、貸し主に向かって次のような申し出をしました。

『友が財産を失わず獄にも入らずに済むよう、契約を免除してくださるのでしたら、負債はわたしが肩代わりいたします。』

貸し主が申し出をあれこれ考えていると、仲介者はさらに言いました。『あなたは正義を要求されました。友は支払うことができませんが、わたしがお支払いします。あなたは公正な扱いを受けるわけですから、これ以上請求することはできません。これなら異存はないでしょう。』

貸し主は同意しました。

それから、仲介者は借り主に向かって言いました。『わたしが負債を肩代わりしたら、わたしを貸し主として認めますか。』

『はい、もちろんです。』借り主は泣いて答えました。『あなたはわたしを獄から救い、憐れみを施してくださいました。』

『それでは』と恩人は言いました。『わたしに負債を支払いなさい。条件はわたしが決めます。易しくはありませんが、実行可能な条件です。方法はわたしが用意します。あなたは獄に入る必要はありません。』

こうして貸し主は全額支払いを受けました。公正な扱いを受け、契約も破られずに済んだのです。

一方、借り主は憐れみを受けました。正義の律法も憐れみの律法もともに成就しました。一人の仲介者がいればこそ、正義はその一切の要求を満たし、憐れみも十分に満たされたのです。』（『聖徒の道』1977年10月号, 487参照）

罪とは霊的な負債のことです。もし救い主であり仲保者であるイエス・キリストがおられなければ、わたしたちは霊の死を受けることにより、罪の代償をすべて支払うことになるでしょう。キリストのおかげで、悔い改めて戒めを守るという条件を満たすならば、天の御父のみもとに帰り、一緒に住むことができるのです。

罪を癒す道^{いや}をキリストが備えてくださったのは、すばらしいことです。イエスは次のように言われました。

「見よ、わたしは、……世の人々を罪から救うために世に来た。

それゆえ、悔い改めて^{おきなご}幼子のようにわたしのもとに来る者を、わたしはだれでも受け入れよう。神の王国はこのような者の国である。見よ、このような者のために、わたしは自分の命を捨て、再びそれを得た。それゆえ、地の果てに至る人々よ、悔い改め、わたしのもとに来て救われなさい。」（3 ニーファイ 9：21 - 22）

- 贖罪という祝福に感謝を示す方法について深く考えてください。

参照聖句

- アルマ 34：9 - 16（贖罪の必要と神の犠牲）
- 2 ニーファイ 9：7 - 12（贖罪は、肉体的・霊的な死からわたしたちを救ってくれる）

第12章

- ローマ 5:12 - 17 (一人の人により死がもたらされ, 一人の人により命がもたらされた)
- ヒラマン 14:15 - 18 (イエスの死の目的)
- 信仰箇条 1:3 (全人類の救い)
- 1 ペテロ 1:18 - 20 (予任されていたイエス)
- マタイ 16:21 (必要なイエスの犠牲)
- ルカ 22:39 - 46 (イエスはゲツセマネの園で苦しまれた)
- 1 ヨハネ 1:7 (人を罪から清められるイエス)
- 2 ニーファイ 9:21 - 22 (全人類のために苦しまれた救い主)
- モーサヤ 16:6 - 8 (イエスによってのみ得られる復活)
- アルマ 11:40 - 45; モルモン 9:12 - 14 (万人の復活)
- イザヤ 1:18 (雪のように白くなる罪)
- 1 コリント 15:40 - 44; アルマ 40:23 (復活の説明)

第 13 章

神 権

神権とは何でしょうか

神権とは神の力であり、神の権能です。神権の力により神は天地を創造し治めておられます。宇宙は神権の力で完全な秩序に保たれています。この力を通じて、神はその業と栄光を完成されます。すなわち、「人の不死不滅と永遠の命をもたらす」のです（モーセ 1：39）。

天の御父は、ふさわしい男性教会員に神権の力をお授けになりました。この神権によって、人類家族の救いのために神の名によって行動することが可能となります。さらに、この力によって、福音を宣べ伝え、救いの儀式を執り行い、地上における神の王国を統治する権能を授かるのです。

- 神がふさわしい男性や少年に御自分の神権を持つことを認めておられることの意義について考えてください。

地上にはなぜ神権が必要なのでしょう

バプテスマ、確認、^{せいさん}聖餐の執行、神殿結婚など、福音の神聖な儀式を執り行うときには、神の名により行う神権の権能が必要です。どんなに誠実であっても神権を持たなければ主はその人が行った儀式を承認されません（マタイ 7：21 - 23；信仰箇条 1：5 参照）。これらの重要な儀式は、神権を有する男性が地上で執行しなければなりません。

末日聖徒イエス・キリスト教会で管理し、また世界の至る所で教会の業を

教師へ——本章は5つの項で構成されており、各項の見出しがどれも神権についての質問になっています。この質問を利用しながらレッスンを進めることができます。クラスの状況が小グループの話し合いに適していれば次のように行うとよいでしょう。生徒を2-4人のグループに分け、それぞれに本章の項の一つを割り当て以下を行わせませう。（生徒の人数の多いクラスでは、幾つかの項を複数のグループに割り当てるとよいでしょう。）(1) 割り当てられた項を読み、内容について話し合う。(2) 項の見出しの質問に答えるのに役立つ聖句を見つける。(3) その項に関連する個人的な経験を分かち合う。その後、それらの経験をクラス全体に向けて紹介してもらおう。



指導するために、男性は神権を必要とします。キリストは地上におられたとき、教会を導く者として使徒たちを選び、聖任されました。そしてイエス・キリストの名によって行動できるように、神権の力と権能を授けられました（マルコ 3:13 - 15; ヨハネ 15:16 参照）。

地上に神権が必要なもう一つの理由は、主の御心^{みこころ}を理解し、主の目的を遂行できるようにするためです。神は地上において権威を授けられた神権の代表者、すなわち預言者に御心を明らかにされます。教会の大管長である預言者は、教会の全会員および地上のあらゆる人々のために、神の代弁者を務めるのです。

- 儀式を執行するときにふさわしい権能を持っていることが不可欠であるのはなぜでしょうか。

男性はどのようにして神権を受けますか

主は、地上において神の息子たちに神権を与えるために秩序立った方法を備えられました。教会のふさわしい男性会員は、「福音を宣べ伝え、その儀式を執行するために……権能を持つ者による^{あんしよ}按手によって」神権を受けます（信仰箇条 1:5）。

古くモーセの時代にも、男性はこれと同じ方法で神権を受けました。「かつ、だれもこの榮譽ある^{つとめ}務を自分で得るのではなく、アロンの場合のように、神の召しによって受けるのである。」（ヘブル 5:4）アロンは、神権指導者であるモーセから神権を受けました（出エジプト 28:1 参照）。神権を持つ者だけが、ほかの人を聖任することができます。なおかつその聖任の鍵を持つ人から権限を受けた場合のみ、そうすることができます（本書第 14 章参照）。

だれも神権の力および権能を売買することはできないし、勝手に自分のものにすることもできません。新約聖書の中に、キリストの使徒が教会を管理していた時代のシモンという男の話があります。シモンは改心し、バプテスマを受けて教会に入りました。巧みな魔術師であったため、人々はシモンが神の力を備えていると信じていました。しかし、シモンは神権を持っておらず、彼自身もそのことを知っていました。

シモンは、教会の使徒や神権指導者が神のまことの力を有していることを知りました。指導者たちが神権を用いて主の業を行っているのを見て、自分もその力が欲しいと思いました。シモンはお金を出して神権を得ようとした（使徒 8:9 - 19 参照）。ところが、使徒の頭であるペテロ^{かしら}はこう言いました。「おまえの金は、おまえもろとも、うせてしまえ。神の賜物^{たまもの}が、金で得ら

れるなどと思っているのか。」(使徒8:20)

- 「だれもこの榮譽ある〔神権〕務を自分で得るのではな〔い〕」ということとは、なぜ重要なことなのでしょうか。

どうしたら正しく神権を使うことができるでしょう

神権は、この地上において天の御父の子供たちの生活を祝福するために用いるべきです。神権者は愛と思いやりをもって管理すべきであり、自分に従うよう家族やほかのだれにも強要してはなりません。主は、神権の力は義の原則に従わなければ制御できないと教えられました(教義と聖約121:36 参照)。富や名声を得るため、そのほかいかなる利己的な目的でも神権を用いようとすると、「まことに、天は退き去り、主の御霊は深く悲しむ。そして、主の御霊が退き去ると、その人の神権、すなわち権能は終わりである。」(教義と聖約121:37)

一方、「説得により、寛容により、温厚と柔和により、また偽りのない愛により」(教義と聖約121:41) 神権を使うならば、家族やほかの人のために多くのすばらしい行いをすることができます。儀式の鍵を持つ人から権限を受けた場合、バプテスマを施し、確認し、聖餐を執行することができます。また、病人を祝福し、特別な必要があるとき、自分の家族を励まし守るために神権の祝福を授けることができます。また、依頼されればほかの家族のためにもこれらの儀式を行い、祝福を授けることができます。

教会で支部会長、ビショップ、定員会会長、ステーク会長、伝道部会長に召される男性会員は、神権の権能を使って管理します。教会の役員および教師の責任にある男性と女性は、神権指導者の指示と聖霊の導きの下で働きます。

神権を正しく使うと、どのような祝福が得られるでしょう

主は、神権を用いて人々を祝福する義にかなった神権者に、次のようなすばらしい祝福を約束しておられます。

「そうするとき、神の前においてあなたの自信は増し、神権の教義は天からの露のようにあなたの心に滴るであろう。

聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの^{はんりょ}筋は義と真理の^{しやく}不変の筋となるであろう。そして、あなたの主権は永遠の主権となり、それは強いられることなく、とこしえにいつまでも、あなたに流れ込むことであろう。」(教義と聖約121:45 - 46)

デビッド・O・マッケイ大管長は、義のうちに神権を使うすべての神権者に、次のような約束を与えています。「生活が喜びに満たされるのを感じるとともに、識別の能力が増し加えられて善悪を素早く判断できるようになるでしょう。また、感性が高まり、思いやり深くなるでしょう。さらに、強固な精神を身に付け、堅く立って正義を守り、神権が変わることのない幸福の源、すなわち永遠の命に至る生ける水の泉であることを知るでしょう。」(『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』116)

- 神権を通して、今までどのような祝福を得てきましたか。

参照聖句

- 教義と聖約 84 章 ; 107 章 (神権に関する啓示。教義と聖約 84 : 33 - 40 には神権の誓詞と聖約について記されている)
- 教義と聖約 20 : 38 - 67 (神権者の義務についての説明)



第 14 章

神権組織

神権は今日、地上に存在する

末日聖徒イエス・キリスト教会は神権によって統治されています。神の業と常に結びついているこの神権は、「あらゆる時代に神の教会の中に存続し、日の初めもなく年の終わりもない」のです（教義と聖約 84：17）。神権は今日この地上にあります。バプテスマを受けて教会員となった男性は、老若を問わずふさわしいと判断されれば、神権に聖任されます。地上で主の代理として働き、主の業を行う権能を授かるのです。

神権の二つの区分

- メルキゼデク神権とアロン神権は、どのように名付けられたのでしょうか。

神権はメルキゼデク神権とアロン神権の二つに分けられます（教義と聖約 107：1 参照）。「前者〔は〕メルキゼデク神権と呼ばれる〔。〕メルキゼデクはそれほど偉大な大祭司であったからである。

彼の時代の前には、これは神の御子の位に従う聖なる神権と呼ばれていた。

しかし、至高者の名を敬い尊ぶことから、この名をあまり頻繁に繰り返すのを避けるために、昔の教会員はこの神権を、メルキゼデクにちなんで、メルキゼデク神権と呼んだのである。」（教義と聖約 107：2 - 4。強調は原文のまま）

小神権はメルキゼデク神権に付属します。アロンとその子孫に代々授けられたため、アロン神権と呼ばれます。アロン神権を持つ者には、聖餐やバプテスマという外形的な儀式を執行する権能があります（教義と聖約 20：46；

教師へ——項の最初にある質問は、話し合いを始めたり、生徒や家族に本文を詳しく調べさせたりするために利用してください。項の最後にある質問は、読んできたことの意味を深く考え、話し合い、生活で応用するよう、生徒や家族を助けるために利用してください。

107:13 - 14, 20 参照)。

メルキゼデク神権を持つ者は、教会を導き、全世界に福音を宣べ伝える業を指示する力と権能を有し、教会の霊的な事柄のすべてを管理します(教義と聖約 84:19 - 22; 107:8 参照)。神殿で行われる業を指示し、ワード、支部、ステークおよび伝道部を管理します。主の選ばれた預言者である大管長は、メルキゼデク神権を管理する管理大祭司です(教義と聖約 107:65 - 67 参照)。

神権の鍵^{かぎ}

- 神権と神権の鍵の違いは何でしょうか。どの神権指導者が鍵を受けられるでしょうか。

神権の職に聖任されることと神権の鍵を授けられることの間には違いがあります。ジョセフ・F・スミス大管長は次のように教えています。

「一般に神権は神に代わって行動するために人に与えられた権能です。神権のいかなる職であっても聖任された人は皆、この権能が委譲されています。

しかし、この権能の下で執行されるすべての行動は適切なときに、適切な場所で、正しく、秩序に従って実施されなければなりません。これらの働きを指示する力が神権の鍵です。ただ一人、その時代の預言者、教会の大管長がすべての鍵を有します。大管長はこの権能の一部をほかの人に委任することができます。その場合、その人はそれに関する鍵を持つことになります。したがって、神殿会長、ステーク会長、ワードのビショップ、伝道部会長、定員会の会長はそれぞれ、その地位または組織内での働きの鍵を持っています。しかしこの任命によってその人の神権が増加するわけではありません。……例えば長老定員会の会長は定員会会員以上の神権を持つわけではありません。会長は定員会の中で……行われる正式の働きについて指示する力を持っているだけです。言い換えれば、その業のその部分の鍵を持っているということです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』[1998年] 140 - 141。強調は原文のまま)

- 神権の鍵は教会をどのように保護しているのでしょうか。

アロン神権の職と義務

- アロン神権者はどのような務めを果たすのでしょうか。

アロン神権を授かる成人あるいは少年は、その神権のある一つの職に聖任されます。アロン神権の職は、執事、教師、祭司およびビショップです。それ

その職に義務と責任があります。各々の定員会は定員会会長が管理し、会長は会員にその義務を教え、割り当てを果たすよう依頼します。

この神権の職を受ける通常の年齢を過ぎてから改宗したり活発になったりする男性もいます。その場合、普通はアロン神権のある職に聖任され、ふさわしくあり続けられれば、短い期間であってもほかの職に聖任されることがあります。

執事

バプテスマを受けて教会員に確認され、ふさわしいと認められた若い男性は、12歳に達すると執事の職に聖任されます。一般に執事は、教会員に聖餐を配り、教会の建物と敷地を美しく整え、神権指導者のメッセンジャーとして働くよう割り当てられます。そのほか、断食献金を集めるなど特別な責任を果たします。

教師

14歳以上のふさわしい若い男性は教師に聖任されます。教師には、執事の職に属するすべての義務、権利、力に加えて、幾つかの義務、権利、力があります。アロン神権の教師は、教会員が戒めに従って生活できるよう援助します（教義と聖約 20：53 - 59 参照）。この責任を果たすために、教師は通常、ホームティーチャーとして奉仕するよう割り当てを受けます。教師は教会員の家庭を訪問し、福音の原則に従って生活するように励まします。聖文から福音の真理を教えるように命じられています（教義と聖約 42：12 参照）。さらに、聖餐式のためにパンと水を準備します。

祭司

16歳以上のふさわしい若い男性は、祭司に聖任されます。祭司には、執事と教師のすべての義務、権利、力のほかに、幾つかの義務、権利、力があります（教義と聖約 20：46 - 51 参照）。祭司はバプテスマを施し、聖餐式を執り行い、ほかの祭司、教師、執事を聖任することができます。また、メルキゼデク神権者が不在のときは、集会を指導します。祭司は周囲の人に福音を説きます。

ビショップ

ビショップは聖任され、任命されてワードのアロン神権を管理します。祭司定員会の会長を務めます（教義と聖約 107：87 - 88 参照）。アロン神権の職におけるビショップの責任は、財政や記録をつかさどり、貧しい人や困っている人への援助を指示するなど、おもに現世の事柄を扱うことです（教義と聖約 107：68 参照）。

ビショップはまた、ワード内のすべての会員を管理できるように大祭司に聖任されます（教義と聖約 107：71 - 73；68：15 参照）。ビショップはイスラエルの判士であり（教義と聖約 107：74 参照）、神殿推薦状の発行や神権の聖任、そのほか必要があるときに会員と面接します。識別の賜物を持つのはビショップの権利です。

- あなたはこれまでにアロン神権者の働きを通してどのような祝福を受けましたか。

メルキゼデク神権の職と義務

- メルキゼデク神権者はどのような務めを果たすでしょうか。

メルキゼデク神権には、長老、大祭司、祝福師、七十人および使徒の職があります。

長老

長老は教え、説き明かし、勧め、バプテスマを施し、教会員を見守るように召されます（教義と聖約 20：42 参照）。すべてのメルキゼデク神権者は長老であり、あんしゅ按手により聖霊の賜物を授ける権能を持っています（教義と聖約 20：43 参照）。長老は聖霊に導かれるままに教会の集会を執り行い（教義と聖約 20：45；46：2 参照）、病人への癒しの祝福を行い（教義と聖約 42：44 参照）、子供に祝福を授けます（教義と聖約 20：70 参照）。また、大祭司が不在のときに教会の集会を管理します（教義と聖約 107：11）。

大祭司

大祭司には教会の職務を行う権能が与えられ、霊的な事柄をつかさどります（教義と聖約 107：10, 12 参照）。また、それ以下の職の職務すべてを行います（教義と聖約 68：19 参照）。ステーク会長、伝道部会長、高等評議員、ビショップ、そのほかの教会の指導者は大祭司に聖任されます。

祝福師

祝福師は中央幹部により、あるいは十二使徒評議会から承認を受けた場合にはステーク会長により聖任されて、教会員に祝福師の祝福を授けます。この祝福から、わたしたちは地上での自分の召しをある程度知ることができます。祝福師の祝福は個人に向けられた主の言葉です。祝福師は大祭司にも聖任されます（教義と聖約 107：39 – 56 参照）。

七十人

七十人は世の人々に対するイエス・キリストの特別な証人であり、大管長会と十二使徒定員会の指示の下で教会を築き上げ、整えるのを助けます（教義と聖約 107：25, 34, 38, 93 – 97 参照）。

使徒

使徒は全世界におけるイエス・キリストの名の特別な証人です（教義と聖約 107：23 参照）。使徒は世界各地の教会の諸事をつかさどります。メルキゼデク神権の使徒の職に聖任される人は、通常十二使徒定員会会員に任命されます。一人一人の使徒には地上における神の王国の鍵がすべて授けられますが、先任使徒すなわち大管長だけが実際にすべての鍵を行使します。ほかの使徒は大管長の指示の下に働きます。

- あなたはこれまでにメルキゼデク神権者の働きを通してどのような祝福を受けてきましたか。

アロン神権定員会

主は神権を持つ者を組織して定員会を構成するよう指示されました。定員会とは同じ神権の職を持つ兄弟たちの団体です。

アロン神権には 3 つの定員会があります。

1. 執事定員会 —— 最高 12 人の執事で構成され（教義と聖約 107：85 参照）、執事定員会会長会はビショップにより定員会会員の中から召されます。
2. 教師定員会 —— 最高 24 人の教師で構成され（教義と聖約 107：86 参照）、教師定員会会長会はビショップにより定員会会員の中から召されます。

3. 祭司定員会——最高 48 人の祭司で構成され(教義と聖約 107:87-88 参照), その定員会の所属するワードのビショップが管理します。ビショップは大祭司であるため, 大祭司定員会にも所属します。

定員会の人数が定数を超える場合, 定員会を分割します。

メルキゼデク神権定員会

教会の中央組織では, 大管長会が一つの定員会を構成し, 十二使徒も同様に一つの定員会を構成します。七十人もまた複数の定員会に組織されま

す。教会の地方組織, すなわちワードや支部, ステークや地方部では, メルキゼデク神権者は以下の定員会に組織されます。

長老定員会

長老定員会は「常任教導者となるために設けられている。しかしながら, 彼らは旅をしてもよいが, それでも……常任教導者となるために聖任されている……。」(教義と聖約 124:137) すなわち, ほとんどの業を地元で行います。この定員会は最高 96 人の長老で構成され, 定員会会長が管理します。定員会の人数が定数を超える場合, 定員会を分割します。

大祭司定員会

祝福師とビショップを含む, ステーク内に在住する大祭司全員がこの定員会に所属します。ステーク会長と顧問がこの定員会の会長会です。各ワードの大祭司はグループを構成し, 一人のグループリーダーを置きます。

神権定員会の重要性

- 神権定員会によって, 個人や家族はどのように強められるでしょうか。

神権に聖任されると, 成人であれ少年であれ, 自動的に神権定員会の会員となります。それ以後生涯, 各自の職に応じた神権定員会に籍を置くこととなります(ボイド・K・パッカー “What Every Elder Should Know and Every Sister as Well: A Primer on Principles of Priesthood Government,” *Ensign*, 1993 年 2 月号, 9 参照)。

神権定員会が正しく機能すれば, 定員会会員は指導者から励ましや祝福, フェローシップを受け, 福音を学びます。また神権者が教師, 定員会会長, ビショップ, 高等評議員, ステーク会長など教会の召しから解任されても, 定員会の会員であることに変わりはありません。神権定員会の会員であることは神聖な特権と見なされます。

神権の補助組織

- 神権の補助組織によって、個人と家族はどのように強められるでしょうか。

教会のすべての組織は神権指導者の指示の下で活動し、指導者が主の業を推し進めるのを助けます。例えば、ワードの扶助協会、若い女性、若い男性、初等協会、および日曜学校の会長会は、ビショップリックの指示の下で働きます。これらの組織は神権の補助組織と呼ばれています。

- 神権定員会や補助組織に貢献するために、あなたは個人としてどのような役割を担っているでしょうか。

参照聖句

- アルマ 13 : 1 - 19 (神権に聖任された方法)
- マタイ 16 : 19 : 教義と聖約 68 : 12 (使徒に授けられた神権の鍵と権能 : 地上でつなぐことは天でもつながれる)
- 教義と聖約 20 : 38 - 67 (長老, 祭司, 教師, 執事の義務)
- 教義と聖約 84 章 ; 107 章 (神権に関する啓示)
- 1 コリント 12 : 14 - 31 (すべての神権の職が重要である)

第 15 章

主の聖約の民

聖約の本質

- 聖約とは何でしょうか。末日聖徒が聖約の民と呼ばれるのはなぜでしょうか。

主は時の初めから、この世に住む神の子供たちと度々聖約を交わしてこられました。主の民が主と聖約（あるいは約束）を交わすとき、彼らには、主が期待される事柄と、主のどのような祝福が与えられるかが知らされます。それにより、この世においてよりよく主の業を果たすことができるのです。主と聖約を交わし、主が聖約を交わされる民は「主の聖約の民」と呼ばれます。教会の会員は主の聖約の民に数えられます。

福音における聖約とは、神と個人あるいは一団との間に交わされる神聖な契約または相互の約束を意味します。聖約を交わした人に、神は、特定の戒めに従うことへの祝福を約束して下さいます。神は聖約の条件を定め、預言者にそれを明らかにされます。わたしたちがその聖約の条件に従うならば、約束された祝福を受けます。もし従わなければ、神は祝福を差し控えられ、またある場合には罰も課せられます。

例えば、わたしたちは教会に入るときに神と聖約を交わします（本書第 20 章参照）。バプテスマを受けるとき、主の名を受けることを救い主と聖約するのです。主は次のように約束しておられます。「悔い改めて、イエス・キリストであるわたしの名によってバプテスマを受け、最後まで堪え忍ぶ者は皆、救われるであろう。」（教義と聖約 18：22）聖餐（せいさん）を受けるときもわたしたちは主と聖約を交わします（本書第 23 章参照）。すなわち、主の名を受け、主を覚え、主の戒めに従うことを約束します。それに対して聖なる御霊（みたま）がともにあると約束されるのです（教義と聖約 20：77 - 79 参照）。わたしたちは神殿で儀式を受けるとき、ほかの神聖な聖約を交わし、忠実に従うならば昇栄するという約束を受けます（教義と聖約 132 章参照。本書第 47 章も参照）。

神はまた、特定の人あるいは一団と特別な聖約を交わしてこられました。アダム、エノク、ノア、イスラエルの民、リーハイは、神と特別な聖約を交わした



人々です（モーセ 6：31 - 36, 52；創世 9：9 - 17；出エジプト 19：5 - 6；2 ニーフアイ 1 章参照）。神はアブラハムおよびその子孫と特別な聖約を交わされ、この聖約は今日の教会員と地上のすべての国民をも祝福しています。

- あなたが神と交わしてきた聖約について、また、聖約を守ることを条件に主が約束された祝福について考えてみてください。

神がアブラハムおよびその子孫と交わされた聖約

- アブラハムの聖約とは何でしょうか。

旧約聖書の預言者アブラハムはまことの義人でした（本章の絵を参照）。アブラハムは父親の礼拝する偶像を拜むことを拒み、主のあらゆる戒めを守りました。アブラハムの義のゆえに、主はアブラハムおよびその子孫と聖約を交わされました。

主はアブラハムの子孫が無数に増え、皆福音を受ける権利と、神権の祝福ならびに昇栄のすべての儀式にあずかる権利を有するであろうと約束されました。子孫は神権の権能によりすべての国民に福音を宣べ伝え、こうして地上の氏族がことごとく祝福されることになりました（アブラハム 2：11 参照）。さらに神は、アブラハムの子孫が義にかなっていれば、あらゆる世代と聖約を結ぶと約束されました（創世 17：4 - 8 参照）。

- アブラハムの聖約の中の戒めと約束は、わたしたちにどのように当てはまるのでしょうか。（家庭や職場、地域社会において、あるいは宣教師としてなど、様々な状況でどのように当てはまるか考えてください。）

教会員は聖約の民である

- 今日、神の聖約の民にはどのような祝福と責任があるのでしょうか。

神が聖約の民と呼ばれるのはアブラハムの血縁による子孫ばかりではありません。神は次のようにアブラハムに言われました。「この福音を受け入れるすべての者はあなたの名によって呼ばれ、あなたの子孫〔血統〕と見なされ、立ち上がってあなたを父としてたたえるであろう。」（アブラハム 2：10）このように、二つの民が、神がアブラハムと交わされた聖約にあずかっています。すなわち、(1) アブラハムの義にかなった血縁による子孫と、(2) イエス・キリストの福音を受け入れ、従うことによりアブラハムの血統に加えられた人々です（2 ニーフアイ 30：2 参照）。

バプテスマを受けて教会員になると、わたしたちは、主がアブラハム、イサク、ヤコブと交わされた聖約を交わします（ガラテヤ 3：26 - 29 参照）。従順であれば、わたしたちはその聖約に伴う祝福を受け継ぎます。すなわち、

聖霊の助けと導きを受ける権利と、ふさわしい男性であれば神権を有する権利を持ちます。家族は神権の祝福を受けることができます。日の栄えの王国で永遠の命を得ることができます。これらに勝る祝福はありません。

わたしたちは主の聖約の民として、祝福と同時に大きな責任もあります。主はアブラハムに、その子孫を通して全世界に福音がもたらされると約束されました。わたしたちは教会の専任宣教師プログラムや会員による伝道活動を通して、この責任を果たしています。世界中に福音を宣べ伝える機会を与えられているのは主の教会とその聖約の民だけです。

わたしたちは聖約の民として主の戒めを守るべきです。主は次のように言われました。「あなたがたがわたしの言うことを行うとき、主なるわたしはそれに対して義務を負う。しかし、あなたがたがわたしの言うことを行わないとき、あなたがたは何の約束も受けない。」(教義と聖約 82:10) もし福音を受け入れた後に聖約を拒むようなことがあれば、聖約は無効となり、わたしたちは神の前に罰の定めを受けます(教義と聖約 132:4 参照)。主はさらに次のように言われました。「ひどい裁きあなたがたの頭^{こゝべ}に下らないように、……罪から遠ざかりなさい。多く与えられる者からは多く求められ、いっそう大いなる光に対して罪を犯す者は、いっそう大きな罪の宣告を受けるからである。」(教義と聖約 82:2-3)

新しくかつ永遠の聖約

- 福音を受け入れるとき、どのようなことを行うと約束しますか。この約束を守る時、天の御父はどのような祝福を授けてくださるでしょうか。

完全な福音は「新しくかつ永遠の聖約」と呼ばれます。バプテスマのときに交わす聖約、聖餐、神殿、そのほかで交わす聖約がここに含まれます。主がこの聖約を「永遠」の聖約と呼ばれるのは、これが永遠の神から授けられ、決して変わることがないからです。主はこれと同じ聖約をアダム、エノク、ノア、アブラハム、およびそのほかの預言者に与えられました。この視点から見れば「新しい」とは言えません。しかし、主がこれを「新しい」聖約と呼ばれるのは、福音がこの世から取り去られた後に回復される都度、それを受ける人々にとって新しい聖約となったからです(エレミヤ 31:31-34; エゼキエル 37:26 参照)。

教師へ—— 熟考する時間を与えることによって、生徒や家族が質問についてより深く考えられるようにすることができます。十分な時間を取った後に、答えを求めてください。

新しくかつ永遠の聖約を受け入れるときに、わたしたちは次のことを同意します。すなわち悔い改めてバプテスマを受け、聖霊を授かり、エンダウメントを受け、神殿で結婚の聖約を受け、生涯の最後までキリストに従うのです。わたしたちが聖約を守れば、天の御父は、日の栄えの王国における昇栄を約束してくださいます（教義と聖約 132：20 - 24 参照。本書第 47 章も参照）。

死すべき人間にとって、この約束の偉大さを理解するのは難しいことです。しかし、主がお授けになる戒めは人の幸福のためであって、わたしたちが忠実であるならば、天と地のあらゆる祝福と優れたものを永遠に享受できます。神のみもとで生活し、神の愛、哀れみ、力、偉大さ、知識、知恵、栄光、主権を授かるのです。

- 主の聖約の民であることは、服装や行動、神の戒めを守ることと、どのような関係がありますか。

参照聖句とその他の資料

- 1 ペテロ 2：9 - 10（特異な民）
- 教義と聖約 54：4 - 6（聖約を守るときと、破るときに招く結果）
- 教義と聖約 132：7（正しい権能により結ばれた聖約）
- 教義と聖約 133：57 - 60（聖約の目的）
- 教義と聖約 35：24（聖約に従順であることに対する約束）
- ヘブル 8：6（イエス・キリストは、さらにまさった聖約の仲保者）
- 『聖句ガイド』『聖約』の項, 152 - 153

第 16 章

初期のイエス・キリストの教会

イエス・キリストの教会の特徴

「わたしたちは、初期の教会にあったと同一の組織、すなわち、使徒、預言者、牧者、教師、祝福師などがあることを信じる。」(信仰箇条 1:6)

イエスはこの世におられたときに教会を設立されました。教会は「イエス・キリストの教会」と呼ばれ(3 ニーフアイ 27:8 参照)、会員は聖徒と呼ばれました(エペソ 2:19 - 20)。

啓示

イエスは教会を設立するとともに、指導者に自ら教えと指示を与えられました。同様に、イエスは天の御父から教えを受けられました(ヘブル 1:1 - 2 参照)。このようにイエス・キリストの教会は人によらず、神により導かれたのです。イエスは弟子たちに、啓示はその上に教会を建てる「岩」であると教えられました(マタイ 16:16 - 18 参照)。

イエスは復活後、昇天に先立って使徒たちに言われました。「わたしは世の終りまで、いつもあなたがたと共にいるのである。」(マタイ 28:20) この言葉どおりに、主は天から引き続き導かれました。イエスは弟子たちに、慰め主、啓示者である聖霊を遣わされました(ルカ 12:12; ヨハネ 14:26 参照)。示現を通してサウロに語られました(使徒 9:3 - 6 参照)。イエスはペテロに、ユダヤ人だけでなく全世界の人に福音を宣べ伝えるようにという啓示を下されました(使徒 10 章参照)。数々の栄えある真理をヨハネに啓示され、これは黙示録に記されています。新約聖書には、イエスが多くの方法で御心みこころを明らかにして、教会を導き、弟子たちに光を注がれたことが記されて

教師へ—— 家族や生徒に、教会の6つの特徴(「啓示」「神の権能」など、斜体で書かれた見出し)のうちの一つを研究してもらうとよいでしょう。(大きなクラスでは、複数の生徒に同じ特徴が割り当てられるでしょう。家族や小さなクラスでは、一人に複数の特徴が割り当てられるかもしれません。) 研究する時間を取った後、学んだことを話し合ってもらいます。



います。

神の権能

神権がなければ、福音の原則を教え、儀式を執行することはできません。御父はイエス・キリストにこの権能をお与えになり（ヘブル 5：4－6 参照）、次にイエスは使徒を聖任し、神権の力と権能を授けられました（ルカ 9：1－2；マルコ 3：14 参照）。イエスは、あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだのである。そして、あなたがたを聖任した、と言われました。（ヨハネ 15：16 参照）

教会の秩序を整えるために、イエスは十二使徒に最大の責任と権能を与えられました。ペテロを使徒の頭^{かしら}に任命し、この世においても天においても祝福を結び固める鍵^{かぎ}を授けられました（マタイ 16：19 参照）。さらにほかの役員を聖任し、それぞれに特定の義務を与えられました。イエスが昇天された後も、任命と聖任の規範は存続し、すでに権能を受けている人がほかの人を神権の職に聖任しました。イエスは聖任が承認されたことを聖霊によってお知らせになりました（使徒 1：24 参照）。

教会の組織

イエス・キリストの教会は綿密に組織されました。教会は建物、すなわち「使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられたものであって、キリスト・イエスご自身が隅のかしら石である」建物にたとえられます（エペソ 2：20）。

イエスは、使徒が務めを果たすのを助ける神権指導者をほかにも任命されました。例えば、福音を宣べ伝えるために「七十人」と呼ばれた役員を二人一組で遣わされました（ルカ 10：1 参照）。また、伝道者（祝福師）や牧者（管理役員）、大祭司、長老、ビショップ、祭司、教師、執事を教会に置かれました（本書第 14 章参照）。これはすべて、伝道活動を行い、儀式を執行し、教会員を教え鼓舞するために欠かせない役員です。この役員は、会員たちが「神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致」とに到達できるように援助しました（エペソ 4：13）。

聖書には神権や教会の組織と管理に関してすべてが記されているわけではありません。しかし、教会の組織が優れて完全であることを示すのに十分な記述が保たれてきています。使徒は全世界に出て行き福音を宣べ伝えるように命じられました（マタイ 28：19－20 参照）。そのため、1か所にどまって新しい改宗者を指導することはできません。そこで各地に神権指導者が召されて聖任され、使徒が彼らを管理しました。使徒やその他の教会指導者は各地の支部を訪れ、あるいは手紙を書きました。こうして、新約聖書には

パウロ、ペテロ、ヤコブ、ヨハネ、ユダの手紙が収録されていますが、これらは地方の神権指導者に勧告し指示するために書き送られたものです。

新約聖書を読むと、この教会の組織は存続するよう意図されていたことが分かります。例えば、ユダが死んで使徒は 11 人になりました。イエスの昇天後間もなく、11 人はユダの代わりを務める者を選ぶために集まりました。使徒たちは聖霊からの啓示によって、マッテヤを選びました（使徒 1:23 - 26 参照）。主は使徒が教会を管理するよう規範を定めておられました。教会の組織はイエスが設立されたままの状態^{のまま}で存続するはずであったことは明らか^なようです。

第一の原則と儀式

使徒は二つの基本原則、すなわち主イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めを教えました。新しい改宗者は、神の御子であり^{あがな}贖い主であるイエス・キリストを信じ、罪を悔い改めた後に、二つの儀式、すなわち水に沈めるバプテスマと聖霊の賜物^{たまもの}を授けるための^{あんしゆ}按手とを受けました（使徒 19:1 - 6 参照）。これが福音の第一の原則と儀式でした。イエスは「だれでも、水と霊とから^{うま}生れなければ、神の国にはいることはできない」と、以前から教えておられました（ヨハネ 3:5）。

死者のために執行される儀式

イエスは生者、死者を問わず、あらゆる人に福音を聞く機会を与えられました。イエスは亡くなってから復活されるまでの間、すでにこの世を去った人々の霊のもとを訪れ、死者の中に伝道活動を組織されました。イエスは義にかなった使者を任命し、すでにこの世を去ったすべての人の霊に福音を宣べ伝える力を授けられました。こうして、福音を受け入れる機会が死者に与えられたのです（1ペテロ 3:18 - 20; 4:6; 教義と聖約 138 章参照）。主の教会の会員は死者のために儀式を執行しました（1コリント 15:29 参照）。というのは、バプテスマや確認などの儀式は、この世で行わなければならないからです。

霊的な賜物

すべての忠実な教会員は御霊^{みたま}の賜物を受ける資格がありました。御霊の賜物は各自の必要、能力、責任に応じて与えられました。この賜物の中には、病^{いや}を癒す、あるいは癒される力を含む信仰の賜物、預言の賜物、啓示の賜物などがありました。（御霊の賜物については第 22 章でさらに詳しく採り上げています。）霊的な賜物は常にまことのイエス・キリストの教会に存在します（1コリント 12:4 - 11; モロナイ 10:8 - 18; 教義と聖約 46:8 - 29 参

照)。イエスは弟子たちに、これらのしるしや霊的な賜物は、信じる者には常に伴うと語られました(マルコ 16:17-18 参照)。そして大勢の弟子たちが聖霊の力によって奇跡を行い、預言し、示現を見たのです。

- イエス・キリストの教会には、どうしてこの 6 つの特徴が必要なのでしょうか。

アメリカ大陸におけるイエス・キリストの教会

イエスは復活後、アメリカ大陸の民を訪れて御自身の教会を組織されました。最初に 3 日間お教えになり、その後もしばらくの間、しばしば戻って来られました(3 ニーフай 11-28 章参照)。それから民のもとを去り、昇天されました。この民はその後 200 年以上の間義にかなった生活を送り、神が造られた最も幸福な民となりました(4 ニーフай 1:16 参照)。

まことの教会からの背教

- 背教とはどういう意味でしょうか。

いつの時代にも悪人は常に神の業を妨げようとしてきました。使徒がまだこの世にいて、発展期にある教会を管理していたときにもこのことが起こりました。イエスがお教えになった分かりやすい真理に代えて、古い異教の思想やユダヤ人の信条を説く教員が現れたのです。公然と反抗する人もいました。さらに教会外部からの迫害も起こりました。教員は信仰のために拷問にかけられ、殺されました。また使徒も次々と殺され、あるいは地上から取り去られました。邪悪と背教のゆえに使徒の権能と神権の鍵も地上から取り去られました。イエス・キリストが設けられた組織はもはや存在なくなり、混乱が生じました。教会の教義にますます多くの誤った教えが入り込み、間もなく教会は完全に崩壊してしまったのです。まことの教会が地上に存在しなかった期間を「大背教」と呼んでいます。

その後間もなく異教の信条が、クリスチャンと呼ばれる人々の考えを支配するようになり、ローマ皇帝はこの偽りのキリスト教を国教と認めました。この教会はイエスが組織された教会とはまるで異なっており、神は姿形も実体もない存在であると説いていました。

当時の人々は人類に対する神の愛を理解できなくなっていました。人間が神の子であることを知らず、人生の目的を理解していませんでした。神権と啓示がもはやこの世に存在しなかったので、多くの儀式が変えられてしまいました。

皇帝は独自の指導者を選び、時には、まことのキリスト教会の神権指導者と同じ称号で呼びました。神から力を受けた使徒や神権指導者が一人もおらず、霊的な賜物ありませんでした。預言者イザヤはかつてこの事態を予見し、次のように預言していました。「地はその住む民の下に汚された。これは彼らが律法にそむき、定めを犯し、とこしえの契約を破ったからだ。」(イザヤ 24:5) もはやイエス・キリストの教会ではなく、人の教会であり、名称さえも変えられてしまいました。背教はアメリカ大陸でも起こりました(4 ニーファイ参照)。

預言されていた回復

- 旧約聖書や新約聖書には、回復を予告した預言としてどのようなものが載っているのでしょうか。

背教が起こることを予見しておられた神は、福音を回復する方法を備えておられました。これについて、使徒ペテロはユダヤ人に次のように語っています。「あなたがたのためにあらかじめ定めてあったキリストなるイエスを、神がつかわして下さる……。このイエスは、神が聖なる預言者たちの口をとおして、昔から預言しておられた万物更新の時まで、天にとどめておかれねばならなかった。」(使徒 3:20 - 21)

黙示者ヨハネもまた福音が回復される時代を予見して、次のように語りました。「わたしは、もうひとりの御使が中空を飛ぶのを見た。彼は地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために、永遠の福音をたずさえてき[た。]」(黙示 14:6)

- 回復はなぜ必要だったのでしょうか。
- イエス・キリストの教会が地上に回復されているおかげで受けてきた祝福について考えてください。

参照聖句

- エペソ 2:19 (聖徒と呼ばれた教会員)
- 1 コリント 12:12 - 31 (体にたとえられる教会)
- ルカ 10:1; 使徒 14:23; テトス 1:7; 1 テモテ 2:7 (教会の役員)
- ヨハネ 8:26 - 29 (イエスを導かれる御父)
- ルカ 9:1; ヤコブの手紙 1:17; 5:14 - 15 (霊的な賜物)
- モーサヤ 27:13 (背きが招いた背教)

- 2 ペテロ 2:1; マタイ 24:9 - 12; ヨハネ 16:1 - 3; アモス 8:11; 2 テサロニケ 2:3 - 4 (預言された背教)
- ダニエル 2:44 - 45; マタイ 24:14; 使徒 3:19 - 21; ミカ 4:1; イザヤ 2:2 - 4 (預言された回復)



第 17 章

現在のイエス・キリストの教会

イエス・キリストの教会は地上から取り去られた

- 救い主の死と復活から間もなく、イエス・キリストの教会が地上から取り去られたのはなぜでしょうか。

イエスはこの世におられたとき、唯一まことの主の教会を設けられました。主が教会を組織されたのは、すべての人が福音の真理を学び、権能により福音の儀式を正しく受けられるようにするためでした。この組織を通して、キリストは人類に救いの祝福をもたらすことができになります。

救い主の昇天後、イエスが使徒たちとともに確立された儀式と教義を、人は変えてしまいました。背教のために、神の直接の啓示はなくなり、まことの教会は地上から姿を消しました。人は様々な教会を組織し、自分の教会こそ正しいと主張しましたが、教義は矛盾していました。そのため宗教に関してひどい混乱と論争がありました。主はこのような背教の状態を予見してこう言われました。「ききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくでもない、主の言葉を聞くことのききんである。彼らは……主の言葉を求め[る]、しかしこれを得ないであろう。」(アモス 8:11 - 12)

- アモス 8:11 - 12 で語られている^{ききん}飢饉はどのように人々に影響を及ぼすでしょうか。

主はまことの教会を回復することを約束された

- 福音の回復に道を備えた世界の状況にはどのようなものが挙げられるでしょうか。

救い主は末日に主の教会を回復することを約束し、次のように言われました。「わたしはこの民に、再び驚くべきわざを行う、それは不思議な驚くべきわざである。」(イザヤ 29:14)

人は長い間霊的な暗黒の中で暮らしていました。しかし、キリストの時代からおよそ 1,700 年たつと、次第に神と宗教について真実を知りたいと願うようになりました。イエスの教えられた福音がすでに世にないことが分かった人もいました。啓示も正しい権能も、キリストの組織された教会もこの世に存在しないことを認めていた人もいました。イエス・キリストの教会が地上に回復される時が到来したのです。

- 完全な福音の回復は、どのような点で「驚くべき業」なのでしょう。

神からの新しい啓示

- ジョセフ・スミスは最初の示現を受け、神について何を学びましたか。

1820 年の春、世界史上屈指の重要な出来事が起こりました。主がかねて語られた驚くべき業と不思議がついに始まったのです。少年ジョセフ・スミスは、すべての教会の中でどれがイエス・キリストのまことの教会かを知りたいと願いました。ジョセフは家の近くの森に入って心から熱心に天の御父に祈り、どの教会に加わるべきかを尋ねました。その朝、奇跡が起きました。天の御父とイエス・キリストがジョセフ・スミスに御姿を現されたのです。救い主は、地上にはまことの教会がないため、いずれの教会にも加わってはならないとジョセフに仰せられました。また既存の教会の教義は「[主]の目に忌まわしいもの」であると言われました（ジョセフ・スミス — 歴史 1:19。7-18, 20 節も参照）。この出来事に始まって、再び天から直接の啓示が下されるようになりました。主は新しい預言者をすでに選んでおられたのです。このときから天は開かれ、今日に至るまで主の選ばれた預言者によって啓示が続いています。ジョセフはイエス・キリストのまことの福音を回復するために召された預言者です。

- 最初の示現が世界の歴史上最も重要な出来事の一つであったのはなぜでしょうか。

回復された神の権能

- なぜアロン神権とメルキゼデク神権の回復が必要だったのでしょうか。

福音を回復するとともに、神は再び人に神権を授けられました。1829 年、バプテスマのヨハネがジョセフ・スミスとオリバー・カウドリにアロン神権を授けるために訪れました（教義と聖約 13 章; 27:8 参照）。続いて、古代に教会の大管長会を構成したペテロ、ヤコブ、ヨハネが訪れ、同じくジョセフとオリバーにメルキゼデク神権と神の王国の鍵を授けました（教義と聖約 27:12-13 参照）。その後、モーセ、エライアス、エリヤなどの天の使者により、神権の鍵がさらに回復されました（教義と聖約 110:11-16 参照）。回復に

よって神権が再び地上に返されたのです。現在この神権を持つ人々は、パプテスマなどの儀式を執行する権能と、地上における主の王国を指導する権能を有しています。

再び組織されたキリストの教会

- 再び地上に教会が組織される布石となった出来事に、どのようなものがあるのでしょうか。

1830年4月6日、救い主は再び地上に主の教会を組織するよう命じられました(教義と聖約 20:1 参照)。主の教会は末日聖徒イエス・キリスト教会と呼ばれています(教義と聖約 115:4 参照)。古代の教会における同じように、今日もキリストが教会の頭かしらです。主はこの教会のことを、「全地の面に唯一まことの生ける教会……主なるわたしはこれを心から喜んでいる」と言われました(教義と聖約 1:30)。

ジョセフ・スミスは預言者および教会の「第一の長老」として支持されました(教義と聖約 20:2-4 参照)。後に大管長会が組織され、ジョセフは大管長として支持されました。組織された当初、教会はまだ枠組みだけでしたが、発展するにつれて、組織も拡張していきました。

教会は古代の教会にあったと同じ職により組織されました。古代の組織には、使徒、預言者、七十人、伝道者(祝福師)、牧者(管理役員)、大祭司、長老、ビショップ、祭司、教師、執事がおり、これと同じ職が現在主の教会にあります(信仰簡条 1:6 参照)。

教会は主の指示の下に働く預言者により導かれています。預言者は教会の大管長でもあり、地上における主の業を指導するために必要なすべての権能を保有しています(教義と聖約 107:65, 91 参照)。大管長を補佐する二人の顧問がいます。イエス・キリストの名の特別な証人として、全世界に福音を教え、教会の諸事をつかさどる十二使徒がいます。そのほか特定の責任を持つ中央役員として、大管長会と十二使徒の指示の下で奉仕する管理ビショップリック、七十人定員会があります。

神権の職には、使徒、七十人、祝福師、大祭司、ビショップ、長老、祭司、教師、執事がおり、初期の教会に存在したのと同じです。

現在の教会はイエスの時代に比べてはるかに発展しています。発展に伴い、主は教会内に新たなユニットを組織するよう啓示をお与えになりました。

教師へ——証あかしを述べることによって御霊を招くことができます。レッスンの中で回復について証を述べ、生徒にも証を述べる機会を与えてください。

教会が完全に組織された地域では、「ステーキ」と呼ばれる区分が設けられます。各ステーキはステーキ会長と二人の顧問が管理します。ステーキ内で主の業を援助する 12 人の高等評議員がいます。ステーキ会長の指示の下にメルキゼデク神権定員会がステーキに組織されます（本書第 14 章参照）。各ステーキは「ワード」と呼ばれる小地域に分けられ、ビショップと二人の顧問が各ワードを管理します。

教会が発展途上にある地域には地方部が置かれます。これはステーキのようなものです。地方部は支部というさらに小さな単位に分割されます。これはワードのようなものです。

重要な真理が回復された

- どのような重要な真理が、教会の回復に伴って再びもたらされたでしょうか。

今日の教会は、イエスの時代と同じ原則を教え、同じ儀式を執行しています。福音の第一の原則と儀式とは、主イエス・キリストを信じる信仰、悔い改め、水に沈めるバプテスマ、聖霊の賜物を授けるための按手です（信仰箇条 1:4 参照）。この貴い真理は、教会が回復されたときに完全な状態で再び世にもたらされました。

ジョセフ・スミスは神の賜物と力によりモルモン書を翻訳しました。この書物には分かりやすく貴い福音の真理が記録されています。そのほかにも多くの啓示が下され、教義と聖約や高価な真珠に聖文として記録されています（本書第 10 章参照）。

主はほかにも以下のような重要な真理を回復されました。

1. 天の御父は、触れることのできる完全な骨肉の体を持つ実在の御方である。イエス・キリストも同様である。聖霊は霊の御方である。
2. 人は神の霊の子供として前世に存在していた。
3. 神権は福音の儀式を執行するために必要である。
4. 人は各々の罪に対して罰を受け、アダムの背きに対して罰を受けない。
5. 子供は責任を負える年齢（8 歳）になるまで、バプテスマを受ける必要はない。
6. 天には 3 つの栄光の王国があり、イエス・キリストの恵みにより、人はこの世での行いと心の望みに応じて報いを受ける。

7. 家族関係は神権の結び固めの力により永遠に続く。
 8. 儀式と聖約は救いに必要であり、生者も死者も受けることができる。
- これらの真理は、あなたやほかの人たちにどのような影響を与えてきたでしょうか。

イエス・キリストの教会は決して滅びることがない

- 教会の使命は何でしょうか。

末日聖徒イエス・キリスト教会は 1830 年に回復されて以来、急激に会員数が増え、ほとんどの国に教会員がいます。教会はこれからも発展し続けるでしょう。イエスが言われたように、「この王国の福音は、すべての民への証として、全世界に宣べ伝えられるであろう。」(ジョセフ・スミス・マタイ 1:31) 教会は決して再びこの世から取り去られることはないでしょう。教会の使命はあらゆる人に真理を伝えることです。何千年も前に、主は「一つの国を立て……これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、……立って永遠に至る」と宣言しておられます(ダニエル 2:44)。

- 神の王国の業を助けるために、これまでにどのようなことをしてきましたか。この業を推し進めるために、何ができるでしょうか。

参照聖句

- 使徒 3:19 - 21; 黙示 14:6; ダニエル 2:44 - 45; イザヤ 2:2 - 4; 2 ニーファイ 3:6 - 15 (回復の預言)
- 教義と聖約 110 章; 128:19 - 21; 133:36 - 39, 57 - 58 (福音の回復)
- エペソ 2:20 (イエス・キリストは教会の隅のかしら石)
- 教義と聖約 20:38 - 67 (教会役員の義務)
- マタイ 24:14 (すべての国民に宣べ伝えられる福音)

第 18 章

イエス・キリストを信じる信仰

信仰とは何か

イエス・キリストを信じる信仰は福音の第一の原則です。信仰は霊的な賜物であり、救いに欠くことができません。ベニヤミン王は次のように宣言しています。「悔い改めて、主イエス・キリストを信じるのでなければ、……決して救いは与えられない……。」(モーサヤ 3:12)

信仰とは、「まだ見ていない真実のことを待ち望む」ことです(アルマ 32:21。ヘブル 11:1 も参照)。信仰とは日々の活動を動機づける、行動と力の原則です。

知恵や知識が得られると信じなかったら、勉強するでしょうか。こうすれば何かを達成できるという希望がなくて、毎日努力するでしょうか。農夫は収穫を期待せずに植えるでしょうか。結末が見えなくても、わたしたちは望みに基づいて行動します。これが信仰です(ヘブル 11:3 参照)。

聖文には、信仰によりいかに偉大なことが成し遂げられたかが数多く記されています。

信仰によって、ノアは箱舟を造り、洪水から家族を救いました(ヘブル 11:7 参照)。モーセは紅海の水を分け(ヘブル 11:29 参照)、エリヤは天から火を下すよう祈り求めました(列王上 18:17-40 参照)。ニーファイは飢饉を求め(ヒラマン 11:3-5 参照)、同じように飢饉をとどめるよう主に願いました(ヒラマン 11:9-17 参照)。海が静まり、示現が開かれ、祈りがこたえら

教師へ——本章は4つの項で構成されており、各項の見出しがどれも信仰についての質問になっています。質問を利用しながらレッスンを進めることができます。クラスの状況が小グループの話し合いに適していれば次のように行うとよいでしょう。生徒を4人のグループに分けます。各グループで、本章の各項を一人に一つずつ担当してもらってください。各自は、担当する項目に関して以下を行います。(1) 割り当てられた項を読む。(2) 項の見出しの質問に答えるのに役立つ聖句を見つける。(3) その項に関連する個人的な経験について考える。(4) その項について考えたことをグループのメンバーに紹介する。



れたのは、すべて信仰の力によるのです。

聖文を丹念に学ぶと、信仰とは人の心の内にある真理への強い確信であることが分かります。この確信が善い行いを促すのです。このことから、わたしたちは次のように自問します。だれに対して信仰を持つべきであろうかと。

- あなたが日々行うことについて考えてください。結末が見えなくても日々行っていることに何がありますか。信仰によって、どのように行動を促されているでしょうか。

なぜイエス・キリストを信じる信仰を持つ必要があるのか

わたしたちは信仰の中心を主イエス・キリストに置かなければなりません。

イエス・キリストを信じる信仰を持つということは、主の命じられることにはどんなことでも従うだけの信頼を主に寄せるということです。イエス・キリストを信じる信仰を持ち、従順な弟子となるときに、天の御父はわたしたちの罪を赦し、主のみもとに戻る備えをさせてくださいます。

使徒ペテロは次のように教えています。「わたしたちを救いうる名は、これを別にしては、天下のだれにも与えられていない……。」(使徒4:12。モーサヤ3:17も参照) ヤコブは、人は「イスラエルの聖者〔イエス・キリスト〕に対して完全な信仰を抱〔か〕なければならない……。そうでなければ、人は神の王国に救われない」と教えました(2ニーファイ9:23)。救い主を信じ、悔い改めることによって、生活に主の贖い^{あがな}が十分に効力を及ぼすようになります。また、信仰によって、誘惑に打ち勝つ力をも得ることができます(アルマ37:33参照)。

天の御父を信じる信仰をも同時に持たなければ、イエス・キリストを信じる信仰を持つことはできません。御二方を信じるならば、天の御父と御子から遣わされる聖霊が、あらゆる真理を教え、慰めを与えてくださることも信じるでしょう。

- イエス・キリストを信じる信仰は、教会の召しを果たすときにどのような影響力を持つでしょうか。家族関係や仕事においてはどうでしょうか。永遠の命を望むことにおいてはどうでしょうか。

どのようにしてイエス・キリストを信じる信仰を増すことができるか

イエス・キリストを信じる信仰を働かせることでもたらされる多くの祝福を知れば、イエス・キリストを信じる信仰を増すように努めるはずです。救い主

は次のように言われました。「もし、からし種一粒ほどの信仰があるなら、……あなたがたにできない事は、何もないであろう。」(マタイ 17:20) からし種は非常に小さな種ですが、生長すると大きな木になります。

どのようにすれば信仰を増すことができるのでしょうか。ほかの技術を磨く方法と同じです。木彫りや機織り、絵画、料理、陶芸、楽器演奏などの腕はどうしたら上がるのでしょうか。学び、練習し、たゆまずに励むことです。こうすれば上達します。信仰も同様です。イエス・キリストを信じる信仰を増したいと思うならば、たゆまずに取り組むことです。預言者アルマは、神の言葉を、信仰によって養い育てなければならぬ種にたとえて次のように語りました。

「しかし見よ、もしあなたがたが目を開き、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ。

さて、御言葉^{みことば}を一つの種にたとえてみよう。さて、もしあなたがたが心の中に場所を設けて、種をそこに植えるようにするならば、見よ、それがほんとうの種、すなわち良い種であり、またあなたがたが主の御霊^{みたま}に逆らおうとする不信仰によってそれを捨てるようなことがなければ、見よ、その種はあなたがたの心の中でふくらみ始めるであろう。そして、あなたがたは種がふくらみつつあるのを感じると、心の中で次のように思うであろう。『これは良い種、すなわち御言葉は良いものに違いない。これはわたしの心を広げ、わたしの理解力に光を注ぎ……始めている。』

さて見よ、これによってあなたがたの信仰は増さないであろうか。」(アルマ 32:27-29)

したがって、神を信じたいという望みに基づいて行動することによって、神を信じる信仰を増すことができます。

さらに、自分の願い、望み、必要について天の御父に祈ることによっても、信仰を増すことができます(アルマ 34:17-26 参照)。しかし、なすべきことは求めることだけであると思ってはなりません。聖文には次のように記されています。「信仰も……行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。」(ヤコブの手紙 2:17) 次に挙げる物語は、行いによって信仰を示したある男性の話です。

この男性は聖文を勉強したいと思っていましたが、字が読めませんでした。男性は字を学べるように助けを求めて天の御父に祈りました。ある日のこと、村に一人の教師がやってきました。男性は教師に頼んでアルファベットを覚えてもらい、発音や単語のつづり方を学びました。やがて簡単な単語が読

めるようになり、練習すればするほどさらに読み書きができるようになりました。男性は、主が教師を送ってくださり、字が読めるように助けてくださったことに感謝しました。この男性は信仰と謙遜^{けんそん}さ、知識を増し、教会で支部会長を務めるまでになったのです。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように説明しています。「信仰には行いが伴わなければなりません。知識を与えてくださいと主に願うことは、何と愚かなことでしょう。逆に、知識を習得し、積極的に学び、考えをはっきりさせ、学んだことを忘れないようにするうえで主の助けを願うことは、何と賢明なことでしょう。」(*Faith Precedes the Miracle* [1972年], 205。強調は原文のまま)

信仰には、自分が望み、祈り求めていることを成し遂げようと最善を尽くす行いが伴わなければなりません。キンボール大管長はこう述べています。「信仰のうちにわたしたちは種をまき、やがて花が咲くという奇跡を目にします。人はしばしば誤解して、この過程を逆転させています。」大管長の説明は続きます。多くの人は健康の法則を守らずに、健康と活力^{じゅうぶん}を、自分の一を納めずに繁栄を求めます。また、主に近くありたいと思ひながら、断食と祈りをしたいとは思ひません。安息日を聖なる日として守らず、また主のほかの戒めを守らずに、然るべき季節に雨を、国の平和を求めています。(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』142 参照)

信仰を増す一つの大切な方法は、主の言葉を聞き、研究することです。教会の集会で主の言葉を聞き、聖文から御言葉を学ぶことができます。「また、すべてが信仰を持っているわけではないので、あなたがたは知恵の言葉を熱心に求め、互いに教え合いなさい。まことに、最良の書物から知恵の言葉を探し求め、研究によって、また信仰によって学問を求めなさい。」(教義と聖約 88:118)

- 信仰と行いの間にはどのような関係があると思いますか。

信仰の後にはどのような祝福があるか

信仰の賜物を通して、奇跡が起こり、天使が現れ、御霊の賜物が授けられ、祈りがこたえられ、人は神の子となります(モロナイ 7:25 - 26, 36 - 37 参照)。

「信仰があるときに、使徒や預言者、祝福師、牧者、教師、賜物、知恵、知識、奇跡、癒し、異言、異言の解釈などがもたらされます。このすべては地上に信仰が現れるときに現れ、地上から信仰が消えるときに消えます。なぜなら、これらは信仰の実だからです。……信仰を持つ者は、信仰を通して必要

第 18 章

なすべての知識と知恵を得、やがて神と神の遣わされた主イエス・キリストを知るに至ります。御二方を知ることが永遠の命です。』(*Lectures on Faith* [1985 年], 83)

- イエス・キリストを信じる信仰を持つことによって強さを得た物語として、聖文の中にどのような話がありますか。また、あなた自身の生活の中で、どのように信仰によって強さを得てきましたか。

参照聖句

- ヘブル 11 章；アルマ 32 章（信仰の本質の説明）
- 出エジプト 14：19 - 22（紅海の水を分ける）
- 創世 6 - 8 章（ノアと洪水）
- マタイ 8：5 - 33（病人の癒し、暴風が静まる、信仰による奇跡）
- マルコ 5：25 - 34（信仰による癒し）
- ローマ 10：17（信仰は神の言葉を聞くことによって得られる）

第 19 章

悔い改め

わたしたちは皆、悔い改める必要がある

- 罪とは何でしょうか。罪はわたしたちにどのような影響を及ぼすでしょうか。

イエス・キリストを信じる信仰を持てば、自然に悔い改めへと結びつきます。アダムの時代から今日に至るまで、この世の人には悔い改めが必要でした。主はアダムに次のように言われました。「それゆえ、あなたの子供たちに次のことを教えなさい。すなわち、どこにいる人でもすべての人が、悔い改めなければならない。そうしなければ、決して神の王国を受け継ぐことはできない。清くない者はそこに住むことができない、すなわち、神の前に住むことができないからである。」(モーセ 6 : 57)

わたしたちがこの世に来たのは、進歩成長するためであり、これは一生続く過程です。この間にすべての人は罪を犯すので(ローマ 3 : 23 参照)、悔い改めが必要となります。あるときは無知で、またあるときは弱さや、故意の不従順から罪を犯します。聖書には次のように記されています。「善を行い、罪を犯さない正しい人は世にいない。」(伝道 7 : 20)「もし、罪がないと言うなら、それは自分を欺くことであって、真理はわたしたちのうちにない。」(1ヨハネ 1 : 8)

罪とは何でしょうか。ヤコブは次のように述べています。「人が、なすべき善を知りながら行わなければ、それは彼にとって罪である。」(ヤコブの手紙 4 : 17) また、ヨハネは「不義はすべて」罪であり(1ヨハネ 5 : 17)、罪は「不法」である(1ヨハネ 3 : 4)と記しています。

これらの理由から、主は「どこにいる人でもすべての人が、悔い改めなければならない」と言われたのです(モーセ 6 : 57)。完全な生涯を送られたイエス・キリストを除き、この世に生を受けたすべての人は罪を犯しています。天の御父は大いなる愛をもって、罪を悔い改める機会を備えてくださったのです。



悔い改めによって罪から解放される

- 悔い改めとは何でしょうか。

悔い改めは罪から解放され、赦しを得るために備えられた方法です。罪は霊的成長を妨げ、阻止さえします。悔い改めは再び霊的に成長し進歩できるようにしてくれます。

悔い改めるといふ特権は、イエス・キリストの贖いを通して可能になります。イエスが罪の代価を支払ってくださったことを、わたしたちはある意味では完全に理解していません。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は、このことについて次のように述べています。

「わたしも苦しんだことがありますし、あなたがたも苦しんだことがあります。そして時には厳しい苦悩もあります。しかしわたしは……血が汗のように体から出てくるような苦悩というものを理解することはできません。それは何か恐ろしいぞっとするようなものでした。……

……神の御子はわたしたちが自分の罪から逃れられるように、わたしやあなたの罪を背負われました。その重荷に耐えられる人はこれまで地上に一人もいませんでした。」(Doctrines of Salvation, ブルース・R・マッコンキー選, 全3巻 [1954 - 1956年], 第1巻, 130 - 131. 強調は原文のまま)

悔い改めは時として、非常な勇気と力、多くの涙、絶え間ない祈り、そして主の戒めに従う不屈の努力を要します。

悔い改めの原則

- 悔い改めの原則とは何でしょうか。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように言明しています。「悔い改めに王道はなく、赦しに至る優先道路はありません。金持ちであろうと貧しい者であろうと、教育があろうとなかろうと、背が高かろうと低かろうと、王子であろうと貧民であろうと、王であろうと平民であろうと、すべての人が同じ道を行かなければなりません。」(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』38. 強調は原文のまま)

罪を認めなければならない

悔い改めるには、罪を犯したことを認識しなければなりません。罪を認識

教師へ——リストを書くことによって、学んでいる人たちの興味を引き注目させることができます。悔い改めの原則について生徒や家族と話し合うとき、それらの原則をだれかに黒板や大きな紙に書いてもらうとよいでしょう。

しなければ、悔い改めることはできません。

伝道の召しをおろそかにし、そのうえ重大な罪を犯した息子のコリアントンに、アルマは次のように勧告しています。「ただ自分の罪にだけ心を悩まし、その悩みによって悔い改めに導かれるようにしてもらいたい。……どんなささいなことでも罪の言い訳をしようとしてはならない。」(アルマ 42:29 - 30) 聖文は罪深い行いを正当化してはならないと教えています(ルカ 16:15 - 16 参照)。

生活のいかなる行いも、自分自身や主の目から隠すことはできません。

罪を悲しまなければならぬ

罪を認めたくて、自分のしたことを心から悲しまなければなりません。罪を恐ろしいことであると感じ、捨て去りたいと思わなければなりません。聖文には次のように記されています。「神の前にへりくだって、バプテスマを受けたいと願い、打ち砕かれた心と悔いる霊をもって進み出て、自分のすべての罪を心から悔い改め〔る〕人は皆、バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる。」(教義と聖約 20:37)

- 2 コリント 7:9 - 10 およびモルモン書 2:10 - 14 を研究してください。「神のみこころに添うた悲しみ」は、後悔の言葉とどのように異なっていると思いますか。

罪を捨てなければならぬ

心から罪を悲しむならば、人はおのずと罪を捨てる(やめる)ようになります。盗んだら二度と盗まず、うそをついたらもはやうそをつかず、姦淫(かんいん)を犯したら、やめることです。主は預言者ジョセフ・スミスに次のように啓示しておられます。「人が罪を悔い改めたかどうかは、これによって分かる。すなわち、見よ、彼はそれを告白し、そしてそれを捨てる。」(教義と聖約 58:43)

罪を告白しなければならぬ

罪の告白は非常に大切なことです。主は罪を告白するよう命じられました。告白することにより、罪を犯した人は重荷を下ろすのです。主は次のように約束しておられます。「主なるわたしは罪を赦し、またへりくだった心をもって自分の罪を告白する者たちに憐れみ深い……。」(教義と聖約 61:2)

すべての罪を主に告白しなければなりません。また、姦淫、私通、同性愛関係、伴侶や子供への虐待、違法薬物の販売や使用など、教会員の資格に影響を及ぼす重大な罪を犯した場合は、然るべき神権役員に告白しなければなりません。だれかほかの人に対して罪を犯したときは、傷つけた相手に告

白すべきです。主と自分だけにかかわるさほど深刻でない罪は、他人を扶ま
ず独りで主に告白すればよいでしょう。

罪を償わなければならない

罪の償いは悔い改めの一部です。これは、できる限りのことをして犯した
過ちを埋め合わせることです。つまり、盗んだものを返すことであり、真実を
告げることであり、中傷して傷つけた相手の名誉を取り戻すように尽力するこ
とです。このようにするならば、神は裁きの場でわたしたちの罪に言及される
ことはないでしょう（エゼキエル 33：15 - 16 参照）。

人を赦さなければならない

自分に対して罪を犯した人を赦すことも、悔い改めの^{ひっす}必須条件です。人へ
の憎悪や恨み、悪感情から完全に心が清められないかぎり、主はわたしたち
を赦してくださいません（3 ニーファイ 13：14 - 15 参照）。「それゆえ、わた
しはあなたがたに言う。あなたがたは互いに赦し合うべきである。自分の兄
弟の過ちを赦さない者は、主の前に罪があるとされ、彼の中にもっと大きな罪
が残るからである。」（教義と聖約 64：9）

神の戒めを守らなければならない

悔い改めが完結するには、主の戒めを守らなければなりません（教義と聖
約 1：32 参照）。^{じゅうぶん} 十分の一を納めない、安息日を^{きよ}聖く過ぎさない、知恵の言
葉を守らない、教会の指導者を支持しない、主や隣人を愛さないとしたら、完
全に悔い改めているとは言えません。祈りを怠り、人に不親切なら悔い改め
ていないに違いありません。悔い改めると、生活は変わります。

キンボール大管長は次のように述べています。「まず、悔い改めます。その
状態に到達したら、次に主の戒めに従うことによって、その状態を維持しな
ければなりません。これは完全な赦しを得るうえで必要なことです。」（『歴
代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』43）

- この項にある教えは、悔い改めとは形式だけの一連の行為であるという間
違った考えとどのように異なっているでしょうか。

悔い改めはどのように助けとなるか

- 悔い改めはどのようにわたしたちの助けとなるでしょうか。

悔い改めると、イエス・キリストの贖いが完全に生活に影響を及ぼすよう
になり、主は罪を赦してくださいます。わたしたちは罪の縄目を解かれ、喜びを
見いだすのです。

アルマは罪深い過去を悔い改めた経験を次のように語っています。

「わたしはきわめてひどい苦しみを受け、自分のすべての罪に責めさいなまれた。

まことに、わたしは自分のあらゆる罪と不義を思い出し、そのために地獄の苦しみを味わった。わたしは自分が神に逆らってきたことと、神の聖なる戒めを守っていなかったことを知ったのである。

……わたしの罪悪が非常に大きかったので、神の御前^{みまへ}に行くことを考えるだけで、わたしは言いようのない恐怖に責めさいなまれた。

……そして……わたしは自分の多くの罪を思い出してひどく苦しみながら、見よ、かつて父がイエス・キリストという御方の来臨について……預言するのを聞いたことを思い出した。イエス・キリストは神の御子であり、世の罪を贖うために来られるというのである。

心にこの思いがはっきりと浮かんできたとき、わたしは心の中で、『おお、神の御子イエスよ、……わたしを憐れんでください』と叫んだ。

さて見よ、このことを思ったとき、わたしはもはや苦痛を忘れることができた。……

おお、何という喜びであったことか。何という驚くべき光をわたしは見たことか。まことに、わたしは前に感じた苦痛に勝るほどの喜びに満たされたのである。

……わたしはほかにあり得ないほど麗しく、また快い喜びを味わった。」
(アルマ 36 : 12 - 14, 17 - 21)

• 悔い改めと赦しは、アルマにどのように喜びをもたらしましたか。

悔い改めを先送りすることの危険性

• 悔い改めを先送りすると、どのようなことになりかねないでしょうか。

預言者は「現世は人が神にお会いする用意をする時期である」と述べています(アルマ 34 : 32)。わたしたちは今、そして毎日悔い改める必要があります。朝目覚めたら、まず神の御霊^{みたま}を感じているか内省すべきです。夜、床に就くときは、一日の言動を思い起こし、悔い改めるべき点を認識できるよう主に助けを祈り求めるべきです。日々悔い改め、主の赦しを受けるならば、完全に向かって日ごとに前進するでしょう。アルマと同じように甘く、この上ない幸福と喜びを享受することができるのです。

参照聖句

- マタイ 9:10 - 13 ; ルカ 13:3 ; エゼキエル 18:30 (悔い改めか, 滅びか)
- アルマ 7:21 (いかなる汚れたものも, 神のみもとに住むことはできない)
- 2 コリント 7:9 - 10 (神の^{みこころ}御心に添った悲しみ)
- モーサヤ 4:10 - 12 (悔い改めの段階)
- イザヤ 1:18 ; モーサヤ 26:28 - 32 (悔い改めは赦しをもたらす)
- 教義と聖約 58:42 (罪は思い起こされない)
- 2 ニーファイ 9:23 (救いに欠くことのできない悔い改め)
- 2 ニーファイ 2:21 (肉体にあるうちの悔い改め)
- 教義と聖約 19:15 - 20 (主のように苦しまなくて済むように, 悔い改めを命じられた)



第 20 章

バプテスマ

バプテスマを受けるようにという戒め

- なぜわたしたちはバプテスマを受けなければならないのでしょうか。

イエスの時代と同じように、現在も、学び従わなければならない福音の原則と儀式があります。福音の原則とは真の信条または教えのことであり、儀式とは儀礼または式典のことです。福音の最初の二つの原則は、主イエス・キリストを信じる信仰と悔い改めです。またバプテスマは福音の第一の儀式です。主は使徒たちに次のような指示を与えられました。「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を弟子として、父と子と聖霊との名によって、彼らにバプテスマを施し、あなたがたに命じておいたいっさいのことを守るように教えよ。」(マタイ 28:19 - 20)

罪を赦されるためにバプテスマを受けなければならない

イエス・キリストを信じる信仰を持ち、悔い改めてバプテスマを受けるときに、罪はイエス・キリストの贖罪により赦されます。

聖文には、バプテスマのヨハネが「荒野に現れて、罪のゆるしを得させる悔改めのバプテスマを宣べ伝えていた」と記されています(マルコ 1:4)。使徒ペテロは次のように教えています。「悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。」(使徒 2:38) パウロが改心すると、アナニヤは「すぐ立って、……バプテスマを受け、あなたの罪を洗い落しなさい」と言いました(使徒 22:16)。

教師へ——項の最初にある質問は、話し合いを始めたり、生徒や家族に本文を詳しく調べさせたりするために利用してください。項の最後にある質問は、これまで読んできたことの意味を深く考え、話し合い、生活で応用するよう、生徒や家族を助けるために利用してください。

イエス・キリスト教会の会員となるためにバプテスマを受けなければならない

「神の前にへりくだって、バプテスマを受けたいと願ひ、……自分のすべての罪を心から悔い改めた……人は皆、バプテスマによってキリストの教会に受け入れられる。」(教義と聖約 20:37)

聖霊^{たまもの}の賜物を受けるにはバプテスマを受けなければならない

主は次のように言われました。「あなたがわたしに心を向け、……あなたのすべての背き〔罪〕を悔い改め、まことに水の中で……独り子……の名によって……バプテスマを受けるならば、あなたは聖霊の賜物を受けるであろう。」(モーセ 6:52)

従順さを表明するためにバプテスマを受けなければならない

イエス・キリストは罪のない御方でありながらバプテスマを受けられました。イエスは御自分のバプテスマが「すべての正しいことを成就する」ために必要であると言われました(マタイ 3:15)。預言者ニーファイは、主が次のように告げられたと説明しています。「『わたしに従ひ、わたしが行くのを見たそのことを、あなたがたも行いなさい。』……神の前に決して偽善と欺き^{あざむ}を行うことなく誠意をもって行動し、罪を悔い改め、……バプテスマを受けることによって、キリストの名を喜んで受けることを御父に証明〔しなさい。〕」(2 ニーファイ 31:12 - 13)

日の栄えの王国に入るためにバプテスマを受けなければならない

イエスは言われました。「わたしを信じてバプテスマを受ける者……神の王国を受け継ぐのはこれらの者である。また、わたしを信じないでバプテスマを受けない者は、だれでも罰の定めを受ける。」(3 ニーファイ 11:33 - 34) バプテスマは日の栄えの王国に入るための門です(2 ニーファイ 31:17 - 18 参照)。

バプテスマの正しい方式

- どのようにバプテスマを受けるべきでしょうか。

バプテスマの正しい方式は一つしかありません。イエスが預言者ジョセフ・スミスに啓示されたところによれば、バプテスマを施す正しい神権の権能を授けられている人が、「バプテスマのために出頭した人とともに水の中に降りて行き、……彼または彼女を水中に沈め、そして再び水から出て来なければならない。」(教義と聖約 20:73 - 74) バプテスマでは水に沈めることが必要です。使徒パウロは、水に沈められて再び水から上がるのが死と埋葬、

復活を象徴すると教えています。バプテスマを受けた後、わたしたちは新しい生活を始めるのです。パウロは次のように語っています。

「それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

もしわたしたちが、彼に結びついてその死の^{さま}様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の^{さま}様にもひとしくなるであろう。」(ローマ 6:3-5)

正しい権能を持つ人により水に沈められるバプテスマこそ、唯一の正当なバプテスマです。

- バプテスマを施す権能はなぜ大切なのでしょうか。
- 水に沈めるバプテスマは救い主が葬られ復活されたこととどのような点で似ているのでしょうか。

責任を負う年齢でのバプテスマ

- だれがバプテスマを受けるべきでしょうか。

8歳に達し、行動に責任を負う〔責任能力のある〕すべての人は、バプテスマを受ける必要があります。ある教会では幼い子供にバプテスマが必要であると説いていますが、これは救い主の教えと一致しません。イエスは幼子^{おきなご}について話されたとき、「天国はこのような者の国である」と言われました(マタイ 19:14)。

預言者モルモンは、幼い子供にバプテスマを施すことは神をあざける行為である、なぜなら幼い子供は罪を犯す能力がないからである、と語りました。同様に、善悪をわきまえる知的能力のない人にバプテスマは不要です(モロナイ 8:9-22 参照)。

それ以外のすべての人はバプテスマを受けなければなりません。わたしたちはバプテスマの儀式を受け、そのときに交わす聖約を忠実に守り通さなければなりません。

- 幼児もバプテスマを受ける必要があると信じている友人に対し、どのように言えばよいのでしょうか。

バプテスマのときに交わす聖約

聖文にはバプテスマについて多くのことが記されています。そういった聖文の一つで預言者アルマは、信仰と悔い改めはバプテスマに備えるステップであり、バプテスマを受けるときに主と聖約を交わすと教えました。わたしたちはある事柄を行うと約束し、神はその報いとして祝福を約束してくださるのです。

アルマの説明によれば、わたしたちは神の民と呼ばれたいと望み、進んで助け合い、いたわり合い、いつでも、どのようなことについても、どのような所においても神の証人にならなければなりません。これらのことを行い、バプテスマを受けるならば、神は罪を赦してくださいます。アルマは、福音に関する彼の教えを信じる人々に次のように述べています。

「見よ、ここにモルモンの泉がある。……あなたがたは神の羊の群れに入って、神の民と呼ばれたいと……望んでいる。……あなたがたが心からこれを望んでいるのであれば、主からますます豊かに御霊を注いでいただけるように、主に仕えて主の戒めを守るといふ聖約を主と交わした証拠として、主の御名によってバプテスマを受けるのに何の差し支えがあろうか。」(モーサヤ 18: 8, 10) 人々は手をたたいて喜び、バプテスマを受けたいと申し出ました。こうしてアルマはモルモンの泉で彼らにバプテスマを施しました。(モーサヤ 18: 7-17 参照)

アルマは、わたしたちがバプテスマを受けるときに主と次のような聖約を交わすと教えています。

1. 神の羊の群れに入る。
2. 互いに重荷を負い合う。
3. いつでも、どのような所においても神の証人になる。
4. 神に仕え、神の戒めを守る。

わたしたちがバプテスマを受けてその聖約を守るとき、主は次のことを約束してくださいます。

1. 罪を赦す(使徒 2: 38; 教義と聖約 49: 13 参照)。
2. ますます豊かに御霊を注ぐ(モーサヤ 18: 10 参照)。
3. 日々聖霊の導きと助けを与える(使徒 2: 38; 教義と聖約 20: 77 参照)。
4. 第一の復活にあずからせる(モーサヤ 18: 9 参照)。
5. 永遠の命を与える(モーサヤ 18: 9 参照)。

- 「互いに重荷を負い合う」「いつでも、どのような所においても神の証人になる」とはどういう意味だと思いますか。

バプテスマは新たな門出である

バプテスマとともに新たな人生が始まります。そのためバプテスマは再生とも呼ばれます。人は水と霊とから生まれなければ神の国に入ることはできないと、イエスは言われました（ヨハネ 3:3-5 参照）。この原則はアダムにもはっきりと告げられました。

「あなたがたは水と血と、わたしが造った霊とによってこの世に生まれ、ちりから生けるものとなったので、まことにあなたがたは、水と御霊によって再び天の王国に生まれ、血によって、すなわちわたしの独り子の血によって清くされなければならない。」（モーセ 6:59）

使徒パウロは、バプテスマを受けた後に新たな人生を始めなければならないと語りました。「わたしたちは、……バプテスマによって、彼と共に葬られたのである。……わたしたちもまた、新しいのちに生きるためである。」（ローマ 6:4）バプテスマがもたらす大きな祝福の一つは、バプテスマが永遠の目標に向かう新たな門出となることです。

- あなたのバプテスマはどのように門出となりましたか。

参照聖句

- 2 ニューファイ 31:4-7（バプテスマの目的と必要性）
- 3 ニューファイ 11:21-27；教義と聖約 20:72-74（バプテスマを施す方法）
- 使徒 2:38-39（罪の赦しのために受けるバプテスマ）
- モロナイ 8:8-12；教義と聖約 20:71-72（幼い子供にバプテスマは不要である；悔い改める者すべてにバプテスマが必要である）
- アルマ 7:14-16（バプテスマは清めであり、永遠の命の聖約へ入ることである）



第 21 章

たまもの 聖霊の賜物

聖霊

本書第 7 章で、聖霊が神会の御一方^{おひとかた}であることを学びました。聖霊は「霊の御方」であり（教義と聖約 130：22）、骨肉の体を持っておられません。聖霊の影響力は同時にあらゆる場所に及びます。聖霊の使命は、御父と御子、またすべての真理^{まこと}について証^{あかし}することです。さらに、聖霊はわたしたちを清くし、^{きよ}聖め、神の前に住む備えをさせていただきます。聖霊は、悪いことを行いたいという望みをわたしたちが二度と持たないように、心を清くしていただきます。

聖霊と聖霊の賜物は異なります。本章では、聖霊の賜物とは何か、また神からこの大なる賜物を受けるにはどうすればよいかについて学びます。

聖霊の賜物

- 聖霊と聖霊の賜物の違いは何でしょうか。

聖霊の賜物とは、イエス・キリストを信じる信仰を持ち、バプテスマを受け、教会員として確認された人が、聖霊から絶えず導きと靈感を得られる特権です。

ジョセフ・スミスは次のように語っています。「わたしたちは初期の使徒の時代と同じように今も聖霊の賜物を享受していると信じています。この賜物には完全さと力と偉大さと栄光があることを信じています。」（『歴代大管長の教え —— ジョセフ・スミス』97 - 98 参照）

聖霊の賜物を授かっていない人が、一時的に聖霊に導かれることがあります（教義と聖約 130：23 参照）。しかしこの導きは、バプテスマと聖霊の賜

教師へ一生徒や家族に、次の活動のうち一つ以上を勧めるとよいでしょう。（1）章の最後にある参照聖句を読み、現世の道^{みち}のりを通じて聖霊がどのように助けてくださるかについて話し合う。（2）聖霊の賜物を授かっているおかげでもたらされた祝福について話す。（3）聖霊の賜物とは何か、聖霊がどのようにわたしたちと交わられるかを子供に理解させるために、親にできることについて話し合う。

物を受けるための^{あんしゆ}按手を受けなければ継続しません。使徒行伝 10 章には、ローマの百卒長コルネリオが聖霊から靈感を受けてイエス・キリストの福音が真実であることを知ったと記されています。しかし、バプテスマを受けるまでは、聖霊の賜物は与えられませんでした。預言者ジョセフ・スミスは、もしコルネリオがバプテスマと聖霊の賜物を受けなかったならば、聖霊は彼から離れて行かれたであろうと教えています（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』97 参照）。

現在、教会員でない人たちは、聖霊の力によりモルモン書が真実であると知ります（モロナイ 10：4－5 参照）。しかし聖霊の賜物を受けなければ、当初の証は消えてしまいます。聖霊の賜物を持つ人が得られるような、永続する確信を受けることはないのです。

聖霊の賜物を受ける

- 聖霊を常に^{はんりよ}伴侶とするためには、どのようなことを行わなければならないでしょうか。

人々はバプテスマを受けた後に、按手によって教会員に確認され、聖霊の賜物を授かります。主は次のように言われました。「また、あなたがたは信仰を持っている人々を、わたしの教会で按手によって確認しなければならない。そうすれば、わたしは彼らに聖霊の賜物を授けよう。」（教義と聖約 33：15）

教会の、資格あるすべての長老は、認可された場合、聖霊の賜物を受けることができます。しかしながら、長老から按手を受けただけで、聖霊の導きや靈感を得られるという保証はありません。各自が「聖霊を受け」なければなりません。すなわち忠実であって、聖霊という天の使者の助けを願うときのみ、聖霊の訪れを受けるのです。

聖霊の助けを得るにふさわしくなるためには、熱心に神の戒めに従うように努力しなければなりません。思いと行いを清く保つ必要があります。

聖霊の影響力を認識する

聖霊は普通、静かに語りかけられます。聖霊の影響力はしばしば「静かな細い声」と表現されます（列王上 19：9－12；ヒラマン 5：30；教義と聖約 85：6 参照）。ボイド・K・パッカー会長は次のように説明しています。「聖霊の声は聞くというより感じるものです。……^{みたま}御霊のささやきに『耳を傾ける』ことについて語るとき、その霊的な促しを指して『わたしは……と感じました』と言うことが多いようです。……」そしてこう続けています。「この御霊の声は静かで、皆さんに何をし、何を言うべきか勧めてくれたり、あるいは何

かに注意するように警告してくれたりすることもあるでしょう。』（『聖徒の道』1995年1月号, 65）

神の最も大いなる賜物の一つ

- 聖霊の賜物を通して、どのような祝福を受けられるでしょうか。

聖霊の賜物は神の最も大いなる賜物の一つです。聖霊を通して、神が生きておられ、イエスがキリストであられ、主の教会が再び地上に回復されたことを知ることができます。聖霊の促しを受けることができ、それはすべきことをすべて示してくれます（2ニーファイ 32：5 参照）。聖霊はわたしたちを聖め、神の前に行く備えをさせていただきます。わたしたちは御霊の賜物を享受することができます（本書第 22 章参照）。天の御父のこの大いなる賜物のおかげで、心に平安を得、神に関する事柄を理解することができます（1コリント 2：9 - 12 参照）。

- 聖霊の賜物が神の最も大いなる賜物の一つであるのはどうしてでしょうか。

参照聖句

- 1 コリント 3：16 - 17；教義と聖約 130：22 - 23（聖霊は忠実な人に宿られる）
- 使徒 19：1 - 7（いにしへの時代に授けられた聖霊の賜物）
- モロナイ 8：25 - 26（聖霊を受ける方法）
- モロナイ 10：5（真理について証される聖霊）
- モーサヤ 5：2（聖霊は心を変えてくださる）
- アルマ 5：54（聖霊は聖めてくださる）

第 22 章

みたま たまもの 御霊の賜物

御霊の賜物

- 主はどんな御霊の賜物を与えてくださるでしょうか。

バプテスマを受けた後、一人一人が聖霊の賜物を授かるために^{あんしゅ}按手を受けます。そして忠実であれば絶えず聖霊の影響力を受けることができます。聖霊を通して、わたしたち一人一人は「御霊の賜物」と呼ばれる種々の霊的な力を授かることができます。これらの賜物はキリストに忠実な人にもみ与えられます。「これらすべての賜物は、神の子たちを益するために神から来る。」(教義と聖約 46 : 26) 御霊の賜物は、福音の真理を理解し、教えるうえで助けとなります。人に祝福をもたらせるように助けてくれます。わたしたちは天の御父のみもとに戻れるように導かれるのです。賜物を賢明に用いるためには、賜物について理解するとともに、賜物を伸ばす方法や、サタンから来る偽りの賜物を見分ける方法を知る必要があります。

聖文には数多くの御霊の賜物があることが記されています。これらの賜物は、この世にまことの教会が存在したときにはいつでも教会員に与えられてきました(マルコ 16 : 16 - 18 参照)。御霊の賜物には以下のようなものがあります。

異言の賜物(教義と聖約 46 : 24)

時としてわたしたちは、不慣れた言語で福音を伝える必要があります。このようなとき、主はその言語を話す能力をお与えになれます。大勢の宣教師が異言の賜物を授かっています(本章の写真を参照)。次のような話があります。オランダで伝道していたアロンゾ・A・ヒンクレー長老は、熱心に祈り、勉強したにもかかわらず、オランダ語がほとんど分からず、話すことができま

教師へ——次のように行うとよいでしょう。生徒や家族に、本章に挙げてある霊的な賜物を各自で読み、詳しく学びたいものを二つ選んでもらってください。レッスンの中で時間を与え、選んだ賜物について書かれた段落と聖句を各自で研究させてください。研究する時間を取った後、学んだことを発表してもらってください。



せんでした。あるとき、以前に訪問したことのある家を訪れると、中から女性が出て来て腹立たしげにオランダ語でまくし立てました。すると驚いたことに、ヒンクレー長老はその一言一言が理解できたのです。ヒンクレー長老は女性にオランダ語で証^{あかし}を述べたいと強く感じ、話し始めたところ、口から出てきた言葉は非常に正確なオランダ語でした。しかし、伝道部長にオランダ語を話せたことを知らせようと戻ったときには、すでにその能力を失っていました。これまで多くの忠実な教会員が異言の賜物に恵まれています。(ジョセフ・フィールディング・スミス、*Answers to Gospel Questions*, ジョセフ・フィールディング・スミス・ジュニア編, 全 5 巻 [1957 - 1966 年], 第 2 巻, 32 - 33 参照)

異言を解釈する賜物 (教義と聖約 46 : 25)

この賜物が与えられるのは、言語を理解できないにもかかわらず神から重要なメッセージを受けなければならない場合です。例えば、デビッド・O・マッケイ大管長はニュージーランドで、通訳なしで聖徒たちに話したいと心に強く感じたことがありました。大管長は、「皆さんがわたしの言葉を理解できるように主の祝福を願っています」と述べて英語で話し始めました。話はおよそ 40 分続きましたが、話をしながら、大勢の聖徒たちの表情や、目に光る涙を見て、大管長は彼らがメッセージを理解していることが分かりました。(Answers to Gospel Questions, 第 2 巻, 30 - 31 参照)

翻訳の賜物 (教義と聖約 5 : 4)

教会の指導者から主の言葉を翻訳するよう召された人々は、本来の能力以上に翻訳する賜物を頂くことができます。すべての賜物と同様に、義にかなう生活をして熱心に学び、その賜物を得るために祈らなければなりません。そうするときに、主は心を燃え立たせて、翻訳が正しくできたことを感じさせてくださいます (教義と聖約 9 : 8 - 9 参照)。ジョセフ・スミスは翻訳の賜物を授かってモルモン書を翻訳しましたが、この賜物は御霊を受けるにふさわしいときにだけ与えられました。

知恵の賜物 (教義と聖約 46 : 17)

人の気持ちを理解する能力や、福音の原則を理解して生活に取り入れる能力に恵まれている人もいます。聖書には次のように記されています。

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず、惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

ただ、疑わないで、信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている。

そういう人は、主から何かをいただけるもののように思うべきではない。」(ヤコブの手紙 1:5 - 7)

主は次のように言っておられます。「富を求めずに、知恵を求めなさい。そうすれば、見よ、神の奥義はあなたに明らかにされ……る。」(教義と聖約 6:7)

知識の賜物 (教義と聖約 46:18)

人は天の御父のようになり、やがてすべての事柄を知るようになります。神と神の律法に関する知識は聖霊を通して明らかにされ (教義と聖約 121:26 参照)、これらの律法に無知であれば人は救われることができません (教義と聖約 131:6 参照)。

主は次のように啓示しておられます。「もしある人が精励と従順によって、この世でほかの人よりも多くの知識と英知を得るならば、来るべき世でそれだけ有利になる。」(教義と聖約 130:19) 主は御業みわざに関してできるかぎり学ぶように命じておられます。すなわち、天と地のこと、すでに起こったことやこれから起こること、また国内や国外のことについて学ぶよう望んでおられます (教義と聖約 88:78 - 79 参照)。しかし、中には自分自身の勉学のみを頼って知識を得ようとし、聖霊の助けを求めない人がいます。このような人は常に学んではいますが、いつになっても真理に到達することができません (2 テモテ 3:7 参照)。聖霊からの啓示を通して知識を得るとき、御霊がその人の思いと心に語りかけられます (教義と聖約 6:15, 22 - 24; 8:2; 9:7 - 9 参照)。

知恵と知識を教える賜物 (モロナイ 10:9 - 10)

福音の真理を説き、証する特別な才能に恵まれている人もいます。この賜物はクラスで生徒に教えるとき、親が子供に教えるときに使うことができます。さらに、相手が福音を理解できるよう、この賜物の助けを得て教えることができます。

イエス・キリストが神の御子であられると知る賜物 (教義と聖約 46:13)

これはイエス・キリストの特別な証人として召された預言者と使徒の賜物ですが、ほかの人にも授けられます。あらゆる人が聖なる御霊のささやきを通して証を得ることができます。デビッド・O・マッケイ大管長は次のように教えています。「主は教義と聖約の中で、ある人々には、イエス・キリストが神の子であられ、世の罪のために十字架につけられたことを知ることが、聖霊に

よって許されると言っておられます〔教義と聖約 46：13 参照〕。このような人々は、啓示の岩にしっかりと立って世界に証を宣べます。^{あかし}の証を宣べます。)(『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』166)

人の証を信じる賜物 (教義と聖約 46：14)

聖霊の力を通して、すべての物事の真理を知ることができます。ある人の話が真実かどうか知りたいとき、信仰をもって神に尋ねる必要があります。もし祈る事柄が真実であれば、主は心に平安を与えてくださるでしょう (教義と聖約 6：22 - 23 参照)。このようにして、預言者やだれかほかの人が確かに啓示を受けたのだと知ることができます。ニーファイは、父親が見た夢が真実であることを見て味わい、知りたいと主に願いました (1 ニーファイ 10：17 - 19 参照)。

預言の賜物 (教義と聖約 46：22)

過去、現在、未来に関する真実の啓示を受ける人々は預言の賜物を持っています。預言者はこの賜物を持っていますが、わたしたちも自分の生活を整えるために持つことができます (1 コリント 14：39 参照)。わたしたちは自分自身あるいは自分の召しに関して神から啓示を受けることができます。しかし、教会やその指導者について啓示を受けることは決してありません。自分の管理しないだれかについて啓示を受けることは、天の秩序に反するからです。真実の預言の賜物を持つ人であれば、主が聖文の中で言われたことに反するいかなる啓示も受けません。

癒^{いや}しの賜物 (教義と聖約 46：19 - 20)

ある人には癒す信仰があり、またある人には癒される信仰があります。すべての人は病気を癒される信仰を働かせることができます (教義と聖約 42：48 参照)。多くの神権者は病人を癒す賜物が与えられています。そのほか、病気の治療に関する知識が与えられる人もいます。

奇跡を行う賜物 (教義と聖約 46：21)

主は超自然的な方法で何度も主の民を祝福してこられました。ユタ州の開拓者が初めて作物を植えた年に、イナゴの大群が襲いかかり、作物を食い尽くす寸前になりました。開拓者は作物を守ってくださるよう主に祈りました。すると主はカモメを送ってイナゴを滅ぼされたのです。助けを必要とし信仰をもって願い求めるとき、それがわたしたちのためになるならば、主は奇跡を行ってくださいます (マタイ 17：20；教義と聖約 24：13 - 14 参照)。

信仰の賜物 (モロナイ 10 : 11)

ヤレドの兄弟は偉大な信仰の持ち主であり、その信仰のゆえにほかの賜物も得ました。信仰がきわめて篤^{あつ}かったので、救い主は御姿を彼に現されました (エテル 3 : 9 - 15 参照)。信仰がなければほかのいかなる賜物も得ることはできません。モロナイは次のように約束しています。「何も疑わな^{みすがた}いでキリストを信じる者には、キリストの名によって御父に求めるものは何でも与えられるであろう。」(モルモン 9 : 21) わたしたちは信仰を増し、与えられた賜物を知り、それをを用いるように努めるべきです。

ある人は信仰に欠け、御霊の賜物が実際にあることを否定します。そのような人に対してモロナイは次のように語りました。

「さらに、神の啓示を否定して、啓示はやんでしまった、今は啓示も、預言も、賜物も、癒しも、異言で語ることも、異言の解釈もないと言うあなたがたにわたしは告げる。

見よ、あなたがたに言うが、これらのことを否定する者は、キリストの福音を知らない者、まことに、聖文を読んだことのない者である。もし読んだことがあれば、聖文を理解していない。」(モルモン 9 : 7 - 8)

- 主はなぜ霊的な賜物をわたしたちにお与えになるのでしょうか。

賜物は伸ばすことができる

- どうすれば「熱心に最善の賜物を求め」ることができるでしょうか (教義と聖約 46 : 8)。

主はこのように言われました。「すべての人があらゆる賜物を与えられるわけではない。賜物は多くあり、各人に神の御霊によって一つの賜物が与えられるのである。ある人にはある賜物、またある人には別の賜物が与えられて、すべての人がそれによって益を得られるようになっている。」(教義と聖約 46 : 11 - 12)

賜物を伸ばすには、自分が持つ賜物を知らなければなりません。これは断食と祈りによって知ることができます。わたしたちは最善の賜物を求めるべきです (教義と聖約 46 : 8 参照)。また、祝福師の祝福によって、与えられている賜物を知ることができます。

賜物を得るためにわたしたちは従順で忠実でなければなりません。また、賜物は主の業を行うために使わなければなりません。賜物は、好奇心を満足させたり、信仰に欠ける人に何かを立証するために与えられるものではありません。霊的な賜物について主は次のように言われています。「それらは、わた

しを愛してわたしのすべての戒めを守る者たちと、そうしようと努める者たちのために与えられる。」(教義と聖約 46:9)。

- 自分自身を強めたり、主や人に仕えたりするのに役立つであろう霊的な賜物について考えてください。これらの賜物を求めるために何をしますか。

サタンは御霊の賜物をまねる

- どうすれば真実の御霊の賜物とサタンの偽りを見分けることができますでしょうか。

サタンは異言の賜物や預言の賜物、示現の賜物、癒しの賜物、そのほかの奇跡を行う賜物をまねることができます。モーセはパロの宮廷でサタンの偽りの力と競わなければなりません(出エジプト7:8-22 参照)。サタンは、わたしたちに偽りの預言者や、病気を癒す者、奇跡を行う者を信じさせたいと願っています。偽りの力は真実の賜物に非常によく似ているように見えることがあるので、見分ける唯一の方法は識別の賜物を求めて神に祈ることです。悪魔は自ら光の天使となって現れることができます(2 ニーフアイ 9:9 参照)。

サタンは人々が真理に目を閉ざし、真実の御霊の賜物を求めなくなることを望んでいます。霊媒や占星術師、易者、魔術師などは、たとえ神に従うと宣言してもサタンから靈感を受けているのであり、彼らの行いは主の前に忌まわしいものです(イザヤ 47:12-14; 申命 18:9-10 参照)。わたしたちはサタンの力とかかわりを持つことを一切避けるべきです。

与えられた御霊の賜物を大切にす

- 霊的な賜物の神聖さを尊重するにはどうしたらよいでしょうか。

主は次のように言っておられます。「わたしは一つの戒めを彼らに与える。彼らはこれらのことを自慢してはならないし、世の人々の前でこれらを語ってもならない。これらのことはあなたがたの益のために、また救いのために、あなたがたに与えられるからである。」(教義と聖約 84:73) わたしたちは、霊的な賜物が神聖であることを心に留めなければなりません(教義と聖約 6:10 参照)。

主はこれらの賜物を与えることに対し、「与えられる祝福が何であろうと、[わたしたち]は御霊によって神に感謝を」するよう求めておられます(教義と聖約 46:32)。

参照聖句

- 3 ニーファイ 29 : 6 - 7 (賜物を否定する者の行く末)
- モロナイ 10 : 7 - 19 (信仰を基とする賜物)
- 3 ニーファイ 26 : 17 ; 27 : 20 ; 教義と聖約 84 : 64 (バプテスマの際に与えられる賜物)
- 1 コリント 12 章 (イエス・キリストの古代の教会における御霊の賜物)
- 教義と聖約 46 : 9 - 26 (今日の教会における御霊の賜物)

第 23 章

せい さん 聖 餐

キリストにより始められた聖餐

- 聖餐の象徴は、イエス・キリストの贖罪^{しよくざい}について何を教えているでしょうか。

救い主はわたしたちが尊い贖い^{あがな}の犠牲を覚え、主の戒めを守るように望んでおられます。そのために、度々集まって聖餐を受けるようにお命じになりました。

聖餐は救い主の贖いを思い起こさせる聖なる神権の儀式です。聖餐の儀式の中で、わたしたちはパンと水をともに受けます。この儀式は、人類のために犠牲としてささげられた救い主の肉と血を記念して行われます。聖餐を受けることにより、天の御父と交わした神聖な聖約を新たにします。

十字架にかけられる少し前に、イエス・キリストは使徒たちを2階の部屋に集められました。イエスは御自分が間もなく十字架の上で亡くなることを御存じでした。死ぬ前に愛する弟子たちとお会いになるのは、これが最後でした。イエスは、弟子たちがイエスをいつも覚え、強く忠実であるように願っておられました。

弟子たちに御自分のことを覚えさせるために、主は聖餐を始められました。まずイエスはパンを裂いて祝福し、次のように言われました。「取って食べなさい。これはあなたがたのために贖いとして与えるわたしの体を記念するものである。」(ジョセフ・スミス訳マタイ 26:22) 次に、主はぶどう酒の杯^{ゆる}を取り、祝福し、使徒たちに与えて飲むように言われました。「これは、罪の赦しを得させるようにと、わたしの名を信じるすべての人のために流すわたしの……血を記念するものである。」(ジョセフ・スミス訳マタイ 26:24。マタイ 26:26 - 28; マルコ 14:22 - 24; ルカ 22:15 - 20 も参照)

復活後、救い主はアメリカ大陸を訪れ、そこでニーファイ人に同じ儀式をお教えになりました(3 ニーファイ 18:1 - 11; 20:1 - 9 参照)。末日に教会が回復されると、イエスはその民に主を記念する聖餐を受けるように再び命じ



Simon Dewey

て言われました。「教会員は、主イエスの記念としてパンとぶどう酒を受けるために、しばしば集まる必要がある。」(教義と聖約 20 : 75)

聖餐の執行方法

聖文には聖餐を執行する方法が明確に記されています。教会員は、礼拝し、聖餐を受けるために安息日ごとに集まります(教義と聖約 20 : 75 参照)。聖餐は、必要な神権の権能を持つ神権者により執行されます。祭司あるいはメルキゼデク神権者がパンを裂き、ひざまずいて祝福します(教義と聖約 20 : 76 参照)。執事あるいはほかの神権者が聖餐のパンを会衆に配ります。その後、祭司かメルキゼデク神権者が水を祝福し、同じようにして会員に配ります。聖餐を初めて教えられたとき、イエスは弟子たち**に**ぶどう酒をお与えになりましたが、末日の啓示の中で主は、主の記念として行われるかぎり聖餐として何を食べ、何を飲もうとも差し支えないと言われました(教義と聖約 27 : 2 - 3 参照)。今日、末日聖徒はぶどう酒の代わりに水を用いています。

イエスはパンと水を祝福する聖餐の祈りの正確な言葉を啓示されました。わたしたちはこの美しい祈りの言葉に注意深く耳を傾け、主と交わす約束、また主から受ける約束を理解するように努めるべきです。パンを祝福するためにささげる祈りの言葉は次のとおりです。

「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このパンを頂くすべての人々が、御子の体の記念にこれを頂けるように、また、進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守ることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、いつも御子の御霊を受けられるように、このパンを祝福し、聖めてください。アーメン。」(教義と聖約 20 : 77)

水を祝福するためにささげる祈りの言葉は次のとおりです。

「永遠の父なる神よ、わたしたちは御子イエス・キリストの御名によってあなたに願い求めます。このぶどう酒〔水〕を頂くすべての人々が、この人々のために流された御子の血の記念にこれを頂けるように、また、いつも御子を覚えていることを、永遠の父なる神よ、あなたに証明して、御子の御霊を受けられるように、このぶどう酒〔水〕を祝福し、聖めてください。アーメン。」(教義と聖約 20 : 79)

聖餐の儀式はごく簡素に、また敬虔に執り行われます。

- 聖餐の祈りを注意深く見直し、一つ一つの言葉の意味について考えてみてください。

聖餐を通して新たにする聖約

- 聖餐の間、わたしたちはどのような聖約を新たにするでしょうか。聖約を守るとき、主はどのような祝福を約束しておられるでしょうか。

聖餐を受ける度に、主との聖約を新たにします。聖約とは、主とその子供たちの間で交わされる神聖な約束です。わたしたちが主と交わす聖約は聖餐の祈りの中で明確に述べられています。この聖約が何であり、どのような意味があるかを知ることは重要です。

わたしたちはイエス・キリストの名を喜んで受けることを聖約します。つまり、キリストとキリストの教会に属する会員であることを喜んで表明します。主と同胞はらからに仕えることを決意します。主の名を辱めたり傷つけたりするようなことはしないと約束するのです。

さらに、イエス・キリストをいつも覚えることを聖約します。思いや感情、行いのすべてが、イエスとその使命から影響を受けるでしょう。

わたしたちは主の戒めを守ることを約束します。

わたしたちはバプテスマを受けるときに以上の義務を負います（教義と聖約 20：37；モーサヤ 18：6－10 参照）。こうして、聖餐を受けるとき、バプテスマのときに交わした聖約を新たにするのです。イエスは聖餐を受けるときの規範を定められました（3 ニーファイ 18：1－12 参照）。そして、わたしたちが罪を悔い改め、主の名を信じてこの規範に従うときに、罪の赦しを受けると言われました（ジョセフ・スミス訳マタイ 26：24 参照）。

主は、わたしたちが聖約を守れば、主の御霊は常にわたしたちとともにあると約束しておられます。御霊に導かれる人は、永遠の命を得るために必要な知識、信仰、力、義を受けるでしょう。

- 一週間を通してこれらの約束を心に留めるにはどうすればよいでしょうか。

聖餐を受けるときの態度

- 聖餐を受けるための個人の準備として、どのようなことができるでしょうか。救い主の贖罪を心に留めるようにするには、聖餐の間どのようなことについて考えればよいでしょうか。

教師へ—— 生徒の多くが親である場合には、子供が敬虔けいけんに聖餐せいさんを受けられるようにどのように備えさせることができるかについて、アイデアを話してもらおうとよいでしょう。

聖餐を受ける前に、自らを霊的に整えなければなりません。主はだれもふさわしくないままで聖餐にあずかってはならないと強調しておられます。これは、聖餐を受ける前に罪を悔い改める必要があるという意味です。聖文には次のように記されています。「だれかが過ちを犯したならば、和解するまで彼に聖餐を受けさせないようにしなさい。」(教義と聖約 46:4) 主はニーファイ人の十二弟子に次のように指示されました。「わたしの肉と血を分け与えるとき、だれであってもふさわしくないままでわたしの肉と血にあずかることを、承知のうえで許してはならないということである。ふさわしくないままでわたしの肉を食べ、血を飲む者は、そうすることで自分に罰の定めを招くからである。」(3 ニーファイ 18:28 - 29)

聖餐式の間、心の中からあらゆる俗的な思いを捨て去り、敬虔な祈りの気持ちを抱かなければなりません。救い主の贖罪を思い起こし、感謝すべきです。また、生活を省みて改善点を探し、戒めを守る決意を新たにしなければなりません。

聖餐を受ける前に完全である必要はありませんが、心に悔い改めの精神がなければなりません。聖餐を受けるときの態度により、何を得るかが左右されます。清い心で聖餐を受けるならば、わたしたちは主の約束された祝福を得ます。

- ふさわしい状態で聖餐を取ると、どうして霊的な力が増し加えられると思いますか。

参照聖句

- 1 コリント 11:27 - 29 (ふさわしい状態で聖餐を受ける)
- ヨハネ 4:5 - 14 (イエスは生ける水である)
- ヨハネ 6:30 - 35 (イエスは命のパンである)



第 24 章

あんそくにち 安息日

安息日の意味

- 安息日とは何でしょうか。

「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」(出エジプト 20 : 8。教義と聖約 68 : 29 も参照)

安息日を表す英語の Sabbath という言葉は、「休息」を意味するヘブライ語に由来します。イエス・キリストの贖罪しよくざいと復活以前には、安息日は神が創造をなし終えて休まれた日を記念するものであり、神とその民の間の聖約のしるしでした。創世記には、神が6つの時期に天と地とを創造されたことが記されています。この一つの時期を神は1日と呼ばれました。「神は第七日にその作業を終えられた。すなわち、そのすべての作業を終おわって第七日に休まれた。神はその第七日を祝福して、これを聖別された。」(創世 2 : 2 - 3) 現在、安息日はイエス・キリストの復活を記念する日でもあります。

安息日は7日ごとに訪れます。この日は日々の仕事を休み、神を礼拝するために神により定められた聖日です。

安息日の目的

- 安息日について知らない人に安息日の目的をどのように説明したらよいでしょうか。

イエスは、安息日は人のためにあると教えられました(マルコ 2 : 27 参照)。安息日の目的は、1週間のうちある日を定め、思いや行いを神に向けられるようにすることです。単に仕事を休む日ではなく、神を礼拝し敬虔けいけんな思いで過ごす神聖な日です。普段の日常的な活動を休み、わたしたちの心は開放され霊みたま的な事柄をじっくり考えられます。この日には、主と交わした聖約を新たにし、御霊にかかわることで魂を養う必要があります。

- 毎週安息日の準備をするときに安息日の目的を心に留めることができるように、どのようなことができるかを考えてください。

安息日の歴史

世の初めから、神は7日目を安息日として聖別されました（創世2:2-3参照）。ごく初めの時代から、7日目を神聖な日とする慣習は地上の様々な民に受け継がれてきました。神はイスラエルの民に対し、この日に関する戒めを再度新たにして、言われました。「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」（出エジプト20:8）安息日を守ることは、イスラエルの民が神の聖約の民であることを示すしるしでもありました（出エジプト31:12-13, 16；イザヤ56:1-8；エレミヤ17:19-27参照）。

しかし、一部のユダヤ人指導者は、安息日に関してたくさんの不要な掟^{おきて}を定め、歩いてもよい距離や、結んでもよいひもの結び方などを決めました。あるユダヤ人指導者から、安息日に病人を癒^{いやす}したことを非難されたイエス・キリストは、安息日が人のためにあることを思い起こさせられました。

ニーファイ人も神の戒めに従って安息日を守っていました（ジェロム1:5参照）。

現在、主は再びこの戒めを繰り返し、安息日を覚えてこれを聖なる日として保つようと命じられました（教義と聖約68:29参照）。

主の日

- 安息日が週の7日目から初めの日に変わったのはなぜでしょうか。

イエス・キリストが復活されるまで、イエスは弟子たちと7日目を安息日として守ってこられました。イエスが復活された後、復活されたその日を記念して、日曜日が主の日として神聖視されました（使徒20:7；1コリント16:2参照）。このとき以来、イエスに従う人たちは週の初めの日を安息日として守ってきました。いずれの場合も、6日間働き、1日を休息と礼拝の日にしたのです。

^{こんにち}今日、主はわたしたちに直接戒めを与え、日曜日すなわち主の日を安息日として守るように命じられました（教義と聖約59:12参照）。

- 復活を思い起こすことによって、安息日の礼拝はどのように変わってくるでしょうか。

安息日を聖く保つ^{きよ}

- 安息日を聖く保つとはどういう意味でしょうか。

第1に、主は安息日を「聖別せよ」と言われました。1831年にジョセフ・スミスに与えられた啓示の中で、主は聖徒たちに、祈りの家に行って聖式をささげ、仕事を休み、いと高き御方に礼拝をささげよと命じられました（教義と聖約 59：9 - 12 参照）。

第2に、主は日々の仕事を休むように言われました。これは、霊的な事柄に意識を集中するのを妨げるような仕事を行うべきではないという意味です。主はイスラエルの民に次のように言われました。「なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜……もそうである。」（出エジプト 20：10）現代の預言者は、買い物、狩猟、釣り、スポーツ、あるいはこれらに類する活動を安息日に行うべきではないと語っています。

しかし、スペンサー・W・キンボール大管長は、ただ何もしないでぶらぶら過ごすことが安息日を聖く保つことではないと忠告しています。安息日には建設的な考え方と行動が要求されるのです（『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』170 参照）。

では、安息日に何をすることができのでしょうか。預言者イザヤは、自分だけの楽しみから離れて「安息日を喜びの日と呼び、主の聖日を尊ぶべき日となえ」るように勧めています（イザヤ 58：13）。

わたしたちは安息日に行える義にかなったことをよく考えるべきです。例えば、次のようなことを行って、安息日を聖く保つことができます。教会の集會に出席する。聖文や教会指導者の言葉を読む。病人や老人、愛する人を訪ねる。心を高める音楽を聴き、賛美歌を歌う。賛美と感謝をささげる気持ちで天の御父に祈る。教会の責任を果たす。家族歴史の記録や個人の歴史を作成する。家族で信仰を強める話をし、証を述べ、^{あかし}霊的な経験を分かち合う。宣教師や愛する人に手紙を書く。目的を持って断食する。家庭で子供やそのほかの人たちとともに過ごす。

このほか安息日にふさわしい活動を選択するとき、次のように自問すべきです。「この活動はわたしを高め、靈感を与えてくれるだろうか。主を敬う気持ちを示すものだろうか。思いを主に向けてくれるだろうか。」

教師へ——熟考する時間を与えることによって、生徒や家族が質問についてより深く考えられるようにすることができます。十分な時間を取った後に答えを求めてください。

安息日に働くよう求められることがあります。これは極力避けるべきですが、どうしても避けられない場合でも、可能なかぎり、心に安息日の礼拝の精神を保つようにすべきです。

- 安息日を聖く保つようにいっそう努力するために、できることを考えてください。子供や孫がいる場合は、彼らが安息日の意味を理解できるようにどのような助けができるか考えてください。

安息日を守る人への祝福

- 安息日を聖く保つとき、どのような祝福を受けるでしょうか。

安息日を守るなら、霊的にも物質的にも大きな祝福を受けるでしょう。もし感謝と楽しげな心をもって安息日を守るなら、喜びに満たされると主は言われました。そして、次のように約束しておられます。

「地に満ちているもの……は、あなたがたのものとなる。……これらのものは、食物のため、または衣服のため、または家屋のため、または小屋のため、または果樹園のため、または菜園のため、またはぶどう園のために用いられる。

まことに、季節に応じて地から生じるすべてのものは、人の益と利用のため、目を楽しませ、心を喜ばせるために造られている。

まことに、食物のため、また衣服のため、味のため、また香りのため、体を強くするため、また霊を活気づけるために造られている。」(教義と聖約 59:16 - 19)

参照聖句

- 出エジプト 31:16 - 17 (安息日は、主とその民との間の永遠の聖約である)
- モーサヤ 13:16 - 19; 18:23; 出エジプト 35:1 - 3; レビ 26:2 - 4, 6, 12 (安息日を聖日として守る)
- ルカ 6:1 - 11 (安息日に善いことをするのは律法にかなう)
- ルカ 13:11 - 17; ヨハネ 5:1 - 18 (安息日に善い行いをするイエスの模範)



第 25 章

断食

正しい断食の方法

- 断食を喜ばしい経験とするにはどうしたらよいでしょうか。

アダムの時代から、神の民は神に近づき礼拝するために、断食してきました。イエスは御自身の模範によって断食の重要性を示されました（ルカ 4：1 - 4 参照）。末日の啓示を通して、主がその民に現在も度々断食して祈るように望んでおられることが分かります（教義と聖約 88：76 参照）。

断食とは食べ物と飲み物を取らないことを言います。時々断食することは体に良く、精神をいきいきとさせるのに役立ちます。

救い主は、目的をもった断食は、ただ食べ物や飲み物を断つこと以上に意味があると教えられました。断食するときは、霊的な事柄に思いを集中しなければなりません。

祈りをもって断食する

祈りは断食に欠かせない要素です。聖文のどこを見ても、祈りと断食は一緒に記されています。断食は心からの祈りをもって行い、祈りにより始め、祈りにより終えるべきです。

目的をもって断食する

断食は様々な目的で行われます。断食と祈りにより、弱点や問題を克服することができます。家族が病気で祝福を必要とする場合のように、時々ほかの人のために助けと導きを求めて断食して祈ることもできます（モーサヤ 27：22 - 23 参照）。また断食を通して、モルモン書の預言者アルマのように、物事の真理を知るようになります。アルマは次のように述べています。「わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして

教師へ——生徒や家族を2-4人のグループに分け、断食を喜ばしい経験にする方法について話し合う機会を与えるとよいでしょう。その後、協力して、各自のアイデアを黒板や大きな紙などに書き出すようにしてください。

祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊みたまによってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。』(アルマ5:46)

ほかの人が真理を受け入れられるように断食することができます。悲しみや嘆きにあるときの断食は、慰めを与えてくれます(アルマ28:4-6 参照)。断食によって謙遜けんそんになり、天の御父をもっと近くに感じるすることができます(ヒラマン3:35 参照)。

人に見せるために断食してはなりません。主は次のように勧告しておられます。

「また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。

よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。

あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。それは断食をしていることが人に知れない……ためである。』(マタイ6:16-18)

断食するときは明るい表情をし、断食していることが知られないようにすべきです。

- 断食を通して得る経験は、わたしたちの態度によってどのように変わってくるのでしょうか。

断食日

末日聖徒は月に1回、日曜日に断食します。この日には続けて2食抜き、食べ物と飲み物を口にしません。土曜日の夕食を取ったとすれば、日曜日の夕食まで飲食を断つのです。

肉体的に断食できる状態にあるすべての会員は、断食すべきです。子供にはバプテスマを受けたら断食するように勧めるべきです。しかし決して無理強いしてはなりません。断食日は、断食と祈りを通して主の前にへりくだる特別な日です。罪の赦しと、弱点を克服する力を祈り求め、人を赦す日です。

教会員は断食日曜日に集まって聖餐せいさんを受けます。そして、断食証会だんじきあしかいで証を述べることにより自らを強め、互いをも強め合います。

- 断食証会で証を述べることでどのような恵みを得てきましたか。人の証を聞くことによって、どのような恵みを得てきましたか。

断食献金

- なぜ断食献金をささげるのでしょうか。

毎月断食するわたしたちに、困っている人を助けるよう主は求めておられます。その方法の一つが、断食した2食分に相当する現金を然るべき神権役員を通して差し出すことです。これは可能なかぎり惜しみなく差し出す必要があります。断食献金をささげることにより、わたしたちは主の協力者となり、恵まれない兄弟姉妹の必要を満たす助けをするのです。

断食は祝福をもたらす

- 正しい方法で断食するとき、どのような祝福を受けることができるでしょうか。

旧約聖書の預言者イザヤは、断食して乏しい者を助ける人々に主は豊かな約束を与えられる、と記しています。わたしたちは平安と、いっそうの健康と、霊的な導きを約束されています。イザヤは、断食するとき^{あかつき}に得られる祝福について次のように語っています。「そうすれば、あなたの光が暁のよう^{あかつき}にあらわれ出て、あなたは、すみやかにいやされ、あなたの義はあなたの前に行き、主の栄光はあなたのしんがりとなる。また、あなたが呼ぶとき、主は答えられ、あなたが叫ぶとき、『わたしはここにおる』と言われる。」(イザヤ 58:8-9)

断食は生活を向上させ、活力を増し加えてくれます。断食はわたしたちをさらに主に近づけてくれるので、福音のほかの原則に従ううえでも助けになります

断食により自制心を学ぶ

断食によって人格の強さが増します。正しい方法で断食することにより、食欲や激情を抑制できるようになります。自制心を備えていることを自らに身をもって示すことにより、少し強くなることができます。子供に断食することを教えるならば、彼らは将来直面するさらに強力な誘惑にも屈することのない霊的な力を身に付けるでしょう。

断食によって霊的な力を得る

分別と祈りをもって断食をするときに、信仰がはぐくまれ、その信仰からさらに霊的な力が生まれます。例えば、アルマ(モルモン書の預言者)は奇跡的な改宗をして長い年月を経てからモーサヤの息子たちに再会したことを語っています。アルマは友人たちが信仰を強め、驚くほど霊的な力を身に付けているのを知って、非常な喜びを感じました。モーサヤの息子たちがこの

力を得た理由が次のように記されています。「彼らはしばしば祈り、また断食もしたので、預言の霊と啓示の霊を受けていた。」(アルマ17:3)

モーサヤの息子たちは14年間レーマン人に福音を^の宣べ伝えていました。断食と祈りを行ったので、主の御^{みたま}霊が彼らの言葉の力を強めたのです。こうして、モーサヤの息子たちは伝道活動で大成功を収めることができました(アルマ17:4参照)。

救い主は正しい方法により断食をする人々に、次のように言われました。「隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。」(マタイ6:18)

- 断食によって、誘惑に抵抗する霊的な力がどのように増すでしょうか。啓示を受ける力や、義を行う力がどのように増すでしょうか。

参照聖句

- ルカ2:37;アルマ45:1(断食を通して神を礼拝する)
- イザヤ58:3-11(正しい断食)
- モーサヤ27:19,23(病人のために行う断食)
- 3ニーファイ27:1-3;出エジプト34:27-28(啓示と^{あかし}証を得るための断食)
- アルマ6:6;17:9(神を知らない人のために行う断食)
- 使徒13:2-3(教会役員を選ぶための断食)
- モーサヤ4:26(困っている人を助けるときに、自分の罪の赦しを保つことができる)

第 26 章

犠 牲

犠牲の意味

犠牲とは、神の業を推し進めるために、時間やこの世の財産、労力など、主が求められるものは何であろうと主にささげることです。主は次のように命じられました。「まず神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイ 6:33) 喜んで犠牲をささげるかどうか、神に対する献身の度合いを示します。人はその生活において、神のことを第一に行うか否かを常に試されています。

- 主から求められるとき、見返りを期待せずに犠牲をささげることが大切なのはなぜでしょうか。

昔、犠牲の律法が実施されていた

- 昔、主の聖約の民が執り行っていた犠牲には、どのような意味があったのでしょうか。

アダムとエバの時代からイエス・キリストの時代まで、主の民は犠牲の律法を守ってきました。民は群れの初子^{ういご}を犠牲としてささげるように命じられていました。こうした動物は完全で傷のないものでなければなりません。この儀式は、天の御父の長子であるイエス・キリストの降誕を思い出させるために与えられました。イエスはあらゆる点において完全であり、人類の罪のために自らを犠牲としてささげられるのです。(モーセ 5:5 - 8 参照)

イエスは事実この世においでになり、あらかじめ知らされていたとおりに自らを犠牲としてささげられました。イエスの犠牲により、すべての人は復活して肉体の死から救われ、イエス・キリストを信じる信仰により自分の罪から救われるようになったのです(本書第 12 章参照)。

教師へ—— 各章の内容をすべて教える必要はありません。教える準備をしながらよく祈り、章のどの部分を探り上げ、どの質問を尋ねるべきかを知ることができるよう、御霊の導きを求めてください。



キリストの贖いの犠牲は血を流す犠牲の終わりを告げるものでした。そのような外形的な犠牲に取って代わったのが聖餐せいさんの儀式です。聖餐の儀式は、救い主の偉大な犠牲を思い起こすために与えられました。わたしたちは度々聖餐を受ける必要があります。象徴としての聖餐のパンと水は、傷ついた救い主の体とわたしたちのために流された血とを思い出させてくれます（本書第 23 章参照）。

- 贖罪しょくざいが最後の大きいなる犠牲と考えられているのはどうしてでしょうか。

わたしたちは今日も犠牲を払わなければならない

- 今日のわたしたちは、どのように犠牲の律法を守っているでしょうか。

血を流す犠牲は終わりを告げましたが、主は現在もわたしたちに犠牲をささげるよう望んでおられます。しかし、今日主が求められる犠牲は古代のそれとは異なっています。主は次のように言われました。「あなたがたは、もはや血を流すことをわたしへのささげ物としてはならない。あなたがたの……燔祭はんさいは取りやめなさい。……あなたがたは打ち砕かれた心と悔いる霊を、犠牲としてわたしにささげなさい。」（3 ニーファイ 9：19 - 20）「打ち砕かれた心と悔いる霊」とは、自分の罪を深く悲しみ、謙遜けんそんになって罪を悔い改めることです。

持っているものすべてを喜んで主にささげなければならない

- 人々が進んで犠牲を払うのはどうしてでしょうか。

使徒パウロは、わたしたちが「神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物」になるべきであると述べています（ローマ 12：1 参照）。

わたしたちが生きた供え物になるのであれば、地上に神の王国を打ち立て、シオンを起こすために、自分の持っているものすべてを末日聖徒イエス・キリスト教会に喜んでささげられるようであればなりません（1 ニーファイ 13：37 参照）。

若くて裕福な役人が救い主にこう尋ねました。「何をしたら永遠の生命が受けられましようか。」イエスは答えて言われました。「いましめはあなたの知っているとおりである、『姦淫するな、殺すな、盗むな、偽証を立てるな、父と母とを敬え。』』するとその裕福な青年は言いました。「それらのことはみな、小さい時から守っております。」イエスはこれ聞いて言われました。「あなたのする事がまだ一つ残っている。持っているものをみな売り払って、貧しい人々に分けてやりなさい。そうすれば、天に宝を持つようになろう。そして、わたしに従ってきなさい。」青年はこの言葉を聞いて悲しみました。大金

持ちで、富に心を奪われていたからです。(ルカ 18:18 - 23 参照。本章の絵も参照)

この若い役人は善人でしたが、イエスから求められたときに進んでこの世の財産をささげようとはしませんでした。これに反して、主の弟子であるペテロとアンデレは、神の王国のために喜んですべてを犠牲にしました。イエスが「わたしについてきなさい」と言われると、「彼らはすぐに網を捨てて、イエスに従った」のです(マタイ 4:19 - 20)。

この弟子たちのように、わたしたちは日々の働きを犠牲として主にささげることができます。「御心みこころが成りますように」と言うことができます。アブラハムもそうした一人です。アブラハムはキリストが誕生される以前、まだ犠牲と燔祭が要求された時代に地上に住んでいました。主はアブラハムの信仰を試すために、息子イサクを犠牲としてささげるように命じられました。イサクはアブラハムとサラの間の一人息子でした。イサクを犠牲としてささげるようにという命令は、アブラハムにとって堪え難いことでした。

それにもかかわらず、アブラハムとイサクは長い道のりを旅し、モリヤの山へ行きました。そこが燔祭をささげる場所でした。二人は3日間旅しました。このときのアブラハムの心情と苦しみを想像できるでしょうか。息子を犠牲として主にささげなければならないのです。モリヤの山に到着したとき、イサクはたきぎを背負い、アブラハムは火と刃物を持って、祭壇を築く場所に行きました。イサクは言いました。「父よ。……火とたきぎとはありますが、燔祭の小羊はどこにありますか。」アブラハムは答えて言いました。「子よ、神みずから燔祭の小羊を備えてくださるであろう。」そしてアブラハムは祭壇を築いてその上にたきぎを並べると、イサクを縛ってたきぎの上に乗せました。アブラハムは刃物を取ってイサクを殺そうとしました。その瞬間、主の使いが彼を呼んで言いました。「アブラハムよ、……わらべを手にかけてはならない。また何も彼にしてはならない。あなたの子、あなたのひとり子をさえ、わたしのために惜しまないので、あなたが神を恐れる者であることをわたしは今知った。」(創世 22:1 - 14 参照)

もはや息子を犠牲にする必要のないことを知ったとき、アブラハムはどんなにかうれしかったことでしょう。しかしながら、アブラハムの主への愛は、主に求められたすべてのことを進んで行うほど深いものでした。

- あなたが知っている人々の生涯から、これまでどのような犠牲の模範を見てくださいましたか。先祖の生涯や、初期の教会員の生涯、聖文に登場する人々の生涯から、どのような犠牲の模範を目にしてくださいましたか。これらの模範から、どのようなことを学んできましたか。

犠牲は神のみもとで生活する備えとなる

犠牲を通してのみ、わたしたちは神のみもとに住むのにふさわしくなれます。犠牲を通してのみ、永遠の命を享受することができるのです。これまで大勢の人が持てるもののすべてを犠牲にしてきました。彼らが受けたような豊かな報いを得たいと望むならば、わたしたちも同様に進んで犠牲を払わなければなりません。

わたしたちはすべてのものを犠牲にするようには求められないでしょう。しかし、主のみもとに住むのにふさわしくなるためには、アブラハムのように進んですべてを犠牲にしなければなりません。

主の民は様々な方法で常に大きな犠牲を払ってきました。福音のために苦難やあざけりを忍んできた人もいます。家族から絶縁された新しい改宗者や、生涯の友人を失った人もいます。また、職業や命さえも失った人々がいます。しかし主はこのような犠牲を承知しておられ、次のように約束されました。「おおよそ、わたしの名のために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、もしくは畑を捨てた者は、その幾倍もを受け、また永遠の生命を受けつぐであろう。」(マタイ 19:29)

福音の証^{あかし}がはぐくまれるに従って、主のためにいっそう犠牲を払うことが可能になります。以下にその実例を挙げましょう。

あるドイツの教会員は何年間も什分の一^{じゅうぶん}をため続けていたところ、ついに神権の権能を持つ人が来て、納めることができました。

扶助協会のある訪問教師は、30年間1回も欠かすことなく責任を果たしました。

南アフリカのある聖徒たちはバスに乗り、立ったままで3日間の旅をし、主の預言者に会って話を聞くことができました。

メキシコで地域大会が開かれたとき、教会員は大会の間中断食をして戸外で寝ました。皆、大会の会場に行くだけで資金を使い果たし、食事や宿泊に充てるお金が残っていなかったのです。

ある家族は神殿建築資金として献金するお金を作るために、自動車を売りました。

別の家族は家を売り、神殿に行く旅費を作りました。

たくさんの忠実な末日聖徒が経済的に厳しくても、什分の一と断食献金を納めています。

ある兄弟は日曜出勤を拒否したために、仕事を失いました。

ある支部の青少年は、親が集会所の建築を手伝っている間、子供たちを世話することを喜んで申し出ました。

若い男女が良い職業に就くチャンスや教育、スポーツをあきらめたり、延期したりして、伝道に出ています。

このように、主のために犠牲をささげている人の例はまだあります。しかし、天の御父の王国に一つの場所を得ることは、時間や才能、体力、財産、命さえ犠牲にしてもなお価値があります。犠牲を通して、わたしたちは主に受け入れられることを知ることができるのです（教義と聖約 97：8 参照）。

- 進んで犠牲をささげることが、神のみもとに住む用意をすることに関係しているのはなぜだと思いますか。

参照聖句

- ルカ 12：16 - 34（宝のある所に心もある）
- ルカ 9：57 - 62（王国にふさわしくなるための犠牲）
- 教義と聖約 64：23；97：12（今日は犠牲の日）
- 教義と聖約 98：13 - 15（主のために命を失う者はそれを得る）
- アルマ 24 章（アンモンの民は、主との聖約を破るよりは命を犠牲にする方を選んだ）

第 27 章

労働と個人の責任

労働は永遠の原則である

- これまで労働の大切さを感じたのはどのようなときでしょうか。

天の御父とイエス・キリストは模範と教えにより、労働が天においても地においても重要であることを示されました。神は天地を創造するために働かれました。神は水を一つの所に集めて海と乾いた地を設けられました。また、地上に草や植物、木を生じさせ、日や月、星を創造されました。また海と陸のあらゆる生物を造られました。それから、アダムとエバを地上に置き、地を管理させすべての生き物を治めさせられました（創世 1：1 - 28 参照）。

イエスは次のように言われました。「わたしの父は今に至るまで働いておられる。わたしも働くのである。」（ヨハネ 5：17）さらに言われました。「わたしたちは、わたしをつかわされたかたのわざを……しなければならない。」（ヨハネ 9：4）

人は働くように命じられている

アダムとエバがエデンの園から追放されて以来、労働は地上での生き方になりました。主はアダムに言われました。「あなたは顔に汗してパンを食べ……る。」（創世 3：19）アダムとエバは、自分と子供たちの生活を支えるために野に出て働きました（モーセ 5：1 参照）。

主はイスラエルの民に「六日のあいだ働いてあなたの……わざをせよ」と言われました（出エジプト 20：9）。

回復された教会の初期のころ、主は末日聖徒に次のように言われました。「ところで、主なるわたしはシオンに住む者を喜んでいない。彼らの中に怠惰な者たちがいるからである。」（教義と聖約 68：31）

教師へ——レッスンを生徒や家族が参加できるように助けてください。次のようなことでレッスンに貢献してもらうことができます。いすを並べる、開会や閉会の祈りをする、黒板に書く、聖文を声に出して読む、質問に答える、証する、レッスンを要約する。



神の預言者は「勤労が再び教会員の生活を貫く原則にならなければなりません」と述べました（ヒーバー・J・グラント『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』115）。

家族の責任

- 家庭生活を支えるために、父親、母親、子供にはどのような責任があるでしょうか。家族で仕事を分担するために、どのようなことができるでしょうか。

両親は協力して、家族の肉体的、霊的、情緒的な福利に必要なものを提供します。この責任をだれかに代わってもらおうなどと思ってはなりません。使徒パウロはこう語っています。「もしある人が、その親族を、ことに自分の家族をかえりみない場合には、その信仰を捨てたことになる……。」（1テモテ 5:8）

夫婦はそれぞれの責任を定めるに当たって、主の靈感を求め、預言者の勧告に従わなければなりません。福音の原則が日々教えられ、愛にあふれ秩序ある家庭を築くことは、基本的に必要な衣食を提供することと同様に重要です。

子供も当然、家の仕事を手伝います。子供の能力に応じた仕事の割り当てが必要です。また、何かを成し遂げたら、褒める必要があります。仕事に対する前向きな態度や習慣、技術は、家庭で物事を立派に成し遂げながら身に付いていきます。

家族を養おうと努めていながら、困難に遭遇する場合があります。慢性の病気になったり、配偶者を亡くしたり、高齢の親が同居したりすることで、家庭における責任がさらに加わることもあります。天の御父はそのような状況にある家族を御心にとどめておられ、義務を果たせるよう力を与えてくださいます。信仰をもって求めるなら、主はいつも祝福を下さるのです。

労働は楽しむことができる

- 心構えは仕事にどのような影響を及ぼしますか。

労働は退屈で苦勞するものだと考える人もあれば、刺激に富んだ人生の一部であると考え人もいます。最も有意義な人生を送る一つの方法は、労働を愛するようになることです。

すべての人が仕事を選べるわけではありません。中には最低限の生活必需品を得るために長時間労働し、仕事を楽しみにくい人もいます。しかし、最も幸せな人は、職種が何であれ自分の仕事を楽しむことを知っています。

わたしたちは助け合って仕事をすることができます。どんなに重い荷でもだれかの助けを借りれば軽くなるのです。

仕事に対する心構えは非常に大切です。次の話は、ある人が日々の労働にとらわれず、いかに物事を見通したかを示しています。ある旅行者が石切り場を通りかかると、3人の男が働いていました。何をしているのか一人一人に尋ねたところ、それぞれの答えは、同じ仕事に対する心構えの違いを表していました。「石を切っています」と最初の男は答えました。2番目の男の答えはこうでした。「これで、1日当たり金貨3枚稼いでいます。」そして3番目の男は、ほほえみながら答えました。「神の宮を建てる手伝いをしています。」

どのような仕事であっても、誠実に働くことにより神に仕えることができます。ニーファイ人の預言者ベニヤミン王は次のように語りました。「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」(モーサヤ2:17) 自分や家族の必要を満たすだけの労働でも、それでも神の子供たちを助けているのです。

- 仕事に対する心構えを改善するにはどうしたらよいでしょうか。

神は怠惰を責められる

主は怠惰な者や怠け者をお喜びにはなりません。主は次のように言われました。「怠惰な者は、悔い改めて自分の行いを改めないかぎり、教会の中でのべき場所を得られないであろう。」(教義と聖約75:29) また、次のように命じられました。「あなたは怠惰であってはならない。怠惰な者は働く者のパンを食べてはならないし、その衣服も着てはならないからである。」(教義と聖約42:42)

教会の初期の時代から預言者が末日聖徒に教えてきたことは、自立と自給であり、怠惰を避けることでした。真の末日聖徒ならば、自活する責任を自らの意志で他人に転嫁する(でんか)ようなことはしません。能力があるかぎり、自分と家族の生活必需品を賄うはずです。

可能なかぎり、すべての教会員は自活できない親族を世話する責任を引き受けるべきです。

- 怠惰は個人、家族、地域社会にどのような影響を及ぼすでしょうか。

労働、娯楽、休息

- 生活の中で仕事、娯楽、休息のバランスを保つことが大切なのはなぜでしょうか。

わたしたちは各自で、労働、休息、娯楽のバランスを取る必要があります。次のような格言があります。「何もしないことは最大の重労働だ。いつまでたっても休めない。」労働がなければ、休息も娯楽も意味がありません。

休息は楽しみであり、欠くことのできないものであると同時に、安息日には休息するよう命じられています（出エジプト 20：10；教義と聖約 59：9 - 12 参照）。6 日間労働するごとに来るこの休息の日のおかげで、新たな週に向けて元気を回復することができます。主はまた、安息日を守る人々に「地に満ちているもの」を約束されました（教義と聖約 59：16 - 20 参照。本書第 24 章も参照）。

週日には、労働に加え、才能を伸ばし、趣味や娯楽また心身を活気づける活動を楽しむために時間を使うことができます。

- 労働、娯楽、休息のバランスを保つために、何ができるでしょうか。親は子供がこのバランスを保つのをどのように助けることができるでしょうか。

労働から得る祝福

- 誠実に仕事をするることによってもたらされる祝福に、どのようなものがあるでしょうか。

神はアダムに次のように啓示されました。「あなたは顔に汗してパンを食べ……。」（創世 3：19）この律法は、現世にかかわる律法であると同時に、アダムの霊を救うための律法でもありました。労働には精神的、知的、肉体的といった面で明確な区別はありません。労働は一人一人の成長と人格形成、そして満足感を得るのに欠くことのできないものであり、怠惰であってはこれを味わうことは決してありません。

デビッド・O・マッケイ大管長は次のように述べています。「働く特権は賜物^{たまもの}であり、働く力は祝福であり、労働を愛することが成功であることを理解しよう。」（*Pathways to Happiness* [1957 年], 381）

「人が存在するのは喜びを得るためである。」（2 ニーファイ 2：25）労働は神の計画の中で満ちみちる喜びを得る一つの鍵^{かぎ}です。義にかなっていれば、天の御父のみもとへ帰ってともに住み、そこで行う業があります。わたしたちが御父のようになるとき、わたしたちの業も御父の業のようになるでしょう。御父の業とは、「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」です（モーセ 1：39）。

参照聖句

- モーセ 4 : 23 - 25 (アダムは食物を得るために生涯働くように告げられた)
- 教義と聖約 56 : 16 - 17 (神は貪欲^{どんよく}、ねたみ、怠慢^{たいまん}について富者と貧者の双方に警告された)
- 教義と聖約 58 : 26 - 29 (人は熱心に善いことに携わらなければならない)
- マタイ 25 : 14 - 30 (タラントのたとえ)
- エペソ 4 : 28 (二度と盗まずに働きなさい)
- 1 テサロニケ 4 : 11 - 12 (自らの手で働く)
- 2 ニーファイ 5 : 17 (ニーファイは民に働くことと勤勉であることを教えた)

第 28 章

奉 仕

どのように奉仕できるか

- これまでにあなたや家族が受けた奉仕について考えてください。

イエスは次のように言われました。「わたしはあなたがたの中で、給仕をする者のようにしている。」(ルカ 22:27) イエスに心から従う者として、わたしたちも人に仕えなければなりません。

奉仕とは助けが必要な人を援助することです。キリストのような奉仕は、救い主を愛する純粋な愛と、主が援助する機会と目標を与えてくださった人々に対する愛と関心とから生まれます。愛は感情以上のものです。人を愛すると、助けたいと願うものです。

収入、年齢、社会的地位にかかわらず、すべての人は進んで人に仕えなければなりません。貧しい人や身分の低い人だけがだれかに仕えるものであると思ひ込む人がいる一方、金持ちだけが奉仕すべきであるとする人もいます。しかし、イエスはそのようには教えられませんでした。二人の弟子の母が息子たちを主の王国で高い位に就けてくださるようイエスに願ったところ、イエスは次のように答えられました。「あなたがたの間で偉くなり^{しもべ}たいと思う者は、仕える人となり、あなたがたの間でかしらになりたいと思う者は、僕とならねばならない。」(マタイ 20:26-27)

仕える方法はたくさんあります。経済的、社会的、肉体的、そして霊的な面で人を助けることができます。例えば、次のようなことができます。食物、そのほかの品物を必要とする人々に分け与える。惜しみなく断食献金を納めることにより、困っている人々を助ける。引越して来た人と友達になる。高齢者のために菜園を作る。病人の世話をする。真理を求めている人に福音を教える。悲しんでいる人を慰める。

わたしたちは行動の大小にかかわらず、奉仕することができます。大した援助ができないからといって助けることをためらってはなりません。夫を亡くしたある女性の話です。新しい町に引越して来たばかりのとき、この女性の家を二人の子供が訪問しました。子供たちは、かごに入れた昼食とカード



を手渡しました。カードには、「お手伝いできることがあったら電話を下さい」と書いてありました。女性はこの小さな親切を心から喜び、いつまでも忘れませんでした。

しかし、大きな犠牲を払ってだれかに仕えなければならないときもあります。救い主はわたしたちに仕えるために御自分の命を犠牲にされました。

- 家族や地域の中で経済的、社会的、肉体的、霊的な面で必要を抱えている人について考えてください。その人に仕えるためにできることを深く考えてください。

救い主がわたしたちに奉仕するよう望まれる理由

- 主はなぜわたしたちに奉仕するよう望まれるのでしょうか。

神の業は老若男女の奉仕を通して成し遂げられます。スペンサー・W・キンボール大管長は次のように説明しています。「神はわたしたちを心に留め、見守っておられます。しかし、神は普通、だれかほかの人を通してわたしたちの必要を満たされます。」(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』82)

わたしたちは皆、生涯を通して人の手に頼っています。幼いころは親に養われ守られました。この世話がなければ死んでいたでしょう。成長してからは、周囲の人から技術や礼儀作法を教わりました。またわたしたちの多くは、病気のときに看護を、財政危機には金銭を必要とした経験があります。ところが、困っている人のために神に助けを願いながら自らは何もしない人がいます。神がわたしたちを通して御業を行われることを忘れてはなりません。

互いに助け合うことは、神に仕えることです。モルモン書に登場する偉大な王ベニヤミンは、自ら模範を通して民にこの原則を教えました。ベニヤミン王は生涯民に仕え、民に養われるのではなく自らの手で働いて生活を支えました。靈感あふれる説教の中で、王は奉仕に喜んで身をささげる理由を次のように説明しています。

「あなたがたが同胞のために務めるのは、とりもなおさず、あなたがたの神のために務めるのである……。」

あなたがたが王と呼んでいるわたしでさえも、あなたがたのために務めているとすれば、ましてあなたがたは、互いに務め合うようにすべきではないだろうか。」(モーサヤ2:17-18)

- 人の必要を満たす用意をしておくために、どのようなことができるでしょうか。

奉仕を通して祝福を得る

- わたしたちは奉仕を通してどのような祝福を得るでしょうか。

奉仕をするときに大切な祝福を得ます。奉仕を通して愛する力を増し、利己心をなくすことができます。人の問題について考えると、自分の問題がさほど重大には思えなくなります。永遠の命を得るために、わたしたちは奉仕をしなければなりません。神とともに住む人々は神の子供たちを愛し、仕えなければならぬと、神は言われました（マタイ 25：34 - 40 参照）。

無私の奉仕をする人の生活をよく見ると、与える以上に得ていることが分かります。その一例が、ポールという名の末日聖徒です。ポールは事故に遭い、両足の自由を失いました。こうした状況に置かれれば、恨んだり、残りの生涯を無為に過ごしたりする人もいるでしょう。しかし、ポールは自分のことよりもほかの人のことを考える道を選びました。ポールは商業を学び、お金をためて家を買いました。妻とともに、その家に孤児や望まれずに生まれてきた子供を引き取るため部屋を作りました。中には重度の障がい児もいました。この世を去るまでの 20 年間、ポールはこうした子供やほかの人々に奉仕をしました。代わりに大勢の人に愛され、不自由な足について思い悩まなくなりました。さらに主に近づいたからです。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように述べています。「人に仕えるとき、いっそう価値のある人物になります。—— 自分の中に見いだすものが多いので、実際に自分自身を『見いだす』のが容易になるのです。」（『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』86）

奉仕の機会

中には、一緒にいて楽しい相手にだけ力を尽くし、ほかの人を一切避ける人がいます。しかし、イエスはすべての人に愛を示し仕えるように命じられました。奉仕する機会はたくさんあります（モーサヤ 4：15 - 19 参照）。

例えば、家族に仕えることができます。夫と妻は互いの必要を知るよう心を配ります。親は子供に食物や衣服を与えるだけでなく、教え、ともに遊び、働くことによっても、子供に奉仕するのです。子供は家の仕事を手伝い、兄弟姉妹を助けることにより奉仕することができます。

夫婦は仕え合い、助け合います。助け合って子供の世話をし、互いの関心事や行っていることを支え合うことができます。親は子供を伝道に出すために犠牲を払います。暗闇を怖がる妹を兄が安心させたり、あるいは字の読み方を教えたりします。預言者は、家族が社会で最も重要な単位であると

教えています。わたしたちは、心から家族のために尽くさなければなりません（モーサヤ4：14 - 15 参照）。

隣人や友人、時には見知らぬ人にも奉仕する機会がたくさんあります。^{あらし}嵐の前に収穫を急いでいる隣人がいれば、手を貸すことができます。母親が病気であれば、子供の世話をし家事を手伝うことができます。教会から離れている少年がいれば、教会に戻れるように導くことができます。子供がいじめられていれば、味方になり、優しくするよう周りの子供たちに促すことができます。奉仕する相手は、知人である必要はありません。できるかぎり多くの天の御父の子供たちに奉仕するために、方法を見いだすべきです。

特別な才能があれば、それを用いて奉仕しなければなりません。神がわたしたちに才能や能力を与えられたのは、ほかの人の生活を向上させる助けをするためです。

わたしたちには教会で奉仕する機会があります。教会組織の目的の一つに、助け合う機会を提供することです。教会員は、伝道活動を行い、指導者として責任を果たし、ほかの教会員を訪問し、生徒を教え、そのほか教会の業を行うことにより奉仕します。末日聖徒イエス・キリスト教会には有給の聖職者はいません。したがって一般会員がすべての教会活動を運営しなければなりません。

- 教会や地域社会で奉仕する多くの機会と両立しながら、家族との時間を十分に取るにはどうすればよいでしょうか。

キリストは奉仕の完全な模範であられる

- 救い主が奉仕の模範を示された聖典の話で、どんな話が好きですか。

救い主は奉仕の完全な模範を示されました。救い主は、仕えられるためではなく、仕えるため、また人々に命をささげるためにこの世に来たと言われました（マタイ20：28 参照）。

人類に対するイエス・キリストの愛は、わたしたちの理解を超えるものです。イエスは地上におられる間、貧しい人や無知な人、罪人、さげすまれた人にお仕えになりました。耳を傾けるすべての人に福音を教え、御言葉^{みことば}を聞こうと集まった空腹な群衆に食べさせ、病人^{いや}を癒し、死者を生き返らせられました。

教師へ——イエス・キリストについて証^{あかし}をするなら、聖霊の影響力を招くことができます。レッスンの準備をしながら、またレッスン中も、救い主について証する方法、教えている人たちに証するよう勧める方法を何度も探してください。

イエスは地球の創造主であり、わたしたちの救い主であられるにもかかわらず、へりくだり多くの奉仕の業をされました。十字架にかけられる直前に、イエスは弟子たちと会い、教えた後、水の入ったたらいと手ぬぐいを取って弟子たちの足を洗われました（ヨハネ 13：4 - 10 参照。本章の絵も参照）。当時、客の足を洗うことは敬意を表す行為であり、通常は僕しもべのすることでした。イエスはそれを愛と奉仕の模範として行われたのです。愛の精神をもって進んで奉仕するとき、わたしたちはさらにキリストのようになることができます。

- 救い主の奉仕の模範からどんなことが学べるでしょうか。

参照聖句

- モーサヤ 2 章（奉仕に関するベニヤミン王の説教）
- 教義と聖約 81：5（助け、引き上げ、強める）
- コロサイ 3：23 - 24（主に仕えるように人に仕える）
- アルマ 17 - 18 章（王に仕えたアンモン）
- ガラテヤ 5：13（愛によって互いに奉仕し合う）

第 29 章

主の健康の律法

わたしたちの肉体は神の宮である

この世に来るときに受けた最大の祝福の一つは、肉体です。天の御父のようになるためには肉体が必要です。肉体は非常に大切であるため、主はそれを神殿すなわち神の宮と呼ばれました（1コリント 3：16 - 17；6：19 - 20 参照）。わたしたちの肉体は神聖です。

肉体は大切なものであるため、天の御父は、肉体を大事に扱うように望んでおられます。御父は、わたしたちが健康であれば、より幸福になり進歩できることを御存じです。体と思いが清ければ、聖霊がとどまるのです。御父は、わたしたちが肉体を無分別に扱い、有害なものを取り入れるよう誘惑に遭うことを御存じです。このような理由から、御父は人間の健康に良いものと悪いものを示されました。健康に関して神が与えられた教えの多くは、教義と聖約第 89 章に記されています。この啓示は「知恵の言葉」と呼ばれています。

神殿に参入するためにふさわしくするには、「知恵の言葉」を守らなければなりません。「知恵の言葉」に従わなければ、主の御霊^{みたま}はわたしたちに宿りません。もし、「神殿すなわち神の宮」である肉体を汚すならば、自分自身を肉体的にも霊的にも傷つけることとなります。

摂取しないように命じられたもの

- 主はどのようなものを体内に取り入れないように命じておられますか。

主はぶどう酒と強い飲み物すなわちアルコール分を含む飲料を飲まないように命じられました。大管長会は、強い飲み物は家庭に残酷な言動や貧困、病気、災いをもたらすと教えています。また、しばしば不誠実のもととなり、純潔や正しい判断力を失う原因となり、飲むすべての人にとってのろいになると語っています。（“Message of the First Presidency”, *Improvement Era*, 1942 年 11 月号, 686 参照）妊娠中に母親が飲酒をすると、胎児の肉



体的あるいは精神的障がいの原因となることがあります。また、アルコール飲料を飲む人が毎年多くの交通事故を引き起こしています。

さらに、主は次のように言われました。「たばこは体のために……なら〔ない〕」(教義と聖約 89:8) たばこは心身に有害です。紙巻きたばこであれ、葉巻であれ、かみたばこであれ、摂取してはなりません。科学者は、たばこが多くの病気の原因となり、胎児に害を及ぼすことがあると発表しています。

主はまた、「熱い飲み物」を用いないように勧告されました(教義と聖約 89:9)。教会の指導者は、これがコーヒーと茶を指すと説明しています。コーヒーと茶には人体に有害な成分が含まれています。わたしたちは有害な成分を含むすべての飲料を避けるべきです。

医薬品として必要なとき以外はいかなる薬物も用いるべきではありません。薬物の中にはアルコールやたばこ(これらも薬物である)以上に、はるかに有害なものもあります。薬物を誤った方法で用いている人は、助けを求め、力を求めて祈り、ビショップと話し合うことで完全に悔い改めて清くなる必要があります。

体に害があると分かっているものはすべて避けるべきです。また、くせになるものも用いてはなりません。過食も避けるべきです。知恵の言葉は避けるべきものをすべて教えるのではなく、その指針を与えているのです。これは価値あるこの世的な律法ですが、きわめて霊的な律法でもあります。知恵の言葉を守って生活することにより、霊性は高められます。主の御霊が宿るように体を清く保つのです。

- 知恵の言葉の中に明言されていなくても避けるべきものにはどのようなものがありますか。

主から教えられている体に良いもの

- 知恵の言葉によれば、わたしたちに良いものとして、主はどのようなものを挙げておられますか。

果物や野菜、健康に良い草は人のためになります。これらのものは、分別と感謝をもって用いるべきです。

鳥や獣の肉も人の食物として与えられています。しかし、肉は控えめに食べるべきです(教義と聖約 49:18; 89:12 参照)。魚類も良い食べ物です。

教師へ——リストを書くことによって、学んでいる人たちの興味を引き注目させることができます。主が体内に取り入れられないように命じておられるものについて生徒や家族が話し合うとき、答えをだれかに黒板や大きな紙に書いてもらおうとよいでしょう。体に良いものについて話し合うときにも同様に行うことができます。

穀類は体によく、中でも特によいのは小麦です。

- これらのものを用いることによって、どのような祝福を受けてきましたか。

労働、休息、運動が大切である

- 労働や休息、運動は、主の健康の律法とどのような関係があるでしょうか。

教義と聖約第 89 章のほかにも、健康を保つ方法を述べた聖句があり、そうした聖句は次のように教えています。「怠惰であるのをやめなさい。不純であるのをやめなさい。……必要以上に長く眠るのをやめなさい。疲れることのないように、早く床に就きなさい。あなたがたの体と精神が活気づけられるように、早起きをしなさい。」(教義と聖約 88 : 124) さらに次のように教えられています。「六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。」(出エジプト 20 : 9) 主は、自分の力以上に働かないように勧告されました(教義と聖約 10 : 4 参照)。

末日の預言者は、体を健康に保つべきであると語り、次のように勧告しています。「栄養のバランスの取れた食事、定期的な運動、適度の睡眠は、日々の聖文の学習と祈りが精神と霊を強めるのと同じように、健康な肉体の維持に欠かせないものです。」(トーマス・S・モンソン「天の力を受けるために」『聖徒の道』1991年1月号, 52)

主の健康の律法に従って生活することにより得られる祝福

- 知恵の言葉に従うとき、どのような祝福がもたらされるでしょうか。

天の御父は、わたしたちに体を大切にする方法を教えるために健康の律法を授けられました。神の律法について聖文には次のように記されています。「わたしが……与えたのは、現世の戒めではない。わたしの戒めは霊にかかわるものだからである。」(教義と聖約 29 : 35) その意味は、肉体の状態にかかわる戒めは霊を高めるためにある、ということです。

主の健康の律法を守り、ほかの戒めにも従うならば、主は肉体的にも霊的にも祝福を与えると約束されました。

肉体的には健康が約束されています。この健康のおかげで、「走っても疲れることがなく、歩いても弱ることはない。」(教義と聖約 89 : 20) これは大いなる祝福ですが、主が約束された霊的な祝福は実にそれ以上のものです。

主は「知恵と、知識の大いなる宝、すなわち隠された宝さえ見いだすであろう」と約束されました(教義と聖約 89 : 19)。また、わたしたちは啓示により聖霊から重要な真理を学びます。ボイド・K・バックナー会長は次のように教え

ています。「わたしたちの肉体は、霊がつかさどる道具です。『知恵の言葉』というすばらしい啓示の中で、肉体を汚れから守る方法が教えられています。この汚れは、霊的な交わりにかかわる繊細な感覚を鈍らせ、破壊することさえあるのです。知恵の言葉は、個人の啓示の鍵です。」（「変化する世における啓示」『聖徒の道』1990年1月号、14）

主はまた、滅ぼす天使はわたしたちを過ぎ越すと約束しておられます。ヒーバー・J・グラント大管長はこう述べています。「あなたやわたしが命、健康、心身の活力を頂く祝福を望み、イスラエルの子らの時代のように、滅ぼす天使が過ぎ越して行くことを望むならば、『知恵の言葉』を守らなければなりません。そうすれば、神は義務を負ってくださり、わたしたちに祝福がもたらされるのです。」（『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』192）

- 知恵の言葉が永遠にかかわる重要なものであることを子供や青少年が理解できるよう、どのような助けができるでしょうか。
- 知恵の言葉を守るのが難しい家族や友人を助けるために、どのようなことができるでしょうか。

参照聖句

- 士師 13：13 - 14；箴言 20：1；イザヤ 5：11 - 12；ダニエル 1 章（強い飲み物を避ける）
- 教義と聖約 59：16 - 20（地上にあるものは人のために創造された）
- 箴言 23：20 - 21（酒酔い、暴食、怠惰に関する訓戒）
- 教義と聖約 136：24（酒に酔うことをやめなさい）

第 30 章

慈 愛

慈愛とは

- 慈愛をどのように定義すればよいでしょうか。

救い主の生涯はすべての人への純粋な愛を表しています。主は御自分の命をわたしたちに与えることまでしてくださいました。慈愛とは救い主イエス・キリストが持っておられる純粋な愛です。主は、主がわたしたちを愛しておられるように、わたしたちも互いに愛し合うよう命じておられます。慈愛は清い心から出てくる、と聖文には記されています（1 テモテ 1:5 参照）。すべての兄弟姉妹に心から誠実に関心と思いやりを示すとき、わたしたちは純粋な愛を持つのです。

慈愛は最も大いなる徳である

預言者モルモンは次のように述べています。「したがって、最も大いなるものである慈愛を固く守りなさい。すべてのものは必ず絶えてしまうからである。しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛であって、とこしえに続く。」（モロナイ 7:46 - 47。1 コリント 13 章; 2 ニーフアイ 26:30; モロナイ 7:44 - 45, 48 も参照）

救い主の生涯はわたしたちの従うべき模範です。イエスは神の御子です。その完全な愛により、どのように愛すべきかを示されました。また、模範を通して、同胞^{ほらから}の肉体的、霊的な必要がわたしたち自身の必要と同じく大切であることを示されました。イエスは御自分の命をささげる前に、次のように言われました。

「わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互^{たがい}に愛し合いなさい。

人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」（ヨハネ 15:12 - 13）

モロナイは主に次のように語っています。



「わたしはあなたの言われたことを覚えています。あなたは、世のために御自分の命を捨てるほどこの世を愛したと言われました。……

あなたが人の子らに対して抱いておられたこの愛が慈愛であることを、わたしは存じています。ですから、人は慈愛を持たなければ、あなたが御父の住まいに用意してくださった場所を受け継ぐことができません。」(エテル 12: 33 - 34)

わたしたちは救い主がされたように、自分の命をささげる必要はないかもしれません。しかし、主を生活の中心に置いてその模範と教えに従うことにより、慈愛を身に付けることができます。救い主のように、地上で兄弟姉妹の生活に恵みをもたらすことができるのです。

- 慈愛がすべての徳の中で最も大いなるものであるのはなぜですか。

慈愛によって病人や悩んでいる人、貧しい人を助ける

救い主は物語やたとえを通して多くの教えを授けられました。良いサマリヤ人の話は、友人であるとなしとにかかわらず、助けが必要な人に手を差し伸べるように教えています(ルカ 10: 30 - 37。ジェームズ・E・タルメージ『キリスト・イエス』422 - 424も参照)。たとえの中で、救い主は別の町へ旅する一人の男について話されました。男は途中で強盗に襲われました。強盗は旅人の着物と金を奪い、傷を負わせ、半殺しにして逃げ去りました。そこへ祭司がやってきましたが、旅人を見るとそのまま通り過ぎました。次に神殿で働く人がその場所に差しかかりましたが、旅人を見ただけで行ってしまいました。ところが、ユダヤ人からさげすまれていたサマリヤ人が通りかかり、男を見て気の毒に思いました(本章の絵を参照)。そこで男の傍らかたわらにひざまずくと、この良いサマリヤ人は傷に包帯を巻いてやり、男をろばに乗せて宿屋に運びました。そして、宿屋の主人に金を手渡し、男が快復するまでの世話を頼みました。

イエスは空腹の人に食物を、家のない人に宿を、貧しい人に衣服を与えるように教えられました。病人や獄にいる人を見舞うことは、言い換えればちょうどイエスにしていることなのです。イエスは、これらのことを行うならば、神の王国を受け継ぐであろうと約束されました(マタイ 25: 34 - 46 参照)。

だれかがほんとうに援助を受けるに値するかどうか決めようとしてはなりません(モーサヤ 4: 16 - 24 参照)。まず自分の家族の必要を満たし、次に援助を必要とするすべての人を助けるのです。このようにして、わたしたちは、正しい者にも正しくない者にも同じく雨を降らせてくださる天の御父のようになることができます(マタイ 5: 44 - 45 参照)。

トーマス・S・モンソン大管長は、物質的な援助以上のものを必要とする人がいることを指摘し、次のように述べました。

「自分自身に次のように問いかけてみましょう。『わたしは、今日何か善いことをしただろうか。』『助けを必要としている人に手を差し伸べただろうか。』『『賛美歌』137番参照]そのような問いかけは、幸福を得るための原則であり、だれかに感謝の心をもたらすという満足感と内なる平安を得るための処方箋ほうせんです。

自らをささげる機会には確かに無限にありますが、すぐに失われてしまうものでもあります。わたしたちには、喜ばせるべき心、伝えるべき思いやりの言葉、与えるべき贈り物、なすべき行い、そして救うべき人々が存在します。」(『リアホナ』2002年1月号, 69)

- 良いサマリア人のたとえの中で、傷ついた男に何もしないで通り過ぎた人たちをどう思いますか。サマリア人についてはどう思いますか。生活にこのたとえの教訓を応用するにはどうしたらよいでしょうか。

慈愛は心の表れである

- 人に罪や過ちがあってもどのようにその人を愛することができるでしょうか。

困っている人に手を差し伸べても、哀れみの情を感じないかぎり、わたしたちは慈愛に欠けています(1ヨハネ3:16-17参照)。使徒パウロは、慈愛があれば、すべての人に対して良い思いで満たされると教えました。慈愛があれば忍耐強く、親切になります。また高ぶらず誇らず、利己心を抱かず、不作法をしません。慈愛があれば、人の犯した悪事を思い起こしたり喜んだりしません。自分の利益になるからというだけで善いことをするのではなく、真理に従って生活する人たちと喜びを分かち合います。さらに、誠実になり、人の善意を認め、親切にします。聖文は「愛〔慈愛〕はいつまでも絶えることがない」と教えています(1コリント13:4-8参照)。

救い主は、人に対してどのような思いを抱き、どのように接したらよいかを身をもって示されました。主は悪を憎まれましたが、罪のある罪人をも愛されました。子供や老人、貧しい人、助けが必要な人に哀れみをかけ、御自分の手足くきを打ちつける兵士のために天の御父ゆるに赦しを請うほどの大きな愛を示されました(ルカ23:34参照)。イエスは、人を救さなければ、天の御父もわたしたちを赦してくださらないとお教えになりました(マタイ18:33-35参照)。イエスは次のように言われました。「わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、迫害する者のために祈れ。……あなたがたが自分を愛する者を愛

したからとて、なんの報いがあるのか。」(マタイ5:44, 46) わたしたちはイエスがされたように人を思いやることを学ばなければなりません。

慈愛の特質をはぐくむ

- 慈愛をはぐくむにはどうしたらよいでしょうか。

慈愛を身に付ける一つの方法は、イエス・キリストの生涯を学び、その戒めを守ることです。つまり、ある状況でイエスがどのように対処されたかを学び、似た状況にあるときに同じ行動を取るようになるのです。

第2に、慈愛を感じられないときには、さらに慈愛を持てるように祈ることができます。モルモンは次のように勧めています。「御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛〔慈愛〕で満たされるように、……熱意を込めて御父に祈りなさい。」(モロナイ7:48)

第3に、自分を愛するようになることです。これは、天の御父の子供である自分の真の価値を理解するということです。救い主は、自分を愛するようにはほかの人を愛さなければならないと教えられました(マタイ22:39参照)。自分を愛するには、自らを尊重し信頼しなければなりません。福音の原則に従順でなければならないということです。すべての悪い行いを悔い改め、悔い改めたときには自分を赦さなければなりません。救い主から確かに愛されているという深く安らかな確信が感じられるときに、もっと自分自身を愛するようになるのです。

第4に、自分が人よりも優れていると思わないようにすることです。他人の欠点に忍耐強くなれます。ジョセフ・スミスは次のように述べています。「わたしたちは天の御父に近づけば近づくほど、滅びに向かっている人を思いやりをもって見るようになります。彼らを背負い、彼らの罪を背後に投げ捨てたいと思うようになります。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』428-429)

モルモン書の中のエノスという青年は、自分の罪が赦されたことを知りたいたと願いました。彼は次のように述べています。

教師へ——「慈愛の特質をはぐくむ」の項では、最初の4段落で、慈愛をはぐくむ方法が一つずつ教えられています。次のように行くとよいでしょう。小人数のグループの話し合いが可能であれば、生徒や家族を4人のグループに分け、各グループの一人一人に別々の段落を割り当てます。割り当てられた段落を各自で研究するように参加者に言います。自分が知っている人や、聖典に登場する人物の生涯から、このようにして慈愛がはぐくまれた例について考えてもらいます。その後、それらの例をグループの中で互いに紹介し合うように言います。

「わたしの霊は飢えを感じた。それで、わたしは造り主の前にひざまずき、自分自身のために熱烈な祈りと懇願をもって造り主に叫び求めた。わたしは一日中造り主に叫び求めた。また夜になっても、声が天に届くように、まだ大きな声を上げていた。

すると、わたしに声が聞こえた。『エノスよ、あなたの罪は赦された。あなたは祝福を受けるであろう。』(エノス 1:4 - 5)

主はエノスに、彼のキリストを信じる信仰ゆえに罪が赦されたと説明されました。この言葉を聞くと、エノスはもはや自分のことで思い悩むことはありませんでした。主が愛し、祝福してくださることを知ったのです。代わりにエノスは次第に友人や親族、^{はらから}同胞であるニーファイ人の幸いを願うようになり、彼らのために心のすべてを神に注ぎ出しました。主はそれにこたえて、すでに与えられた戒めに対する忠実さに応じて同胞は祝福を受けるであろうと言われました。この言葉にエノスの愛はいつそう強まり、ニーファイ人の敵であるレーマン人のために何度も長い時間熱烈に祈りました。主は願いを聞き届けられ、エノスは残る生涯をニーファイ人とレーマン人の救いのために尽力しました(エノス 1:6 - 26 参照)。

エノスは主の愛と赦しに深く感謝し、ほかの人たちも同じ恩恵にあずかれるよう進んで残りの生涯をささげました。エノスはまことに深い慈愛を持つようになりました。わたしたちも深い慈愛を持つことができます。実際、御父の王国に備えられている場所を受け継ぐには、そうしなければならないのです。

参照聖句

- コロサイ 3:12 - 14 (愛〔慈愛〕はすべてを完全に結ぶ帯)
- アルマ 34:28 - 29 (慈愛を示さなければ祈りはむなしい)
- 1 コリント 12:29 - 13:3 (慈愛の定義)
- 教義と聖約 121:45 - 46 (すべての人に対して、慈愛で満たされるようにしなさい)

第 31 章

正直

正直は救いの原則である

- すべての人が完全に正直であったなら、社会はどうなるでしょうか。

信仰箇条第 13 条に、「わたしたちは、正直〔である〕べきこと……を信じる」とうたわれています。またモルモン書の中にはある民についての記述があり、彼らは「神と人々に貢献する熱心さでも秀でていた。彼らはすべてのことについてまったく正直でまっすぐであり、また最後まで確固としてキリストを信じた」とあります（アルマ 27：27）。この民は正直であったため、同胞からも神からも注目されました。正直の意義、および不正直へといざなう誘惑と、その誘惑を克服する方法について学ぶことが大切です。

救われるためには完全に正直になることが必要です。ブリガム・ヤング大管長はこのように述べています。「わたしたちは示された条件とともに救いを受け入れるのであれば、あらゆる思い、内省、熟考において、個人的な交わりにおいて、取り引きにおいて、宣言において、生活上のあらゆる事柄において、……正直でなければなりません。」（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』320）

神はすべてにおいて正直かつ公正であられます（アルマ 7：20 参照）。わたしたちも、神のようになるためにはすべてにおいて正直でなければなりません。ヤレドの兄弟は次のように証しています。「はい、主よ、……あなたは真理の神であり、偽りを言われることはありません。」（エテル 3：12）逆に、悪魔は偽り者です。事実、偽りの父とされています（2 ニーファイ 9：9 参照）。「だましたり、うそをついたり、欺いたり、誤ったことを教えたりする人間は悪魔の奴隷になります。」（マーク・E・ピーターセン、Conference Report, 1971 年 10 月, 65。または、Ensign, 1971 年 12 月号, 73）

正直な人は真理と正義を愛し、言葉と行いにおいて誠実です。偽ったり、盗んだり、だましたりしません。



偽りは不正直である

偽りとは故意に相手をだますことです。正しくない証言も偽りの一種です。主はイスラエルの民に次の戒めを与えられました。「あなたは隣人について、偽証してはならない。」(出エジプト 20:16) イエスは地上におられたときにも同じ戒めを教えられました(マタイ 19:18 参照)。偽る方法はほかにもたくさんあります。真実でないことを話せば、偽証の罪を犯すことになります。身ぶりや表情や沈黙により、あるいは真実の一部のみを話すことにより故意に人を欺くこともあり得ます。いかなる方法でも、真実でないことを信じさせようとすると、それは正直ではありません。

主はそのような不正直を喜ばれず、わたしたちは自身の偽りについて申し開きをしなければなりません。サタンは人々に、偽りを言うことは正しいと信じ込ませるでしょう。サタンは次のように語りかけます。「だから、少しばかり偽りを言い……なさい。これは少しも悪いことではない。」(2 ニーフアイ 28:8) サタンはわたしたちに自分の偽りを正当化するように勧めます。しかし、正直な人はサタンの誘惑に気づき、偽りのない真実を語ります。たとえ自分にとって不利になると思われる場合でも、そうするのです。

盗みは不正直である

イエスは「盗むな」と教えられました(マタイ 19:18)。盗みとは自分の所有物でないものを奪うことです。ほかの人や商店、団体などの所有物を許可なく持ち去ることや、雇用主から商品や備品を奪うことは盗みです。音楽や映画、写真や絵画、文章を著作権所有者の許可を得ずにコピーすることは不正直であり、盗みの一形態です。また、必要以上の釣り銭や品物を受け取れば不正直であり、自分の取り分以上のものを取れば盗みとなります。

だますことは不正直である

負債を完全に返さなかったり、功績がないのに何かを得たりするのはだますことです。労働時間をごまかして賃金を全額得る従業員は、雇用主をだましています。逆に、従業員に対して公正でない雇用主もいて、本来支払うべき賃金を支払わない場合もあります。サタンは次のように言います。「人の言

教師へ——本章には、「偽り」「盗み」「だます」という不正直の形について述べた3つの項があります。次のように行くとよいでしょう。生徒や家族を3つのグループに分けます。各グループに、3つの項のうちの一つを割り当てます。各グループの一人一人に、割り当てられた項を黙読し述べられている不正直の形について考えてもらいます。次に、クラスまたは家族で各項目について話し合います。そのような状況において正直であるための方法について話し合います。

葉に付け込んで欺き、隣人を陥れる穴を掘りなさい。」(2 ニーファイ 28:8) 不正な利益を得ることは不正直の一形態であり、いいかげんな仕事や商品を売り込むことは詐欺です。

不正直な行いを弁解してはならない

- 不正直を弁解すると、霊性はどうなるでしょうか。

不正直な行いをすると、人は様々な弁解をします。自分を守るため、また人からよく思われたいためにうそをつきます。盗みを働いた人が、品物を手に入れる資格があった、返すつもりだった、あるいは持ち主よりも必要としていた、などと言って弁解します。またある人は、学校で良い成績を取りたかったから、「皆がしている」から、あるいは仕返しするためにという理由で不正を働き人目を欺いています。

こうした数々の弁解は、不正直を理由づけようとするものです。しかし主は、いかなる弁解も受け入れられません。言い訳をするとき、わたしたちは自分自身を欺き、神の御霊はともにいるのをやめます。そして、わたしたちはますます不義に陥るのです。

完全に正直になることができる

- 完全に正直になるとはどういう意味でしょうか。

完全に正直になるために、自らの生活を注意深く見詰めなければなりません。もしほんの少しでも不正直なところがあれば、直ちに悔い改める必要があります。

完全に正直であるならば、道を誤ることはあり得ません。たとえ財産や友人、さらに命を失うことがあっても、あらゆる信頼、義務、約束、あるいは聖約に対して誠実になるのです。そのようにすれば、主や自分自身、またどんな人にも何ら恥じることなく顔向けができます。ジョセフ・F・スミス大管長は次のように勧告しています。「最も厳密な検査に耐えられる人格を持てるように、その生涯が開かれた本として読まれてもよいように、恐れることも恥じることもないように、皆が生活しようではないか。」(*Gospel Doctrine*, 第 5 版 [1939 年], 252)

- 正直であること、あるいは不正直であることによって、自分自身について感じる気持ちにどのような違いが生じてくるでしょうか。

参照聖句

- 教義と聖約 50:17 (真理の御霊によってのみ語る)

- 教義と聖約 76 : 103 - 106 (偽りを言う者の行く末)
- 教義と聖約 42 : 27 (隣人の悪口を言ってはならないという戒め)
- 出エジプト 20 : 15 - 16 (盗んではならない, 偽証してはならないという戒め)
- 教義と聖約 42 : 20, 84 - 85 ; 59 : 6 (盗んではならない)
- 教義と聖約 3 : 2 (神は正直であられる)
- 教義と聖約 10 : 25 - 28 (サタンは欺く)



第 32 章

じゅうぶん

什分の一とささげ物

什分の一とささげ物を納める

- 喜んで什分の一とささげ物を納めることが、天の御父から受けるすべての祝福に対する感謝を示すことになるのはなぜでしょうか。

わたしたちに与えられた戒めは、天の御父のみもとに住むためにわたしたちがあらゆる方法で備えられるように助けるものです。御父は、わたしたちが祝福に感謝する方法を示されました。喜んで什分の一とささげ物を納めることは、御父に感謝する一つの方法です。ささげ物をするにより、救い主への愛を表し主の勧告に従うことを表すのです。

- 什分の一とささげ物を納めることは、天の御父に感謝するうえでどのように助けとなるのでしょうか。

什分の一の律法に従う

- 正直な什分の一とはどういうことでしょうか。

古代において、アブラハムとヤコブは産物の 10 分の 1 を納める什分の一の戒めに従っていました（ヘブル 7：1 - 10；創世 14：19 - 20；28：20 - 22 参照）。

現代において、預言者ジョセフ・スミスは次のように祈りました。「おお、主よ、あなたは什分の一として、あなたの民の財産のうちのどれほどをお求めになるか、あなたの僕しもべにお示してください。」（教義と聖約 119 章前書き）主は答えて言われました。「これがわたしの民の納める什分の一の始まりとなる。その後、このように什分の一を納めた者は、毎年彼らの得る全利益の十分の一を納めるのである。そして、これは……とこしえに彼らにとっての永続的な律法となる……。」（教義と聖約 119：3 - 4）大管長会は、「毎年彼らの得

教師へ——項の最初にある質問は、話し合いを始めたり、生徒や家族に本文を詳しく調べさせたりするために利用してください。項の最後にある質問は、読んできたことの意味を深く考え、話し合い、生活で応用するよう、生徒や家族を助けるために利用してください。

る全利益の十分の一」とはわたしたちの収入のことであると説明しています（大管長会からの手紙，1970年3月19日付参照）。

十分の一を納めることにより、主に対する忠実さを表します。また、子供にもこの律法の重要性を教えます。子供は親の模範に従って、自分が得たお金の十分の一を納めたいと思うようになるでしょう。

- 十分の一は、どのような意味で財政の原則というより信仰の原則と言えるでしょうか。
- 親が子供に十分の一を納めることを教え、その大切さを理解させるにはどうしたらよいでしょうか。

喜んでささげる

- 十分の一を納めるときの態度が大切なのはなぜでしょうか。

十分の一は喜んでささげることが大切です。「十分の一を喜んで納めない人は祝福の一部を失っています。わたしたちは喜び、進んで、気持ちよく十分の一を納めるようにならなければなりません。そうすれば、ささげ物は祝福されたものとなるでしょう。」（スティーブン・L・リチャーズ、*The Law of Tithing* [パンフレット，1983年]，8）

使徒パウロは、ささげるときの態度がささげ物自体と同じく大切であることを次のように教えています。「各自は惜しむ心からでなく、また、しいられてでもなく……すべきである。神は喜んで施す人を愛して下さるのである。」（2コリント 9：7）

- 「喜んで施す人」とはどういう意味でしょうか。

十分の一とほかのささげ物

- 十分の一の基金やその他のささげ物は教会でどのように使われているでしょうか。

教会員は、十分の一やほかのささげ物を主にささげます。

十分の一

十分の一は教会の数多くの目的に使われています。次にその一例を挙げましょう。

1. 神殿や集会所などの建物の建築と維持，運営。
2. 教会のステーキ，ワードおよびその他のユニットの運営基金。（それぞれのユニットがこの基金を使って、福音を教えたり、社交活動を運営

したりして教会プログラムを実施する。)

3. 伝道活動の支援。
4. 教会の運営する学校やセミナー、インスティテュートにおける若人の教育。
5. 教材の印刷と配送。
6. 家族歴史および神殿活動の支援。

そのほかの献金

断食献金。教会員は毎月1回、2食続けて食べ物と飲み物を断って断食します。そして、少なくとも食費として使ったと思われる金額を献金します。可能ならさらに惜しみなく献金することもできます。この献金は「断食献金」と呼ばれており、ビショップがこの断食献金を使って、困っている人々に食料や住居、衣類、医療を提供します(本書第25章参照)。

断食日の一端として、会員は「断食証会^{だんじきあかしかい}」と呼ばれる集会に出席し、そこでキリストとその福音について互いに証を述べ合います。

そのほかの献金。教会員は、教会が行うそのほかの様々な取り組みに献金することができます。一例として、伝道活動、永代教育基金、神殿の建設、人道支援などがあります。

奉仕。教会員はまた、人を助けるために、時間や技術、持ち物をささげます。この奉仕のおかげで、特に災害が起こったときなどに、教会は地域社会や国あるいは国際レベルで、世界中の困っている人々を、会員か否かを問わず助けることができます。

什分の一とささげ物を納めるときに得られる祝福

忠実に什分の一とささげ物を納めるとき、主は祝福を与えると約束しておられます。「わたしの宮に食物のあるように、十分の一全部をわたしの倉に携えてきなさい。これをもってわたしを試み、わたしが天の窓を開いて、あふるる恵みを、あなたがたに注ぐか否かを見なさい……。」(マラキ3:10)

さらに、末日の啓示には、什分の一を納める人が受けるもう一つの祝福が記されています。「まことに、今日^{きょう}は犠牲の日であり、わたしの民が什分の一を納める日である。什分の一を納める者は、主の来臨の時に焼かれないであろう。」(教義と聖約64:23)

約束された祝福は物心両面にわたります。喜んでささげるならば、天の御父は毎日の衣食住に必要なものを与えてくださいます。フィリピンの末日聖徒

に向けてゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう語りました。もし人々が「福音を受け入れて実践し、什分の一とささげ物をたとえわずかな金額であっても納めるなら、主は彼らの益となるよう、いにしえの時代に交わされた約束を守られ、彼らは器に米を、体に服を、頭上に屋根を持つようになるでしょう。わたしはほかの解決法を知りません。彼らは、境遇を改善し自らを救うために、この世のいかなる力にも勝る力を必要としています。」(“Inspirational Thoughts,” *Ensign*, 1997年8月号, 7) また、主は「神の知識、証、福音を實踐し、家族を同じように導く力」を増し加えられるよう助けてくださいます(『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』124)。

什分の一とささげ物を納める人は豊かな祝福を受け、地上における神の王国の建設に役立っているという幸福な気持ちを感じるのです。

- 什分の一やそのほかのささげ物をささげることによって、あなたやあなたの家族、友人はどのような祝福を受けてきたでしょうか。

参照聖句

- 教義と聖約 119 : 1 - 4 (什分の一の律法)
- 創世 14 : 18 - 20 ; アルマ 13 : 13 - 16 (什分の一を納めたアブラハム)

第 33 章

伝道活動

主の教会は伝道する教会である

- 伝道活動はどのような点で、神が御自分の子供たちに用意された計画の一部となっているのでしょうか。

主は福音の計画をアダムに啓示されました。「このように、福音は最初から^の宣べ伝えられ……た。」(モーセ 5 : 58) やがて、アダムの義にかなった子孫は福音を宣べ伝えるために遣わされました。「彼らは……どこにいる人でもすべての人に悔い改めるように呼びかけた。そして、人の子らに信仰が教えられた。」(モーセ 6 : 23)

すべての預言者は宣教師です。預言者は各時代にあつて、福音のメッセージを宣べ伝えるように命じられました。神権が地上に存在したときはいつでも、主はその子供たちに福音の永遠の原則を宣べ伝えるために宣教師を必要とされました。

主の教会はいつの時代にあつても伝道する教会です。救い主は地上におられたとき、使徒と七十人を聖任し、福音を宣べ伝える権能と責任を与えられました。彼らの伝道活動はほとんど、同国民であるユダヤ人の間で行われました(マタイ 10 : 5 - 6 参照)。復活後、イエスは異邦人に福音を宣べ伝えるために使徒たちを遣わされました。イエスは使徒に次のように命じられました。「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ。」(マルコ 16 : 15)

使徒パウロは異邦人に遣わされた偉大な宣教師でした。教会に改宗した後、パウロは残る生涯を異邦人に福音を宣べ伝えることにささげました。伝道中、何度となく^{むち}鞭打たれ、石を投げつけられ、^{ろう}牢に閉じ込められました。それでも福音を宣べ伝え続けました(使徒 23 : 10 - 12 ; 26 章参照)。

教師へ——福音の原則に関する経験を分かち合うことによって、^{みたま}御霊を招くことができます。数人の生徒や家族と事前に話し、彼ら自身にとって意義深く、ほかの人にも役立つような経験を話す準備をしておくように頼むとよいでしょう。



預言者ジョセフ・スミスを通して主の教会が回復されると同時に、伝道活動が再開されました。現在、使徒と七十人に与えられている主要な責任は、福音を宣べ伝えるとともに、全世界に福音が宣べ伝えられるようにすることです。主はジョセフ・スミスに言われました。「わたしの福音を地方から地方へ、町から町へ……宣言〔し〕……あらゆる場所ですべての人に向かって……証^{あかし}を述べ……なさい。」(教義と聖約 66 : 5, 7) 1830 年 6 月、預言者の弟サミュエル・ハリソン・スミスは、教会で初めて伝道の旅に出発しました。

それ以来、100 万人以上の宣教師が福音を宣べるために召され、遣わされてきました。宣教師が全世界に携えて行くメッセージは、イエス・キリストが神の御子であり救い主であられるというものです。宣教師は神の預言者を通して地上に福音が回復されたことを証します。すべての人に福音を宣べ伝え、バプテスマを施し、主が命じられた一切のを守るように教える責任があります (マタイ 28 : 19 - 20 参照)。末日聖徒の宣教師は、福音のメッセージを宣べ伝えるために自費で世界の至る所へ伝道に出かけています。

福音は全世界に宣べ伝えられる

- 福音を伝えるために主が備えてくださっている方法に、どのようなものがあるのでしょうか。

末日の啓示によって、わたしたちはあらゆる国民、あらゆる民族に回復された福音を携えて行かなければならないと教えられています (教義と聖約 133 : 37 参照)。主が戒めを与えられるときは、必ずそれを達成する方法を備えてくださいます (1 ニーファイ 3 : 7 参照)。主は、かつて門戸が閉ざされていた国々に福音を教える道を備えてこられました。わたしたちが祈り続け、信仰を働かせ続けるなら、主は伝道活動のためにほかの国々の扉も開けてくださるでしょう。

主はまた、「偉大な人々の心に靈感を送り、これまで世界がまったく知らなかったような方法で主の業を進める数々の発明を生み出させて」おられます (ラッセル・M・ネルソン, “Computerized Scriptures Now Available”, *Ensign*, 1988 年 4 月号, 73)。新聞や雑誌、テレビ、ラジオ、衛星放送、コンピューター、インターネット、および関連する科学技術が、あまたの人に福音のメッセージを伝えるうえで役立っています。完全な福音を知っているわたしたちはこうした発明を利用して、主の戒めを成就する必要があります。「まことに、この知らせはこの地から全世界に、また地の最も遠い所まで出て行くであろう。福音はすべての〔人〕に宣べ伝えられ〔る〕であろう。」(教義と聖約 58 : 64)

- 福音を伝えるために科学技術がどのような形で有効利用されてきたでしょうか。

伝道活動の重要性

- 福音を聞き、理解することがすべての人にとって重要なのはなぜでしょうか。

「人の子らを救い、昇栄にあずからせること、これこそ教会の一大関心事です。」(エズラ・タフト・ベンソン, Conference Report, 1974 年 4 月, 151。または Ensign, 1974 年 5 月号, 104) 伝道活動は世の人々に福音を聞いて受け入れる機会を提供するために欠くことができません。人は真理を学んで神に立ち返り、罪の赦しを受ける必要があります。

地上に住む多くの兄弟姉妹が偽りの教えに惑わされ、「見いだす場所を知らないということだけで真理を得られずに」います(教義と聖約 123:12)。伝道活動を通して、そうした人々に真理を伝えることができます。

主は次のように命じられました。「あなたがたはわたしのぶどう園で最後の働きをなさい。地に住む者に最後の呼びかけをなさい。」(教義と聖約 43:28) 兄弟姉妹に福音を教えることにより、わたしたちは救い主の再臨の道を備えているのです(教義と聖約 34:6 参照)。

わたしたちは皆、宣教師となるべきである

- 福音を分かち合う機会をどのような方法で積極的に求めることができるでしょうか。どのような方法でそのような機会に備えることができるでしょうか。

すべての教会員は宣教師です。正式に召され任命されていなくとも、わたしたちは宣教師にならなければなりません。言葉と行いにより、天の御父の子供たちすべてに福音を教える責任があります。主は次のように言われました。「警告を受けた人は皆、その隣人に警告しなければならない。」(教義と聖約 88:81) 預言者は、隣人に警告する前に、彼らを愛していることを示すべきであると語っています(『歴代大管長の教え——スパンサー・W・キンボール』262)。人はわたしたちの友情を感じ親近感を覚える必要があります。

モーサヤの息子たちは福音を教える責任を喜んで受け入れました。教会に改宗したとき、彼らの心は人に対する哀れみで満たされ、敵であるレーマン人

に福音を宣べ伝えることを願いました。「彼らは、だれであろうと人が滅びるのに耐えられなかったからである。まことに、無窮^{むきゆう}の苦痛を受ける人がいると考えただけで、彼らは震えおののいた。」(モーサヤ 28:3) 福音が生活を喜びで満たすと、兄弟姉妹にこのような愛と思いやりを抱くようになります。さらに、耳を傾けようとする人にはだれにでも福音のメッセージを伝えたいと願うようになるのです。

福音を伝える方法はたくさんあります。次に幾つか提案しましょう。

1. 福音の真理に従った生活から得る喜びを友人や周りの人に表す。こうしてわたしたちは世の光となる(マタイ 5:16 参照)。
2. 親しみを込めて人と接し親切にすることにより、恥ずかしさを克服できる。このようにして、損得抜きで心から関心を寄せていることを理解してもらうことができる。
3. 教会員でない友人や知人に福音を説明する。
4. 福音をもっと知りたいと思っている友人を家庭に招待し、宣教師から福音を学べるようにする。友人が遠くに住んでいる場合は、その地域の宣教師に訪問してもらうよう要請することができる。
5. 子供に福音を分かち合うことの大切さを教え、霊的、経済的に伝道の準備をさせる。年を重ねて自ら専任宣教師として奉仕するよう備えることもできる。
6. 什分の一^{じゅうぶん}を納め、宣教師基金に献金する。これらの献金は伝道活動を進めるために使われる。
7. 家族の支えが得られない宣教師を経済的に援助するために、ワードや支部、中央の宣教師基金に献金する。
8. 先祖が福音の完全な祝福を得る助けとなるよう、家族歴史を調べ神殿の儀式を受ける。
9. 家庭の夕べや社交活動、大会、集会など教会の活動に教会員でない人を招待する。
10. 教会機関誌をプレゼントする。教会の公式インターネットサイト LDS.org や Mormon.org に掲載されている記事を利用して、福音のメッセージを分かち合う。

福音を伝えたいという望みを持ち、導きを求めて祈るならば、天の御父はわたしたちが有能な宣教師になれるよう助けてください。また、周囲の人に福音を伝える方法を教えてください。

- 福音を伝えられそうな人について考えてください。どのように伝えるかを決めてください。この人々にいつまでに福音を伝えるか、具体的な目標を設けるとよいでしょう。

主が約束された伝道活動への祝福

主は預言者ジョセフ・スミスに、宣教師は大いなる祝福を受けると告げられました。主は伝道地から帰還している途中の長老たちに次のように述べられました。「あなたがたは祝福されている。あなたがたが述べた証は、天使たちが見るために天で記録されているからである。そして、天使たちはあなたがたのことを喜んで……いる。」(教義と聖約 62:3) また主は、人の救いのために働く人は、罪を赦され、自分自身の魂に救いをもたらす、と言っておられます (教義と聖約 4:4; 31:5; 84:61 参照)。

主はわたしたちに次のように言われました。

「あなたがたはこの民に悔い改めを叫ぶことに生涯力を尽くし、一人でもわたしのもとに導くならば、わたしの父の王国で彼とともに受けるあなたがたの喜びはいかに大きいことか。

さて、あなたがたがわたしのもとに導いてわたしの父の王国に入れるようにした、一人の人とともに受けるあなたがたの喜びが大きいならば、もし多くの人をわたしのもとに導くとすればその喜びはいかに大きいことか。」(教義と聖約 18:15 - 16)

- これまでどのようなときに伝道の喜びを経験してきましたか。

参照聖句

- 教義と聖約 1:17 - 23 (ジョセフ・スミスは福音を宣べ伝えるよう命じられた)
- 教義と聖約 24:12 (絶えず主の福音を告げ知らせようとする人を、主は強くしてくださる)
- 教義と聖約 38:41 (穏やかに、かつ柔和に福音を伝える)
- 教義と聖約 34:4 - 6 ; 使徒 5:42 (福音を宣べ伝える)
- 教義と聖約 60:1 - 2 (福音を宣べ伝えることを恐れる人々に対する主の警告)
- 教義と聖約 75:2 - 5 (福音を宣言し、忠実である人は、永遠の命をもって祝福される)

- 教義と聖約 88 : 81 – 82 (警告を受けた人は皆, 隣人に警告すべきである)
- マタイ 24 : 14 (終わりの日が来る前に福音が宣べ伝えられる)
- アブラハム 2 : 9 – 11 (すべての国民に与えられる福音と神権)



第 34 章

才能を伸ばす

すべての人に異なる才能と能力がある

わたしたちは皆、天の御父から授かった特別な賜物や才能、能力を持っています。この賜物や才能、能力は、生まれたときに携えてきたものです（本書第 2 章参照）。

預言者モーセは偉大な指導者でしたが、代弁者として語る兄のアロンの助けが必要でした（出エジプト 4：14 - 16 参照）。わたしたちの中には、モーセのように立派な指導者もいれば、アロンのように話の上手な人もいます。また、歌の上手な人、楽器を演奏できる人、スポーツが得意な人、手先の器用な人もいます。人の気持ちを理解すること、忍耐、明るさ、人を教えることに才能のある人もいます。

- ほかの人の才能によって、これまでどのような恩恵を受けてきましたか。

わたしたちは才能を使い、伸ばすべきである

- どうすれば才能を伸ばすことができるでしょうか。

わたしたちには授かっている才能を伸ばす責任があります。時々、自分はあまり才能がないとか、ほかの人の方がもっと能力に恵まれていると思うことがあります。また、失敗や批判を恐れて才能を使わないこともあります。才能は隠すのではなく、使うべきです。そうすれば、人はわたしたちの善い行いを見て天の御父を賛美するようになります（マタイ 5：16 参照）。

才能を伸ばすためには、しなければならぬことがあります。第 1 に、自分の才能を見いだすことです。自分をよく評価して長所や才能を見つけるのです。家族や友人に協力してもらおうとよいでしょう。また、自分の才能を知るために天の御父に祈ることも必要です。

教師へ—— 教師が生徒を個別に気にかけていることを示す一つの方法は、生徒を名前で呼ぶことです。生徒の名前を覚えてください。新しい生徒がクラスに出席したときは、皆に紹介してください。

第2に、自分が求めている才能を伸ばすために、積極的に時間を使い努力することです。

第3に、天の御父が助けてくださるという信仰を持ち、自分を信じなければなりません。

第4に、才能を伸ばすために必要な技術を修得しなければなりません。講座を受ける、友人から学ぶ、あるいは本を読むとよいでしょう。

第5に、才能を使う訓練をすることです。どのような才能でも、伸ばすには努力と練習が必要です。卓越した才能は、努力して獲得するものです。

第6に、人のために才能を使わなければなりません。才能は使うことで磨かれていきます（マタイ 25：29 参照）。

主の助けを求めて祈れば、以上のことはより容易に行うことができます。主はわたしたちが才能を伸ばすことを望んでおられ、必要な助けを与えてくださいます。

弱さがあっても才能を伸ばせる

•弱さがあっても才能を伸ばすにはどうしたらいいでしょうか。

人は死すべき、墮落した状態にあるため、弱さがあります。主の助けによって、弱さや墮落した性質は克服することができます（エテル 12：27, 37 参照）。ベートーベンも耳が聞こえなくなってから名曲を作りました。エノクは口が重かったのですが、それを克服して力強い教師になりました（モーセ 6：26 - 47 参照）。

有名な運動選手の中には、体の障がいにも打ち勝って才能を伸ばすことに成功した人がいます。シェリー・マンはその好例です。「シェリーは5歳のとき、小児まひにかかりました。……両親は毎日、シェリーをプールに連れて行き、再び腕を動かそうと努力する娘が、水の力で何とか腕を持ち上げられるようになることを願っていました。自力で水から腕を上げることができたとき、シェリーは大声を上げて喜びました。次の目標はプールを横に泳ぎ切ることでした。次いで縦を泳ぐこと、そして縦を何回も往復することでした。来る日も来る日も努力し、泳ぎ続け、忍耐の連続でした。そしてついに、泳法の中でも最も難しい種目の一つ、バタフライで〔オリンピックの〕金メダルに輝いたのです。」（マービン・J・アシュトン, Conference Report, 1975年4月, 127。または *Ensign*, 1975年5月号, 86）

ヒーバー・J・グラントは多くの弱さを克服し、才能に変えました。グラント大管長は次の言葉を座右の銘としていました。「あきらめずに努力すれ

ば何でも簡単にできるようになります。それは、その物事の性質に変化があったのではなく、わたしたちの力が増したからです。」(『歴代大管長の教え——ヒーバー・J・グラント』35)

賢明に才能を用いるときに主は祝福してください

ジョセフ・F・スミス大管長は次のように語りました。「神のすべての息子、娘は、何らかの才能を授かっており、各個人はそれを賢明に用いたか否かを将来細かく報告することになります。」(*Gospel Doctrine*, 第5版〔1939年〕, 370) 才能は一種の管理人の職(神の王国における責任)です。タラントのたとえば、管理人の職をよく務める人にはさらに大きな責任が与えられることを告げています。もしよく務めなければ、与えられた管理人の職も結局は取り去られるでしょう。(マタイ 25:14 - 30 参照)

また聖文には、人は自分の行いに従って裁かれると記されています(マタイ 16:27 参照)。才能を伸ばし、人のために用いるならば、良い働きができます。

主はわたしたちが才能を賢明に用いるときに喜ばれます。人を益するため、また地上に神の王国を建設するために才能を用いるならば、主はわたしたちを祝福してください。その祝福の一つは、地上の兄弟姉妹に仕えることから得られる喜びと愛です。また、自制心が養われます。これはすべて、再び天の御父とともに住むにふさわしくなろうとするならば必要なものです。

- 才能を賢明に用いた結果、その才能をさらに豊かに伸ばした人の例として、どのような人がいますか(知っている人や、聖文や教会歴史に登場する人物について考えてください)。

参照聖句

- ヤコブの手紙 1:17 (神の賜物)
- 教義と聖約 46:8 - 11; 1 テモテ 4:14 (賜物を求め、伸ばす)
- 2 コリント 12:9 (弱さを強さに変える)
- 黙示 20:13; 1 ニーフアイ 15:33; 教義と聖約 19:3 (行いにより裁かれる)
- ヘブル 13:21 (善い行いを示す)



第 35 章

従 順

喜んで神に従う

- 不承不承でなく喜んで従うとき、どのような違いが生じるでしょうか。

イエスがこの世におられたとき、律法学者が次のような質問をしました。

「『先生、律法の中で、どのいましめがいちばん大切なのですか。』

イエスは言われた、『心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。』

これがいちばん大切な、第一のいましめである。

第二もこれと同様である、「自分を愛するようにあなたの隣^{とな}り人^{びと}を愛せよ。」

これらの二つのいましめに、律法全体と預言者とが、かかっている。』（マタイ 22：36 - 40）

この聖句から、主と隣人を愛することがいかに大切であるかが分かります。しかし、どのように主への愛を表せばよいでしょうか。

イエスは次のように言ってこの質問に答えておられます。「わたしのいましめを心にいだいてこれを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛されるであろう。」（ヨハネ 14：21）

わたしたちは各自で、なぜ神の戒めに従うのか自問してみる必要があります。罰を恐れるからでしょうか。正しい生活をすることによって報いを得たいからでしょうか。それとも、神とイエス・キリストを愛し、御二方に仕えたいと望んでいるからでしょうか。

戒めにまったく従わないよりは、罰を恐れて従う方がよいものです。しかし、神を愛し神に従いたいと望むがゆえに神に従う方がはるかに幸福でしょう。進んで神に従うときに、神は惜しみなく祝福を与えてくださいます。主

教師へ—— 熟考する時間を与えることによって、生徒や家族が質問についてより深く考えられるようにすることができます。十分な時間を取った後に答えを求めてください。

は次のように言われました。「主なるわたしは……最後まで義をもって真理になつてわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。」(教義と聖約 76:5) 従順であれば、わたしたちが進歩し、さらに天の御父のようになるのに助けとなります。しかし命じられるまで何もせず、不承不承戒めを守る人は報いを失います(教義と聖約 58:26 - 29 参照)。

- 従いたいという願いはどのように増し加えることができるでしょうか。

理由が分からなくても従うことができる

- 従順であるために必ずしも主の目的を理解する必要があるわけではないのはなぜでしょうか。

神の戒めを守ることによって、永遠の命と昇栄を得る備えができます。時には、ある特定の戒めが与えられた理由が分からないことがあります。しかし、理由を知らなくても神に従うことによって、神に対する信仰と信頼を表すのです。

アダムとエバは神に犠牲をささげるように命じられました。ある日、天使がアダムに現れて、なぜ犠牲をささげるのかと尋ねました。アダムは、その理由は分からないと答えました。アダムはただ主から命じられたので行っていたのです(モーセ 5:5 - 6 および本章の絵参照)。

そこで天使は、アダムに福音を教え、後に降誕される救い主のことを話しました。そのときアダムに聖霊が降られ、アダムは地に住む者について、最後の世代に至るまで預言しました(モーセ 5:7 - 10; 教義と聖約 107:56 参照)。アダムにこの知識と偉大な祝福が与えられたのは、アダムが従順だったからです。

神は道を備えてくださる

モルモン書には、ニーファイと兄たちが主から非常に困難な責任を与えられたことが記されています(1 ニーファイ 3:1 - 6 参照)。ニーファイの兄たちは、主の求めておられることは難しいと不平を言いましたが、ニーファイは次のように述べました。「わたしは行って、主が命じられたことを行います。主が命じられることには、それを成し遂げられるように主によって道が備えられており、それでなくては、主は何の命令も人の子らに下されないことを承知しているからです。」(1 ニーファイ 3:7) 主の戒めに従うことが困難に思えたら、ニーファイのこの言葉を思い出すとよいでしょう。

- あなたが主に従う方法を主が備えてくださったのは、どのようなときでしたか。

従うべき戒めに大小はない

時々、ある戒めがあまり重要でないように思われることがあります。聖典には、そのような考えを持っていたナアマンという人の話が出てきます。ナアマンは恐ろしい病に苦しんでいたため、スリヤからイスラエルへ行き、預言者エリシャに癒してほしいと頼みました。ナアマンは自国で高い地位にあったので、エリシャが自ら出迎えず、代わりに僕を遣わしたことに腹を立てました。さらに、ヨルダン川で7回体を洗いなさいというエリシャの伝言を聞いて、なお憤慨しました。「ダマスコの川……はイスラエルのすべての川水にまさるのではないか。わたしはこれらの川に身を洗って清まることができないのであろうか。」こう言い残すと、ナアマンは怒って立ち去りました。しかし僕たちが言いました。「預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じて、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに『身を洗って清くなれ』と言うだけではありませんか。」ナアマンは賢い人であったので、どんなに小さなことのように見えても神の預言者に従うことが大切であると悟ったのです。そしてヨルダン川で身を洗い、癒されました。(列王下 5:1-14 参照)

時には戒めが難しすぎてとうてい従えないと思うことがあるかもしれません。ニーファイの兄たちのように、「神の求めておられることは難しい」と言うかもしれません。しかし、わたしたちはニーファイのように、神が命じられることには、人が従えるように神によって道が備えられており、それでなくては、神は何の命令も人に下されない、と確信することができます。

主がアブラハムにその愛する息子イサクを犠牲としてささげるように命じられたのは、「難しいこと」でした(創世 22:1-13 参照。本書第 26 章も参照)。イサクはアブラハムが長い間待ち望んだ息子であり、その誕生は神から約束されていました。その息子をどうして犠牲にして失うことができるでしょうか。この命令は、アブラハムにとってきわめて難しいものであったに違いありません。それでも、アブラハムは神に従うことを選んだのです。

わたしたちも神のあらゆる要求に進んで応じなければなりません。預言者ジョセフ・スミスは次のように述べています。「わたしは……次の規則に従うようにしています。『主が命じられるなら、行いなさい。』」(『歴代大管長の教え — ジョセフ・スミス』161) これはわたしたちも主義にすることのできる言葉です。

- 小さなことに思われた戒めに従った結果として祝福を受けた経験に、どのようなものがありますか。

イエス・キリストは御父に従われた

- イエス・キリストが御父に従われたことについて考えるとき、どの模範を思い起こしますか。

イエス・キリストは天の御父に対する従順さを示す卓越^{たくえつ}した模範でした。主は次のように言っておられます。「わたしが天から下ってきたのは、自分のこのままのままを行うためではなく、わたしをつかわされたかたのみこころを行うためである。」(ヨハネ 6 : 38) イエスは生涯を通して御父に従われました。これは必ずしも容易なことではありませんでした。イエスはほかの死すべき人間と同じようにあらゆる試練を受けられたのです(ヘブル 4 : 15 参照)。ゲツセマネの園において、イエスは次のように祈っておられます。「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい。」(マタイ 26 : 39)

イエスはすべてのことにおいて御父の御心^{みこころ}に従われたので、すべての人の救いを可能にされたのです。

- 救い主の模範を思い出すことは従順になるためにどのように役立ちますか。

従順と不従順のもたらす結果

- 主の戒めに従うとき、または従わないとき、どのような結果を招くでしょうか。

天の王国は律法によって支配されています。したがって、どんな祝福でも受けるときは、その祝福が基づく律法に従うことによるのです(教義と聖約 130 : 20 - 21 ; 132 : 5 参照)。主はわたしたちに、従順であり、勤勉であるならば、知識と英知を得るであろうと言われました(教義と聖約 130 : 18 - 19 参照)。また、霊的に成長することもできます(エレミヤ 7 : 23 - 24 参照)。一方、不従順は失望をもたらし、祝福を失う原因となります。「主は言う。わたしが約束をして、果たさなかったことがあるであろうか。わたしが命じて、人々が従わないと、わたしは命じたことを取り消し、彼らは祝福を受けない。すると、彼らは心の中で、『これは主の業ではない。約束が果たされていないから』と言う。」(教義と聖約 58 : 31 - 33)

わたしたちが神の戒めを守るとき、ベニヤミン王が民に語ったように、神は約束を果たしてください。「神はあなたがたが神から命じられたとおりに行くことを要求しておられる。そして、あなたがたが命じられたとおりに行くならば、神はすぐに祝福を授けてくださる。」(モーサヤ 2 : 24)

従順な人は永遠の命を得る

主は次のように勧告しておられます。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物^{たまもの}は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」(教義と聖約 14 : 7)

主はこのほかにも祝福を述べておられますが、それは最後まで義をもって真理にかなって主に従う人々に与えられるものです。

「主はこのように言う。すなわち、主なるわたしは、わたしを畏れる者^{おそ}に憐れみ深くかつ恵み深く、また最後まで義をもって真理にかなってわたしに仕える者に誉れを与えるのを喜びとする。

彼らの受ける報いは大きく、彼らの栄光は永遠である。

わたしは彼らにすべての奥義を、すなわち昔から隠されていたわたしの王国のすべての奥義を明らかにし、また来るべき時代におけるわたしの王国に関するすべてのことについても、わたしの思いのよしとするところを彼らに知らせよう。

まことに、永遠の驚異さえも、彼らは知るであろう。また、わたしは来るべきこと、多くの時代のことさえも彼らに示そう。

彼らの知恵は大いなるものとなり、彼らの理解は天に達する。……

わたしは、わたしの御霊によって彼らに光を注ぎ、またわたしの力によってわたしのひそかな思い、すなわち、目が見ず、耳が聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったそれらの事柄を彼らに知らせるからである。」(教義と聖約 76 : 5 - 10)

- あなたにとって「最後まで堪え忍ぶ」とはどのような意味ですか。
- たとえ多くの人に受け入れられなくても福音の原則に忠実であり続けるために、どのようなことができるでしょうか。子供や青少年が福音の原則に忠実であり続けられるように、どのような助けができるでしょうか。

参照聖句

- アブラハム 3 : 25 (従順さを試されるためにこの世に来た)
- サムエル上 15 : 22 (従順は犠牲に勝る)
- 伝道 12 : 13 ; ヨハネ 14 : 15 ; ローマ 6 : 16 ; 教義と聖約 78 : 7 ; 132 : 36 ; 申命 4 : 1 - 40 (神に従う義務)
- 2 ニューファイ 31 : 7 (イエス・キリストの従順さ)

第 35 章

- 箴言 3：1 - 4；6：20 - 22；7：1 - 3；エペソ 6：1 - 3；コロサイ 3：20
（子供は親に従う義務がある）
- 教義と聖約 21：4 - 6（預言者に従う）
- ヨハネ 8：29 - 32；モーサヤ 2：22, 41；教義と聖約 82：10；1 ニーフアイ 2：20（従順によって得られる祝福）
- 教義と聖約 58：21 - 22；98：4 - 6；134：5 - 7（国の法律に従う）
- イザヤ 60：12；教義と聖約 1：14；93：39；132：6, 39（不従順のもたらす結果）
- 2 ニーフアイ 31：16；教義と聖約 53：7；マタイ 24：13；ルカ 9：62（最後まで堪え忍ぶ）

第 36 章

家族は永遠に

家族の大切さ

- 天の御父がわたしたちを家族の一員として地上に送られたのはなぜだと思いますか。

「男女の間の結婚は神によって定められたものであり、家族は神の子供たちの永遠の行く末に対する創造主の計画の中心を成すもので〔す〕。」「(家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号, 49)

天の御父はアダムとエバを結婚により一つに合わせられた後、二人に子供をもうけるように命じられました(創世1:28参照)。御父は、結婚の目的の一つは霊の子供たちに死すべき肉体を与えることであると啓示されています。両親は天の御父のパートナーです。御父は、すべての霊の子供たちが肉体を得て地上の生活を経験することを望んでおられます。男女はこの世で子供をもうけることによって、天の御父が計画を実行されるのに協力するのです。

生まれてくる子供は皆、喜んで家族に迎えられなければなりません。一人一人が神の子供です。わたしたちは、子供とともに楽しみ、一緒に遊び、教える時間を取る必要があります。

デビッド・O・マッケイ大管長は次のように述べています。「永遠の命を得る……備えをするために最適の場所は家庭であると、わたしは心から信じています。」「(“Blueprint for Family Living,” *Improvement Era*, 1963年4月号, 252) 家庭で家族とともに自制心、犠牲、誠実、労働の価値を学ぶことができます。愛すること、分かち合うこと、互いに奉仕することを学ぶことができます。

親は子供に天の御父について教える責任があります。戒めを守ることで、神を愛していることを模範で示さなければなりません。祈ることと戒めに従うことを教えるのも親の責任です(箴言22:6参照)。

教師へ——家族に関する本章と次の2章を教える際、家庭が理想的な状態にない人の気持ちに配慮してください。



- 永遠の命を得る備えをするために、家庭が最良の場所であるのはなぜでしょうか。
- 家族と結婚の聖約が神聖であることを教会の青少年が理解するように、どのような助けができるでしょうか。

永遠の家族

家族は永遠と一緒にいることができます。この祝福を享受するには、神殿で結婚しなければなりません。神殿外で結婚した夫婦の結婚生活は、伴侶の一方が他界すると終わりを告げます。神殿でメルキゼデク神権の権能により結婚した夫婦は、この世から永遠にわたって結ばれます。主と交わした聖約を守るならば、家族は夫、妻、子供として永遠に一つに結ばれるのです。死によって分かたれることはありません。

愛に満ちた家族関係

- 家庭に調和をはぐくむにはどうすればよいでしょうか。

夫と妻は互いに思いやり、親切でなければなりません。相手の気持ちを傷つけるような言動を慎み、互いが幸福になれることであれば何でも行ってみる必要があります。

親は、神について知り、神のようになろうと努めるにつれて、子供に愛し合うことを教えるようになります。モルモン書の中でベニヤミン王は次のように語っています。

「あなたがたは、自分の子供たちが……互いに戦うのも、争い合うのもほうってはおかないであらう。……

むしろあなたがたは、彼らに真理の道をまじめに歩むように教えるであらう。互いに愛し合い、互いに仕え合うように教えるであらう。」(モーサヤ4:14 - 15)

家族は、励まし心から褒めることによって、お互いが自信を持てるようにすることができます。子供はそれぞれ自分は大切な存在であると感じるようであればなりません。親は子供の行動に関心を持っていることを示すとともに、愛と気遣いを表す必要があります。同様に、子供は親に愛を示す必要があります。言われたことをよく聞き、親と家族の名に榮譽となるような生活をするよう努めなければなりません。

- 息子や娘が互いにとって良い友となるように、親はどのようなことができるでしょうか。きょうだいは互いの間に友情をはぐくむためにどのようなことができるでしょうか。
- 夫婦は互いに相手が幸福でいられるように、どのようなことができるでしょうか。

幸福な家庭を築くために

- 家族を強め、幸福な家庭を築くために、どのようなことをしていますか。

ハロルド・B・リー大管長は次のように教えています。「あなたが行う最も大切な主の業は、あなた自身の家庭という囲いの中にある。」(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』140)

サタンは天の御父の計画の中で家族がいかに重要な意味を持つかを知っています。サタンはわたしたちを主に近づかせないようにして、家族を破壊しようとしています。家族の分裂を引き起こすようなことをさせようと誘惑します。

大管長会と十二使徒定員会は次のように宣言しています。「実りある結婚と家庭は、信仰と祈り、悔い改め、^{ゆる}赦し、尊敬、愛、思いやり、労働、健全な娯楽活動の原則にのっとして確立され、維持されます。」(『リアホナ』2004年10月号、49)

すべての人が幸せな仲の良い家族を持ちたいと望んでいます。それを実現するためには、以下の事柄が役に立つでしょう。

1. 毎日朝と夜に家族の祈りをする(3 ニーファイ 18:21 参照)。夫婦でともに祈る。
2. 毎週、家庭の夕べで子供に福音を教える。
3. 家族で定期的に福音を研究する。
4. 家族で一緒に作業をしたり、外出したり、物事を決めたりする。
5. 親切と忍耐、長く堪え忍ぶこと、慈愛を身に付けるようにする(モロナイ 7:45 - 48 参照)。
6. 教会の集いに欠かさず出席する(教義と聖約 59:9 - 10 参照)。
7. 教義と聖約第 88 章 119 節にある主の勧告に従う。「あなたがた自らを組織しなさい。すべての必要なものを用意しなさい。そして、一つの家、すなわち祈りの家、断食の家、信仰の家、学びの家、栄光の家、秩序の家、神の家を建てなさい。」

8. 家族歴史を作成し、神殿の業をともにを行い、神殿の結び固めの儀式を受ける。

家族は末日聖徒イエス・キリスト教会の最も重要な単位です。教会の目的は家族が永遠の祝福と昇栄を得られるようにすることにあり、教会の組織とプログラムは教会員個人を強め、家族で永遠に住めるように援助するためにあります。

- つらい時期をともに乗り越えるために、家族はどんなことができるでしょうか。
- 家族の祈り、家族の聖文学習、家族会議、家族の食事の時間、家庭の夕べなどの努力が大きな影響を及ぼすことを、どのような形で見てきましたか。

参照聖句とその他の資料

- モーセ 2：27 - 28 (創造され祝福された男女)
- 創世 2：24 (人は妻と結び合うべきである)
- 教義と聖約 49：15 - 16 (神によって定められた結婚)
- エペソ 6：4 (子供を義のうちにしつける)
- 教義と聖約 132：15 - 21 (永遠の結婚)
- 教義と聖約 88：119 - 126 (幸福な家庭を築くための勧告)
- 教義と聖約 93：40 - 50 (主は親に光と真理の中で子供を育てるよう命じておられる)
- 「家族 —— 世界への宣言」(LDS.org, および以下を含む様々な教会の出版物に掲載されている。『リアホナ』2004年10月号, 49; 『若人の強さのために —— 神への務めを果たす』[アイテム番号 36550 300] 44; および『真理を守る —— 福音の参考資料』[アイテム番号 36863 300] 38 - 40)



第 37 章

家族の責任

親の責任

- 子供を育てるに当たって、夫と妻はどのような責任を分け合うでしょうか。

人はそれぞれ家庭で大事な役目があります。主は預言者を通して、親と子供がどのように振る舞い、互いに思いやるべきかを教えておられます。わたしたちは夫、妻、子供として、家族の目的を達成するために主が何を望んでおられるかを知る必要があります。皆が役割を果たすならば、永遠に一つとなれるでしょう。

親という神聖な責任において、「父親と母親は対等のパートナーとして互いに助け合うという義務を負っています。」（『家族——世界への宣言』『リアホナ』2004年10月号, 49）二人は、家族の霊的、情緒的、知的、物質的な必要を満たすために、一緒に働きます。

夫と妻が協力しなければならない責任が幾つかあります。子供に福音を教えるのは両親の責任です。主は、両親が子供に信仰と悔い改め、バプテスマ、聖霊たまものの賜物について教えなければ、罪は両親の頭こうべにあると警告されました。両親はまた、子供に、祈ることと主の戒めを守ることを教えなければなりません（教義と聖約 68：25, 28 参照）。

親が子供を教える最も効果的な方法の一つは、模範です。夫と妻は、互いに愛し尊重し合っており子供を愛し尊重していることを、言葉と行いの両方で示さなければなりません。家族全員が神の子であることを心に留めておくことが大切です。両親は愛と敬意をもって、確固とした態度で、しかも思いやり深く子供に接しなければなりません。

親が理解する必要があるのは、子供は真理を教えられた後でも時々誤った選択をするということです。そのようなことがあっても、あきらめてはなりません。

教師へ——第36章と同様、家庭が理想的な状態にない人の気持ちに配慮してください。また、独りで子育てをしている親も、主の導きと家族や教会の助けによってしっかりと育てることができるという点を強調してください。

せん。引き続き子供を教え、愛し、模範となり、子供のために断食し祈ることが必要です。

モルモン書には、反抗的な息子を主の道に連れ戻すのに、父親の祈りがいかに助けとなったかが記されています。息子アルマは、義にかなった父アルマの教えに聞き従わずに教会を滅ぼそうとしました。父は息子のために信仰をもって祈りました。すると息子アルマは天使の訪れを受け、悪い行いを悔い改めるに至りました。その後、アルマは教会の偉大な指導者になったのです（モーサヤ 27:8 - 32 参照）。

親が愛をもって子供を教え導くならば、家庭に敬虔^{けいけん}さと敬意が培われます。また、親は子供に幸せな体験をさせるべきです。

- 夫婦は互いの役割をどのように支え合うことができるでしょうか。独りで子育てをしている親はどこに支援を求めることができるでしょうか。

父親の責任

- 子育てをしている父親の良い模範として、これまでにどのような例を見ましたか。

「神の計画により、父親は愛と義をもって自分の家族を管理しなければなりません。また、生活必需品を提供し、家族を守るという責任を負っています。」（『リアホナ』2004年10月号、49）教会員であるふさわしい父親は神権を受ける機会を得て、家族の神権指導者となります。強制や腕力によってではなく、謙遜^{けんそん}さと優しさをもって家族を導かなければなりません。聖文には、神権を持つ者は説得と温厚、愛、優しさによって導くべきであると記されています（教義と聖約 121:41 - 44；エペソ 6:4 参照）。

父親は神権の祝福を家族と分かち合います。メルキゼデク神権を持っている場合には、病人への癒^{いよ}しの祝福、神権の特別な祝福などによって、家族に祝福を受けることができます。管理の職にある神権指導者の指示の下で、幼児の祝福、バプテスマと確認の儀式、神権への聖任をすることができます。戒めを守ることによって、家族に模範を示すべきです。また、毎日2回家族と一緒に祈り、家庭の夕べを開くようにしなければなりません。

父親は子供と一人ずつ一緒に過ごす時間を持つ必要があります。子供に正しい原則を教え、子供の問題や関心事について話し合い、愛の心で助言します。モルモン書には父親の模範が記されています（2 ニーフアイ 1:14 - 3:25；アルマ 36 - 42 章参照）。

さらに、物質的な必要を満たすことも父親の責任です。家族に必要な衣食住や教育の機会を確保することです。父親がこうした養育を一人ですべてで

きないとしても、家族を世話するという責任を放棄することはできません。

母親の責任

- 子育てをしている母親の良い模範として、これまでにどのような例を見てきましたか。

デビッド・O・マッケイ大管長は、母親であることは最も気高い召しであると述べました（『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』156 参照）。それは神聖な召しであり、霊の子供をこの世へ送り出すうえで神のパートナーになることです。子供をもうけることはあらゆる祝福の中で最大の祝福の一つです。父親のいない家庭では、母親が家族を管理します。

ボイド・K・バックー会長は、子供を持たず他人の面倒を見ようと願う女性をたたえて、次のように述べています。「わたしの言う母親とは、子供を産んだ女性ばかりでなく、ほかの家庭に生まれた子供を育てる女性や、子供に恵まれず他人の子供を母親のように世話する多くの女性をも指します。」（*Mothers* [1977 年], 8）

末日の預言者たちはこう教えています。「母親には、子供を養い育てるといふ主要な責任があります。」（『リアホナ』2004 年 10 月号, 49）母親は子供とともに時間を過ごし、福音を教える必要があります。一緒に遊び、働くことも大切です。そうすれば、子供は周りの世界に様々な発見ができるようになります。また、母親は家庭を心地よい場所とするにはどうしたらよいか、家族にその方法が分かるように助ける必要があります。母親が温かく愛に満ちた存在であるならば、子供が自らに肯定的な感情を持つうえで助けとなります。

モルモン書には、母親から教えられていたために重要なことを成し遂げた 2,000 人の青年たちのことが記されています（アルマ 53 : 16 - 23 参照）。この青年たちは預言者ヒラマンの指揮の下に戦場に出て行き、敵と戦いました。正直で勇敢な、信頼の置ける者となるよう母親から学んでいました。疑わなければ神が救ってくださることも教わっていました（アルマ 56 : 47 参照）。青年たちは皆、戦いから生還しました。青年たちは母親の教えに対する信仰を次のように述べています。「わたしたちは、母たちがそれを知っていたことを疑いません。」（アルマ 56 : 48）証を持つすべての母親は、子供に大きな影響を及ぼすことができます。

子供の責任

- 子供は、親が幸福な家庭を築くうえでどのような助けができるでしょうか。

子供は親とともに幸福な家庭を築く責任があります。戒めに従い、家族に

協力しなければなりません。主は子供が争うのを良しとされません（モーサヤ 4：14 参照）。

主は子供に、親を敬うようにと命じておられます。「あなたの父と母を敬え。これは、……地で、あなたが長く生きるためである。」（出エジプト 20：12）両親を敬うとは、愛し尊敬することであり、また従うことでもあります。聖文は子供に対して、「主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことである」と教えています（エペソ 6：1）。

スペンサー・W・キンボール大管長は、子供は働いたり、家や畑で仕事の割り当てを果たしたりすることを学ぶ必要があると述べました。また、家の片付けや清掃などの責任を与えるるとよいと述べています（『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』120 参照）。

- 親を敬い尊敬するために、子供は何をする必要があるのでしょうか。
- あなたは親のどのような行いから、親を敬い尊敬するようになりましたか。

責任を果たすことにより祝福を得る

- 家庭を幸福な場所とするために、家族一人一人は何をすることができるのでしょうか。

愛に満ちた幸福な家庭は偶然に出来るものではありません。家族全員が各自の役割を果たさなければなりません。主は親と子供の両方に責任を与えられました。聖文は各自が思慮深く、明るく、思いやり深くなければならぬと教えています。家族がともに語り、祈り、歌い、働くとき、家庭の中に一致という祝福を頂けるのです（コロサイ 3 章参照）。

- 家庭を幸福な場所にしてくれる伝統や習慣には、どのようなものがあるのでしょうか。

参照聖句とその他の資料

- 箴言 22：6（子供を訓練する）
- エペソ 6：1－3（子供は両親に従う）
- 教義と聖約 68：25－28；エペソ 6：4（両親の責任）
- 「家族——世界への宣言」（LDS.org、および以下を含む様々な教会の出版物に掲載されている。『リアホナ』2004年10月号、49；『若人の強さのために——神への務めを果たす』〔アイテム番号 36550 300〕44；および『真理を守る——福音の参考資料』〔アイテム番号 36863 300〕38－40
- 『家族ガイドブック』（アイテム番号 31180 300）



第 38 章

永遠の結婚

結婚は神によって定められた

男女の間の結婚は神の計画に不可欠な要素です。主は次のように言われました。「だれでも結婚を禁じる者は、神から聖任されていない。結婚は人のために神によって定められているからである。」(教義と聖約 49 : 15) 創世の初めから結婚は福音の律法でした。結婚はただこの死すべき世だけでなく、永遠に続くよう計画されています。

アダムとエバはこの世に死がもたらされる前に神によって結婚していました。二人は永遠の結婚をしていたのです。アダムとエバはこの永遠の結婚の律法を子供たちと後に続く子孫に教えました。ところが時が過ぎ、人間の心に邪悪が生じてくると、この神聖な儀式を執行する権能が地上から取り去られてしまいました。しかし福音の回復に伴って、永遠の結婚が地上に回復されたのです。

- 男女の間の結婚が神によって定められたものであると知ることは、なぜ大切なのでしょうか。

昇栄に欠かせない永遠の結婚

- 結婚に関する主の教義はどのようなものですか。それは世の考え方とどのように異なっていますか。

世の多くの人々は、結婚は単なる社会の慣習であって、男性と女性が同居するための法的な契約にすぎないと考えています。しかし、末日聖徒にとって結婚はそれ以上のものです。昇栄は、他の原則や儀式、すなわち、信仰、悔い改め、バプテスマ、聖霊の賜物たまものを受けることなどとともに、結婚にかかっています。末日聖徒は、結婚が男女の間に存在し得る最も神聖な関係であると信じています。この神聖な関係がこの世において、また永遠にわたって、わたしたちの幸福に影響を及ぼすのです。

天の御父はわたしたちが御父のようになれるよう、永遠の結婚の律法を与えてくださいました。主は次のように言われました。

「日の栄えの栄光には、三つの天、すなわち三つの階級がある。

その最高の階級を得るためには、人はこの神権の位（すなわち、結婚の新しくかつ永遠の聖約）に入らなければならない。

そうしなければ、その人はそれを得ることができない。」(教義と聖約 131: 1-3)

永遠の結婚は、神殿で正しい権能によって執行されなければならない

- 神殿で正しい権能によって執行しなければ結婚が永遠のものとならないのはなぜでしょうか。

永遠の結婚は結び固めの力を有する人が執行しなければなりません。主は次のように約束されました。「もしある男が……新しくかつ永遠の聖約によって妻をめとり、そしてそれが、……油注がれた者によって……彼らに結び固められ〔る〕ならば、また……〔彼ら〕が〔主〕の聖約の中にとどま……れば、……彼らがこの世の外に去るときにも完全に効力があるであろう。」(教義と聖約 132: 19)

永遠の結婚は正しい神権の権能によるだけでなく、主の聖なる神殿の中で執行されなければなりません。この神聖な儀式は、神殿でのみ執行することができます。

神殿において、末日聖徒の男女は、すでに神殿のエンダウメントを受けている家族や友人の立ち会いのもと聖壇にひざまずき、神の前で結婚の聖約を交わします。二人はこの世においても永遠にわたっても夫婦であると宣言されます。この儀式は、神の聖なる神権を持ち、この神聖な儀式を執行する権能を与えられた人により行われます。この人は主の導きの下に儀式を執行し、昇栄にかかわる祝福を夫婦に約束します。また、この祝福を得るために行うべきことを教え、すべての祝福は神の律法に従順であることにかかっていることを告げます。

神殿で神権によって執行されるのでなければ、それ以外のどのような権限による結婚も、この世だけのものです。死後夫婦のきずなは断たれ、子供とのつながりを求めることもできません。永遠の結婚によって、この世を去った後も家族のままにいる機会が与えられます。

教師へ——結婚しているかどうかを問わず、すべての会員は永遠の結婚の教義を理解する必要があります。とはいえ、教師は独身の人たちの気持ちに配慮しなければなりません。必要であれば、生徒や家族が次のことを知るように助けてください。この世において聖約に忠実である天の御父のすべての子供たちは、永遠において、永遠の家族を持つ機会を含む福音のすべての祝福を受ける機会を得るでしょう。

永遠の結婚から生まれる恵み

- 永遠の結婚によって、この世と永遠においてどのような祝福があるでしょうか。

末日聖徒であるわたしたちは、ただこのつかの間だけでなく永遠の見地に立って生きています。しかしながら、永遠の結婚をしていることによる祝福を、この世でも享受することができます。次のような祝福が挙げられます。

1. 結婚が永遠に続くものであることを知る。死が二人を分かつのは一時のことであり、自らの不従順以外に二人を永遠に分かつものは何もない。このことを知っている夫婦は、結婚生活が幸福でうまくいくよういっそう努力するようになる。
2. 家族関係が永遠に続くことを知る。このことを知っていれば、子供を教え育てるのに注意深くなる。また、子供に対してもっと忍耐強くなり、愛も深まる。その結果、さらに幸福な家庭を築くことができる。
3. 神の定められた方法で結婚したので、ふさわしくあるかぎり、結婚生活に御霊みたまが注がれる資格がある。

また、永遠にわたって享受できる祝福には次のような事柄が含まれます。

1. 神の日の栄えの王国で最高の階級に住む。
 2. 神と同じように高く上げられ、満ちみちる喜びを受ける。
- 永遠の見地に立つと、結婚や家族に対する気持ちはどのように変わってくるでしょうか。

永遠の結婚の準備をする

- 青少年が永遠の結婚に備えられるように、どのような助けができるでしょうか。

スペンサー・W・キンボール大管長は次のように教えています。「結婚はあらゆる決断の中で恐らく最も大切なものであり、最も広範囲に影響を及ぼすものです。なぜなら、結婚は目先の幸福だけでなく、永遠の喜びにつながっているからです。結婚は当事者である二人だけでなく、その家族や、特に二人に生まれてくる子供たち、さらに子供たちの子供たちへと、多くの世代にわたって影響を及ぼします。生涯と永遠にわたって伴侶となる人を選ぶときには、当然のことながら細心の注意を払って計画し、考え、祈り、断食して、あらゆる決断の中でも、この決断は決して間違いないようにしなければなりません。」(『歴代大管長の教え——スペンサー・W・キンボール』193)

永遠の結婚をすることはすべての末日聖徒の目標です。すでに民法により結婚している人にとっても、この目標は同じです。永遠の結婚に備えるために、真剣に考え、また祈る必要があります。神殿に参入する許可が得られるのは、義にかなう生活をしている教会員だけです（教義と聖約 97：15 - 17 参照）。ある日突然に神殿で結婚したいと思ひ立ち、その日のうちに神殿に参入して式を挙げることはできません。まず、ある条件を満たさなければなりません。

神殿に参入するためには、少なくとも 1 年間、教会員として活発に、ふさわしい生活を送らなければなりません。男性はメルキゼデク神権者でなければなりません。支部会長あるいはビショップから面接を受け、ふさわしいと認められたら、神殿推薦状が発行されます。ふさわしくないと判断された場合は、ビショップまたは支部会長の助言を受け、ふさわしい状態で神殿に参入できるよう目標を立てます。

ビショップあるいは支部会長から推薦状を受け取った後、ステーク会長か伝道部会長の面接を受けます。神殿推薦状を受けるための面接では次のようなことを質問されます。

1. 永遠の父なる神とその御子イエス・キリストと聖霊に対して、信仰と証あかしを持っているか。回復された福音に対して、確固とした証があるか。
2. 末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長を預言者、聖見者、啓示者として支持しているか。また大管長がすべての神権の鍵かぎを行使する権限を託された地上で唯一の人であることを認めているか。
3. 純潔の律法を守っているか。
4. 什分じゅうぶんの一を完全に納めているか。
5. 知恵の言葉を守っているか。
6. ほかの人と正直に交際しているか。
7. 交わした聖約を守り、聖餐会せいさんや神権会などの集会に出席し、福音に定められた律法や戒めを守る努力をしているか。

神殿推薦状の発行を求める人は、神殿に参入することが神聖な特権であることを心に留めていなければなりません。神殿参入は重大なことであり、軽々しく考えるべきではありません。

神殿で交わすすべての聖約に従うよう、熱心に努めなければなりません。主は、わたしたちが真実で忠実であるならば、昇栄に入るであろうと言われました。天の御父のようになるのです（教義と聖約 132：19 - 20 参照）。神

殿結婚はいかなる犠牲をも払う価値があります。それは計り知れない永遠の祝福を得る道です。

- 若人が神殿で結婚するという目標を持てるように、どのような働きかけができるでしょうか。若人が神殿結婚に備えられるように、どのような助けができるでしょうか。

参照聖句

- 創世 1：26 - 28（人は増えて地に満ちるべきである）
- 創世 2：21 - 24（神が執行された最初の結婚）
- マタイ 19：3 - 8（神が合わせられたもの）
- 教義と聖約 132 章（結婚の律法の永遠性）
- 教義と聖約 42：22 - 26（結婚の聖約に従う）
- モルモン書ヤコブ 3：5 - 7（夫婦は互いに対して誠実であるべきである）



第 39 章

純潔の律法

両親へ

本章では幼い子供の理解度を超える事柄が幾つか採り上げられています。子供が性的な関係や命を生み出す働きについて十分に理解できる年齢に達するまで、本章のそうした箇所を教えるのを待つのが賢明です。教会の指導者は、子供に生殖（妊娠から出産までの過程）について教える責任は親にあると述べています。同時に親はこの章で説明されている純潔の律法を教えなければなりません。

子供が小さいときから肉体について正しい考え方を持つように教え始めてください。体の各部と機能の正しい名称けいけんを使って、卒直にしかも敬虔な態度で話すならば、子供は自分の体に不要な当惑を覚えることなく成長するでしょう。

子供は本来好奇心が強く、人体の働きや、赤ちゃんがどこから生まれるかなどについて知りたがります。こうした質問に親が即座にしかも分かりやすく答えてやると、子供は次にまた分からないことがあれば親に聞きに来るでしょう。しかし、子供が親の答えを聞いて当惑したり、拒まれたと感じたり、不満だったりすると、たいていほかの人に尋ねるようになり、誤った考え方や正しくない態度を身に付ける恐れがあります。

とはいえ一度にすべてを教えることは賢明とは言えませんし、またそうする必要もありません。大切なのは、子供が知りたいことと理解できることだけを教えることです。質問に答えるとき、自分の体も人の体も尊ぶことの大切さを教えてください。慎み深い服装をするように教え、また周囲の人から聞く間違った考え方や下品な言葉遣いも正す必要があります。

子供が十分に成熟するまでに、生殖について率直に話し合っておかなければなりません。子供は、命を生み出す力は善であり、主から与えられたものであることを理解する必要があります。主はその力を主の定められた範囲内で用いるように望んでおられます。

幼児は純粋で罪のない状態で、天の御父のみもとからこの世にやって来ます。親が導きを求めて祈るならば、主はふさわしいときにふさわしい方法で子供を教えられるよう靈感を与えてくださいます。

命を生み出す力

- なぜ親は子供に生殖と純潔について教えるべきなのでしょう。どうすれば適切に教えることができるのでしょうか。

神は各々の生き物に種類に従って増えるよう命じられました（創世 1：22 参照）。すなわち、すべての生物を地上に存続させるために子孫をもうけることは神の計画の一部となりました。

次に神はアダムとエバを地上に置かれました。二人は神の霊の子供であるため、ほかの創造物とは異なっていました。神はアダムとエバをエデンの園で結婚によって一つに合わせられ、増え、地に満ちるよう命じられました（創世 1：28 参照）。しかし、二人の生活は本能ではなく、道徳的な律法によって治められることになっていました。

神は霊の子供たちが家族の中に生まれ、適切な世話と教えを受けられるように望まれました。アダムとエバのように、わたしたちは霊の子供たちに肉体を与えるのです。大管長会と十二使徒定員会は次のように述べています。「わたしたちは宣言します。この世に命をもたらす手段は、神によって定められたものです。」（「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号、49）神は、結婚生活の中でのみ性的な関係を持つことができると戒められました。この戒めが純潔の律法と呼ばれます。

純潔の律法

- 純潔の律法とは何でしょうか。

性的な関係を持つことが認められている相手は、法律の下に結婚した配偶者だけです。男性、女性を問わず、いかなる人も結婚前に性的な関係を持つてはなりません。結婚して初めて、伴侶と性的な関係を持つことが許されるのです。

主はイスラエル人に「あなたは姦淫^{かんいん}してはならない」と言われました（出エジプト 20：14）。この戒めを破ったイスラエル人は、重い罰を受けることになっていました。主は末日にもこの戒めを繰り返されました（教義と聖約 42：24 参照）。

純潔の律法には性交渉以外の事柄も含まれると教えられています。大管長会は、ほかの性的な罪について若人に次のように警告しています。

「結婚の中でしか表現してはならない強い感情を引き起こすどのようなことも、結婚するまでしてはなりません。情熱的なキスをしたり、人の上に覆いかぶさったり、服の上からであれ服を脱いでであれ人の隠れた神聖な場所に触れてはなりません。あなたに対してもほかの人にそのようなことをさせてはなりません。自分の体に対してもそのような感情を刺激してはなりません。」(『若人の強さのために』[小冊子] 26 - 27)

純潔の律法を破るほかの罪と同様に、同性愛行為は重大な罪です。末日聖徒の預言者たちは同性愛行為の危険性を語り、そのような傾向があるかもしれない人に教会が抱く憂慮について語ってきました。ゴードン・B・ヒンクレー大管長は次のように述べています。

「まず第 1 に、わたしたちは、男女の結婚は神によって定められたものであると信じています。わたしたちは、結婚というものは、主の宮において永遠の神権の権能を行使することによって永遠のものになり得ると信じています。

人々は、自分のことをいわゆるゲイやレスビアン、すなわち同性愛者だと考えている人たちについて、わたしたちの教会がどのような見解を持っているか、尋ねます。それに対するわたしの答えはこうです。わたしたちはそうした人々を神の息子娘として愛しているということです。そういう人たちは、強力で恐らくは抑制し難い性癖のようなものを持っているのかもしれませんが。大部分の人々は、折に触れて、何らかの性癖を持っていることに気づきます。そうした性癖に従って行動を起こさないかぎり、その人は、ほかのあらゆる教会員と同様に、前進を続けることができます。しかし、貞潔の律法や道徳の標準を犯すようなことがあれば、ほかの違背行為と同様に、教会にあって宗紀の対象となります。

わたしたちはそのような問題を抱えている人々を助け、強め、援助の手を差し伸べたいと考えています。しかし、そのような人たちが、不道徳な行為にふけるようになったり、あるいは、いわゆる同性結婚を唱導し、擁護し、また実際にその趣旨に従って生活するようになれば、わたしたちとしてはそれを見過ごししておくわけにはいきません。そのようなことを許容するということは、神が定められた重大で神聖な結婚の基盤やその真の目的、すなわち家族を養育育てるという目的を軽視することにもなりかねないからです。」(『リアホナ』1999年1月号, 77)

サタンはわたしたちが純潔の律法を破ることを望んでいる

- 純潔の律法を破らせるために、サタンはどのような方法を用いて誘惑するでしょうか。

サタンの計画は、できるだけ多くの人を誘惑し、天の御父のみもとに戻って住むのを阻止することです。その最たる方法の一つが、純潔の律法を破るように誘惑することです。サタンは賢く、力があります。この律法を破ることは罪ではないと信じさせようとし、多くの人を欺あざむいてきました。わたしたちはこの悪影響から身を守らなければなりません。

サタンは慎みの標準を攻撃します。人間の体は美しいので、人目にさらし誇示するものだと思込ませようとし、天の御父は、わたしたちが体を覆って人に誤った思いを抱かせないようにすることを望んでおられます。

サタンは慎みのない服装をするようあおるばかりでなく、不道徳で悪い思いを抱くようにそそのかします。不道徳な行為を助長するような写真、映画、物語、冗談、音楽、踊りなどをその手段に利用します。純潔の律法は、行いだけでなく思いも清く保つことを求めています。預言者アルマは、神によって裁かれるときには、「わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める。そして、このような恐ろしい状態の中で、わたしたちはあえて神を仰ぎ見ようとはしないであろう」と教えています(アルマ12:14)。

イエスは次のように教えられました。「『姦淫するな』と言われていたことは、あなたがたの聞いているところである。

しかし、わたしはあなたがたに言う。だれでも、情欲をいだいて女を見る者は、心の中ですでに姦淫をしたのである。』(マタイ5:27-28)

ゴードン・B・ヒンクレー大管長はこう警告しています。「皆さんは恐ろしい誘惑の世界に生を受けています。低俗で卑猥ひわいなポルノグラフィーは、恐ろしい津波のように世界を覆いつつあります。ポルノグラフィーは毒です。見たり読んだりしないでください。見たり読んだりすると自分を滅ぼしてしまいます。ポルノグラフィーは皆さんから自尊心を奪い、人生の中の美しいものへの感覚を狂わせてしまいます。そして皆さんを墮落させ、邪悪な思いと、そして多分に邪悪な行いの泥沼へと引き込んでしまうのです。ポルノグラフィーから遠ざかってください。嫌な病気を避けるように避けてください。死に至ることがあるからです。思いと行いを清く保ちましょう。神はある目的の下に、皆さんの体の中に神聖な衝動を植え付けてくださいました。しかしそれは、簡単に邪悪で破壊的な結果を招きかねない衝動です。若いときには相手を一人に決めて行うデートは避けてください。そのようなデートは、結婚を考える年齢になったときに行いましょう。高校生の兄弟や姉妹の皆さんにはこのようなデートは必要ありません。』(『聖徒の道』1998年1月号, 60)

サタンは人の感情を利用して誘惑することがあります。人が寂しいとき、混乱しているとき、元気がないときを知っていて、このような抵抗力の弱いとき

をねらって、純潔の律法を破るように誘惑します。天の御父はこの試練を無事に乗り切る力をお与えになれるのです。

聖文には、ヨセフという義にかなった若者の話が載っています。ヨセフは主人のボテバルから厚い信頼を寄せられ、すべての所有物をゆだねられていました。ある日、ボテバルの妻がヨセフに言い寄り、姦淫するように誘惑しましたが、ヨセフはそれを拒んで立ち去りました（創世 39：1－18 参照）。

パウロはこう説いています。「あなたがたの会った試練で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試練に合わせることはないばかりか、試練と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。」（1 コリント 10：13）アルマはわたしたちが「主の御前にへりくだり、主の聖なる御名を呼び、……目を覚ましていて絶えず祈」るとき、「自分が耐えられないような誘惑を受けない」と強調しています（アルマ 13：28）。

- 慎み深さと純潔はどのように関係しているでしょうか。親はどのようにして子供に服装や言葉、振る舞いにおいて慎み深くあるように教えることができるでしょうか。
- ポルノグラフィーの普及や影響力とどのように戦うことができるでしょうか。
- わたしたちがサタンの誘惑に打ち勝てるように、主はどんな約束をしてくださっているでしょうか。

純潔の律法を破ることはきわめて重大である

預言者アルマは、息子が純潔の律法を破ったことを嘆き悲しみました。アルマは息子のコリアントンに次のように言いました。「わが子よ、あなたはこのことが主の目から見て忌まわしい行いであること、まことに、罪のない者の血を流すことや聖霊を否定することを除いて、どのような罪よりも非常に忌まわしい行為であることを知らないのか。」（アルマ 39：5）純潔の律法を破ることは、殺人に次いで重大です。

男女が純潔の律法を破って子供をもうけた場合、さらに別の忌まわしい罪、すなわち墮胎へと引きずり込まれることがあります。墮胎を正当とする理由はほとんどありません。教会指導者は、次のような例外的な状況においては墮胎が正当とされることがあると述べています。近親相姦きんしんそうかんまたは強姦ごうかんによって妊娠した場合。資格ある医師により、母親の生命や健康が重大な危険

教師へ—— 慎み深さと純潔について問われた際に役立つ資料として、『若人の強さのために』（36550 300）を参照するとよいでしょう。配送センターやLDS.orgで入手できるほか、集会所付属図書館にも置いてあるでしょう。

にさらされていると判断された場合。資格ある医師の診断により、胎児に重大な欠陥があって、生まれても生存の見込みがないと分かっている場合。以上のような状況であっても、墮胎がすぐに正当とされるわけではありません。そのような状況に直面した場合には、地元の教会指導者と相談し、真剣に祈って確認を得たうえで、墮胎を考えるべきです。

「男性と女性が結婚生活によらずに子供をもうけたときは、二人が結婚するようあらゆる努力をすべきです。年齢またはその他の環境条件により、実りある結婚生活を築ける可能性が薄い場合は、末日聖徒ファミリーサービス事務局を通して、子供を養子に出すよう未婚の親に勧めるべきです。これは、その子供が神殿に参入するふさわしさを備えた両親と結び固められるのを確実にするためです。」(大管長会からの手紙、2002年7月19日付)

天の御父にとって、御自身の子供たちが純潔の律法を守るとはきわめて重要なことです。この律法を破ったり、ほかの人に破るよう促したりする教会員は、教会宗紀処置の対象となります。

純潔の律法を破った人も^{ゆる}赦しを得ることができる

純潔の律法を破った人も平安を得ることができます。主は次のように言うておられます。「しかし、悪人がもしその行ったもろもろの罪を離れ、わたしのすべての定めを守り……行うならば、……その犯したもろもろのものが、彼に対して覚えられない。」(エゼキエル 18:21 - 22) 平安は赦しを通してのみ訪れます。

キンボール大管長は次のように語りました。「あらゆる赦しには条件がある。……断食と祈りと謙虚な態度は、犯した罪に十分見合うだけのもの、あるいはそれ以上のものが必要とされる。それは『荒布をまとい灰の中に座る』ほどでなければならぬ。涙と心底からの改心がなければならぬ。罪を自覚し、悪を捨て、犯した過ちを正しい権限を持つ主の僕に告白しなければならぬ。」(『赦しの奇跡』353 - 354)

多くの人にとって、告白は悔い改めの過程で最も難しい段階です。主に告白するだけでなく、夫や妻など罪を犯した相手や、然るべき神権の権能を持った人にも告白しなければなりません。神権指導者(ビショップあるいはステーキ会長)には、教会員の資格を判断する権限があります。主はアルマに次のように言われました。「だれであろうとわたしに背く者……があなたとわたしの前で罪を告白し、真心から悔い改めるならば、その者をあなたは赦しなさい。わたしもその者を赦そう。」(モーサヤ 26:29)

しかし、キンボール大管長は次のように警告しています。「赦しがもたらされるという約束は豊かに与えられているが、完全に悔い改めをしない人に対する赦しの約束や、そのような意味の言葉は一言もない。……罪を犯して赦しを得たとしても、幾度か罪を繰り返してまた赦しを期待できるとってはならない。わたしはこのことをことさら強調したい。」(『赦しの奇跡』353, 360)すでに赦しを得ていながら罪を繰り返す人は、以前の罪にも責任を負わなければなりません(教義と聖約 82:7; エテル 2:15 参照)。

純潔の律法を守る人は豊かに祝福される

• 純潔の律法を守るとき、どのような祝福を受けるでしょうか。

純潔の律法を守る人は罪や恥辱を避けることができます。主の前に自らを清く汚れのない状態に保つならば、自分の生活と子供の生活が祝福されます。子供はわたしたちの模範を見、それに従って生活できるのです。

参照聖句

- マタイ 19:5 - 9; 創世 2:24 (結婚関係の神聖さ)
- テトス 2:4 - 12 (純潔に関する教え)
- 1コリント 7:2 - 5; エペソ 5:28 (配偶者への忠誠心)
- 黙示 14:4 - 5 (純潔の律法に従うことにより得られる祝福)
- 箴言 31:10 (徳がたたえられる)
- アルマ 39:9 (自分の目の欲を追ってはならない)
- 教義と聖約 121:45 (絶えず徳であなたの思いを飾るようにしなさい)
- アルマ 42:16 (罰がなければ悔い改めをすることができない)
- アルマ 42:30 (罪の言い訳をしてはならない)
- 教義と聖約 58:42 - 43 (悔い改めた人は罪を告白して捨てる)

第 40 章

神殿活動と家族歴史

天の御父は子供たちが御自分のもとに戻って来ることを望んでおられる

イエス・キリストの贖罪しよくざいにより、あらゆる人が復活し、永遠に生きることが保証されています。しかし、天の御父の前で家族とともに永遠に住みたいと望むならば、救い主が命じておられることをすべて行わなければなりません。バプテスマと確認を受けること、神殿の儀式を受けることもその中に含まれています。

末日聖徒イエス・キリスト教会の会員は皆、適切な神権の権能を持つ人によってバプテスマと確認を受けています。また、神殿に参入し、その中で行われる救いにかかわる神権の儀式を受けることもできます。しかしながら、神の子供たちの中には、そうした機会に恵まれなかった人も数多くいます。福音に接することのできない時代や地域に生きていたからです。

天の御父は、すべての子供たちが御自分のもとに戻り、一緒に住むよう望んでおられます。バプテスマや神殿の儀式を受けずに亡くなった人にとってこれが可能となるよう、御父は一つの道を備えられました。わたしたちが先祖に代わって神殿で儀式を執行するよう求められたのです。

主の神殿

• わたしたちの生活の中で神殿はなぜ大切なのでしょう。

末日聖徒イエス・キリスト教会の神殿は、主に奉献された特別な建物です。ふさわしい教会員は神殿に参入して、神聖な儀式を受け、神と聖約を交わすことができます。バプテスマと同様、それらの儀式や聖約は人の救いに不可欠であり、主の神殿でしか執行することができません。

教師へ—— 絵や写真を用いることによって、学んでいる人たちの興味を引き、理解を深めさせることができます。生徒や家族に、本章にある神殿の写真を見ながら、自分が神殿活動をどう思っているか深く考えてもらうとよいでしょう。



神殿に参入するもう一つの目的は、天の御父と御子イエス・キリストについてさらによく知ることです。人生の目的について、天の御父やイエス・キリストとわたしたちとの関係について、理解を深めることができます。また、前世のこと、現世の目的、死後の生活について教えを受けます。

神殿の儀式により家族は永遠に結び固められる

- 結び固められるとはどういう意味でしょうか。

神殿のすべての儀式は神権の権能により執行されます。この権能により地上で行われる儀式は、天においても結び固められ、つながれるのです。救い主は使徒たちに、「あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ……るであろう」と教えられました（マタイ 16：19。教義と聖約 132：7も参照）。

神殿においてほかに、家族を永遠に結び固められる場所はありません。神殿結婚は、一組の男女を、聖約を守るかぎり、永遠にわたって夫婦として結び合わせるものです。バプテスマやそのほかの儀式は皆、この神聖な出来事に備えさせてくれます。

男女が神殿結婚をし、その後に生まれた子供は、永遠の家族の一員となります。民法に従って結婚した夫婦は、夫婦も子供も神殿に参入してお互いに結び固められるよう準備することで、こうした祝福にあずかることができます。合法的に養子を迎えた両親は、その子供を自分たち夫婦に結び固めることができます。

- 夫婦関係に結び固めの力の効力が及ぶようにするために、夫婦はどのようなことをしなければならないでしょうか。

先祖はわたしたちの助けを必要としている

- 神権の祝福を受けることなく死んだ先祖に対して、わたしたちはどのような責任があるでしょうか。

マリオ・カンナメラが MARIA・ビタと結婚したのは 1882 年のことです。二人はイタリアのトリパニに住み、そこで子供を育て、一緒に楽しい年月を過ごしていました。マリオと MARIA は、回復されたイエス・キリストの福音のメッセージを生きている間に聞く機会はありませんでした。バプテスマも受けず、神殿に行って永遠の家族として結び固められることもなかったのです。死と同時に、二人の結婚関係は終わりました。

それから 1 世紀以上たったある日、大いなる再会の時が訪れました。マリオと MARIA の子孫がロサンゼルス神殿に参入したのです。ひ孫とその妻が聖

壇にひざまずき、代理としてマリオとマリアの結び固めを受けました。マリオとマリアの喜びを感じた二人の目からは涙があふれました。

わたしたちの先祖の多くは、地上にいる間に福音について聞かずに亡くなっていった人たちです。彼らは今霊界にいて（本書第41章参照）、イエス・キリストの福音を教えられています。福音を受け入れた人は、自分の身代わりに神殿の儀式が執行されるのを心待ちにしています。神殿で先祖のためにこうした儀式を執行するとき、先祖と喜びを共にすることができます。

- 死者の救いの教義には、神の正義と思いやりと^{あわ}憐れみがどのように表れているでしょうか。
- 先祖のために神殿の業を行うことで、どのような経験をしてきましたか。

家族歴史——どのように先祖を助ける業を始めるか

- 家族歴史活動を行う際の基本的な段階に、どのようなものがあるでしょうか。

末日聖徒は家族歴史活動に参加するように勧められています。こうした活動を通して、先祖について知り、先祖のために儀式を執行することができるのです。家族歴史には、基本的に次の3段階があります。

1. 先祖の名前を確定する。
2. どの先祖に神殿の儀式を執行する必要があるか明らかにする。
3. 必要な儀式が執行されるように手配する。

ほとんどのワードや支部には家族歴史相談員がいて、質問に答えたり、必要な情報が得られるよう助けたりしてくれます。ワードや支部に家族歴史相談員がいない場合には、ビショップや支部会長から指導を受けることができます。

先祖の名前を確定する

先祖のために神殿の儀式を執行するには、名前を知る必要があります。現在では、先祖の名前を確定するに当たって、数多くの有用な手段が利用できるようになっています。

先祖について情報を集め始めるには、自分の家にどのような資料があるか確かめるのが良い方法です。出生や結婚、死亡の証明書があるかもしれません。あるいは、家族の情報を書き込んだ家庭用聖書や、死亡記事、家族史、日記、日誌などが見つかるかもしれません。さらに、^{しんせき}親戚に何か情報を持っていないか尋ねることもできます。家庭にある情報や、先祖が残した資料を

集めた後、FamilySearch.orgなど、その他の手段を利用して調べるとよいでしょう。地元にある教会の家族歴史センターを訪れてもよいでしょう。

どんな情報が手に入るかによって、分かることの範囲も決まります。家族の情報がわずかしかない場合には、両親や祖父母の名前を確定することで精いっぱいかもしれません。あるいは、家族の記録がたくさん残っていれば、かなり昔までさかのぼって先祖の名前を確定できることもあるでしょう。

集めた情報は、「家族の記録」や「系図表」に記録として残しておくことができます。

どの先祖に神殿の儀式を執行する必要があるか明らかにする

教会初期の時代から、死者のために神殿の儀式が執行されてきました。その結果、すでに何らかの儀式が先祖のために執行されている場合があります。どの先祖に神殿の儀式が必要か明らかにするには、二つの情報源があります。手もとにある家族の記録に、執行済みの儀式に関する情報が含まれている場合があります。もし含まれていなくても、教会には神殿で執行されたすべての儀式の記録が残っています。その際、ワードや支部の家族歴史相談員の助けを得ることができます。

必要な儀式が執行されるように手配する

霊界にいる先祖の多くは、神殿の儀式が受けられるのを心待ちにしています。そのため、先祖の名前が確定でき次第、儀式が執行されるよう手配する必要があります。

家族歴史活動の祝福の一つは、神殿に参入し、先祖のために儀式を執行することから生まれます。わたしたちは自らを整え、神殿推薦状を受ける必要があります。可能なときにこの業を行うことができるようにするためです。子供が12歳以上なら、先祖のためにバプテスマや確認を受けて、一緒に祝福にあずかることができます。

もし自分で神殿に参入して儀式を受けることができない場合には、ほかの教会員によって儀式が執行されるよう神殿で手配してくれます。

- あなたや家族は、先祖の情報を手に入れるに当たって、主からどのような助けを受けてきましたか。

家族歴史に関するそのほかの機会

- ほかにも多くの責任を抱えているときに、家族歴史活動に参加する簡単な方法として、どのようなことがあるでしょうか。

自分が知っている先祖のために神殿の儀式を執行するだけでなく、霊界にいる人を助ける方法はほかにも数多くあります。何をしたらよいか祈りの中で考え、御霊の導きを求める必要があります。置かれている環境にもよりますが、次のようなことができます。

1. できるだけ頻繁に神殿に参入する。自分のために神殿に参入した後は、霊界で待っている人たちのために救いの儀式を執行することができる。
 2. なかなか見つからない先祖の名前を確定するために調査を続ける。家族歴史相談員が役に立つ手段を教えてくれるはずである。
 3. 教会の索引作成プログラムに協力する。このプログラムを通じて、系図情報を教会の家族歴史コンピュータープログラムで使えるように準備する。このプログラムのおかげで、先祖の名前を確定するのがもっと容易になる。
 4. 家族歴史の情報を、教会の最新の家族歴史用コンピュータープログラムに提供する。ここには世界中から提供された系図が収められている。これを使って家族に関する情報を共有することができる。家族歴史相談員は教会のコンピュータープログラムについてさらに詳しい情報を提供できる。
 5. 親族の組織に参加する。親族と協力すれば、先祖のためにもっと多くのことが達成できる。
- 神殿・家族歴史活動にいっそう貢献するためにできることを考えてみてください。

参照聖句

- 1 ペテロ 4 : 6 (福音は死者に^の宣べ伝えられた)
- マラキ 4 : 5 - 6 ; 教義と聖約 2 : 2 ; 3 ニーファイ 25 : 5 - 6 (エリヤの使命)
- 1 コリント 15 : 29 ; 教義と聖約 128 : 15 - 18 (死者のための業)
- 教義と聖約 138 章 (死者の^{あがな}贖い)



第 41 章

死後の霊界

死後の生活

- わたしたちは死ぬとどうなるのでしょうか。

天の御父は人の救いのために一つの計画を準備されました。その計画の一部として、わたしたちは御父のみもとから地上に送られ、死すべき骨肉の体を得ました。死すべき肉体がやがて死ぬと、霊は霊界へ行きます。霊界とは、待機し、働き、学ぶ場であり、義人にとっては煩^{わづら}いや悲しみから放たれる場所です。霊は復活の備えができるまでそこで過ごします。その後、肉体と霊が再び結合し、自らの備えに応じた栄光の階級を受けるのです（本書第 46 章参照）。

霊界はどのような所だろうかと疑問を抱く人は多くいます。聖文と末日の預言者は、霊界に関する知識を与えています。

- 死後の生活があると知っていることで、どのような慰めを受けていますか。死後の霊界についての知識は、人を慰める際にどのように役立つでしょうか。

死後の霊界はどこにあるか

末日聖徒の預言者たちは、亡くなった霊は遠い所にいるのではない、と言っています。エズラ・タフト・ベンソン大管長は次のように語りました。「この世と次の世を隔てている幕が非常に薄くなることが時々あります。すでに亡くなったわたしたちの愛する人々は、わたしたちから遠く離れた所にいるではありません。」（『聖徒の道』1972年4月号, 155 参照）さらにブリガム・ヤング大管長は、死後の霊界は地上に、わたしたちの周りにある、と説いています（『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』305 - 306 参照）。

霊の特質とは

霊は死すべき人間と同じような姿形をしています。ただし、霊体は完全な形です（エテル 3:16 参照）。霊は信仰心や義にかかわる事柄への敵対心を

地上から携えて行き（アルマ 34：34 参照），地上にいたときと同じ欲求や願望を持っています。すべての霊は大人の姿をしています。霊は地上に生まれて来る前は大人であり，たとえ幼児や子供のときに死亡しても，死後は大人の姿です（『歴代大管長の教え——ジョセフ・F・スミス』131 - 132 参照）。

- 霊界で，霊は現在と同じ気質を持つことになります。このことを知っておくことが大切なのはなぜでしょうか。

死後の霊界ではどのような状態で生活するのでしょうか。

モルモン書の預言者アルマは，霊界には二つの区分すなわち状態があると教えています。

「義人の霊はパラダイスと呼ばれる幸福な状態，すなわち安息の状態，平安な状態に迎え入れられ，彼らはそこであらゆる災難と，あらゆる不安と憂いを離れて休む。

さて，そのときの悪人の霊の状態とはいえば，見よ，彼らは少しも主の御霊を受けずに，見よ，善い行いよりも悪い行いを好んだので，悪魔の霊が彼らの内に入り込んで，彼らの体を支配していた。それで，これらの霊は外の暗闇に追い出され，そこで涙を流し，泣きわめき，歯ぎしりをする。これは，彼ら自身の罪悪のために，悪魔の意のままに捕らえられて連れ去られた結果である。

さて，これが悪人の霊の状態である。まことに，暗闇の中で，自分たちに下る火の憤りのような神の激しい怒りを，ひどく恐れながら待っている状態である。義人がパラダイスにとどまるように，彼らはこのように，自分たちの復活の時までこの状態にとどまるのである。」（アルマ 40：12 - 14）

霊は地上における生活の清さと主の御心への従順の度合いに従って区別されます。義人と悪人は分けられます（1 ニーファイ 15：28 - 30 参照）。しかし，霊は福音の原則を学び，それに従って生活することによって進歩することができます。また，パラダイスにいる霊は，獄にいる霊を教えることができます（教義と聖約 138 章参照）。

パラダイス

預言者アルマは，義人の霊はこの世の憂いや悲しみを離れて休むと述べています。しかしながら，この霊たちは主の業に従事します。ジョセフ・F・スミス大管長は，イエス・キリストが十字架上で亡くなった後，直ちに霊界の義人のもとへ行かれたのを示現で見ました。イエスは使者を任命して力と権能を授け，「暗闇の中にいる者たち，すなわちすべての人の霊のもとへ行って福音の光を伝えるように彼らに命じられた。」（教義と聖約 138：30）

教会が霊界に組織されていて、神権者はそこで各自の務めを果たし続けています（教義と聖約 138：30 参照）。ウィルフォード・ウッドラフ大管長は次のように教えています。「幕のかなたにも同じ神権が存在します。……信仰を持って死んだすべての使徒、七十人、長老などは、幕のかなたへ行くや、直ちに奉仕の業に従事するのです。」（*Deseret News*, 1882 年 1 月 25 日付, 818）

家族の関係も重要です。ブリガム・ヤングの顧問を務めたジェデダイア・M・グラント管長は霊界の様子を見、そこに存在する組織についてヒーバー・C・キンボールに語ったことがあります。「グラント管長は、霊界で見た人たちは家族として組織されていると語りました。……また彼は言いました。『家族をよく見ると、全員がそろっていないところもありました。……現世における召しを尊ばなかったために、一緒に住むことを許されなかった家族がいたからです。』」（*Deseret News*, 1856 年 12 月 10 日付, 316 - 317）

霊の獄

使徒ペテロは、ある人にとって死後の霊界は獄であると語りました（1 ペテロ 3：18 - 20 参照）。霊の獄にはまだイエス・キリストの福音を受け入れていない霊がいます。彼らは選択の自由を持ち、善悪どちらからも影響を受けることでしょう。獄にいる霊が福音を受け入れ、神殿で彼らのために執行される儀式を受け入れると、霊の獄を去ってパラダイスに住むことができます。

さらに、霊の獄には、地上や霊の獄で福音を宣べ伝えられながらも拒んだ人たちがいます。こうした霊は地獄の苦しみを受けます。イエス・キリストの憐れみから身を引いたのです。イエスは次のように言われました。「見よ、神であるわたしは、すべての人に代わってこれらの苦しみを負い、人々が悔い改めるならば苦しみを受けることのないようにした。しかし、もしも悔い改めなければ、彼らはわたしが苦しんだように必ず苦しむであろう。その苦しみは、神であって、しかもすべての中で最も大なる者であるわたし自身が、苦痛のためにおののき、あらゆる毛穴から血を流し、体と霊の両方に苦しみを受けたほどのものであった。」（教義と聖約 19：16 - 18）彼らは自分の罪に苦しんだ後、イエス・キリストの贖罪を通して、最も低い栄光の階級を受け継ぐことを許されます。すなわち星の栄えの王国です。

教師へ——生徒や家族がパラダイスと霊の獄の違いを理解できるように、次のように行うとよいでしょう。黒板か大きな紙の中央に縦に線を引き、二つに分けます。片方の欄の上に「義人の状態」と書き、もう片方の欄の上に「悪人の状態」と書きます。本項で読んだことを基に、霊界でのそれぞれの状態を説明するよう生徒や家族に言います。意見を要約して、該当する欄に記入してください。

- 霊界での状態は、この世での状態とどのような点で似ていますか。

参照聖句

- 1 ペテロ 4：6（福音が死者に宣べ伝えられる）
- モーセ 7：37 - 39（悪人が行く霊の獄）
- 教義と聖約 76 章（3つの栄光の王国に関する啓示）
- ルカ 16：19 - 31（霊界における貧者と富者の命運）

第 42 章

イスラエルの家の集合

イスラエルの家は神の聖約の民である

- 神の聖約の民は、世界のもろもろの国民に対してどのような責任を負っているのでしょうか。

ヤコブはキリストの時代より数千年前に生きた偉大な預言者です。ヤコブが忠実であったため、主は「イスラエル」という特別な名前を授けられました。これは、「神とともに勝利を収める者」または「神に勝利を得させよ」という意味です（Bible Dictionary, “Israel” の項, 708）。ヤコブには 12 人の息子がいました。彼らとその家族は、イスラエルの十二部族あるいはイスラエル人として知られるようになりました（創世 49：28 参照）。

ヤコブはアブラハムの孫です。主はアブラハムと永遠の聖約を交わされましたが、これはイサクおよび、ヤコブとその子供たちによって更新されました（本書第 15 章参照。息子を祝福するヤコブを描いた本章の絵も参照）。神はイスラエル人に、戒めに従うかぎり神の聖約の民になると約束されました（申命 28：9 - 10 参照）。イスラエル人は福音と神権をもたらすことにより、世界のすべての国民にとって祝福となる民でした（アブラハム 2：9 - 11 参照）。このようにして、民は主と交わした聖約を守り、主も民と交わした聖約を守られるはずでした。

イスラエルの家の散乱

主の預言者たちはイスラエルの家が悪を行ったときにどうなるか再三再四警告してきました。モーセは次のように預言しています。「主は地のこのはてから、かのはてまでのもろもろの民のうちにあなたがたを散らされるであろう。」（申命 28：64）

この警告にもかかわらず、イスラエル人は神の戒めを繰り返し破りました。内乱が起きて南北二つの王国に分裂し、北王国はイスラエル王国、南王国はユダ王国とも呼ばれました。イスラエルの 12 部族のうち 10 部族は北王国に住みました。後に戦争が起き、この 10 部族は征服され捕虜として連れ去ら



れてしまいました。その後、一部は北方の地に逃れ、行方が分からなくなりました。

北王国が占領されてから約 100 年後、南王国も征服されました。首都エルサレムは紀元前 586 年に滅亡し、イスラエルの残りの 2 部族の多くも捕虜として連れ去られました。後に、この 2 部族の一部がエルサレムに帰還し、都を再建しました。エルサレムが滅亡する寸前に、イスラエルの家に属していたリーハイとその家族が都を出て、アメリカ大陸に移住しました。

しかしキリストの時代以降に、エルサレムはローマ軍により再び破壊され、ユダヤ人は世界各地に散乱しました。現在、世界中のすべての地にイスラエル人が散在していますが、その多くは自分たちが古代イスラエルの家の子孫であることを知らずにいます。

- 神の聖約の民が全地に散らされたことによって、神の子供たちはどのような恵みを得てきたでしょうか。

イスラエルの家は集合する

- 主はなぜ御自身の民が集合することを望んでおられるのでしょうか。
- イスラエルの家はどのように集合するのでしょうか。

主は、主の聖約の民がいつの日か集合すると約束されました。「わたしの群れの残った者を、追いやったすべての地から集め……よう。」(エレミヤ 23:3)

神は伝道の業によって御自分の子供たちを集められます。イエス・キリストについて知り、救いの儀式を受け、それに伴う聖約を守り続けるとき、人は「聖約の子孫」となります(3 ニーフアイ 20:26)。神は重要な理由をもって、御自分の子供たちを集められます。神がその子供たちを集められるのは、彼らが福音の教えを学び、再臨の時に救い主にまみえる備えができるようにするためです。また、神殿を建て、神聖な儀式を受ける機会を得ずに死んだ先祖のために儀式を執行するためです。互いに強め合い、福音にあって一つになり、世の中の不義な影響力から守りを見いだすことができるようにするためです。福音を人に伝える備えができるようにするためでもあります。

1836 年、預言者モーセはカートランド神殿に現れ、イスラエルの家を集める業を導く力と権能をジョセフ・スミスに授けました(教義と聖約 110:11 参照)。それ以来、各預言者はイスラエルの家の集合の鍵^{かぎ}を保有してきており、この集合の業は教会の業の重要な一部となっています。現在、聖約の民は集合しつつあり、回復された福音を受け入れ、アブラハム、イサク、ヤコブの神に仕えています(申命 30:1-5 参照)。

イスラエル人はまず霊的に集合し、次いで物理的に集合することになっていきます。霊的な集合とはすなわち、末日聖徒イエス・キリスト教会に加わり、神聖な聖約を交わして守ることです。この集合は、預言者ジョセフ・スミスの時代に始まり、現在もお世界各地で続いています。教会へ改宗した人は、血統か養子縁組のいずれかによってイスラエルの民であり、アブラハムおよびヤコブの家系に属します（アブラハム 2：9 - 11；ガラテヤ 3：26 - 29 参照）。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように語っています。「教会……には、多くの国民がいます。彼らは、主の御霊^{みたま}を受けたために……集合したのです。集合の霊を受けた彼らは、福音のためにすべてのものを放棄し……集合してきました。」(*Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全 3 巻 [1954 - 1956 年], 第 3 巻, 256。強調は原文のまま)

物理的な集合とは、聖約の民が「彼らの受け継ぎの地に集め戻され、彼らに約束されたすべての地に定住する」ことです（2 ニューファイ 9：2）。エフライムとマナセの部族はアメリカ大陸に集合し、ユダの部族はエルサレムとその周辺の地域に帰るでしょう。そして、行方の知れない十部族は、自分たちに約束された祝福をエフライムの部族から受けるでしょう（教義と聖約 133：26 - 34 参照）。

教会が設立された当初、教会員はまずオハイオ州に、次にミズーリ州に、そしてソルトレーク盆地に集合するよう指示されました。しかし今日^{こんにち}、現代の預言者たちの教えでは、教会員はそれぞれ自分の国で神の王国を築くよう求められています。ラッセル・M・ネルソン長老は次のように語っています。「キリストのみもとに来るという選択は、物理的な場所の問題ではありません。個人の献身の問題なのです。人々は郷里を離れることなく『主……を知るように』なります〔3 ニューファイ 20：13〕。教会初期の時代、改宗はしばしば移民をも意味しました。しかし今日では、それぞれの国に民が集められます。……ブラジルの聖徒の集合地はブラジル、ナイジェリアの聖徒の集合地はナイジェリア、韓国の聖徒の集合地は韓国なのです。シオンは『心の清い者』です〔教義と聖約 97：21〕。義にかなった聖徒がいる場所ならどこでもシオンです。』（『リアホナ』2006 年 11 月号, 81）

物理的なイスラエルの集合は救い主の再臨とそれに続く福千年まで完了しません（ジョセフ・スミス - マタイ 1：37 参照）。その後、主の約束は成就するのです。

「それゆえ、見よ、こののち『イスラエルの民をエジプトの地から導き出した主は生きておられる』とは言わないで、

『イスラエルの民を北の国と、そのすべて追いやられた国々から導き出した主は生きておられる』という日がくる。わたしが彼らを、その先祖に与えた彼らの地に導きかえすからである。』(エレミヤ 16 : 14 - 15)

- あなたは、主の聖約の民の一人として、どのように霊的に集められてきましたか
- あなたはほかの人が集合する過程にどのような形でかかわってきましたか。

参照聖句

- 創世 17 : 1 - 8 (アブラハムと交わされた神の聖約)
- ローマ 9 : 4 - 8; ガラテヤ 3 : 29 (イエス・キリストとその言葉に従う人は聖約の子孫である)
- 2 ニーファイ 30 : 2; モーサヤ 5 : 10 - 11 (悔い改め、預言者に従い、イエス・キリストを信じる信仰を持つ人々は、主の聖約の民となる)
- 列王下 17 章 (捕虜になった北王国)
- 歴代下 36 : 11 - 20 (捕虜になった南王国)
- ヤコブの手紙 1 : 1 (離散した十二部族)
- 1 ニーファイ 10 : 12 - 13 (散乱の一部であるニーファイ人の移住)
- エレミヤ 3 : 14 - 18 (町から一人、氏族から二人)
- エゼキエル 20 : 33 - 36 (各国から集合するイスラエル)
- 3 ニーファイ 20 : 29 - 46 (エルサレムに集合するユダヤ人)
- 1 ニーファイ 15 : 13 - 18 ; 3 ニーファイ 21 : 26 - 29 (集合は福音の回復とともに始まる)
- 教義と聖約 38 : 31 - 33 (主の聖約の民は救われる)
- イザヤ 11 : 11 - 13 (主はその民を元に戻される)
- 黙示 18 : 4 - 8 (集合を告げる声)
- 教義と聖約 133 : 6 - 15 (異邦人はシオンへ、ユダヤ人はエルサレムへ)

教師へ——回復されたイエス・キリストの福音への改宗談を話すことは、すなわち、自分が霊的に集められたときの話をすることです。福音にどのように改宗したかについて話すよう、数人に事前に頼んでおくとよいでしょう。

第 43 章

再臨のしるし

イエス・キリストは地上に戻って来られる

- 再臨のしるしとしてどのようなことが挙げられるでしょうか。

救い主はジョセフ・スミスに次のように言われました。「わたしは力と大いなる栄光とをもって、……天から姿を現し、千年の間地上で人々とともに義のうちに住む。そして、悪人は耐えられない。」(教義と聖約 29:11。本書第 44 章と 45 章も参照) イエスは、再臨の時が近づくと数々のしるしと出来事によって警告が発せられると語られました。

イエス・キリストを信じる人は、何千年もの間、平和と喜びの時である主の再臨を待ち望んできました。しかし、救い主が来られる前に、地上の人々は大きな苦難や災いに直面するでしょう。天の御父はわたしたちにこうした困難に備えさせたいと願い、また救い主が栄光をもって再臨される時、霊的な準備ができてるように期待しておられます。そのために、救い主の再臨が近いことを示す出来事を、しるしとして与えてくださるのです。これまでの時代を通じて、神は預言者たちにしるしを啓示してこられました。そして、キリストに忠実に従うすべての人はしるしが何であるかを知り、それを待ち望むであろうと言われました(教義と聖約 45:39 参照)。従順で忠実な人は、聖文を研究し、しるしについて知るでしょう。

イエス・キリストの再臨を予告するしるしの中には、すでに成就したもの、現在成就しつつあるものがあります。残りはこれから成就します。

教師へ——次のように行くとよいでしょう。生徒や家族のそれぞれに、本章で述べられているしるしの中から一つか二つを割り当ててください(大きなクラスでは、複数の人に同じしるしを割り当ててもよいでしょう)。レッスンの中で時間を与え、しるしについて各自で研究し、今日そのしるしが成就しつつあることを示す証拠として目にしてきた事柄について考えてもらいます。その後、考えを互いに分かち合ってもらってください。



悪, 戦争, 混乱

しるしにはわたしたちを震え上がらせるような恐ろしいものが多くあります。預言者の警告によれば、地は大いなる混乱と悪、戦争、苦難に見舞われるとあります。預言者ダニエルは、再臨の前には、地がかつて知らなかったほどの悩みの時が来ると語っています(ダニエル 12:1 参照)。主は次のように述べておられます。「人々の愛が冷え、不法がはびこるであろう。」(教義と聖約 45:27)「すべての物事が混乱する。そして……恐れがすべての人に及ぶ……。」(教義と聖約 88:91)。地震や疫病、飢饉が発生し、激しい暴風雨や稲妻、雷が起り(マタイ 24:7; 教義と聖約 88:90 参照)、雹は地の作物を損なうでしょう(教義と聖約 29:16 参照)。

イエスは弟子たちに、戦争が地を覆うであろうと言われました。「戦争と戦争のうわさを聞くであろう。……民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。」(マタイ 24:6-7) 預言者ジョセフ・スミスは次のように述べています。「わたしたちが苦難の時代について語っても失望しないでください。それは間もなくやって来るに違いなく、剣と飢饉と疫病は近づいています。この地の面に大きな滅亡があるでしょう。すべての聖なる預言者たちの預言がことごとく成就することはないなどと考えるはなりません。それにまだ成就していない預言がたくさんあるのです。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』251)

しるしの多くが成就しつつあります。悪が氾濫し、国々は絶え間なく争い、地震などの惨事が起きています。激しい嵐や干ばつ、飢餓、疫病に大勢の人が苦しんでいます。これらの災いは主の再臨の前に間違いなくいっそう激しさを増すでしょう。

しかし、再臨に先立つ出来事すべてがこのように恐ろしいものではなく、世界に喜びをもたらす出来事も多くあります。

福音の回復

主は次のように言っておられます。「暗闇に座する者たちの間に光がさすであろう。それはわたしの完全な福音である。」(教義と聖約 45:28) 古代の預言者は福音の回復を予告しました。使徒ヨハネは福音が一人の天使によって回復されるのを見ました(黙示 14:6-7 参照)。この預言は成就し、天使モロナイをはじめ、天の使いたちがジョセフ・スミスにイエス・キリストの福音を携えて来ました。

モルモン書の出現

主はニーファイ人にもう一つのしるし、すなわち子孫がモルモン書を手にすることについて話されました（3 ニーファイ 21 章参照）。旧約聖書の時代に、預言者イザヤとエゼキエルはモルモン書の出現を予見しました（イザヤ 29：4 - 18；エゼキエル 37：16 - 20 参照）。現在こうした預言は成就しつつあります。モルモン書は世に出て、全世界の人の手に渡っています。

全世界に福音が^の宣べ伝えられる

終わりの時のしるしがもう一つあります。それは「御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられる」というしるしです（マタイ 24：14。ジョセフ・スミス―マタイ 1：31 も参照）。あらゆる人はそれぞれの言語で完全な福音を聞くようになります（教義と聖約 90：11 参照）。教会が回復されて以来、宣教師が福音を宣べ伝えています。伝道活動は加速し、これまでに数万人の宣教師が世界各国で多くの言語によって福音を宣べ伝えています。再臨と福千年の前に、主はすべての国民に真理が行き渡る道を開いてくださるでしょう。

エリヤの訪れ

預言者マラキは、救い主の再臨の前に預言者エリヤが地上に遣わされると預言しました。エリヤは家族を一つに結ぶ結び固めの力を回復し、さらに人々に靈感を与えて先祖と子孫に心向けさせることになっていました（マラキ 4：5 - 6；教義と聖約 2 章参照）。預言者エリヤは 1836 年 4 月にジョセフ・スミスを訪れました。そのとき以来、系図と家族歴史に対する関心が高まりました。また、神殿で生者および死者のために結び固めの儀式が執行できるようになりました。

リーハイの子孫は偉大な民となる

主は、再臨が近づくとレーマン人は義にかなった尊敬される民になると言われました。「主の大いなる日が来る前に……レーマン人はばらのように花咲くであろう。」（教義と聖約 49：24）リーハイの非常に多くの子孫が、現在、福音の祝福を受けています。

新エルサレムの建設

イエス・キリストの再臨が迫ると、忠実な聖徒が新エルサレムと呼ばれる義にかなった都、神の都を建設するでしょう。そして、イエス・キリスト御自身がそこで統治されます（3 ニーファイ 21：23 - 25；モーセ 7：62 - 64；信仰簡

条 1:10 参照)。主は、この都はアメリカ合衆国のミズーリ州に建設されると言われました（教義と聖約 84:2-3 参照）。

以上は主が与えられたしるしの一部にすぎません。聖文にはさらに多くのことが記されています。

- しるしが成就しつつあることの証拠としてあなたは何を目に見えていますか。

時のしるしを知ることは助けとなる

- しるしの一部がぞっとするような恐ろしいものであるとしても、どうすれば心穏やかに安らかでいることができるでしょうか。

主は御自分の再臨について、「その時、その日は、だれも知らず、天にいる天使たちも知らない」と言っておられます（教義と聖約 49:7）。主はこれをいちじくの木のととえて教えられました。いちじくの木が葉をつけると、夏の近いことが分かります。同じように、わたしたちは聖文に書かれているしるしを見て、主の再臨が間近に迫っていることを知るので（マタイ 24:32-33 参照）。

主はわたしたちを助けるためにこれらのしるしを与えてくださっているのです、わたしたちは生活を整え、来るべき出来事に対して自分と家族を備えることができます。

わたしたちは災いについて警告を受け、備えるように告げられていますが、反対に、救い主の再臨を喜んで待ち望むことができます。主は次のように言っておられます。「心配することはない。これらすべてのこと〔しるし〕が起こるとき、あなたがたは、与えられた約束が果たされることが分かるからである。」（教義と聖約 45:35）さらに、義にかなった人は主の再臨のときに滅ぼされることなく「その日に堪えるであろう。そして、地球は受け継ぎとして彼らに与えられる。……その子孫は罪のないまま成長して……主は彼らの中にあり、主の栄光は彼らのうえにあり、主は彼らの王となり、立法者となるからである」と、主は言っておられます（教義と聖約 45:57-59）。

参照聖句

- 1 コリント 15:22-28（終わりの日に死は滅ぼされる）
- マタイ 16:1-4（時のしるしを見分ける）
- マタイ 24 章；教義と聖約 29:14-23；45:17-57；88:87-94；ジョセフ・スミス-マタイ 1 章（再臨のしるし）
- 1 テサロニケ 5:1-6（しるしに注意して備える）

第 43 章

- 教義と聖約 38 : 30 (恐れることのないように備えをする)
- 教義と聖約 68 : 11 (知らされるしるし)

第 44 章

イエス・キリストの再臨

救い主の再臨を待ち望む

復活して 40 日後、イエスは使徒たちとともにオリブ山に立たれました。地上を去る時が訪れたのです。イエスはこの時点でなすべきすべての業をすでに終え、再臨のときまで天の御父のみもとに帰られることになっていました。

イエスは使徒たちに教えを残すと昇天されました。使徒たちが天を見上げていると、二人の天使が傍らかたわに立って言いました。「ガリラヤの人たちよ、なぜ天を仰いで立っているのか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たのと同じ有様ありさまで、またおいでになるであろう。」(使徒 1:11)

それ以来今日こんにちに至るまで、イエス・キリストに従う人は再臨を待ち望んできました。

再臨のときにイエスが行われること

イエス・キリストが再び地上に来られるときには、次のことを行われます。

1. 地球を清める。イエスが再び来られるときには、力と大いなる栄光に包まれておいでになります。そのとき、悪人は滅ぼされます。朽ちるものはすべて焼き尽くされ、地球は火によって清められます(教義と聖約 101:24 - 25 参照)。
2. 主の民を裁く。再び来られるときに、イエスはすべての国民を裁き、義人と悪人を分けられるでしょう(マタイ 25:31 - 46 参照。本書第 46 章も参照)。黙示者ヨハネはこの裁きについて次のように記しています。「見ていると、かず多くの座があり、その上に人々がすわっていた。そして、彼らことばにさばきの権が与えられていた。また、イエスのあかしをし神の言を

教師へ——次のように行くとよいでしょう。生徒や家族の一人一人に、本章にある番号が付された5つの項目のうち一つを割り当てます。割り当てられた項目について、聖句も含めて、各自で研究するように言います。その後、学んだことについて話し合うように勧めます。



伝えたために首を切られた人々の霊がそこにおり、……彼らは生きかえって、キリストと共に千年の間、支配した。」また悪人は、「千年の期間が終おわるまで生きかえらなかつた。」(黙示 20:4-5。教義と聖約 88:95-98 も参照)

3. 福千年の始まりを告げる。福千年とは、イエスが地上で統治される 1,000 年の期間を指します。義になつた人は引き上げられ、おいでになるイエスにまみえます(教義と聖約 88:96 参照)。イエスの再臨は福千年の統治の幕開けとなります(本書第 45 章参照)。

ブリガム・ヤング大管長はこう言っています。

「神の王国が力と栄光と完全さをまとして地上に確立され、長きにわたって世にはびこつた悪の支配が征服される福千年の時代には、神の聖徒は神殿を建設して、そこに参入し、過去にそうであつたように、神の宮の柱となります。〔黙示 3:12 参照〕そして彼らは自分たちの先祖のための儀式を執行するのです。それから、わたしたちは自分の友人たちが近づいて来るのを見るでしょう。恐らくその中には、ここで知り合っている人々もいることでしょう……さらにわたしたちは啓示を与えられて、人類の最初の両親アダムとエバに至るまでの先祖をはっきりと知り、神の宮へ参入し、彼らのために儀式を執行するのです。そして、アダムにさかのぼって鎖が完全になるまで〔親子の〕結び固めが行われ、それによって、アダムから最後の時までの神権の完全な鎖ができるようになるのです。」(『歴代大管長の教え——ブリガム・ヤング』363-364)

4. 第一の復活を完了する。正しい者の復活にあずかる特権を持つ人は墓からよみがえり、引き上げられて、天から降くだられる救い主にまみえず(教義と聖約 88:97-98 参照)。

イエス・キリストが死から復活された後、死んでいた義人たちも復活し、エルサレムに現れました。また、アメリカ大陸でも同様のことが起こりました(マタイ 27:52-53;3 ニーフアイ 23:9-10 参照)。これが第一の復活の始まりでした。それ以来、何人かが復活しています。すでに復活した人、および主の来られるときに復活する人は全員、日の栄えの王国の栄光を受け継ぐでしょう(教義と聖約 76:50-70 参照)。

日の栄えの栄光を受け継ぐ人の復活が終わると、月の栄えの栄光を受け継ぐ人が復活します。この人たちがすべて復活すると、第一の復活は完了します。

主の再臨時に生きている悪人は肉体にあって滅ぼされるでしょう。すでに死んだ悪人とともに、最後の復活まで待たなければなりません。このとき、残りのすべての死者が神にまみえるためによみがえります。彼らは星の栄えの王国を受け継ぐか、サタンとともに外の暗闇くらやみに投げ出されるでしょう(教義と聖約 76:32 - 33, 81 - 112 参照)。

5. 天地の王として正当な地位に就く。イエスはおいでになると、地上に主の統治を確立され、教会はその王国の一部となります。主は1,000年の間、地球上のすべての人を平和のうちに治められるでしょう。

イエス・キリストが初めて地上に来られたとき、栄光に包まれてはおいでになりませんでした。みすばらしい馬小屋でお生まれになり、干し草を枕まくらに飼い葉おけに寝かされました。ユダヤ人が自分たちの救い主に期待していたように、大軍を引き連れては来られなかったのです。かえって、イエスは次のように言われました。「敵を愛し、迫害する者のために祈れ。」(マタイ 5:44) イエスは拒絶され、十字架にかけられました。しかし、再臨のときには拒まれることはありません。「すべての耳がそれを聞き、すべてのひざがかがみ、すべての舌が〔イエスはキリストである〕告白するからである。」(教義と聖約 88:104) イエスは、「主の主、王の王」として迎えられ(黙示 17:14)、「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、平和の君」ととなえられるでしょう(イザヤ 9:6)。

- 再臨のときの出来事について考えるとき、何を思い、どう感じますか。

イエスの再臨が近いことをどのように知るか

イエス・キリストが誕生されたとき、世の救い主が来られたことを知った人はわずかでした。再びおいでになるときには、すべての人がイエスを認めるでしょう。救い主が再びおいでになる正確な時を知る人はいません。「その日、その時は、だれも知らない。天の御使たちも、また子も知らない、ただ父だけが知っておられる。」(マタイ 24:36。教義と聖約 49:7も参照)

主はたとえを用いて、再臨の時に関する手がかりを示されました。

「いちじくの木からこの譬たとえを学びなさい。その枝が柔らかかになり、葉が出るようになると、夏の近いことがわかる。

そのように、これらの事が起おこるのを見たならば、人の子が戸口まで近づいていると知りなさい。」(マルコ 13:28 - 29)

主はまた、再臨が近いことを知らせる幾つかのしるしを与えてくださいました。イエスはしるしを明らかにされた後、次のように警告されました。

「だから、目をさましていなさい。いつの日にあなたがたの主がこられるのか、あなたがたには、わからないからである。……

だから、あなたがたも用意をしていなさい。思いがけない時に人の子が来るからである。」(マタイ 24:42, 44)

救い主の再臨が近いことをどのように知るかについてさらに詳しいことは、本書第43章を参照してください。

救い主の再臨に備える方法

救い主の再臨に備える最も良い方法は、福音の教えを受け入れ、福音に従って生活することです。イエスがこの世で教えられたように、日々最善を尽くして生活する必要があります。また、預言者の導きに耳を傾け、その勧告に従うことができます。聖霊の導きを受けるためにふさわしい生活を行うことができます。そうすれば、救い主の再臨を恐れでなく、喜びをもって待ち望むようになります。主は次のように言われました。「小さい群れよ、恐れてはならない。わたしが来るまで、王国はあなたがたのものである。見よ、わたしはすぐに来る。まことにそのとおりである。アーメン。」(教義と聖約 35:27)

- 再臨の正確な時期よりも自分の備えに関心を向けるべきなのはなぜでしょうか。

参照聖句

- ヨハネ 14:2-3; マタイ 26:64 (イエスは場所を用意してから再臨される)
- マラキ 3:2-3; 4:1; 教義と聖約 64:23-24 (地球は焼かれる)
- 教義と聖約 133:41-51 (悪人は滅ぼされる)
- マタイ 13:40-43 (裁きの予告)
- 1 コリント 15:40-42; 教義と聖約 76章; 88:17-35 (栄光の王国)
- 教義と聖約 43:29-30; 29:11 (主の再臨は福千年の始まりを告げる)
- 信仰箇条 1:10 (イエスの統治)
- アルマ 11:43-44; 40:23 (復活の説明)
- 教義と聖約 88:96-98 (死者のよみがえり)

第44章

- ゼカリヤ 14:9; 黙示 11:15; 1 ニーファイ 22:24 - 26 (イエスは王として統治される)

第 45 章

福千年

福千年の間、地上にいる人

- 福千年の間、地上にいるのはどんな人でしょうか。

イエス・キリストの再臨と同時に、全地に平和と愛と喜びの 1,000 年間は始まります。この 1,000 年間は福千年と呼びます。聖文や預言者の言葉から、福千年に地上で生活するときにはどのような状態であるかについて、理解を深めることができます。

救い主の再臨の際に邪悪な人は滅ぼされるので、福千年の始めには義にかなった人だけが地上に住むでしょう。徳高い正直な生活を送った人たちがあり、月の栄えまたは日の栄えの王国を受け継ぎます。

福千年の間も死すべき体を持つ人が地上で生活し、現在のように子供をもうけるでしょう（教義と聖約 45：58 参照）。ジョセフ・スミスは、不死不滅の体を持つ人が度々地上を訪れると述べています。この復活した人たちは、統治やほかの業を手助けするでしょう。（*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選〔1976 年〕, 268 参照）

人にはなお選択の自由があるため、多くがしばらくの間それぞれの宗教や思想を持ち続ける自由があります。しかしついには、すべての人がイエス・キリストは救い主であられると告白するでしょう。

福千年の間、イエスは「自ら地上を統治され」ます（信仰簡条 1：10）。ジョセフ・スミスは次のように説明しています。「イエスは……聖徒たちを統治し、……^{くだ}降って来て指示をお授けになるでしょう。」（『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』257）

教師へ——福千年について、聖文や生ける預言者の教えにない事柄を憶測してしまうことがあります。このレッスンを進めながら、そうした憶測をすることがないように注意してください。



福千年の間に行われる教会の業

- 福千年の間に行われる二つの偉大な業は何ですか。

福千年の間に教会員のなすべき重要な業は二つあります。神殿活動と伝道活動がそれです。神殿活動は、昇栄を得るために必要な儀式を意味します。バプテスマ、聖霊の賜物たまものを授けるためのあんじゆの按手、および神殿の儀式すなわちエンダウメント、神殿結婚、家族の結び固めといった儀式です。

この儀式を受けずに世を去った多くの死者のために、地上にいる人は代理として儀式を受けなければなりません。この業は現在主の神殿において行われていますが、福千年が始まるまでに膨大な数の儀式を終えることはできません。そのため、福千年の間に完了するでしょう。復活した人の助けを得て、亡くなった先祖に関して調べる中で生じた誤りを正し、記録を完成するのに必要な情報を見つけることができるでしょう。(ジョセフ・フィールディング・スミス, *Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全3巻 [1954 - 1956 年], 第2巻, 167, 251 - 252 参照)

福千年におけるもう一つの重要な業は伝道です。福音は大きな力をもってすべての人に宣べ伝えられます。最終的には、福音の第一の原則を教える必要はなくなります。「彼らが小より大に至るまで皆、わたしを知るようになるからであると主は言われる」からです(エレミヤ 31:34)。

- 福千年での業のために、わたしたちは今、どんな備えができるでしょうか。

福千年の状態

- 福千年の間の生活は、現在の地上の生活とどのような点で異なるでしょうか。

預言者ジョセフ・スミスは、福千年の間に「地球は更新されて楽園の栄光を受ける」と教えました(信仰簡条 1:10)。

サタンは縛られる

福千年の間サタンは縛られ、このときに生きている人を誘惑する力を失います(教義と聖約 101:28 参照)。「その子孫は罪のないまま成長して救いを得るであろう。」(教義と聖約 45:58)「また、[主]の民の義のために、サタンはまったく力を持たず、長い年月にわたって解き放されることはありません。民が義のうちに住み、イスラエルの聖者が統治されるので、サタンは彼らの心を支配する力を持たないからです。」(1 ニーファイ 22:26)

地上における平和

福千年の間、戦争はありません。人は平安と調和のうちに生活します。かつて戦争に使用されたものが、有益な目的で使われるようになります。「彼らはそのつるぎを打ちかえて、すきとし、そのやりを打ちかえて、かまとし、国は国にむかって、つるぎをあげず、彼らはもはや戦いのことを学ばない。」(イザヤ 2:4。イザヤ 11:6-7; 教義と聖約 101:26 も参照)

義にかなった統治

ジョン・テラー大管長は次のように教えています。「主が全地の王となり、全人類が文字どおり主の統治下に入ります。そして、天の下にあるもろもろの国は主の権威を認め、主の^{しやく}筋に身をかがめざるを得なくなるのです。義にかなって主に仕える人々は、神やイエスとの交わりを持ち、天使の導きを受け、そして、過去、現在、未来のことについて知ることになります。一方、ほかの人々は、主の律法に対して完全な意味では従順ではないかもしれませんし、また、主の聖約の中で完全な意味で教えを受けることもないかもしれません。しかしながら、そういう人々も主の統治の下には完全に入ることになります。それは、地上で主が主権を持つ^{じゆんしゆ}おられるからです。主は御自分の律法を施行し、世の国々にその律法を遵守するようお命じになりますが、これは律法上からも、主の権利です。」(『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』225)

死がない

福千年の間、今わたしたちが知っているような死はありません。人は年老いても、死ぬこともなければ、埋葬されることもありません。死すべき状態から不死不滅の状態へ「一瞬のうちに」変えられるのです(教義と聖約 63:51; 101:29-31 参照)。

すべてが明らかにされる

真理にはまだ明らかにされていないものがありますが、それも福千年の間に明らかにされるでしょう。主は次のように告げられました。「主はすべてのことを明らかにする。すなわち、過ぎ去ったこと、だれも知らなかった隠されていたこと、地球が造られた方法とその目的と行く末など地球に関すること、最も貴いこと、上にあること、下にあること、地中や地上や天にあることを。」(教義と聖約 101:32-34)

福千年におけるそのほかの活動

生活はほとんど今と変わりませんが、ただすべてが義のうちに行われるようになります。人は飲食をし、衣服を着ます(『歴代大管長の教え——ブリ

ガム・ヤング』363 参照)。種をまいて作物を収穫し、家を建てます（イザヤ 65：21 参照）。

- 福千年の間の状態について、あなたはどのように考え、感じていますか。

福千年に続く最後の戦い

- 地球は最終的にどうなりますか。

1,000 年の最後に、サタンはわずかの間だけ解放されます。天の御父から離れて行く人もいます。サタンは自分の軍勢を集め、ミカエル（アダム）は天軍を集めて戦うでしょう。この激しい争いの結果、サタンとサタンに従う者たちは永遠に追い出されます。そして地球は日の栄えの王国に変わるでしょう（教義と聖約 29：22 - 29：88；17 - 20, 110 - 115 参照）。

参照聖句

- ゼカリヤ 14：4 - 9；1 ニーファイ 22：24 - 25（地上で統治されるイエス）
- ダニエル 7：27（王国を受け継ぐ聖徒）
- 教義と聖約 88：87 - 110（福千年の状態）
- 黙示 20：1 - 3；1 ニーファイ 22：26（サタンは縛られる）
- 教義と聖約 101：22 - 31（憎しみが消え、死がなくなり、サタンは誘惑する力がない）
- イザヤ 11：1 - 9（おおかみと小羊がともに住む）
- 教義と聖約 43：31；黙示 20：7 - 10（サタンは短い期間、解き放たれる）



第 46 章

最後の裁き

神の裁き

- 最後の裁きの前に受ける様々な裁きとして、どのようなものがあるでしょうか。このすべての裁きは互いにどのように関連し合っているでしょうか。

聖文には、神の前に立って裁かれる日が来ると随所に記されています。この重大な日のためによりいっそう備えができるよう、裁きがどのように行われるかを理解する必要があります。

聖文には、すべての人はその行いにより裁かれると書かれています。「また、死んでいた者が、大いなる者も小さき者も共に、^{みくら}御座の前に立っているのが見えた。かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。」(黙示 20 : 12。教義と聖約 76 : 111 ; 1 ニーファイ 15 : 32 ; アブラハム 3 : 25 - 28 も参照) わたしたちは「心の望みに応じて」も裁かれます (教義と聖約 137 : 9。アルマ 41 : 3 も参照)。

この地上でわたしたちは、神の王国の祝福を受けるのにふさわしいかどうかしばしば裁かれます。バプテスマを受けるとき、その儀式を受けるのにふさわしいかどうか裁かれます。教会で奉仕するよう召されるとき、あるいは神権の昇進や神殿推薦状の発行を受けるための面接時にも裁かれます。

アルマは、人の霊は死んだ後に幸福な状態か不幸な状態に分けられると教えています (アルマ 40 : 11 - 15 参照)。これも裁きです。

言葉と行いと思いにより裁かれる

- 思いと言葉、行いのすべてで裁かれることについて想像してみてください。

預言者アルマは次のように証しています。「わたしたちの言葉がわたしたち

教師へ——各章の内容をすべて教える必要はありません。教える準備をしながらく祈り、章のどの部分を探り上げるべきかを知ることができるよう、御^{みたま}霊の導きを求めてください。

ちを罪に定め、まことに、行いもすべてわたしたちを罪に定める……。また、わたしたちの思いもわたしたちを罪に定める。」(アルマ 12 : 14)

主は次のように言われました。「審判の日には、人はその語る無益な言葉に対して、言い開きをしなければならぬであろう。あなたは、自分の言葉によって正しいとされ、また自分の言葉によって罪ありとされるからである。」(マタイ 12 : 36 - 37)

イエス・キリストを信じる信仰は、最後の裁きに備えるうえで助けとなります。主の忠実な弟子となり、すべての罪を悔い改めることによって、罪の赦しを受け、汚れない聖なる者となって、神の前に住むことができるのです。罪を悔い改め、あらゆる不潔な思いや行いを捨てると、聖霊がわたしたちの心を変えてくださり、もはや罪を犯したいという気持ちさえ持たなくなります(モーサヤ 5 : 2 参照)。その状態で裁かれれば、神の前に行く備えができているとされるのです。

- 思いや言葉、行いを改めるためにできることを考えてください。

記録によって裁かれる

- 何の記録によってわたしたちは裁かれますか。だれが裁きますか。

預言者ジョセフ・スミスによれば、死者はこの世で記された数々の記録により裁かれます。また、天で記される「命の書」によっても裁きを受けます(教義と聖約 128 : 6 - 8 参照)。

「すべての人は……『イスラエルの聖者の裁きの座の前に出……て、……神の聖なる裁きによって裁かれなければ』なりません(2 ニーフアイ 9 : 15)。ヨハネの示現には、このように記されています。『かずかずの書物が開かれたが、もう一つの書物が開かれた。これはいのちの書であった。死人はそのしわざに応じ、この書物に書かれていることにしたがって、さばかれた。』(黙示 20 : 12) この『かずかずの書物』とは、『[皆さんの行いの] 記録が載せられている書物のはずであり、地上で記される記録を指すに違いないのです。また、命の書であるとされた書は、天で記される記録です。』(教義と聖約 128 : 7)」「(『歴代大管長の教え——ハロルド・B・リー』233 - 234)

わたしたちを裁くもう一つの記録があります。使徒パウロは、わたしたち自身がその生涯を記す記録であると述べています(ローマ 2 : 15 参照)。体と心に刻まれたことはあらゆる行いの完全な歴史です。ジョン・テラー大管長はこの真理を次のように教えています。「[人は] 自らその歴史を語り、自己に不利な証^{あかし}を立てます。……心の板に自ら刻んだ記録、この偽ることので

きない記録が、裁きの日に神と天使、そして裁判官として席に着く人々の前で開かれるのです。」(Deseret News, 1865 年 3 月 8 日付, 179)

使徒ヨハネは次のように教えています。「父はだれをもさばかない。さばきのことはすべて、子にゆだねられたからである。」(ヨハネ 5:22) 次に御子は、裁きを補佐する人々を召されるでしょう。イエスとともに務めを果たした十二使徒は、イスラエルの十二部族を裁くでしょう(マタイ 19:28; ルカ 22:30 参照)。また、ニーファイ人の十二弟子はニーファイ人とレーマン人を裁きます(1 ニーファイ 12:9 - 10; モルモン 3:18 - 19 参照)。

栄光の王国で場所を受け継ぐ

- 地上での生涯における忠実さは、永遠にわたる生活にどのような影響を及ぼすでしょうか。

最後の裁きで、わたしたちは備えができていない王国で場所を受け継ぎます。聖文には 3 つの栄光の王国について説かれています。すなわち、日の栄えの王国、月の栄えの王国、星の栄えの王国です(教義と聖約 88:20 - 32 参照)。

教義と聖約第 76 章で主が教えておられるのは、現世の生活をするに当たり様々な生き方を選択できること、そしてその選びにより、どの王国に備えるかが決まることです。この啓示から、たとえ教会員であっても、キリストに対する従順さの面で忠実さや雄々しさが同じではないので、それぞれ別の栄光を受け継ぐことが分かります。

次に挙げるのは、選択できる様々な生き方とその選びによって得る王国です。

日の栄え

「彼らはイエスの証を受け入れ、その名を信じ……バプテスマを受けた者である。それは戒めを守ることによって、彼らが自分のすべての罪から洗われて清くされ、……聖なる御霊みなたまを受けるためである。」彼らは信仰によって世に打ち勝ち、聖霊が祝福を結び固められる正しくかつ真実な人々です(教義と聖約 76:51 - 53 参照)。日の栄えの王国で最高の階級を受け継ぎ、神々になる人たちは、さらに神殿で永遠の結婚をしなければなりません(教義と聖約 131:1 - 4 参照)。日の栄えの王国を受け継ぐ人は皆、天の御父とイエス・キリストとともに永遠に住むことになります(教義と聖約 76:62 参照)。

神殿で行う業によって、地上に生を受けたすべての人が、完全な福音と救いの儀式を受ける機会を等しく得るのです。日の栄えの王国における最高の階級で場所を受け継ぐことができますようになります。

月の栄え

この人たちは現世で福音を拒み、後に霊界で受け入れた人たちです。地上では高潔でしたが、人間の悪巧みによってイエス・キリストの福音に心を開かなかった人です。またこの中には、イエスの福音と証を受け入れながら、雄々しくなかった人もいます。彼らはイエス・キリストの訪れは受けますが、天の御父の訪れは受けません（教義と聖約 76：73 - 79 参照）。

星の栄え

この人々は、地上でも霊界でもイエスの福音や証を受け入れなかった人たちです。福千年の後に復活するまで、地獄で自分の犯した罪のゆえに苦しみます。「これらは、偽りを言う者、魔術を使う者、^{かんいん}姦淫を行う者、みだらな行いをする者、また偽りを好んで行う者である。」空の星や海岸の砂のように数知れず、聖霊の訪れは受けますが、御父と御子の訪れは受けません（教義と聖約 76：81 - 88, 103 - 106, 109 参照）。

外の^{くらやみ}暗闇

かつて聖霊によってイエスの証を得、主の力を知っていたにもかかわらず、サタンに身をゆだねた人々です。真理を拒み、主の力に反抗しました。決して赦しが与えられません。聖なる御霊を受けた後に否定したからです。栄光の王国を受け継ぐことはありません。永遠の暗闇と責め苦と悲しみの中で、サタンとその使いとともに永久に住むのです（教義と聖約 76：28 - 35, 44 - 48 参照）。

- 教義と聖約 76：50 - 53, 62 - 70 には、信仰によって世に打ち勝ち、イエスの証に雄々しい人の特徴として、どのようなことが挙げられていますか。

裁きに備えるのは今である

- 最後の裁きに備えるために、どのようなことを行わなければならないでしょうか。

実を言えば、毎日が裁きの日です。わたしたちの言葉、思い、行動は、日の栄え、月の栄え、星の栄えのいずれかの律法に基づいています。日々の行いに表れるイエス・キリストを信じる信仰は、どの王国を受け継ぐかを決めるのです。

わたしたちには回復されたイエス・キリストの福音が完全な形で与えられています。福音は日の栄えの王国の律法です。人の成長に必要な神権の儀式はすべて明らかにされています。わたしたちはバプテスマの水に入り、キリストに倣って生活すると聖約しました。忠実であり、交わした聖約を守るならば、主は裁きがどのようなものになるか告げておられます。主は次のように言われるでしょう。「わたしの父に祝福された人たちよ、さあ、世の初めからあなたがたのために用意されている御国を受けつぎなさい。」(マタイ 25 : 34)

参照聖句

- ローマ 2 : 6 - 9; 黙示 20 : 12 - 13 (裁き)
- アルマ 11 : 41, 45; モルモン 7 : 6; 9 : 13 - 14 (人は復活した状態で裁かれる)
- 2 ニーファイ 29 : 11 ; 3 ニーファイ 27 : 23 - 26 (裁きに使われる記録)
- アルマ 41 : 2 - 7 (行い, 心の望み, 悔い改め, 最後まで堪え忍ぶことにより裁かれる)
- モルモン 3 : 22 (悔い改めて裁きの座に立つ用意をしなさい)
- ルカ 12 : 47 - 48 ; 教義と聖約 82 : 3 (多く与えられた者からは多く求められる)
- 教義と聖約 88 : 16 - 33 (各自にふさわしいものを受ける)

第 47 章

昇 栄

わたしたちが成長するための計画

天の御父とともに住んでいたとき、御父はわたしたちを成長させる一つの計画を発表されました。高く上げられた御方である御父のようになれるという計画です。そのためには御父のみもとを離れ、この世に来なければなりませんでした。この別れは、たとえ御父のみもとにいらなくても御父の戒めに従うということ立証するために必要でした。計画によると、人は地上の生活を終えた後に裁きを受け、それぞれの信仰と従順の度合いに応じて報いを受けることになっていました。

聖文から、天には3つの栄光の王国があることが分かります。使徒パウロは、「第三の天にまで引き上げられた」人を知っていると述べています（2コリント12：2）。また、パウロは天にある二つの王国について触れています。「天に属するもの」と「地に属するもの」です（1コリント15：40 - 42 参照）。「天に属するもの」とは最高の王国である日の栄えの王国を、「地に属するもの」とは第2の王国である月の栄えの王国を指します。末日の啓示から、第3の王国が星の栄えの王国であることが分かります（教義と聖約76：81 参照）。そして、日の栄えの王国にはさらに3つの天、すなわち3つの階級があることも分かっています（教義と聖約131：1 参照）。

昇栄

- 昇栄とは何でしょうか。

昇栄とは永遠の命、すなわち神の生活そのものです。神は大いなる栄光のうちに住み、完全であり、すべての知識と知恵を備えておられます。神は霊の子供たちの御父であられ、創造主です。わたしたちは天の御父と同じようになることができます。これが昇栄です。

主に忠実であることを証明するならば、天の日の栄えの王国における最高の階級に住むでしょう。そして、高く上げられ天の御父のみもとで永遠の家



族とともに住むのです。昇栄は天の御父がその子供たちにお与えになれる最高の賜物たまものです（教義と聖約 14：7 参照）。

昇栄の祝福

• 高く上げられた人々はどのような祝福を受けるでしょうか。

天の御父は完全です。御父は子供たちが御自分のようになれるという事実を誇りとしておられます。「人の不死不滅と永遠の命をもたらすこと」が御父の業であり、栄光です（モーセ 1：39）。

イエス・キリストを信じる信仰を通して日の栄えの王国における昇栄を勝ち得る人は、特別な祝福を受けます。主は、「すべてのものは彼らのものである」と約束されました（教義と聖約 76：59）。以下は、高く上げられた人が授かる特別な祝福です。

1. 天の御父とイエス・キリストのみもとで永遠に住む（教義と聖約 76：62 参照）。
2. 神々となる（教義と聖約 132：20 - 23 参照）。
3. 義にかなった家族と永遠に一つに結ばれ、永遠に増し加え続けることができる。
4. 満ちみちる喜びを得る。
5. 天の御父とイエス・キリストが備えておられるあらゆるもの、すなわちすべての力と栄光、主権、知識を得る（教義と聖約 132：19 - 20 参照）。
ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように記している。「御父は戒めを従順に守る者には御自分の持っているものをすべて与える、と御子を通して約束されました。戒めを守る者は知識、知恵、力を増し加えられ、恵みに恵みを受けて、ついには完全な日の光により輝き照らされるようになります。」(*Doctrines of Salvation*, ブルース・R・マッコンキー編, 全 3 巻 [1954 - 1956 年], 第 2 巻, 36. 強調は原文のまま)

昇栄する条件

今こそ昇栄の条件を満たす時です（アルマ 34：32 - 34 参照）。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように述べています。「昇栄を得るには福音と福音のすべての聖約を受け、主が示された義務を引き受けなければなりません。また真理を理解して光の中を歩み、『神の口から出る一つ一つの言葉に従って生きなければならない』のです」(*Doctrines of Salvation*, 第 2 巻, 43)

高く上げられるためには、まずイエス・キリストを信じる信仰を持ち、次にその信仰を保って生涯の最後まで堪え忍ばなければなりません。イエス・キリストを信じる信仰を持てば、当然、罪を悔い改め、主の戒めに従うはずで

す。主はすべての人が次の儀式を受けるように命じておられます。

1. バプテスマを受ける。
2. イエス・キリストの教会の会員として確認され、聖霊の賜物を授かるために^{あんじゅ}按手を受ける。
3. 兄弟はメルキゼデク神権を受け、神権における召しを尊んで大いなるものとする。
4. 神殿のエンダウメントを受ける。
5. この世または次の世において、永遠にわたる結婚をする。

必要な儀式を受けることに加えて、主は次のことをするよう、すべての人に命じておられます。

1. 神と隣人を愛する。
2. 戒めを守る。
3. 悪い行いを悔い改める。
4. 亡くなった先祖を探求し、先祖のために福音の救いの儀式を受ける。
5. できるかぎり欠かさず教会の集会に出席し、^{せいざん}聖餐にあずかってバプテスマの聖約を新たに
6. 主の方法に従って家族を愛し、強める。
7. 家族と個人で毎日祈る。
8. 言葉と模範により福音を教える。
9. 聖文を勉強する。
10. 主の預言者の靈感された言葉に聞き従う。

最後に、一人一人が聖霊を受け、それぞれの生活の中でその導きに従うようになる必要があります。

- 儀式と聖約を通して、どのように昇栄に備えることになるでしょうか。
- イエス・キリストを信じる信仰は、戒めを守るうえでどのように助けとなるでしょうか。

- 高く上げられるために、聖霊の導きに従うようにならなければならないのはなぜでしょうか。

忠実であり最後まで堪え忍ぶならば

- キリストの忠実な弟子として最後まで堪え忍んだ人はどうなるのでしょうか。

主は次のように言われました。「わたしの戒めを守り、最後まで堪え忍ぶならば、あなたは永遠の命を得るであろう。この賜物は、神のあらゆる賜物の中で最も大いなるものである。」(教義と聖約 14:7) ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように言っています。「神の戒めを守り、神を礼拝し、神の真理を実践して、神のうちに絶えずとどまっているならば、完全な真理に包まれる時が来るでしょう。しかもその真理はどんどん輝きを増し、真昼のように明るくなります。」(*Doctrines of Salvation*, 第 2 巻, 36)

預言者ジョセフ・スミスは次のように教えています。「はしごを登るときは、いちばん下から始めて、一段ずつ登って行かなければなりません。そしてついには、いちばん上の段にたどり着くのです。福音の原則も同じです。第一のものから始めなければならず、昇栄に関するすべての原則を学ぶまで続けていくのです。しかしそれらを学び終えるには、幕のかなたへ行ってからもかなりの時間を要するでしょう。すべてがこの世で理解されるものではありません。救いと昇栄について学ぶことは、墓の向こうにおいても大きな仕事となるでしょう。」(『歴代大管長の教え——ジョセフ・スミス』268)

さらに、ジョセフ・スミスはこう説いています。「神の性格を確実に知ることが福音の第一の原則です。……神はかつてわたしたちのような人であられました。……神御自身、すなわちわたしたちすべての者の御父は、イエス・キリスト御自身がそうであられたように、ある地球に住んでおられたのです。」(*Teachings of the Prophet Joseph Smith*, ジョセフ・フィールディング・スミス選 [1976 年], 345 - 346)

天の御父はわたしたちの受ける試練や弱点、罪を御存じです。そして同情と憐れみを寄せ、わたしたちがまさに御父と同じように成功を勝ち取ることを望んでおられます。

天の御父のみもとに帰ったとき、次のように言えるとしたらその喜びはどれほどでしょう。「お父様、わたしは御心みこころに従って生きてまいりました。忠実に生活し、お父様の戒めを守りました。家に戻れて幸せです。」そのとき、御父が次のように言われるのを聞くでしょう。「よくやった。あなたはわずかなものに忠実であったから、多くのものを管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」(マタイ 25:23)

- マタイ 25 : 23 をもう一度よく読んでください。主がこの言葉をあなたに告げてくださるのを聞いたとしたらどのように感じるでしょうか。

参照聖句

- 教義と聖約 132 : 3 - 4, 16 - 26, 37 (昇栄について)
- 教義と聖約 131 : 1 - 4 (昇栄の鍵^{かぎ}となる永遠の結婚)
- 教義と聖約 76 : 59 - 70 (日の栄えの栄光の祝福)
- 教義と聖約 84 : 20 - 21 (神権の儀式によって神性の力が現れる)

教師へ—— 生徒や家族に、福音の真理について深く考え、生活を振り返り、天の御父やイエス・キリストに自分が抱いている愛について考える時間を与えるとき、聖霊から教えを受ける機会を与えることになります。

視覚資料リスト

表紙——「生ける水」サイモン・デューイ画, ©Simon Dewey, 背景 ©Artbeats

4ページ——写真 ©NASA and STScI

8ページ——写真 ©NASA and STScI

14ページ——「エマオにおけるキリスト」の一部, カール・ヘンリック・ブ
ロック画, デンマーク, ヒレズのフレズレクスボー城内にある国立歴
史美術館の許可を得て使用

18ページ——写真/デミトリ・バービットシオティス/デジタル・ビジョン/
ゲティ・イメージ社

22ページ——写真 ©Corbis

26ページ——「エデンの園を去る」ジョセフ・ブリッキー画, ©1998 Joseph
Brickey

40ページ——「ジョセフ・スミス」作者不詳, 復元イエス・キリスト教会記
録保管庫の厚意により掲載。「ブリガム・ヤング」ダンカート・アンソン・
ウェッジランド, 教会歴史博物館の厚意により掲載。「ジョン・テラー」
作者不詳, 教会歴史図書館・記録保管庫の厚意により掲載。「ウィルフョ
ード・ウッドラフ」H・E・ピーターソン画。「ロレンツ・スノー」ルイ
ス・ラムズビー画, 教会歴史博物館の厚意により掲載。「ジョセフ・F・
スミス」A・サルツブレネー画, ©IRI。「ヒーバー・J・グラント」C・J・
フォックス画, ©IRI。「ジョージ・アルバート・スミス」リー・グリーン・
リチャーズ画, ©IRI。「デビッド・O・マッケイ」エベレット・クラーク・
ソープ, ©Everett Clark Thorpe。「ジョセフ・フィールディング・スミス」
シャウナ・クック・クリンガー画, ©1983 IRI。「ハロルド・B・リー」
グラント・ロムニー・クロウソン, ©IRI。エズラ・タフト・ペンソンの
写真 ©Busath Photography。トーマス・S・モンソンの写真, ©Busath
Photography

50ページ「ヤイロの娘をよみがえらせられるキリスト」グレッグ・K・オル
セン画, ©1990 IRI

60ページ——「わたしの思いではなく, みこころが成るようにしてください」
ハリー・アンダーソン, ©Seventh-day Adventist Church, 複写は禁じ

られています

- 82ページ**——「mamレの平原でひざまづくアブラハム」の一部，ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 88ページ**——「十二使徒を聖任されるキリスト」の一部ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 94ページ**——「心の願い」の一部，ウォルター・レーン画，教会歴史博物館の厚意により掲載
- 102ページ**——「イエス・キリスト」の一部，ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 134ページ**——「最後の晩餐」サイモン・デューイ画，©Simon Dewey
- 150ページ**——「キリストと金持ちの若い役人」の一部，ハインリッヒ・ホフマン画，C・ハリソン・コンロイ社の厚意により掲載
- 162ページ**「使徒たちの足を洗われるイエス」の一部，デル・パーソン画，©1983 IRI
- 168ページ**——写真 ©Getty Images
- 174ページ**——「良いサマリヤ人」の一部，ジョセフ・ブリッキー画，©2001 Joseph Brickey
- 180ページ**——写真／ジョージ・ドイル／ストックバイト／ゲティ・イメージ社
- 190ページ**——「それゆえに，あなたがたは行って，すべての国民を教えよ」の一部，ハリー・アンダーソン画 ©IRI
- 200ページ**——「犠牲をささげるアダムとエバ」キース・ラーソン画，©1996 Keith Larson
- 218ページ**——写真／ロバート・ケーシー，©2004 Robert Casey
- 224ページ**——写真／ロバート・ケーシー，©2004 Robert Casey
- 246ページ**——「ヨセフを祝福するヤコブ」の一部，ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 252ページ**——「再臨」ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 258ページ**——「再臨」の一部，ハリー・アンダーソン画，©IRI
- 264ページ**——「何の争いもなく」の一部，ナンシー・グレーザー・コーラー画，©1984 Nancy Glazier-Koehler
- 268ページ**——「最後の裁き」の一部，ジョン・スコット画，©1974 IRI
- 276ページ**——ダン・バクスター作の壁画の一部
-

索引

あ

証に関するデビッド・O・マッケイ
の言葉, 128-129

悪魔 「サタン」の項参照

アダムとエバ

神から遠ざかった__, 28

子供をもうけるよう命じられた
__, 28

聖霊が__に遣わされた, 31

地球の最初の人である__, 27

__の結婚, 27

__の墮落, 28-29

__は雄々しい霊であった, 27

新しくかつ永遠の聖約, 84-85

熱い飲み物, 169

アブラハム, 神が__と交わされた聖
約, 83

アルコール, 167, 169

アロン神権

__定員会, 77-78

「メルキゼデク神権」「神権」の項
も参照

__の職と義務, 74-76

安息日, 139-142

__の定義, 139

__の目的, 141-142

__の歴史, 140-141

__を聖く保つ, 141-142

__を守る人への祝福, 142

日曜日, 140

い

イエス・キリスト

オーソン・F・ホイットニーが見
た__の苦しみの示現, 56

御父の独り子であられる__, 52-
53

前世で予任されていた__, 15

創造主であられる__, 23-24

__により始められた聖餐, 133,
135

__による贖い, 55-57

__の愛, 54-55

__の教え, 54-55

__の完全な生涯, 53-54

__の犠牲, 57, 149, 151

__の降誕と使命は預言されてい
た, 51-52

__の生涯, 51-58

__は贖いによってわたしたちが祝
福を受けられるようにした, 57

__は御父に従われた, 204

__は慈愛の模範であられる, 176-
177

__は奉仕の模範であられる, 165-
166

__は教会を組織された, 55

__はこの世で救い主, 指導者であ
られた, 15

__はわたしたちが互いに奉仕する
よう望まれている, 163

「贖罪」「イエス・キリストを信じ
る信仰」「イエス・キリストの
再臨」の項も参照

イエス・キリストが神の御子であら
れると知る賜物, 128-129

- イエス・キリストの教会
 アメリカ大陸における__、91
 回復された__は決して滅びることがない、99
 __からの背教、91-92
 現在の__、95-99
 初期の__、87-93
 ジョセフ・スミスを通して組織された__、97-98
 __における啓示、87、89
 __における権能、89、96-97
 __の組織、89-90、97-98
 __の特徴、87-91
 バプテスマにより__の会員になる、116
 預言されていた__の回復、92、95-96
- イエス・キリストの再臨、257-262
 __のしるし、251-256、261
- イエス・キリストを信じる信仰、101-106
 __という霊的な賜物、101、130
 どのようにして__を増すことができるか、103-105
 なぜ__を持つ必要があるのか、103
 __に関するスペンサー・W・キンボールの言葉、105
 __の後に来る祝福、105-106
 __の定義、101、103
 __の実に関する言葉、*Lectures on Faith*より、105-106
- 異言の賜物、125、127
 異言を解釈する賜物、127
- イスラエル
 __の家の散乱、245、247
 __の家の集合、245-250
 __の集合に関するジョセフ・フィールディング・スミスの言葉、248
 __の集合に関するラッセル・M・ネルソンの言葉、248
 ヤコブの名が__に改められた、245
- イスラエルの民、245
 偽り、181
 命を生み出す力、226
 祈り、35-38
 いつ祈るか、36
 どのように祈るか、37
 なぜ祈るのか、35-36
 __はどのようにこたえられるか、37-38
- 戒めを守ることは悔い改めの一部である、111
 癒しの賜物、129
- え**
-
- 栄光の王国、271-272
 エデンの園、28
 エバ 「アダムとエバ」の項参照
 選ぶ自由 「選択の自由」の項参照
 エリヤの訪れ、254
- お**
-
- 行いにより裁かれる、269-270
 教える
 __賜物、128
 本書から__、1-3
 思いによって裁かれる、269-270
- か**
-
- 回復された福音の真理、98-99
 確認 「聖霊の賜物」の項参照
- 家族
 永遠の__、207-211
 __関係、209-210
 幸福な__、210-211
 __に関するデビッド・O・マッケイの言葉、207
 __に関するハロルド・B・リーの言葉、210

__の責任, 213-216
 __の大切さ, 207, 209
 __を養う, 157
 「家族——世界への宣言」, 10, 207,
 210, 211, 213, 214, 215, 216,
 226
 家族歴史, 233-238
 神 「天の御父」の項参照
 神の裁き, 269

き

儀式
 回復された__, 98-99
 まことの教会の特徴である__, 90
 犠牲, 149-154
 奇跡を行う賜物, 129
 キリスト 「イエス・キリスト」の
 項参照
 休息, 158-159, 170
 教会の回復
 ジョセフ・スミスによる__, 96-99
 預言されていた__, 92, 95-96
 教義と聖約, 47
 教師の職と義務, 75
 記録により裁かれる, 270-271

く

悔い改め
 悔い改めの祝福, 111-112
 __に関するスペンサー・W・キン
 ボールの言葉, 109, 111, 231
 __の原則, 109-112
 __の定義, 109
 __の時は今である, 112
 __の必要性, 107
 草, 169
 果物, 169

け

啓示, まことの教会の特徴である,
 87, 89

結婚
 永遠の__, 219-223
 __に関するスペンサー・W・キン
 ボールの言葉, 221
 健康, 主の__の律法 「知恵の言葉」
 の項参照
 権能
 回復された__, 97
 まことの教会の特徴である__, 89

こ

高価な真珠, 47-48
 告白は悔い改めの一部である, 110-
 111
 穀類, 170
 言葉により裁かれる, 269-270
 子供
 アダムとエバは__をもうけるよう
 に命じられた, 28
 __の責任, 215-216
 コーヒー, 169
 小麦, 170
 娯楽, 158-159

さ

最後まで堪え忍ぶことによって得ら
 れる祝福, 279-280
 祭司の職と義務, 75
 才能
 前世において培われた__, 9-10
 __を賢明に用いたかどうか報告す
 る責任に関するジョセフ・F・
 スミスの言葉, 199
 __を伸ばす, 197-199
 __を伸ばすことに関するヒーバ
 ー・J・グラントの言葉, 198-
 199
 __を伸ばすことに関するマービ
 ン・J・アシュトンの言葉, 198
 ささげ物, 185-188
 __に関するゴードン・B・ヒンク

レーの言葉, 187-188
 __に関するスティーブン・L・リ
 チャーズの言葉, 186
 __に関するヒーバー・J・グラン
 トの言葉, 188
 ささげること, 186
 __に関するスティーブン・L・リ
 チャーズの言葉, 186
 サタン
 __はエバを誘惑した, 28
 __は選択の自由を取り去ろうとし
 た, 15
 __は善に反対する, 19-20
 __は天から投げ落とされた, 16
 __は天上でイエスと戦った, 15
 __は御霊の賜物をまねる, 131
 __はわたしたちを誘惑する, 16
 __はわたしたちが純潔の律法を破
 ることを望んでいる, 227-229
 福千年の間__は縛られる, 265
 福千年の最後に__はわずかの間だ
 け解放される, 267
 裁き
 イエス・キリストによる__, 271
 言葉と行いと思いにより__が行わ
 れる, 269-270
 最後の__, 269-273
 __に備える, 272-273
 __には記録が用いられる, 270-271

し

慈愛, 173-178
 __に関するジョセフ・スミスの言
 葉, 177
 __に関するトーマス・S・モンソ
 ンの言葉, 176
 死者, まことの教会の特徴である__
 のための儀式, 90
 七十人の職と義務, 77
 執事の職と義務, 75

使徒の職と義務, 77, 97
 「十二使徒による裁き」の項も参照
 従順, 201-206
 __に関するジョセフ・スミスの言
 葉, 203
 バプテスマは__さを表す, 116
 什分の一, 185-188
 __に関するゴードン・B・ヒンク
 レーの言葉, 188
 __に関するスティーブン・L・リ
 チャーズの言葉, 186
 __に関するヒーバー・J・グラン
 トの言葉, 188
 十二使徒による裁き, 271
 「使徒の職と義務」の項も参照
 祝福師の祝福, 10, 77, 130
 __に関するトーマス・S・モンソ
 ンの言葉, 10
 祝福師の職と義務, 77
 出生, 天の御父によって__の時と場
 所が定められた, 10
 主の日, 140-141
 「安息日」の項も参照
 純潔, 225-231
 昇栄, 275-280
 __に欠かせない永遠の結婚, 219
 -220
 __に関するジョセフ・フィールデ
 イング・スミスの言葉, 277
 __を受けるにふさわしい者とな
 る, 16
 正直, 179-183
 __に関するジョセフ・F・スミス
 の言葉, 182
 __に関するブリガム・ヤングの言
 葉, 179
 __に関するマーク・E・ピーター
 センの言葉, 179
 贖罪, 59-66
 キリストは__のために苦しみ, 亡

くなられた, 55-57, 61
 キリストは__を達成できる唯一の御方, 61
 救いに不可欠な__, 59
 __に関するジョセフ・フィールディング・スミスの言葉, 109
 __について説明するボイド・K・パッカーによる物語, 63-65
 __の結果, 罪から救われる, 62-65
 復活をもたらす__, 62
 「イエス・キリスト」の項も参照
 試練, 進歩に必要な__, 11
 人格, 天で培った__, 9-10
 神権, 67-71
 __が必要な理由, 67, 69
 __組織, 73-79
 どのようにして__を受けるか, 69-70
 __に関するジョセフ・F・スミスの言葉, 74
 __の鍵, 74
 __の区分, 73-74
 __の正しい使い方, 70
 __の定義, 67
 __を正しく行うことにより得られる祝福, 70-71
 「アロン神権」「メルキゼデク神権」の項も参照
 神殿
 __で執行される永遠の結婚, 220
 __で執行される業, 233-238
 福千年に__で執行される業, 259, 265
 進歩のために必要な地上での生活, 10-11
 す
 救い主 「イエス・キリスト」の項参照

救いの計画, 10-11, 23
 ステーク, 98
 スミス, ジョセフ
 __を通して教会は回復された, 96-99
 __を通して真理は回復された, 98-99
 せ
 聖餐, 133-137
 キリストが始められた__, 133, 135
 __の執行方法, 135
 __を受けるときの態度, 136-137
 __を通して新たに作る聖約, 136
 聖書, 45-46
 聖文, 45-49,
 __の研究, 48
 4つの書物, 45-48
 聖約
 新しくかつ永遠の__, 84-85
 アブラハムの__, 83
 聖餐を通して__を新たに作る, 136
 __の定義, 81, 83
 バプテスマの__, 118-119
 聖約の民, 81-85
 聖霊, 31-33
 __がアダムとエバのもとを訪れられた, 31
 __に関するジョセフ・フィールディング・スミスの言葉, 32-33
 __の使命, 32-33
 __の賜物を受けるために必要なバプテスマ, 116
 __の特質, 32
 「聖霊の賜物」の項も参照
 聖霊の賜物, 121-123
 神の最も大いなる賜物の一つである__, 123

聖霊の影響力を認識する, 122-123
 __の定義, 121-122
 __を受ける, 122
 先祖を助ける, 235-238
 選択の自由
 永遠の原則である__, 17
 サタンは__を奪い去ろうとした, 17
 救いの計画に必要な__, 19
 前世での記憶に左右されることなく__を使う, 11
 __を使うのに必要な選ぶ機会, 19-20

そ

創造

イエス・キリストによる__, 23-24
 __は神の愛を表す, 24-25
 __を実行する, 24

外の暗闇, 272

た

第一の原則と儀式, 90
 教会の回復によって, __は完全な状態で再び世にもたらされた, 98
 大会議, 10-11
 大管長, 39
 今日の生ける預言者である__, 41
 __に関するウィルフォード・ウッドラフの言葉, 41
 __に従うことにより得られる祝福, 42-43
 __は教会を導く, 97
 __を支持する, 42
 「預言者」の項も参照
 大管長会, 97
 大祭司の職と義務, 76
 怠惰, 158
 大背教, 91-92
 たばこ, 169

だますこと, 181-182
 試しである地上の生活, 10-11
 墮落, 28-29
 __の結果, 29
 断食, 145-148
 正しい__の方法, 145-146
 __の祝福, 147-148
 断食献金, 147, 187
 断食日, 146

ち

知恵の言葉, 167-171
 __に関するヒーバー・J・グラントの言葉, 171
 知恵の賜物, 127-128
 知識の賜物, 128
 父親の責任, 214-215
 茶, 169
 長老の職と義務, 76

つ

月の栄え, 272
 償いは悔い改めの一部である, 111
 罪
 すべての人には__がある, 107
 __の定義, 107
 罪の赦しを受けるためのバプテスマ, 115
 罪を悲しむことは悔い改めの一部である, 110
 罪を捨てることは悔い改めの一部である, 110
 罪を認めることは悔い改めの一部である, 109-110
 強い飲み物, 167, 169

て

天上の会議, 10-11
 天上の戦い, 15-16
 伝道活動, 189-194
 __に関するエズラ・タフト・ベン

ソンの言葉, 192
 天におられる御父 「天の御父」の
 項参照
 天の御父
 __が持つておられる特質をはぐく
 みたいという望み, 10-11
 父であられる__, 9
 __と人の関係に関するジョセフ・
 F・スミスの言葉, 9
 __に似た者となる潜在的な力, 9
 __の形に造られた人, 6
 __の体, 6
 __の实在, 5
 __の属性, 6
 __の父親としての役割に関するジ
 ョセフ・スミスの言葉, 5
 __の業と栄光, 6
 万物の創造主であられる__, 5
 万物の統治者であられる__, 5
 __を知る, 6-7

と

時のしるし 「イエス・キリストの
 再臨」の項参照

に

肉, 169
 日曜日は安息日である, 140-141

ぬ

盗み, 181

は

母親
 __に関するボイド・K・パッカー
 の言葉, 215
 __の責任, 215
 バプテスマ, 115-119
 だれが__を受けるべきか, 117
 __の聖約, 118
 __の必要性, 115-116

__の方式, 116-117
 __は新たな門出である, 119
 パラダイス
 __に関するウィルフォード・ウッ
 ドラフの言葉, 243
 __に関するジェデダイア・M・グ
 ラントの言葉, 243
 霊界における__, 242

ひ

ビショップの職と義務, 76

人

神の形に造られた__, 6
 神の子供である__, 9
 神の被造物を治める__, 5
 __は神の子であることに関するジ
 ョセフ・F・スミスの言葉, 9
 人の証を信じる賜物, 129
 日の栄えの王国
 __における昇栄, 271-272, 275-
 280
 __に入るために必要なバプテスマ,
 116

ふ

福千年, 263-267
 __に関するジョン・テラーの言
 葉, 266
 __に関するブリガム・ヤングの言
 葉, 259
 不従順のもたらす結果, 204-205

ほ

奉仕, 161-166, 187
 __に関するスペンサー・W・キン
 ボールの言葉, 163
 星の栄え, 272

ま

幕によって天の家の記憶が覆われ
 る, 11

み

御霊の賜物 「霊的な賜物」の項参照

む

結び固め, エリヤにより回復された
__の力, 254

め

メルキゼデク神権
__定員会, 78
__の職と義務, 76-77
「アロン神権」「神権」の項も参照

も

モルモン書, 46-47

や

薬物を誤った方法で用いる, 169
ヤコブ
神が__と交わされた約束, 245
__は名をイスラエルと改められ
た, 245
野菜, 169

ゆ

誘惑を克服することに関するゴード
ン・B・ヒンクレーの言葉, 228
赦し
純潔の律法を破った人に対する
__, 230-231
__に関するスペンサー・W・キン
ボールの言葉, 230-231
人を赦すことは悔い改めの一部で
ある, 111
赦しがもたらす喜び, 112

よ

預言者, 39-43
神は昔から__を召してこられた, 41
__の言葉は聖文である, 48
__は地上における神の代表者であ

る, 39
予任されていた__, 9-10

預言の賜物, 129
予任, 9-10
__に関するジョセフ・スミスの言
葉, 9-10
喜び, 満ち満ちる__, 11

り

両親の責任, 157, 213-216

る

ルシフェル 「サタン」の項参照

れ

霊界, 241-244
__に関するエズラ・タフト・ベン
ソンの言葉, 241
__に関するブリガム・ヤングの教
え, 241
霊的な賜物, 125-132
サタンは__をまねる, 131
__の説明, 125-130
まことの教会の特徴である__, 90-
91
__を大切に用いる, 131
__を伸ばす, 130-131

霊の獄, 243-244

霊の姿, 241-242

ろ

労働, 155-160, 170
__に関するデビッド・O・マッケ
イの言葉, 159
__に関するヒーバー・J・グラン
トの言葉, 157

わ

ワイン, 167, 169

ワード, 98

末日聖徒
イエス・キリスト
教会

